平成30年度　「学校を核とした地域力強化プラン事業」実践事例集

滋賀県教育委員会

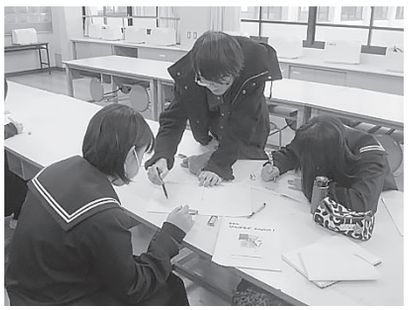
平成30年度　文部科学省補助事業

学校を核とした地域力強化プラン事業

実践事例集

社会全体で子どもの育ちを支えるために

『地域学校協働活動推進事業』
『コミュニティ・スクール推進事業』
『地域における家庭教育支援基盤構築事業』



滋賀県教育委員会

－はじめに－

現在、人口減少・少子高齢化の進行、グローバル化と情報化の進展、急速な技術革新による超スマート社会（Society5.0）の到来など、社会情勢はあらゆる分野で大きく、早いスピードで変化しています。

また、地域とのつながりの希薄化、家庭環境の多様化など、子どもたちを取り巻く環境が複雑に変化する中、社会全体で子どもの育ちを支える持続可能な地域の教育基盤の形成を図るため、学校、家庭、地域がそれぞれの役割と責任を自覚し、当事者意識をもって教育を担う仕組みをつくり、社会総掛かりでの教育の実現を図ることが求められています。

このような中、平成 30 年６月 15 日に閣議決定された国の第３期教育振興基本計画には､地域住民や保護者等が学校運営に参画する仕組みである学校運営協議会制度(当該制度を導入した学校を「コミュニティ・スクール」という。）を全ての公立学校において導入をめざすことや、地域と学校をつなぐ地域学校協働活動推進員の配置促進や研修の充実及び地域学校協働本部の整備等により、全小中学校区における幅広い地域住民や地域の多様な機関・団体等参画を通じた地域学校協働活動の推進を図ることが謳われています。

地域学校協働本部と学校運営協議会は、それぞれが持つ役割を十分に機能させることで両輪としての相乗効果を発揮し、地域の教育力の向上と学校運営の改善に結びつけることが期待されます。このため県では、今年度「学校を核とした地域力強化プラン事業」として「地域学校協働活動」と「コミュニティ・スクール」、さらに「家庭教育支援」の３つを総合的に推進し、県全体での展開を目指してまいりました。

本実践事例集は、地域全体で学びあい支えあう仕組みづくりの推進に資するものとして、各市町の工夫や努力によって取り組まれた実践をまとめたものです。県内の取組を参考に、事業の更なる拡充に取り組んでいただければと存じます。また、今後、地域と学校の連携協働体制の構築を目指される市町におかれましては、本実践事例集を参考にしていただければ幸いです。

最後になりましたが、日頃より地域において本事業をはじめ、「社会全体で子どもの育ちを支える環境づくり」「地域づくり」に献身的に取り組まれている関係者の皆様に心より感謝申し上げますとともに､今後も引き続き御支援のほどお願いいたします。

また、本事例集の編集に際し、貴重な情報提供や寄稿をいただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

平成 31 年（2019 年）３月

滋賀県教育委員会事務局
生涯学習課長　合田　遼

〔目　次〕

◆　事業の概要・・・ 1

Ⅰ　推進協議会の取組 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

（Ⅰ）推進協議会の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

（Ⅱ）各研修会の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

◇第１回研修会　兼　コミュニティ・スクール連絡協議会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

◇第２回研修会および「学校と地域を結ぶコーディネート担当者」等新任研修・・11

◇コミュニティ・スクール推進フォーラム　兼　コミュニティ・スクール連絡協議会 ・12

◇地域における家庭教育支援基盤構築事業研修会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

◇第３回研修会(事業成果報告会)　兼　コミュニティ・スクール連絡協議会 ・・・・・14

Ⅱ　地域学校協働活動推進事業の実践事例 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

◆平成 30 年度地域学校協働活動一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

◇彦根市・・・・・・・ 17	◇野洲市・・・・・・・ 99	◇日野町・・・・・・・167
◇近江八幡市・・・ 42	◇湖南市・・・・・・・107	◇竜王町・・・・・・・174
◇草津市・・・・・・・ 70	◇高島市・・・・・・・121	◇豊郷町・・・・・・・176
◇栗東市・・・・・・・ 85	◇東近江市・・・・・128	◇甲良町・・・・・・・180
◇甲賀市・・・・・・・ 95	◇米原市・・・・・・・160	◇多賀町・・・・・・・182

Ⅲ　地域における家庭教育支援基盤構築事業の実践事例 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・184

◆平成 30 年度家庭教育支援活動一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・184

◇近江八幡市・・・185	◇湖南市・・・・193
◇草津市・・・・・・・187	◇高島市・・・・195
◇栗東市・・・・・・・189	◇日野町・・・・197
◇甲賀市・・・・・・・191	◇竜王町・・・・199

Ⅳ コミュニティ・スクール推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・201

Ⅴ 放課後児童クラブの現状 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・205

平成30年度 学校を核とした地域力強化プラン

地域住民等の参画により、地域の将来を担う人の育成を社会全体で担うとともに、持続可能な地域の教育基盤の形成を図る。

趣旨 滋賀県「地域学校協働活動推進事業」

【補助率】 国 1/3 / 都道府県 1/3 / 市町村 1/3

地域と学校が連携・協働し、将来を担う子どもたちの教育を支えるため、幅広い層の地域住民や企業・団体等の参画により、県民一人ひとりが当事者意識をもって地域を創生する活動として、「地域学校協働活動」を推進する。

県 推進協議会の設置

○総合的な教育支援活動の在り方の検討
○コーディネーター等を対象とした研修の企画
○事業の評価

市町 運営委員会の設置

○教育委員会と福祉部局等の連携方策
○地域の人材確保方策の検討
○支援体制の整備・支援活動の実施　等

統括的な地域学校協働活動推進員
（統括的なコーディネーター）
・未実施地域における取組実施を推進
・地域コーディネーターの資質や活動の質の向上

学校等 活動の場

従来の学校支援地域本部等を基盤とし、幅広い地域住民や団体等の参画によりネットワークを構築し、**地域学校協働活動**を推進

地域の多彩な人材
家庭（保護者）
学校（教職員）

地域学校協働活動推進員
（地域コーディネーター）
・地域住民等や学校との連絡・調整
・地域学校協働活動の企画・推進等

地域人材等の参画 地域学校協働活動

多数のボランティア等
協働活動支援員・協働活動サポーター・学習支援員
特別支援サポーター
土曜教育支援員
土曜教育サポーター

地域学校協働本部
■**地域と学校が連携・協働する仕組みづくり（本部）を促進し、地域全体で子どもの成長を支え、地域を創生する活動を実施**
（H30）**11市町114本部**
・学校支援活動・学校周辺環境整備
・郷土学習　・学びによるまちづくり
・地域人材育成・地域行事への参加 等

地域未来塾
■**中学生を対象に、大学生や教員OBなど地域住民の協力による学習支援を実施**
（H30）**６市町16教室**
・放課後や長期休業中に学習を深めたいすべての子どもに学び機会を提供

放課後子ども教室
■**放課後の子どもたちの「自主的な学びの場」と「安心・安全な居場所」の充実**
（H30）**７市町32教室**
・活動拠点(居場所)の確保　・放課後等の学習指導
・自然体験活動支援　・文化活動支援　など
○放課後児童クラブ（首長部局）と連携

土曜日の教育支援
■**すべての子どもたちの土曜日の教育活動を充実させるため、外部人材等の参画により、特色・魅力のある教育プログラムを企画・実施**
（H30）**４市町31教室**
・民間企業・団体等を中心として多様な経験や技能を持つ人材等の協力を得た支援体制の構築

趣旨 「コミュニティ・スクール推進事業」（県実施）

【補助率】 国 1/3 / 都道府県 2/3

公立学校が地域の人々と目標を共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」をめざす「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」の導入を加速させ、将来の地域を担う人材の育成、学校を核とした地域づくりを推進する。

CSアドバイザー派遣	研修の充実	推進協議会・連絡協議会の開催
■各自治体のCS立ち上げや推進体制の構築に向けた助言 ■市町と県立学校との関係の構築や情報の共有を推進	■学校運営協議会委員・教職員等を対象とした研修会を開催。	■CSの推進方策や効果的な運営方法等の情報共有、関係者による情報交換、県の推進方策の検討等を行う。

趣旨 「地域における家庭教育支援基盤構築事業」 8市町16活動

【補助率】 国 1/3 / 都道府県 1/3 / 市町村 1/3

各地域における家庭教育支援員等の養成、家庭教育支援チームの組織化及び学習機会の効果的な提供等の様々な取組に加え、家庭教育支援チーム等の組織化・活動強化を図るための取組の推進など、家庭教育を支援するための様々な取組を支援する。

地域人材の養成	家庭教育支援体制の構築	家庭教育を支援する取組の展開
■家庭教育支援員の養成 （H30）４市町で実施	■家庭教育支援チームの組織化 ■家庭教育支援員の配置 （H30）４市で実施	■学習機会の効果的な提供 ■親子参加型行事の実施　（H30） ■情報提供・相談対応８市町で実施

家庭教育支援チーム等の強化を図るため追加して実施可能な取組

①連絡会議・ケース会議等の設置・運営
②活動拠点の整備促進
③企業内における家庭教育に関する学習機会の提供
④保護者に対する家庭教育支援に関する情報提供

※①②は支援チームの設置が必要要件

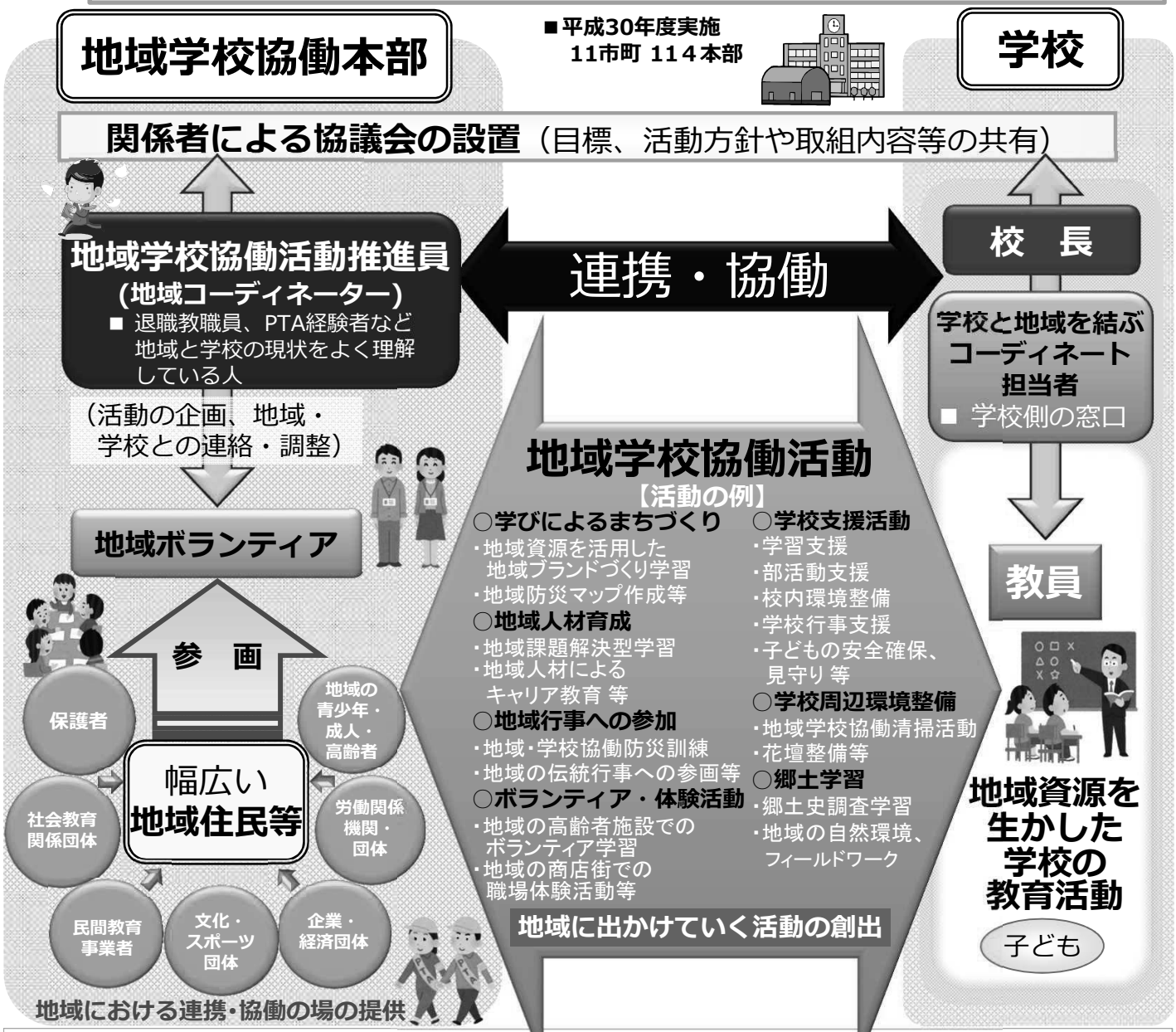
地域学校協働本部 「支援」から「連携・協働」へ

【補助率】

国	1/3
都道府県	1/3
市町村	1/3

幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働しながら、地域全体で子どもの成長を支え、地域を創生する活動を実施

趣旨 地域と学校が連携・協働する仕組みづくりを促進し、子どもたちを支えるだけでなく、地域住民の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながり・絆を強化し、地域の活性化を図る。



期待される効果

子どもにとって ⇒ 専門的な知識や技能を持った地域住民等とのふれあいを通じて、学びや体験活動が充実するとともに、地域の人々と顔見知りになり、地域の担い手としての自覚が高まる。また、多様な経験を積むことで、学習意欲が喚起され、自ら課題を解決しようとする資質や能力が育まれる。

学校にとって ⇒ 地域住民等の理解と協力を得て、地域資源を生かした授業づくりが進められる。また、学校支援ボランティアが組織化されると、教員の異動に関わらず、持続可能な学校支援体制が担保される。子どもの教育を保護者や地域住民等とともに担うことで、ひいては教員の負担軽減につながり、子どもと向き合う時間が増える。

地域にとって ⇒ 地域住民等が自らの経験や知識を子どもの教育に生かすことで、生きがいや自己実現の機会や場がつくられる。地域の子どもと顔見知りになり、ひいては、地域住民同士も顔と名前が一致する関係が進む。学校を舞台に地域の緩やかなネットワークが形成され、新たな地域コミュニティがつくられる。

地域未来塾

－地域の力による放課後等学習教室－

【補助率】

国	1/3
都道府県	1/3
市町村	1/3

現状と課題

・児童・生徒が、家庭において、学習する時間、特に予習・復習を行う時間が短い。
・学校において、放課後に学習支援を行う時間が短い。
【平成27年度 全国学力・学習状況調査結果より】
・家庭で保護者に学習を見てもらう機会が減っている。
【平成25年度 全国ＰＴＡ意識調査結果より】

『学ぶ力向上 滋賀プラン』（H27.3策定）

一人ひとりの「学ぶ力」を高めるため、生活の中で「学ぶ力」をつけること、子どもが繰り返し努力したことを認め、能力や可能性を引き出すこと、放課後や土曜など家庭での時間の使い方を考えることを重視し、子どもの力を県全体で伸ばしていく。

国の動向

・予算の増額
H29　322百万円
→ H30　566百万円
・平成31年度までに5,000中学校区で実施を目標
H28　3,000中学校区
H29　3,600中学校区
→H30　4,400中学校区

地域未来塾

趣旨

中学生を対象に、大学生や教員OBなど地域住民の協力による学習支援を実施

◆幅広い地域の協力を得て、放課後や長期休業中に学習を深めたい全ての子どもに学ぶ機会を
◆家庭での学習習慣が十分に身に付いていない中学生への学習支援の場として、多様な視点からの支援を実現
◆部活動休業日（ノー部活デー）の受皿として実施することで、教員の負担軽減を

教室のモデル

大学生や教員OBなどの学習支援員・教育活動サポーター等を配置

【内容】
①自学自習の支援など補習的学習
②講義・授業など、教科に即した発展的学習
【対象】
学年や参加希望の有無などは、実施主体の実態に応じて柔軟に設定
【場所】
実施主体の実態に応じて柔軟に設定（学校の余裕教室や地域の公民館など）
【回数等】
回数、定期・不定期不問

○県内の取組事例　H29
〈中学校で実施・放課後の学習支援〉

・対象は、中１～３年生の希望者
・年間40日（毎週水曜日、1時間程度）
・国語、英語、数学の基礎学力を培う補充学習
・指導員は、教員OBや大学生

子どもたちの学習習慣の定着「学ぶ力」の向上

学校との連携
・活動スペースとなる余裕教室の提供
・学習プリントの提供
・児童生徒の情報交換
・参加を促す広報チラシ等の配布
・ボランティアへの助言・サポート　など

■平成30年度実施
６市町16教室
・彦根市（８　中⑦）
・湖南市（４　中④）
・日野町（１　中①）
・豊郷町（１　中①）
・甲良町（１　中①）
・多賀町（１　中①）
＜以下の教室は、地域学校協働本部内で実施＞ **４市町25教室**
・彦根市（4　小④）
・東近江市（13　小⑮中③）
・米原市（７　小③中④）
・多賀町（１　小①）
※本部内実施の場合は小学校も対象

学習が遅れがちな子どもに対して、基礎学力の定着を図る。

学習機会の提供によって、貧困の負の連鎖を断ち切る。

貧困対策

貧困の中にある子どもの安全を確認し、その中で学習も支援する。

福祉部局からのアプローチ
○生活困窮世帯の子どもに対する学習支援事業
市町が国の補助事業を受け、**11市1町**で実施(H29)
対象は生活困窮世帯等限定あり
○地域で遊べる・学べる淡海子ども食堂
滋賀の縁創造実践センターによる実施団体への助成事業
13市5町95か所で実施(H29)

放課後子ども教室
～放課後子ども総合プランの推進～

【補助率】

国	1/3
都道府県	1/3
市町	1/3

趣旨

「放課後子ども教室」は、放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、安全・安心な子どもの活動拠点(居場所）を設け、地域住民等の参画を得て、学習やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の機会を提供する。

平成30年度実施：７市町32教室

放課後子ども教室 ⟷ **『放課後子ども総合プラン』として実施**（H26.7月策定） ⟷ **放課後児童クラブ**

双方で情報共有

〈学校区ごとの協議会などで情報共有を図る。〉

取組の企画、交流できる機会や場づくり

地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）

連携
協力

協働活動支援員
協働活動サポーター
特別支援サポーター
学習支援員

参画

大学生、地域の高齢者、民間教育事業者、文化・芸術団体等の様々な地域人材、特別支援学級の介助員、ホームヘルパー有資格者など

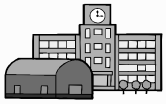
多様なプログラムの提供

安全管理

放課後児童クラブ指導員

放課後子ども教室が設置されている場合は、積極的に交流する。

【共通のプログラムの例】



○室内での活動
・学習支援（宿題の指導、予習・復習、補充学習など）
・多様な体験プログラム（実験、工作、英会話、文化・芸術教室など）
○校庭・体育館での活動
・スポーツ活動（野球、サッカー、バドミントン、卓球、一輪車など）

小学校など
・余裕教室等を提供
・学校敷地内の専用施設を利用
・体育館などの一時利用の促進

県の取組

放課後子ども総合プラン指導者等研修会（学校を核とした地域力強化プラン研修会）
コーディネーター、運営委員会委員、協働活動推進員、協働活動サポーター、ボランティア、専任指導員、関係職員等が一堂に会し、情報交換、情報共有、資質の向上に努める。

市町の取組

放課後子ども総合プラン運営委員会
・事業計画の策定・安全管理方策・広報活動方策
・ボランティア等の人材確保・活動プログラムの企画・事業実施後の検証・評価

放課後子ども教室	連携	放課後児童クラブ（学童保育）
○すべての子ども	対象	○共働き家庭など留守家庭の小学校に就学している児童
○学び・体験・遊び・交流の場 地域の大人が、スポーツや学習、文化活動、地域住民や異年齢の子どもとの交流活動を行う。	内容	○生活の場 専任指導員が、保護者に代わり、健康管理、安全に対する配慮、活動状況の把握、児童の遊びの指導、活動の意欲や態度の形成、家庭との連絡などを行う。
○遊び、学習（宿題）、スポーツ、文化活動など	主な活動	○遊び、学習（宿題）
協働活動支援員・協働活動サポーター ・学習支援や多様なプログラムの実施、安全管理 **特別支援サポーター** ・特に配慮が必要な子どもたちへの支援	スタッフ	**専任指導員** 遊びや生活をとおして、子どもたちの健全育成を図り、安全確保に努める。
○小学校の余裕教室、体育館、グラウンド、地域の公民館など	実施場所	○小学校の余裕教室、小学校敷地内やその付近の専用施設など
○平日の放課後・週末（教室により異なる）	開催日	○平日の放課後、土曜（クラブにより異なる）
○無料（教室により保険、材料費などの徴収あり）	利用者負担	○月額5,000円～10000円程度（施設により異なる）
○７市町３２教室　（平成30年度）	県内数	○19市町327クラブ17,041人（平成30年５月1日現在）

土曜日の教育支援活動

【補助率】

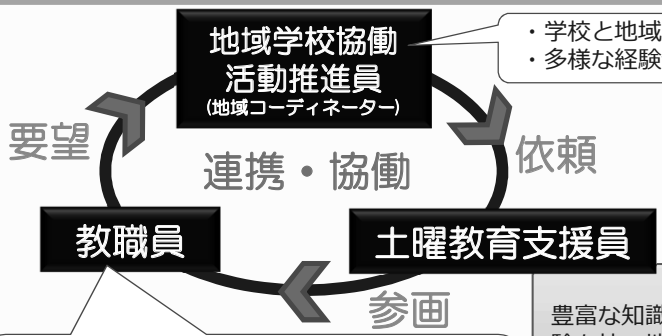
国	1/3
都道府県	1/3
市町	1/3

趣旨

全ての子どもたちの土曜日等の教育活動を充実するため、地域・民間企業・団体等の多様な経験や技能を持つ外部人材等の協力・参画を得て、地域の豊かな資源を活用した体系的・継続的な学習プログラムや特色ある学習プログラムを企画・実施する市町・学校等の取組を支援することにより、支援体制の構築を図るとともに、「学ぶ力(※)」を育むことをめざす。

(※)「学ぶ力」：子どもたちが自分の将来を真剣に考え、仲間とともに力を合わせ、自ら学ぼうとする力

土曜日の教育支援活動の仕組み



・学校と地域・企業・団体との連絡調整
・多様な経験や技能を持つ外部人材の発掘

平成30年度実施
４市町３１教室

「学校支援メニュー」・「地域で学ぼう『出前講座』」の活用
※実社会での経験を生かした「出前授業」を行うことが可能な企業・団体のメニューを紹介。滋賀県学習情報提供システム「におねっと」にてプログラムの検索が可能。（ URL ： http://www.nionet.jp/ ）

・「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す。
・部活動休養日（ノー部活デー）の受け皿としても実施する。
・放課後や土曜日など、家庭での時間の使い方を考える。
・子どもの地域での学びを学校の学びに生かす。

豊富な知識や経験を持つ地域・民間企業・団体の外部人材等の活用

企業人	大学・研究者	在外経験者	図書館司書	出版関係者
外国人	スポーツ選手	農林・漁業者	教員ＯＢ	

地域・民間企業・団体等の多様な経験や技能を持つ人材をコーディネートし、土曜日ならではの教育支援活動の実施

●地域の子どもを中心に据え、地域（地域人材）・家庭（保護者）・学校（教員）が確かにつながり、それぞれの立場から教育の営みに関わることにより、「社会に開かれた教育課程」の実現を図る。
●地域の豊かな社会資源を活用した体系的・継続的な学習プログラムを実施することにより、「学ぶ力」の向上を図る。

～土曜学習例～

●学習意欲や学習習慣形成につなげる事例
学力向上を図る補充的・発展的学習、作文教室、科学実験教室、基礎学力の向上、中学生の学力向上、在外経験者による外国語教室 等

●体験活動を中心とした事例
自然体験、書道、絵画、茶道、囲碁、工作、料理、和太鼓、楽器演奏 等

●地域の歴史や文化を学ぶ事例
地域の伝統学習（伝統行事、祭り）等

地域・企業・団体ならではの実社会で得られた知識や経験を子どもたちへ！

外部人材を活用した土曜日の教育支援体制の構築により、社会全体で「子どもの育ち」を支える地域づくりを推進する。

地域における家庭教育支援基盤構築事業【補助率】

国	1/3
県	1/3
市町	1/3

背景

○家庭教育が困難な現状

核家族化や地域社会のつながりの希薄化等を背景として、子育ての悩みや不安を抱えたまま保護者が孤立してしまうなどの現状がある中、全ての親が安心して家庭教育を行う上で、身近な相談相手として、地域の多様な人材で構成される家庭教育支援チームによる支援活動が有効。

趣旨

各地域における、家庭教育支援員等の養成、家庭教育支援チームの組織化及び学習機会の効果的な提供等の様々な取組に加え、家庭教育支援チーム等の組織化・活動強化を図るための取組の推進など、家庭教育を支援するための様々な取組を支援するもの。

県

①推進協議会の設置

・家庭教育支援活動の総合的な在り方の検討
・市町における家庭教育支援体制の充実
・家庭教育に関する事業の評価

②家庭教育に関する人材育成・啓発
※家庭教育活性化推進事業として実施

- **（新）家庭教育支援員の養成研修**
- 親育ち・家庭教育学習講座の開催
- 企業内・PTA家庭学習講座の開催支援
- 家庭教育啓発ポスター作製

市町

運営委員会等の設置

・家庭教育支援体制の整備、支援活動の実施
・地域の人材確保や養成方策の検討
・福祉部局等との連携方策

平成30年度実施　（８市町16活動）
近江八幡市、草津市、栗東市、甲賀市
湖南市、高島市、日野町、竜王町

①地域人材の養成

◆家庭教育支援員等の養成

○家庭教育に関する情報提供や相談対応等を行う人材を養成
○支援活動の企画・運営、関係機関・団体との連携等を担う中核的人材を養成

課題について意見交換

参画

子育て経験者など地域の多様な人材

［平成30年度４市町で実施］

体制の構築

②家庭教育支援体制の構築

◆家庭教育支援員の配置

家庭教育に関する情報提供や相談対応等をで行う家庭教育支援員を配置し、家庭教育支援体制を強化

◆家庭教育支援チームの組織化

家庭教育支援員などの地域人材を中心としたチームの組織化
○学習機会や交流の場づくりの企画
○家庭や地域の状況に応じた支援をコーディネート

【チーム員構成例】
子育てサポーターリーダー
民生・児童委員、元教員、保健師等

［平成30年度４市町で実施］

支援の実施

③家庭教育を支援する様々な取組を展開

◆学習機会の効果的な提供

就学時健診や保護者会、参観日など、多くの親が集まる機会を活用した学習機会の提供

◆親子参加型行事の実施

親子の自己肯定感、自立心などの社会を生き抜く力を養成するため、親子での参加型行事やボランティア活動、地域活動等のプログラムを展開

◆情報提供や相談対応

悩みを抱える保護者、仕事で忙しい保護者など、様々な家庭の状況に応じて、家庭教育支援チームによる情報提供や対応を実施

［平成30年度８市町で実施］

＋

家庭教育支援チーム等の強化を図るため追加して実施可能な取組　※①②は支援チームの設置が必要要件

①連絡会議・ケース会議等の設置・運営　（１町で実施）	…各家庭と関係機関等をつなぐ機能を強化
②活動拠点の整備促進	…家庭教育支援チームの組織化を強化
③企業内における家庭教育に関する学習機会の提供	…家庭教育に関する学習機会を強化
④保護者に対する家庭教育支援に関する情報提供（１町で実施）	…必要な情報発信力を強化

子育て中の全ての親への支援

身近な地域において、家庭教育に関する学習や相談ができる体制を整え、地域全体で家庭教育を支援する。

滋賀県コミュニティ・スクール推進事業

趣旨

・学校が抱える課題の解決を図り、子どもたちの教育活動等を一層充実していく観点から、地域住民等と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」への転換を目指すことが必要であり、平成29年4月学校運営協議会の設置が努力義務化された。

・「学校運営協議会制度」に関する研修機会の拡充等を図り、制度や事例についての理解を深めることを通じて、県内の学校運営協議会設置校の一層の拡大や取組の充実を図る。また市町や県立学校のコミュニティ・スクールの立ち上げや推進体制の構築に向けて助言を行うアドバイザーを県に配置し、各市町や県立学校を訪問して助言を行うとともに、県内全域において市町と県立学校との関係の構築や情報の共有を推進する。

CS導入・運営の充実に向けた支援体制の構築

国庫補助事業　コミュニティ・スクール推進体制構築事業として実施　　補助率：国1/3

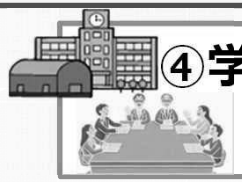
①CSアドバイザー派遣

市町・県立学校のCS立ち上げや推進体制構築に向けた助言

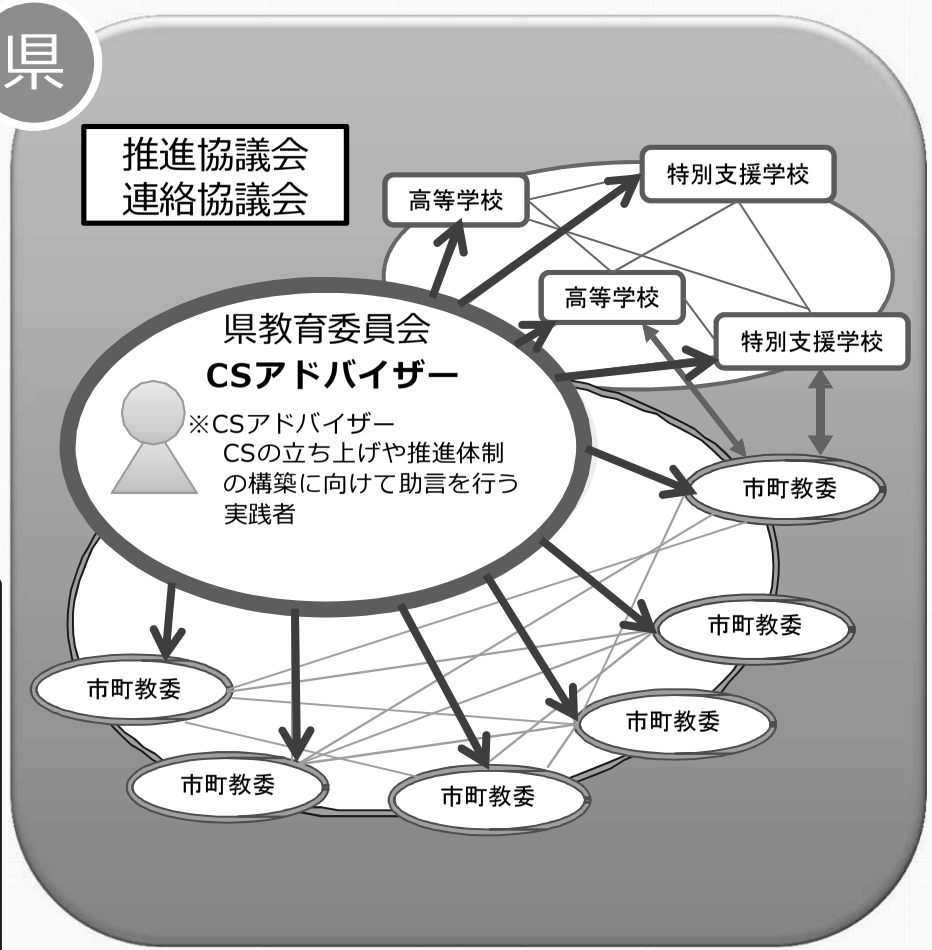
②コミュニティ・スクールの研修の充実

推進フォーラム・学校管理職研修会・事業成果報告会等開催

③推進協議会・連絡協議会の開催



④学校運営協議会設置（県立学校）



コミュニティ・スクールの設置拡大および取組が充実することにより得られる効果

- **学校教育の質の向上および学校支援活動の充実**
- **地域と学校が、共通したビジョンをもった主体的・能動的な取組の展開**
- **地域の学校理解の深まり、当事者意識の向上**

→社会総がかりで子どもたちを育む

⇨地域と学校の連携・協働体制の構築により、教職員が子どもと向き合う時間が確保される。

『学校を核とした地域力強化プラン』に係る県推進協議会

◆ 推進協議会委員（敬称略）

No.	氏　名	所　属	No.	氏　名	所　属
1	上村　文子	社会福祉士	5	武井　哲郎	立命館大学　准教授
2	北島　恭雄	草津市立草津第二小学校　校長	6	古谷　匠	滋賀県教育委員会事務局 幼小中教育課　参事
3	佐々木　保孝	天理大学　准教授	7	溝江　透	東近江市社会教育指導員 統括的な地域学校協働活動推進員
4	髙木　和久	文部科学省ｺﾐｭﾆﾃｨ・ｽｸｰﾙ推進員			

（Ⅰ）　推進協議会の概要

◆第１回推進協議会

１　協議会概要

期　日：平成30年５月18日（金）
会　場：県庁東館７階大会議室
出席者：武井座長、髙木副座長、上村委員、北島委員、佐々木委員、古谷委員、溝江委員、県ＣＳアドバイザー
事務局：県生涯学習課（９名）

（1）　開　会　　・県生涯学習課長　挨拶
（2）　座長、副座長選出
（3）　協　議
　①学校を核とした地域力強化プラン」について
　②今年度の力点について
　③平成30年度年間研修計画について
（4）　情報提供
　・第３期教育振興基本計画について（答申）概要

２　協議要旨

○学校を核とした地域力強化プラン」について

・県として独自で予算を考えていかなければいけない。補助事業がなくなったときのことを考えていかなければいけないと思う。
・放課後や土曜日などのように体験活動などを、学校教育活動に地域の力を入れていくことは重要である。ただ、やっておられることが学校にはわかりにくい。たくさんの事業があるので、学校とうまく融合してやっていけるとよいと思う。
・子ども食堂の参加者の現状は豊かな子ばかり。子ども食堂は柔軟性があるが、学校とつながりが持てないことを悩んでいる。あて職をあてないことが大事で、自分たちで考えることが大事。ある市では、食堂だけでなく、学びの時間を入れた。風通しのよい組織を。
・到達点はしんどい子を地域でどう育んでいくか。そこに滋賀県の独自性があるのでは。
・子どもは大事にしてもらいたいと思っている。お金ではないところで、それぞれの立場で志が大事。今日の施策がつながるのはわかるが、現場では縦にしか流れないので、事業が子どもにどう役立つか、大人にとってどうなのかをアウトプットする必要がある。現状では、これらの事業に救われている子を見てきているので、ぜひ続けてほしい。

○今年度の力点について

・ＣＳは国では総合政策局に移管される。小さな町では生涯学習課でどうやって学校とつなぐか。 教育長を中心とするネットワーク機関が必要。
・あらゆる子どもの育ちのためのツールである。そのためにいろんなネットワークを構築していくことが大切。
・地域はあるようでない。滋賀県の独自性は企業ではないかと思う。
・モデルをつくり、発信、共有をどう具体化するかが今後の課題。

◆第２回推進協議会

１　協議会概要

期　日：平成 31 年１月 22 日（火）
会　場：県庁新館７階大会議室
出席者：武井座長、髙木副座長、北島委員、佐々木委員、溝江委員
　　県幼小中教育課主査、県ＣＳアドバイザー
事務局：県生涯学習課（９名）こども・青少年局（１名）

（1）　開　会　　・武井座長　挨拶
（2）　協　議
①平成 30 年度各事業の成果と課題、今後の方向性について
ア　県実施事業について（県主催研修会の振り返り、および来年度の方向性）
イ　各市町における実施事業の状況について（各事業における市町訪問ならびに、実践報告から）
ウ　コミュニティ・スクール導入状況およびＣＳアドバイザー派遣について
②今後の地域と学校の連携・協働体制の推進の在り方について
ア　情報提供（国の動向等について、滋賀県第３期教育振興基本計画について）
イ　今後の県の推進方策について

２　協議要旨

・以下の３点を現状の課題と認識し、その解決に向け考え取り組んでいく必要がある。
　１　行政システムの中で社会教育の置かれている位置の難しさ。
　２　量的拡大が追求される中、質の充実をどう担保するか。
　３　働き方改革と言われる中で、地域と学校の連携・協働についてどのように考えるか。

・コミュニティ・スクールの導入が地域で子どもを育てていく、そして組織的で持続可能な制度であるということをアピールしていくとよい。木でいえば、根の部分がコミュニティ・スクールになるのだということを位置づければいい。人材を探すことのしんどさを楽にクリアしようとして学校評議員を学校運営協議会の委員にするという行動につながる。新しい人材を発掘する、関わることが、コミュニティ・スクールのスタートになるということを訴えていきたい。
・校長のリーダーシップが大事である。コミュニティ・スクールを導入するにあたり、どのような人に委員として入っていただくかが課題になる。ただ、様々な付き合いもあり、人材発掘は難しい。当て職委員ではなく、課題解決的な学校づくりをしていくことが大切
・生涯学習課と学校がどうつながっていくか。社会教育主事講習の受講者は減っている。行政の中に、社会教育主事的な動きをする人がたくさんいるので、キーパーソンになってほしい。
・ボトムアップをどのように図るか。チームとしての学校を作っていかなければいけない。それができる人間を育てなければならない。
・コミュニティ・スクールを導入する前提で、取り組んでいかなければならない。学校の授業の質が変わっていけばではなく、変わらなければ業務にならないというようにシフトしていかなければならない。地域連携というのは文部科学省のプランだけではない。地域創生という大きな枠組みで見ていった方がいい。文部科学省のプランの枠組みでしか考えられないようでは後々弊害になっていくのではないか。まちづくりを進める他部局と連携していくことが大切。予算や政策の枠組みを超えて連携していくのは難しいことだと思うが必要なことである。
・文部科学省はコミュニティ・スクールと地域学校協働本部の中で学校事務職員がマネジメントを支えるというような意志を示している。県の学校と地域を結ぶコーディネート担当者についても、事務職員が担っている学校がある。行政職員がしっかりしないと、まちづくりはうまくいかないのではないか。
・国庫補助事業として『家庭教育の充実』は残っていくだろう。各学校、行政の中で福祉とどうつながっていくのか。量的な拡大はチャンスだ。大人が見つけた課題をどうしていくのか。先生については、どうしていくのか。居場所のない子をどうしていくのか。地域の方に対しては、どのような地域にしていくのか。様々な課題に対してどうしていくのかを前提にそのしかけを考え、来年度の事業を推進していただきたい。

（Ⅱ） 各研修会の概要

◆第１回研修会 兼 コミュニティ・スクール連絡協議会

１．目　　的　県内で実施される「学校を核とした地域力強化プラン」に係る市町の事業担当者や地域コーディネーターを対象に、事業の趣旨や運営上の留意点などを説明することにより、事業の円滑な実施を図る。さらに地域学校協働活動推進キーパーソンとなる地域学校協働活動推進員の役割や委嘱について文部科学省職員から説明を受け、普及に繋げる。

コミュニティ・スクール連絡協議会では、県内全域において市町の連絡体制の構築や情報の共有を推進するとともに、設置の拡大や運営の充実に向けた方策について研究する。

２．主　　催　滋賀県教育委員会

３．対　　象　（1）「学校を核とした地域力強化プラン」事業実施市町担当者
（2）各市町コミュニティ・スクール担当者
（3）上記事業の未実施市町における参加希望者
（4）各市町生涯学習・社会教育担当者
（5）各市町学校教育担当者
（6）地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）等

４．日　　時　平成30年５月18日（金）13:30～16:45

５．日　　程

○文部科学省事業説明
　文部科学省生涯学習政策局社会教育課地域学校協働推進室係長　山下　邦子　氏
○行政説明
○講　　演　演題：「ＣＳを創る・・これからの学校・地域・行政のあり方を考える」
　講師：髙木　和久 氏
　（文部科学省コミュニティ・スクール推進員、滋賀県ＣＳアドバイザー、「学校を核とした地域力強化プラン」県推進協議会委員）
○滋賀県コミュニティ・スクール連絡協議会および情報交換会

６．場　　所　滋賀県庁東館７階大会議室

７．参加者数　53名

８．概　　要

・文部科学省事業説明では、社会教育課係長より、「地域と学校の連携・協働の推進について」と題して、法改正を踏まえた地域と学校の連携・協働のあり方、地域学校協働活動推進員の配置促進、国による財政的支援（学校を核とした地域力強化プラン）、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの連携について説明を受けた。
・講演では、講師が校長であった当時に立ち上げた、本県におけるコミュニティ・スクールの先駆けともいえる取組の紹介から始まり、「地域がＣＳ実施に向けて準備したいこと」や「行政のＣＳ推進に向けた体制づくりや取組のシステム整備」について、その手順や留意点等について簡潔に説明された。
・コミュニティ・スクール連絡協議会では、ＣＳアドバイザーの紹介とアドバイザー派遣の説明を行い、市町の情報交換会を実施した。

９．参加者のアンケートより

○国としての方向性やこれまでとの変更点等がよくわかった。法改正やそれに伴う取組のポイントを町内で伝達するが、わかりやすくまとめていただいた。社会教育課、校長、教頭など関係者にしっかり説明していきたい。
○髙木先生に根幹に関わることをお話しいただき、ＣＳ導入に向けて一人悩んでいたところが晴れた気持ちになった。実感を伴う話には力があり、もっと多くの方に聞いてもらいたいと思った。
○「どんな子どもを育てたいか」について学校、地域が熟議することの必要性、ボランティアの主体性、子どもの主体性、どこまで任せるか等々、考えさせられる点が多々あった。
○実際に学校現場で苦労されていることや大切にされていることを聞かせていただき、大変参考になった。教員とは違う視点で学校や子どもに関わっていただくことで、学校が変わることがよくわかった。学校と地域が「協働で取り組む」とはどういうことか考え直していきたい。

◆第２回研修会および「学校と地域を結ぶコーディネート担当者」等新任研修

１．目　　的　県では、地域の力を学校教育に生かす仕組みづくりを整え、社会全体で学校や子どもの体験活動を支援する取組や、地域とともにある学校づくりを推進している。

地域による学校の「支援」活動から、地域と学校のパートナーシップに基づく双方向の「連携・協働」による取組へと発展していくために、県内各学校の校務分掌に位置付けられている「学校と地域を結ぶコーディネート担当者」等と地域コーディネーター等関係者がともに、それぞれの役割や具体的な方策について学ぶ機会とする。

２．主　　催　滋賀県教育委員会

３．対　　象　（1）「学校を核とした地域力強化プラン」関連事業実施市町担当者
（2）学校教職員
（3）各市町生涯学習・社会教育担当者
（4）各市町学校教育担当者
（5）子育て支援機関関係者
（6）地域住民

４．日　　時　平成30年８月２日（木）９:30〜11：50

５．日　　程

○講　演　　演題：「学校と地域を結ぶコーディネート担当者、および地域コーディネーターの具体的な役割について」
講師：ＮＰＯ法人スクール・アドバイス・ネットワーク　理事長　生重幸恵　氏

○ワークショップ

６．場　　所　滋賀県庁東館　７階 大会議室

７．参加者数　124名

８．概　　要

・講師より、地域と学校の連携・協働の意義やコーディネーターとしての役割について、学校の実態を踏まえながら、具体的な事例をもとに説明いただいた。
・後半のグループ協議では、講師のファシリテートのもと、参加者の皆さんが「学校と地域の連携・協働を進めていくために、どのような工夫ができるか。（教員・地域の方の意識改革）」「『開かれた学校』づくりを進めるにあたり、防犯・安全等セキュリティ対策においては、どのような工夫をすることができるか。」をテーマに意見交換し、連携・協働の在り方について主体的に学んでいただくことができた。

９．参加者のアンケートより

○具体的な例を入れて話され、コーディネーターの役割の重要性を改めて認識できた。地域のつながりを見直し、より活動のネットワーク作りを進めていきたい。他の地域との情報交換は新鮮でした。
○生重さんのお話は何度聞いても元気がもらえる。教職員とコーディネーター合同の研修スタイルもよかったと思った。
○地域の人材を生かすことで、学校も負担が減り、地域も出番が増えて活性化するそのようなビジョンを地域学校が共通理解し「子どもの育ち」という目標を共有できるとよいと思った。そのヒントを講義から聞くことができた。
○教師は「自分でやらねば」と思うところが強いけれども、もっと意識をかえて、地域とつながり、協力していただくようにしていけばいいのだと感じた。ただ、そのためにはお互いの話し合いは十分にしないといけないことを教えていただいた。
○地域と学校を結ぶコーディネーターの実践の話では、目頭が熱くなった。良好な関係を作り、信頼関係を築くとは、簡単に言えるが、実際は人と人との本音を交えながらも真剣に地域や子どもがどうあるべきかを熱心に、時に泥くさく語り合うことが必要だと思った。

◆コミュニティ・スクール推進事業研修会（コミュニティ・スクール推進フォーラム 兼 第2回コミュニティ・スクール連絡協議会）

1．目　　的　学校と地域が一体となって子どもを育む「地域とともにある学校づくり」の充実方策について、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の有効的な取組に係る講演や事例発表をとおして、県立学校や市町における円滑かつ効果的な導入や取組の充実に資する。

2．主　　催　滋賀県教育委員会

3．対　　象
（1）公立幼稚園・小・中学校教職員、県立学校教職員
（2）学校運営協議会（コミュニティ・スクール）関係者、学校評議員
（3）地域学校協働本部・地域未来塾関係者・土曜日の教育支援活動関係者
（4）放課後子ども教室関係者・放課後児童クラブ関係者
（5）家庭教育支援活動関係者・子育て支援機関関係者
（6）ＰＴＡ、県・各市町社会教育委員、公民館職員
（7）各市町担当職員
（8）学校と地域の連携・協働体制について関心のある地域住民　など

4．日時・会場・参加者数

○南部会場：平成30年８月９日（木）　13:30～16:45
滋賀県庁東館７階大会議室
参加者数　94名

○北部会場：平成30年８月17日（金）13:30～16:45
米原市米原公民館２ＡＢ研修室
参加者数　107名

5．日　　程

○事例発表（南部）
「特別支援学校における学校運営協議会の取組
～こんないいことがありました！～」
京都市立西総合支援学校　校長　冨家　直樹　氏

○事例発表（北部）
「地域密着型高校の発展を目指して」
三重県立南伊勢高等学校（度会校舎）
准校長　森　典英　氏

○講演（両日・両会場）
演　題：「今、なぜコミュニティ・スクールなのか？」
講　師：文部科学省初等中等教育局視学委員
全国コミュニティ・スクール連絡協議会顧問
元三鷹市教育長　　貝ノ瀬　滋　氏

○グループディスカッション［コミュニティ・スクール連絡協議会］（両日・両会場）

6．概　　要

・両会場いずれも高校や特別支援学校での取組から学んでいただくために、県外取組先進校から発表いただいた。講師の先生にはグループディスカッションにも御参加いただき、参加者の学びを深める機会となった。
・両会場とも貝ノ瀬　滋氏に御講演いただいた。学校運営協議会制度、全国に先駆けて取り組まれた実践、また豊富な経験に基づく的確な目標設定と助言等、今後取り組むべきこと等を丁寧に御示唆いただいた。
・参加者所属別でのグループディスカッションでは、講師やＣＳアドバイザーによるファシリテートのもと、制度や取組についての疑問、導入・推進にあたっての不安や悩み等、意見交換を行い熱心な議論が展開された。

7．参加者のアンケートより

○導入間もないところにも、歴史があるところにもわかりやすい講演であった。手段と目的を念頭に置くことで内容のある有意義な組織づくりができると感じた。
○『今、なぜコミュニティ・スクールなのか？』ということは必然的な動きであり、大きな未来、希望を見せていただいた気がする。子どもたちが幸せに豊かに生きていける社会にもっとなるように、私にできることをできる範囲でしていきたい。
○グループディスカッションでは各校の取組や悩みを聴くことができ、同感する面があった。参加者から様々な「エキス」を吸収することができた。もっと交流の時間がほしいと思った。
○各地域での取組を聞き、一歩踏み出すためのヒントをいただいたように思う。子どもを地域で育むための共通の理解が生まれたように感じる。

◆地域における家庭教育支援基盤構築事業研修会

1．目　　的　核家族化や地域社会のつながりの希薄化等を背景として、子育ての悩みや不安を抱えた保護者の増加等、家庭教育の困難な現状が指摘されている。そうした中、本県においては地域の実情に応じた家庭教育支援の取組が展開されている。そこで、家庭教育支援や子育て支援関係者等が一堂に会し、今、求められる家庭教育支援のための体制整備に向けた具体的な手立てを学ぶ機会とする。

2．主　　催　滋賀県教育委員会

3．対　　象　（1）国庫補助事業「地域における家庭教育支援基盤構築事業」実施市町担当者
（2）家庭教育支援員、家庭教育支援チーム員、子育てサポーター等
（3）民生委員・児童委員、社会福祉士
（4）各市町生涯学習・社会教育関係者、学校教育関係者、ＰＴＡ関係者
（5）滋賀県社会教育委員、各市町社会教育委員、公民館職員
（6）滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」に係る推進協議会委員
（7）家庭教育支援に関心のある方

4．日　　時　平成30年6月15日（金）13:20～16:30

5．日　　程

○事例発表　演題：長浜市家庭教育支援チーム「えがお」の取組について
事例発表者：長浜市家庭教育支援チーム「えがお」チーム員　脇坂　繁子　氏

○講　　演　演題：「今、求められる家庭教育支援について」
講師：九州女子大学　教授　大島　まな　氏

○意見交流

6．場　　所　滋賀県庁東館7階大会議室

7．参加者数　30名

8．概　　要

・講演では、少子高齢化、核家族化、伝統的共同体の崩壊等、社会が変化する中で親の意識・価値観も多様化している。そうした中、家庭教育は学校教育、社会教育と異なり、制度のない非定型な教育であるといった特徴がある。また、家庭は「私的領域」であるため、他人が入り込めないプライベートな領域である。家庭教育支援を必要としている親は潜在しており、引き続き、啓発、条件整備のための努力が求められる。子どもは「社会の宝」であり、すべての子どもの健全な発達のために「子育ての社会化」、「つながり」が大切であると御示唆いただいた。
・事例発表では、平成29年度「家庭教育支援チーム」の活動の推進にかかる文部科学大臣表彰を受賞された長浜市家庭教育支援チーム「えがお」チーム員の脇坂繁子氏より、絵本を作ったり、遊んだりすることの実践からお母さんが笑顔になれば、子どもも笑顔になれるという、これまでの取組を発表いただいた。
・意見交流では、日々の取組の中で感じていることや考えていること、相談したいこと、所属での活動等の交流をとおして、各市町において求められる家庭教育支援方策について交流を図った。

9．参加者のアンケートより

・人が集い語り合う場所づくりが大切だと改めて感じました。
・私自身がこの場で皆さんの御意見を聞いたり、自分の考えを話させていただいたりしながら、これからの活動へのパワーやヒントをたくさんいただきました。
・事例発表については、自分の市でも取り組んでいけるのではないかと思える内容で、大変参考になりました。
・様々な事業、取組のもとになるのは人と人とのつながりであることを再認識しました。
・今年になり役をして改めていろいろな方が、いろいろな所で子どもたちを守っていてくださるのだと感じている現状です。つながることの大切さを身にしみて感じています。

◆第３回研修会（兼 滋賀県コミュニティ・スクール連絡協議会）

１ 目　　的　事業に関わる関係者、学校教職員、行政職員等が一堂に会し、本年度の各市における取組事例の発表や講演を通じて、地域の将来を担う人材の育成や「地域とともにある学校づくり」にかかる今後の推進方策について、ともに学ぶ機会とする。

２ 主　　催　滋賀県教育委員会

３ 対　　象
（1）各市町担当職員
（2）各校・園教職員
（3）地域学校協働本部関係者
（4）地域未来塾関係者
（5）放課後子ども教室関係者・放課後児童クラブ関係者
（6）土曜日の教育支援活動関係者
（7）家庭教育支援活動関係者・子育て支援機関関係者
（8）学校運営協議会（コミュニティ・スクール）関係者
（9）県・各市町社会教育委員、公民館・コミュニティセンター等職員
(10) 地域と学校の連携・協働に関する事業関係者
(11) 教員をめざす学生

４ 日　　時　平成 31 年１月 22 日（火）13:30～16:30

５ 日　　程

○事例発表　米原市における地域学校協働活動の報告
（地域学校協働本部、地域未来塾、コミュニティ・スクール）
高島市における地域学校協働活動の報告
（地域学校協働本部、コミュニティ・スクール）

○事業説明　「学校を核とした地域力強化プラン」に係る
平成 31 年度概算要求説明より

○講　　演　演題：「地域の教育力の向上を図るために」
講師：香川大学地域連携・生涯学習センター
センター長・教授　清國　祐二 氏

６ 場　　所　滋賀県庁新館７階大会議室

７ 参加者数　132 名

８ 概　　要

米原市と高島市より、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進に全市をあげて取り組んでいる事例について発表いただいた。

講演では、「この地域で子どもを育てていくために、この地域でつけたい力は何か」を学校と地域が同じテーブルにつき知恵を結集することや、担い手が絶えないしくみづくりのためにも種をまき続けることの重要性などについてお話いただいた。また、地域との関わりの中で子どもに社会参画意識を持たせることの大切さに共感させられた。

９ 参加者のアンケートより

○新たな学力観について、たくさんの具体例を示しながら、説明してくださったのでとても納得できた。「どれだけたくさんのたくわえをつくるかではなく、どれだけ使っていくか。」の視点は、これからの教育や施策にいかしていきたい。

○「根回し」、「情報提供」、「納得」というキーワードを大切に、地域の力を最大限に引き出したいと思う。

○今まで、地域と学校が連携する意味や必要性がはっきりわからなかったが、今日理解できてよかった。

○子どもが自分の地域に責任を持つということになれば、素晴らしい。そのためには、子どもたちに地域の人々が愛情をそそぐことが大切だと感じた。

○子どもにつけたい力を、学校・地域・家庭で共有していく必要があると感じた。それぞれがバラバラのような感じであるが、それを立て直すチャンスが来たと思った。

○ＣＳで担っていく、教育は知恵であり、価値観である。「常識的な価値観」を教えてあげられるのは、地域の人間であると思った。

平成30年度　地域学校協働活動一覧　　15市町

No.	市町名	活動名	学校・園名	幼稚園等	小学校	中学校
1	彦根市	東中学校区地域学校協働本部	東中学校、城東小学校、佐和山小学校、旭森小学校	7	17	7
		西中学校区地域学校協働本部	西中学校、城西小学校、城北小学校、城北幼稚園			
		中央中学校区地域学校協働本部	中央中学校、平田小学校、金城小学校、平田幼稚園 金城幼稚園			
		南中学校区地域学校協働本部	南中学校、城南小学校、城陽小学校、亀山小学校			
		彦根中学校区地域学校協働本部	彦根中学校、河瀬小学校、高宮小学校			
		鳥居本中学校区地域学校協働本部	鳥居本中学校、鳥居本小学校			
		稲枝中学校区支援地域協議会	稲枝中学校、稲枝東小学校、稲枝北小学校 稲枝西小学校、稲枝東幼稚園、みづほ会みずほ保育園 ふたば会稲枝ふたば保育園、ことぶき会ことぶき保育園			
		若葉小学校地域学校協働本部	若葉小学校			
2	近江八幡市	八幡小学校支援地域本部	八幡小学校	11	12	4
		島小学校支援地域本部	島小学校			
		沖島小学校支援地域本部	沖島小学校			
		岡山小学校支援地域本部	岡山小学校			
		金田小学校支援地域本部	金田小学校			
		桐原小学校支援地域本部	桐原小学校			
		桐原東小学校支援地域本部	桐原東小学校			
		馬淵小学校支援地域本部	馬淵小学校			
		北里小学校支援地域本部	北里小学校			
		武佐小学校支援地域本部	武佐小学校			
		安土小学校支援地域本部	安土小学校			
		老蘇小学校支援地域本部	老蘇小学校			
		八幡中学校支援地域本部	八幡中学校			
		八幡東中学校支援地域本部	八幡東中学校			
		八幡西中学校支援地域本部	八幡西中学校			
		安土中学校支援地域本部	安土中学校			
		武佐こども園支援地域本部	武佐こども園			
		八幡幼稚園支援地域本部	八幡幼稚園			
		岡山幼稚園支援地域本部	岡山幼稚園			
		桐原幼稚園支援地域本部	桐原幼稚園			
		馬淵幼稚園支援地域本部	馬淵幼稚園			
		金田幼稚園支援地域本部	金田幼稚園			
		北里幼稚園支援地域本部	北里幼稚園			
		安土幼稚園支援地域本部	安土幼稚園			
		老蘇こども園支援地域本部	老蘇こども園			
		八幡保育所支援地域本部	八幡保育所			
		桐原保育所支援地域本部	桐原保育所			
3	草津市	志津小学校地域協働合校	志津小学校	0	14	0
		志津南小学校地域協働合校	志津南小学校			
		草津小学校地域協働合校	草津小学校			
		草津第二小学校地域協働合校	草津第二小学校			
		渋川小学校地域協働合校	渋川小学校			
		矢倉小学校地域協働合校	矢倉小学校			
		老上小学校地域協働合校	老上小学校			
		老上西小学校地域協働合校	老上西小学校			
		玉川小学校地域協働合校	玉川小学校			
		南笠東小学校地域協働合校	南笠東小学校			
		山田小学校地域協働合校	山田小学校			
		笠縫小学校地域協働合校	笠縫小学校			
		笠縫東小学校地域協働合校	笠縫東小学校			
		常盤小学校地域協働合校	常盤小学校			
4	栗東市	栗東中学校支援地域本部	栗東中学校	0	8	1
		金勝放課後子ども広場	金勝小学校			
		葉山東ふれあい子ども広場	葉山東小学校			
		はるたっこ広場	治田小学校			
		チャレンジはるひがっこ	治田東小学校			
		治西のびのび広場	治田西小学校			
		大宝わくわくタイム	大宝小学校			
		さんさん・キッズ	大宝東小学校			
		大宝西ふれあい子ども広場	大宝西小学校			
5	甲賀市	岩上公民館子ども教室	水口小学校	0	6	1
		子ども公民館講座	土山小学校、大野小学校			
		KOKA楽こども公民館、子ども天文クラブ	大原小学校、油日小学校、佐山小学校、甲賀中学校			
6	野洲市	野洲学区わくわく子どもクラブ	野洲小学校（市内の全小学校の児童が参加可）	0	6	0
		三上楽しいクラブ活動	三上小学校（市内の全小学校の児童が参加可）			
		祇王子どもクラブ	祇王小学校（市内の全小学校の児童が参加可）			
		篠原地域子ども教室	篠原小学校（市内の全小学校の児童が参加可）			
		北野っ子フレンドリークラブ	北野小学校（市内の全小学校の児童が参加可）			
		中主地域子ども教室（中里学区）	中主小学校（市内の全小学校の児童が参加可）			
		中主地域子ども教室（兵主学区）	中主小学校（市内の全小学校の児童が参加可）			

No.	市町名	活動名	学校・園名	幼稚園等	小学校	中学校
7	湖南市	石部小地域学校協働本部	石部小学校	0	9	4
		石部南小地域学校協働本部	石部南小学校			
		みくもっ子地域学校協働本部	三雲小学校			
		東っ子地域学校協働本部	三雲東小学校			
		岩根小地域学校協働本部	岩根小学校			
		菩提寺小地域学校協働本部	菩提寺小学校			
		あすなろ地域学校協働本部	菩提寺北小学校			
		下田小地域学校協働本部	下田小学校			
		みとっこ地域学校協働本部	水戸小学校			
		石部中地域学校協働本部	石部中学校			
		甲西中地域学校協働本部	甲西中学校			
		甲西北中地域学校協働本部	甲西北中学校			
		日枝中地域学校協働本部	日枝中学校			
8	高島市	高島学園地域学校協働本部	高島中学校、高島小学校	0	13	6
		マキノ地域学校協働本部	マキノ中学校、マキノ東小学校、マキノ西小学校、マキノ南小学校			
		今津地域学校協働本部	今津中学校、今津東小学校、今津北小学校			
		朽木地域学校協働本部	朽木中学校、朽木東小学校、朽木西小学校			
		安曇川地域学校協働本部	安曇川中学校、青柳小学校、本庄小学校、安曇小学校			
		新旭地域学校協働本部	湖西中学校、新旭南小学校、新旭北小学校			
9	東近江市	玉緒小学校地域学校協働本部	玉緒小学校	0	22	9
		御園小学校地域学校協働本部	御園小学校			
		八日市南小学校地域学校協働本部	八日市南小学校			
		箕作小学校地域学校協働本部	箕作小学校			
		八日市北小学校地域学校協働本部	八日市北小学校			
		八日市西小学校地域学校協働本部	八日市西小学校			
		布引小学校地域学校協働本部	布引小学校			
		市原小学校地域学校協働本部	市原小学校			
		山上小学校地域学校協働本部	山上小学校			
		五個荘小学校地域学校協働本部	五個荘小学校			
		愛東南小学校地域学校協働本部	愛東南小学校			
		愛東北小学校地域学校協働本部	愛東北小学校			
		湖東第一小学校地域学校協働本部	湖東第一小学校			
		湖東第二小学校地域学校協働本部	湖東第二小学校			
		湖東第三小学校地域学校協働本部	湖東第三小学校			
		蒲生東小学校地域学校協働本部	蒲生東小学校			
		蒲生西小学校地域学校協働本部	蒲生西小学校			
		蒲生北小学校地域学校協働本部	蒲生北小学校			
		能登川東小学校地域学校協働本部	能登川東小学校			
		能登川西小学校地域学校協働本部	能登川西小学校			
		能登川南小学校地域学校協働本部	能登川南小学校			
		能登川北小学校地域学校協働本部	能登川北小学校			
		玉園中学校地域学校協働本部	玉園中学校			
		聖徳中学校地域学校協働本部	聖徳中学校			
		船岡中学校地域学校協働本部	船岡中学校			
		永源寺中学校地域学校協働本部	永源寺中学校			
		五個荘中学校地域学校協働本部	五個荘中学校			
		愛東中学校地域学校協働本部	愛東中学校			
		湖東中学校地域学校協働本部	湖東中学校			
		朝桜中学校地域学校協働本部	朝桜中学校			
		能登川中学校地域学校協働本部	能登川中学校			
10	米原市	柏原学区学校・園地域協働本部（地域学校協働本部）	柏原中学校、柏原小学校、柏原保育園	7	9	6
		河南学区学校支援地域本部（地域学校協働本部）	河南中学校、河南小学校、かなん認定こども園			
		伊吹山学区学校支援地域本部（地域学校協働本部）	伊吹山中学校、伊吹小学校、春照小学校、いぶき認定こども園			
		米原学区学校支援地域本部（地域学校協働本部）	米原中学校、米原小学校、まいばら認定こども園			
		大東学区学校支援地域本部（地域学校協働本部）	大東中学校、山東小学校、大原小学校、山東幼稚園 大原保育園			
		おうみネット学校支援地域本部（地域学校協働本部）	双葉中学校、坂田小学校、息長小学校、おうみ認定こども園			
11	日野町	日野・鎌掛地域学校協働本部	日野小学校	0	5	1
		西大路地域学校協働本部	西大路小学校			
		南比都佐地域学校協働本部	南比都佐小学校			
		必佐地域学校協働本部	必佐小学校			
		桜谷地域学校協働本部	桜谷小学校			
		日野中学校地域学校協働本部	日野中学校			
12	竜王町	竜王町学校支援地域本部	竜王中学校、竜王小学校、竜王西小学校 竜王幼稚園、竜王西幼稚園	2	2	1
13	豊郷町	豊日中学校地域未来塾	豊日中学校	0	2	1
		夏休みわくわく学習会	豊郷小学校			
		夏休みわくわく学習会	日栄小学校			
14	甲良町	甲良中学校地域未来塾	甲良中学校	0	0	1
15	多賀町	多賀町地域学校協働本部	多賀中学校、多賀小学校、大滝小学校、多賀幼稚園 大滝たきのみやこども園、多賀ささゆり保育園	3	2	1

彦根市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部　■地域未来塾　□放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿

幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、「地域の子は地域で守り育てる」機運を高める。また、地域住民の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながりを強化し、地域の活性化を図る。

■本年度の具体的活動

〇実行委員会の開催（年２回）

構成委員:18 名　各中学校管理職、ＣＳ管理職、地域コーディネーター、彦根市ＰＴＡ連絡協議会、ＮＰＯ法人、事務局（生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹）

７月 13 日(金)：事業説明・各本部の実践交流とＣＳからの取組紹介

１月 28 日(月)：各本部の実践交流・次年度の計画

〇７月９日（月）：教頭研修会

市内の教頭を対象としてＣＳと地域学校協働活動に係る研修を行った。

〇10・11 月：学校訪問

生涯学習課と学校教育課が連携して実施。両課の担当が共に、７中学校とＣＳの２小学校を訪問し「地域学校協働本部」と「地域未来塾」の事業とＣＳの進捗状況把握、今後の取組の確認を行った。

〇12 月 21 日（金）：地域コーディネーター連絡会の開催

ＣＳの実施状況を含む今年度の取組と次年度に向けての情報交流、事務局からの指示連絡等を実施。

■本年度の成果

〇実践報告の中で「地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。」と答えた学校が、市内小中学校全 24 校中 22 校あり、地域ボランティアの活動が定着していると言える。

〇実践報告の中で「将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。」と答えた学校が、昨年度は 24 校中５校だったが、今年度は 14 校と大幅に増えた。「支援から協働へ」の意識が定着してきたと思われる。今後も、地域と学校が将来構想や目標を共有するために、様々な方策を実行していきたい。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

〇実践報告の中で「地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。」と答えた学校が、昨年度は 24 校中 20 校あったが、今年度は 15 校にとどまった。地域学校協働活動の幅が広がるほど、子どもに関する情報共有が課題になると思われるので、実行委員会等の機会を通して、効果的な情報共有のあり方について考えていく必要がある。

〇事業を支える地域ボランティアが高齢化、固定化している傾向がある。地域未来塾の学習支援員の確保のためにも、支援のネットワーク化を図り、新たな人材を確保していくことが重要である。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

彦根市では地域コーディネーターが中心となっており、地域学校協働活動推進員は委嘱していない。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

今年度新たに１小学校が学校運営協議会を立ち上げ、彦根市のＣＳは２校となった。今後は、この２校の取組の成果と課題をもとに他校の学校運営協議会のスムーズな導入につなげたい。

■その他

本市のＣＳモデル校としてスタートした若葉小学校では、地域学校協働活動を行う各組織のリーダーが学校運営協議会の委員に加わり、学校運営協議会でとりあげた事柄を地域学校協働活動においてスムーズに実践できる体制となっている。

子どもたちの笑顔のために～できる人が　できるときに　できることを～

彦根市	活動名：東中学校区地域学校協働本部	東中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　（兼務１人）　ボランティア登録数：57 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援

□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

［地域未来塾］　年間開催日数：34 日　地域コーディネーター数：１人　（兼務１人）　平均参加人数：20 人

・学習形態　：　■個別の学力補充　□教材を使って一斉学習　□その他（　　）

・教室の持ち方　：　■放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）

・学習支援員等人数　：　学習支援員 13 人

・学習支援員等の属性　：　□企業人　□行政職員　■元教員　□大学生　■地域住民　□NPO 等関係者　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

［地域学校協働本部］

〇読み聞かせ・図書整備活動・・・朝読書の時間に地域のボランティアの方に読み聞かせをしていただいている。読み聞かせは、クラスで学期に１回の計画を立て、学年をＡ団、Ｂ団の２つに分けて１学年から順次実施している。年間を通してどの作品がよいかを学年ごとに創意工夫し、幅広い作品を準備していただいている。また、図書室の新刊図書の登録作業や図書の整備などの支援もしていただいている。地域コーディネーターにより図書ボランティアを募り、11 名のボランティアの方が当番制で毎日昼休みに図書室を開き、生徒の貸し出し等の利用を可能にしている。

〇ゲストティーチャーによる授業・公演【沖縄民謡の公演】・・・２年生では沖縄学習旅行にむけての事前学習で、地域コーディネーターの仲介により沖縄の八重山民謡を演奏する団体「鳩間ファミリー」と交渉し、学校において民謡と踊りを中心とした公演を開催した。１年生では「仕事人と語ろう」で 11 の職種の方々を招き職業講話をもつことで将来の進路について考えるよい機会となった。

［地域未来塾］

〇水曜放課後学習・・・学習教科は自由で、生徒が学習しようと思う教材を持参して学習しているが、プリントや問題集等は学校が準備して、生徒の希望にあわせて配布や貸出ができるようにしている。

【放課後学習会の様子】

■　実施に当たっての工夫

［地域学校協働本部］

年度当初の職員会議で、地域コーディネーターから今年度の事業計画を説明していただき、この活動のねらいを全職員が理解した上で取り組んでいる。また教師からの要望をアンケートで聞き取り、活動に生かしている。どの活動も地域コーディネーターを中心に連絡を密にし、急な変更にも素早く対応するようにしている。

［地域未来塾］

「自分が決める」という生徒の自主性を尊重し、成績に関係なく、参加するという意識のある生徒の参加を受け入れている。募集チラシは、生徒へ宛てたものにして、欠席する場合は連絡があれば尊重し、無理に引き留めない等、やらされる学習ではなく、主体的に学習する場をつくるよう心掛けている。学習時間は１時間半確保している。

■　事業の成果

［地域学校協働本部］

図書整備活動と毎日昼休みに図書室を開館することで、利用する生徒が増加し、読書習慣が身についてきている。また、ゲストティーチャーとして沖縄の鳩間ファミリーにきていただいたことで、沖縄の文化をより身近に感じることができた。

［地域未来塾］

生徒どうし教え合ったり、積極的に学習支援ボランティアに質問したりする姿が多くみられ、それが同室で学習する他の生徒への刺激になるなど、全体の学習意欲を高められた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

各学年や校内事情を考慮してもらいながらボランティアの方々に来ていただいているが、人数や時間調整が難しくなかなかそろわない日もある。「本部だより」等でその実態を伝え運営が多様化できるようボランティア登録を増やしていく必要性がある。また、より効率よく学校とつながっていくために地域と教員との連携を進め、この活動を発展させていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

伝統を引き継ごう！　～城東小学校マーチングバンド　活動の充実に向けて～

彦根市	活動名：東中学校区地域学校協働本部	城東小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　（兼務０人）　ボランティア登録数：約 90 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）
・各パートの練習（毎週金曜日６校時）　・東中学校吹奏楽部との連携
・運動会、卒業式歓送などの校内行事への参加
・市民運動会、城まつりパレードなどの地域行事への参加

■　実施に当たっての工夫
・今年度もボランティアでトランペット指導をしていただいていた方を社会人講師に迎え、指導体制を整えることができた。また、地域学校協働本部が発行する「地域学校協働本部だより」に、マーチング指導ボランティアの募集を掲載することで指導者の確保に努めている。２名の方に金管楽器や打楽器の指導をしていただき、本校職員との複数指導が実現している。
・12 月上旬から１月下旬にかけて、６年生から５年生への引き継ぎ期間を設定している。ボランティアの方の指導と子どもどうしの交流をうまく融合させ、演奏（演技）技能を引き継ぐとともに、本校の伝統を守っていこうとする心も大切にしている。
・毎年５月下旬頃（中体連の期間中）に東中学校吹奏楽部の演奏による音楽鑑賞会を開催している。後半には、吹奏楽部員にマーチングバンドのパート別指導をお願いしている。

■　事業の成果
・地域学校協働本部との連携と小中連携をうまく重ね合わせることで、指導体制を充実させることができた。
・指導ボランティアの方の熱心な指導により、子どもたちの演奏技能が著しく向上した。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
・地域学校協働本部を通じて学校が支援してほしいことを地域に発信し続けていくとともに、地域コーディネーターとの連携を深め、人材の発掘と情報交換に努めることが大切である。

■　その他

マーチング活動に関する児童の感想

練習が苦しい時もあったけれど、いろいろな思い出をつくることができて感謝の気持ちでいっぱいです。指導ボランティアの先生に、バジングや音の出し方、曲の演奏の仕方などをたくさん教えていただいたからだと思います。城まつりパレードで自信をもって演奏することができました。

１年間熱心にご指導いただいた指導ボランティアの先生や城東小学校の先生、家族、地域のみなさんなど、たくさんの方に支えられているマーチング活動。運動会や城まつりパレードでは、地域の人に応援していただいたり、たくさんの温かい拍手をいただいたりしてうれしかったです。しっかり５年生に引き継いでいきたいです。

【城まつりパレードでの補助・支援】

【市民運動会で地域に披露】

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印
（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域の方々と共に　～未来を創る　心豊かでたくましい　佐和山っ子の育成を目指して～

彦根市	活動名：東中学校区地域学校協働本部	佐和山小学校	学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務０人）　ボランティア登録数：160 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）朝学習での低学年の英語学習

本校は、英語教育加配やＡＬＴの配置もあり、第３学年以上の英語科の学習の充実に取り組んでいる。低学年から慣れ親しむ重要さを考え、５校時開始前の５分間に全校一斉の短時間学習の時間「ハロータイム」を設定した。昨年度までは、低学年でも朝学習の 15 分間にクラウディア中川さんに協力いただき、英語活動を展開していた。低学年の子どもたちは、クラウディアさんの明るさと授業の楽しさに引き込まれ、大きな抵抗感なく英語に慣れ親しむことができた。今年度、クラウディアさんが来校されなくなり、１学期間を過ごしていたが、保護者の方にボランティアとして１年生の英語活動に協力をお願いすることができ、２学期から１年生の朝学習で英語活動を行うことができるようになった。

（２）読み聞かせボランティア・図書ボランティア「ポケットさん」の活動

本校では、金曜日の朝学習で、読み聞かせボランティアの方に来ていただき読み聞かせの時間を設定している。学年の発達段階や子どもの実態、季節に合わせた絵本を毎回２～３冊読んでいただいている。また、図書ボランティア「ポケットさん」は、毎週金曜日に図書室に集まって、その時々に合わせた飾りを作って図書室の環境を整えたり、破れた本の修繕をしたりしていただいている。多くのボランティアの方に協力いただき、子どもたちが本に親しむ環境づくりに取り組むことができた。

（３）５・６年生の家庭科での活動

調理実習や、ミシンを使った裁縫の時には、地域コーディネーターを通して協力をお願いしている。調理やミシンの学習日時を早めに伝えることが難しい中でも、人数を調整いただき、各学級２～３人のボランティアの方に協力いただくことができた。

ボランティアの方の協力を得て、子どもたちが調理の仕方やミシンの使い方などを身につけながら、安全に学習をすすめることができた。

■　実施に当たっての工夫

低学年の英語活動については、ボランティアの方に、昨年度までの様子を伝えたり、学校が目指す子どもの姿を伝えたりした。また、他学年の英語科の授業を参観していただき、本校の英語科の目指す姿をより具体的にとらえてもらえるようにした。

５・６年生の家庭科については、日時が決まり次第地域コーディネーターと連絡を取り合ってボランティアの方を募った。また、地域コーディネーターの方への依頼と並行して学年通信でも保護者の方に協力をお願いして、学校と地域との新たなつながりを求めた。

【５年生　ミシンを使った学習】

■　事業の成果

保護者の方の協力が得られたおかげで、１年生に英語活動の時間を設けることができ、英語に慣れ親しむ環境をつくることができた。

家庭科のボランティアについては、これまで参加されていなかった方もボランティアとして参加いただいた。学校教育に興味を持ち、ボランティアとして地域の中や保護者の方の中から参加していただき心強かった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

低学年での英語活動の実施については、現在１年生のみの実施となっている。できれば２年生でも実施できないか、方策を考える必要性を感じている。

地域の方で協力していただける方が固定してしまわないように、できるだけ多くの方に協力してもらえるよう、協力をお願いする際には、内容をできるだけ具体的に示していく必要がある。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

本校には現在学校運営協議会はないが、今後さらに効率よく学校と地域がつながっていくために、地域の方と教員との連携を進めていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域の人材を生かした旭森教育をつくる

彦根市	活動名：東中学校区地域学校協働本部	旭森小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務０人）　ボランティア登録数：38 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

〇図書ボランティア「すまいる」さんの活動

本校の図書ボランティアは、「すまいる」さんの愛称で活動していただいている。毎週火曜日の朝の読書タイムに全学級で読み聞かせを実施し、それぞれの学年相応の本や、季節に合わせて選んでいただいた本を読んでもらっている。また、休み時間を利用して「お話会」を計画し、上下学年別に本の読み聞かせをしていただいているのも、子どもたちが本に親しむいい機会となっている。

火曜日と木曜日に「すまいる」さんが来校され、本の整理や修理、新しい本の登録作業など、いつも子どもたちが気持ちよく本に触れることができるよう環境整備に協力していただいている。

〇家庭科の「ミシン」学習支援

毎年地域の方にお手伝いいただいているのが、家庭科でのミシン学習の支援である。指導する教師は一人であることがほとんどのため、子どもたちへの細かな指導がすぐにできないのが現実である。子どもにとっては糸が絡まってしまった場合の直し方やその後の糸の付け方など、すぐそばで実際にやって見せてもらえることが何よりもわかりやすい。家庭科でミシンを使う場合は、事前に連絡を取り、家庭科の学習時間に合わせて来校いただいている。

〇マーチングバンドの演奏指導ボランティア

本校では５・６年生でマーチングバンドを実施している。伝統的な活動であり、子どもたちもこれまで先輩から順に託され、旭森のマーチングバンドを受け継いできている。全教員が指導に当たっているが、楽器演奏という専門的な領域の指導であるため、教員だけでは難しい部分もあり、地域に居住されているボランティアの方に楽器指導の協力をいただいている。

〇ゲストティーチャーとしての協力

各学年で実施する様々なＥＳＤ教育の一つである地域学習に、ゲストティーチャーとして地域の方々に協力をいただいている。１年生では、生活科「むかしからのあそび」に地域のお年寄りに来校いただき、昔からの遊びを教えてもらい、いっしょに遊ぶ楽しい時間をつくっている。また３年生や６年生では、地域の歴史や文化など様々な疑問に答える講師として協力いただいている。

■　実施に当たっての工夫

〇４月職員会議等の場に、地域コーディネーターと地域学校協働本部事務局の方に来ていただき、事業内容について説明していただいた。どんな協力ができるのか、また人材を探す場合の窓口はどこであるかなど、各教員が本事業を知ることができた。

〇ゲストティーチャーや講師として来校いただく場合には、授業時間の中でねらいとするところや１時間の授業の流れ、支援していただくポイントなどをそれぞれの学年の教員と打合せをして実施している。

■　事業の成果

〇図書館教育部が、一人年間 50 冊を目標にした読書推進の取組を始めて４年目になるが、図書室が本に親しみやすい環境になっているおかげで、達成する児童が増えている。

〇本事業の内容を教員が理解することで、必要とする人材の確保のため、どこに相談したらよいかなど、基本的な情報を共有することができた。

【６年生　歴史学習】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・学校が必要とする支援ボランティアのニーズは広がる一方だが、協力いただける方がなかなか増えていかないのが現状である。学校が支援してほしい内容をいろいろな広報を通じて発信していき、継続して協力を呼びかけたい。
・図書ボランティアについては、地域のみなさんを中心に運営が進められるように、地域人材の募集を続けていきたい。
・学生チューターの協力を得るため、大学との連携を模索していきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

職員とのコミュニケーションを図り、生徒・学校・地域の関係が見える活動

彦根市	活動名：西中学校区地域学校協働本部	西中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 21 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：30 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

［地域未来塾］　年間開催日数：62 日　地域コーディネーター数：１人（兼務１人）　平均参加人数：20 人

・学習形態　：　■個別の学力補充　□教材を使って一斉学習　□その他（　　）

・教室の持ち方　：　■放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）

・学習支援員等人数　：　学習支援員 30 人　協働活動支援員０人　協働活動サポーター０人

・学習支援員等の属性　：　□企業人　□行政職員　■元教員　■大学生　□地域住民　□NPO 等関係者　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

・楽習ひろばとして、学習学力補充教室の開催（地域未来塾）
・支援を要する生徒への学習支援活動
・環境整備活動の補助
・体育大会の準備、後始末や資源回収など学校行事への補助

【資源回収の様子】

■　実施に当たっての工夫

・コーディネーターと教頭や担当との綿密な打ち合わせ
・前年度の内容の確認と今年度の事業内容との照らし合わせと変更点の確認
・事前打ち合わせの徹底
・活動後の集約ととりまとめ

■　事業の成果

・子どもたちの活動の推進と安全確保及び活動支援が充実した。
・樹木の伐採や草刈りなど、人手がほしい活動ができた。
・地域未来塾を開催することにより、一人ひとりに見合った学習支援ができた。
・学習面で生徒の弱みの部分が明らかになり、その弱みを補充することができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・昨年度地域コーディネーターが中心となって生徒の登下校の安全を確保するためのマニュアルを作成したが、学校と地域の危機への対応やその連携など、様々な課題が含まれている。今年度は、昨年度作成したマニュアルの見直し、検証を行ったが、今後は活用方法等を考えていく。
・地域未来塾では、大学生が大学の授業の変更などで、今まで来られた時間に来られなくなることがあり、学習支援員が不足することがあった。学習支援員の安定的確保が課題である。
・コーディネーターと打ち合わせをした後の変更については、連絡が滞ってしまったり、意思が伝わらなかったりと対応が遅れることがあった。学校とコーディネーターや本部内のコーディネーターどうしでさらなる連携が必要である。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

・現在、学校運営協議会の立ち上げに向けて校内を整備中のため、具体的な連携については今後検討する余地があると思われる。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域と共に、豊かな学びをめざして

彦根市	活動名：西中学校区地域学校協働本部	城西小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 21 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務０人）　ボランティア登録数：60 人
■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）世代間交流の充実

１・２年生を中心に地域の高齢者が会員の「子どもらと楽しもう会」との交流に取り組んだ。１年生には交通安全の意識を高めるための「キューピー人形」を渡していただき、１・２年生合同の「七夕集会」 では、ゲストティーチャーとして伝統的な行事と伝承遊びについて、指導や講話いただいた。

（２）郷土学習の充実

総合的な学習の時間を中心に地域を学習の場とした。

・３年生：昔ながらの町並みを再現した「夢京橋キャッスルロード商店街」を題材に、見学をしたり商店街連盟の方から商店街に関わる人々の思いを聞いたりすることで、当地に愛着を深め、その歴史やよさを積極的に調べることができた。

・４年生：「彦根城」を題材に、彦根城の特徴を調べ、ボランティアガイドのみなさんからよりよいガイドの仕方についてアドバイスを聞き、実際に観光客をガイドしたり、城下町である校区のよさを追究したりできた。

・５年生：琵琶湖の環境学習に取り組み、環境問題に詳しい方にゲストティーチャーとして来ていただき学びを深めた。

・６年生：地域の偉人「井伊直弼公」に焦点を当て、その歴史的功績や文化的功績について彦根城博物館と連携し、見学や体験活動をとおして学びを深めた。

（３）学びを豊かにする学習支援の充実

算数科の基礎・基本の定着を目的に「バックアップ教室（対象：４～６年）」を各学期に７回程度、夏季休業中に６回開催した。地域の教員ＯＢ２名や中学生が中心になって指導いただいた。

また、今年度から５年生の家庭科の学習では、地域コーディネーターのコーディネートによりミシンの学習支援に地域の方々にのべ 10 名来ていただき、ミシン糸のつけ方や絡まった糸の処理の仕方等を分かりやすく教えていただいた。

（４）学校周辺環境整備

台風で木々の葉や枝が集積したフェンス周辺を、地域の方 10 名に清掃していただいた。

【バックアップ教室】

【ミシン学習の支援】

■　実施に当たっての工夫

地域コーディネーターにコーディネートしていただきやすいように、担当者が積極的に学校の情報を提供したり、打ち合わせ時期を調整したりした。

■　事業の成果

地域の方の生の声を聞くことで地域への愛情や誇りに思う気持ちを育むことができた。また、学習支援では、学習意欲の高まりのみならず、地域の方とのつながりを深める機会にもなった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

中学校ブロック内の地域コーディネーターや学校と地域を結ぶコーディネート担当者等が集まり、地域学校協働本部「中学校区連絡会」を開き、本年度の方針や課題について協議するとともに、地域ボランティアについて情報交換する。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

「地域・学校協働だより」を発行することにより学校運営協議会発足に向け、制度の概略等の情報発信に努めた。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

縦割り班で地域から学び、郷土への愛着心を育てる「ふるさと探訪オリエンテーリング」

彦根市	活動名：西中学校区地域学校協働本部	城北小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 21 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：40 人
■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

①　地域との連携・協働した特徴的な活動「ふるさと探訪オリエンテーリング」

8:50～9:00　出発式
9:00～　ウォークラリー（各班並んで４分ごとに出発）
（船着き場→大洞弁財天→井伊神社→清涼寺→佐和山城跡）
12:10～　終わりの式

児童会の縦割りグループ毎に、地図を参考にして訪ね、６年児童や地域・施設の方から説明を受けて学習する。その交通見守りや安全のサポートを行う。

②　学習支援（地域未来塾）

毎月第２、４水曜日の放課後を活用して、児童の学習補助と個別支援をする時間を「ベースアップタイム」と名付け、設定した。

■　実施に当たっての工夫

事前に職員で下見を行い、危険箇所の点検やチェックポイントの確認を行った。その内容を、地域学校協働本部の地域コーディネーターに伝えた。当日は、地域コーディネーターから、児童の活動内容と注意事項をスタート前に説明していただき、教師とボランティアと連携して安全確保ができるようにした。

【説明をする６年生】

■　事業の成果

①については、20 名以上の方々が参加していただき、子どもたちの安全への目配りが大変よくできた。ポイント毎での児童の説明にボランティアの方も頷いたりメモをとったり、子どもに寄り添っていただいた。また、休憩場所では子どもと会話したり一緒に景色を眺めたりする中で自然と交流する姿が見られた。

学校から、見学場所までの安全配慮が十分行えた。ボランティアさんの人数がしっかり確保できているため、子どもたちへの目配りや気配りが十分に行き届き、活動そのものがスムーズにいく大きな要因となった。

②については、地域の元教員をボランティアとして活用したことで、円滑に運営することができ、学力の保障につながったと考えている。

【参加者一同による出発式】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

グループ数も多く、時間差をつけて活動を行うため、活動時間や待ち時間等に大きな幅が生じてしまう。ガイド場所での班の回転がゆっくりしていたために、さらに時間の幅ができてしまった。職員の中にも時間の意識が足りなかった部分もあるが、ガイドポイントを絞り、終わりの時間をはっきりさせることで、次の活動にスムーズに移行できるような配慮が必要であった。

また、佐和山山頂までの移動は、地域ボランティアの方にとっても負担が大きく、天候によっては最大限に安全面の配慮を必要とすることから、今後の実施については検討を要すると考えている。

■　その他

地域コーディネーターを中心として、参加可能なボランティアを募集したり、日程調整を行ったりするに当たり、事前に学校から計画書を提示し、内容面について説明する機会を設けた。これにより、取組の意図や、安全面の配慮について十分に検討を重ねた上で人員の配置等を決めることができた。例年行っている伝統的かつ文化的行事として地域に根ざしていることもあり、学校からの発信ではなく、地域コーディネーターが進んで学校に働きかけて話し合いの機会をもつことができた。地域に開かれた双方向の教育課程として位置づけられていると言える。

■　「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（ ○ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

学校と地域を結ぶ　SCHOOL　SUPPORT

彦根市	活動名：中央中学校区地域学校協働本部	中央中学校　　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 22 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：13 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□郷土学習　□その他［　　］

［地域未来塾］　年間開催日数：18 日　地域コーディネーター数：１人（兼務０人）　平均参加人数：10 人

・学習形態　：　■個別の学力補充　□教材を使って一斉学習　□その他（　　）

・教室の持ち方　：　□放課後実施　■土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）

・学習支援員等人数　：　学習支援員 15 人　協働活動支援員０人　協働活動サポーター０人

・学習支援員等の属性　：　□企業人　□行政職員　■元教員　■大学生　□地域住民　□NPO 等関係者　■その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）今年度から、ＰＴＡ行事である資源回収と学校清掃作業にも協力を依頼し、数台のトラックで伐採した樹木や草木の搬出を手伝っていただいた。

（２）昨年度から特別支援学級の授業で、中庭での野菜作りを行っており、一度途絶えた地元の「大藪かぶら」の再興にも取り組みながら、様々な野菜作りの補助を行っていただいている。

（３）校内の環境整備事業として、生徒とともに①かまどベンチの製作　②ゴーヤカーテンの設置と撤去　③美術部の作品用額縁の制作と修繕　④校舎内の掲示板の作成　に取り組んでいただいた。

（４）「中央中博覧会」として、授業や部活動、行事などでの作品を、地域の公民館に１週間展示する取組の中で、その設営や当番、後片付けで支援していただいている。

（５）地域未来塾では、学習補助による基礎学力の定着と対話によるコミュニケーション能力・社会性の向上を目的に、授業教材・ワーク、プリントを使った自主学習をベースにわからない箇所の指導をしていただいている。

■　実施に当たっての工夫

〇生徒が夏祭りや文化祭などの地域活動へボランティア参加することにより、連携を積極的に行い、地域とのつながりを深めようとしている。

〇地域の協力者を増やして事業の充実を図るため、新たにポスターを制作し、校内掲示や通信掲載を行った。

〇地域未来塾の学習支援員は、学校教員と生徒というタテの関係ではなく、「ナナメの関係」で接することを大切にしている。支援員は名札にニックネームや趣味などを記入し、生徒から親近感を持ってもらえるような工夫をしている。

■　事業の成果

〇毎年行っている活動については、支援の方々も要領をよく理解していただいており、スムーズな活動ができるようになってきている。その中でも、３年ほど実施しているゴーヤカーテンは、毎回前年度の反省をうけて改良され、年を経るごとによく育つようになってきている。

〇コーディネーターの他にも、総合的な学習の時間の茶道体験、美術科の作陶体験、家庭科の浴衣着付け体験、調理実習、保健体育科の性教育講座、朝読書の読み聞かせなどを実施し、地域の人材を授業の中で活用している。

〇地域未来塾では、生徒の自主性を大切にしながら個人の力と学習スピードに合わせた支援を進めているため、生徒は時間をかけて学習への理解を深めることができている。

【完成したかまどベンチ】

〇地域未来塾での個別指導は、生徒が「できた」を味わえる機会となっており、自主的な家庭学習にもつながっている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇地域の協力者を増やして事業の充実を図るため、地域の公民館便りや学校通信などによる広報活動を行い、本事業の認知度を高め、放課後学習や図書室の常時開館など支援の輪を広げ、活性化を図っていく。

〇本事業に対する教職員の意識を向上させ、授業や学校行事、生徒活動への計画的な導入を図っていく。

〇今年度、地域未来塾は定員に満たない状況であるので、機をとらえて広報活動をしていく。

■　その他　　活動の様子は本校ホームページに掲載　https://www.fureai-cloud.jp/chuo-jh-hikone/

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（〇）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

心豊かな子を育み、地域とつながる学校づくり

彦根市	活動名：中央中学校区地域学校協働本部	平田小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：38 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

本事業も８年目を迎え、年間の活動について総会時に話し合い、活動内容を決めてきた。毎週水曜日の朝の読み聞かせ、環境整備活動、社会科や総合的な学習の時間での地域学習の講師や全校遠足の引率等、地域人材の活用が定着している。コーディネーターをはじめ、ボランティアの皆さんが、学校のことを熱心に考えて活動してくださっている状況である。

子どもたちは、地域のボランティアさんとの声かけや見守りを素直に受けとめ、安心感とともに感謝の気持ちをもっている。学校を代表して、高学年の児童には感謝集会で直接お礼を伝えたり、暑中見舞い、年賀状に感謝のメッセージを書いたりする活動を行っている。

【ふれあい遠足　出発式】

＜特徴的な活動内容＞

①　朝の読み聞かせ

今年度も昨年度に引き続き読み聞かせボランティアを合計８名で活動していただいている。本校は 12 学級あるため、読書活動支援員、教員３名が水曜日の読書の時間にボランティアさんと一緒に読み聞かせを行っている。毎週、いろいろなお話を聞くことができ、子どもたちは何を読んでもらえるのか楽しみにしており、読み聞かせ中は興味深く聞いている。

②　全校遠足の引率

11 月２日（金）にふれあい遠足を実施した。たてわり班の各班に１～２名ずつボランティアさんについていただくとともに、ペア学年の子ども同士で並んで彦根城まで歩き、途中の交差点で立ち番をしていただいている。今年度も 17 名の方にご協力いただき、彦根城で一緒にお昼を食べ、楽しく安全に彦根城まで往復することができた。

③　教材園・環境整備

２年生の担任より、「生活科の学習として夏野菜づくりを行いたい」という提案から、事前に畑の除草作業をしていただいたり、野菜に応じた大きさの畝作り、土づくりをしていただいたりした。１学期の終わりには、たくさん実がなったので子どもたちは実がなる喜び、収穫する喜びなど体験を通した学習ができた。また順番に自宅に持ち帰るなど、家庭にも学習の成果を伝えることができた。

学校の環境整備として、周辺の除草作業や、正面玄関の美化、また駐輪場の屋根のペンキ塗り、そして現在では、図工室の机の張り替えなどを行ってもらった。図工室の机は、長年の使用により、表面が凸凹になり絵や字が書けない状態になっていることから、表面を張り替えていただいた。

■　実施に当たっての工夫

５月の総会で、年間の計画を立て、学期はじめには活動の予定を書いた案内を、児童を介して配布している。今年度も毎月第２水曜日を活動日として位置づけた。連絡等はできるだけ児童に直接手渡してもらうという形をとっている。

また活動にあたり、コーディネーターさんと活動の打合せを行い、事前に人数の割り振りや必要な道具や材料の確認を行った。事前準備をしっかりと行うことで、当日の活動をスムーズに進めることができた。

■　事業の成果

月１回の活動日には、10 名ほどのボランティアさんが参加してくださっている。今年度は、活動時間を２時間から２時間半に伸ばしていただき、学校環境が少しでも良くなるように仕事を見つけて環境整備に努めてくださっている。１学期は、学校周りの環境整備をメインに行った。２学期に入り各担任にも校内の教室等で修理が必要な場所や、あったら便利な教具などの意見を求めることで、教室内の学習環境の整備に取り組み始められた。

２年生では、トマト、ピーマン、なす、サツマイモと栽培する野菜の種類が多く、さらに豊作であったことで、何度も子どもたちが家庭へ持ち帰ることができ、学校支援ボランティアとの活動を保護者に知ってもらう機会にもなった。さらに、子どもたちは、ボランティアさんへあてて野菜作りの感想を入れた手紙を書くことで、生活科の学習のまとめとして取り組むことができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

今年度もボランティアさんの人数確保が課題である。学校支援の活動が、ボランティアさんにとってのやりがいにつながるよう、支援していただける活動について意見交流し、次回に向けて活動の確認をする必要がある。今年は学校支援ボランティアさんの名前や写真を学校の玄関に掲示し、子どもや保護者、来校者にも活動内容やボランティアさんについて紹介することができた。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域の力でつくる子どもたちの豊かな学習活動

彦根市	活動名：中央中学校区地域学校協働本部	金城小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：117 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）登下校の安全パトロールと挨拶
・金城見廻り隊の方々が、毎日通学路の要所に立ち安全を見守りながら、挨拶の声かけをしてくださっている。

（２）体験活動支援
・特別支援学級の大藪かぶらの栽培、３年生の昔のあそびとくらし、５年の米作り等の活動にゲストティーチャーを頼んでいる。田んぼの管理をしていただいた方は、おにぎりパーティーに招待している。

（３）読み聞かせ・影絵
・朝読書の時に読み聞かせをしていただいたり、全校集会で影絵を行っていただいたりしている。

（４）学習環境の整備
・校庭の樹木の剪定や除草作業、校地内の溝の土砂上げなどを実施していただいている。

【田植え】

【昔の遊び体験】

■　実施に当たっての工夫
〇毎月、第３月曜日に定例会を開催し、コーディネーターと活動内容の計画や確認を行っている。
〇ボランティアの方々へは、６年生の児童が暑中見舞いのはがきを出している。また、音楽会に招待したり、単位ＰＴＡ大会時に５、６年生児童の感謝のメッセージカードを書いたり、それをＰＴＡが掲示して感謝の気持ちを伝えるなどしている。
〇ＰＴＡから単Ｐ大会やもちつき大会などのＰＴＡ主催行事に、ボランティアを招待している。

■　事業の成果
〇学習や生活がしやすい学校環境の整備ができた。
〇子どもの様子を適宜伝えていただくことで、学校だけでは気づかない実態を把握することができた。
〇ゲストティーチャーの豊かな経験や地域教材等を活かし、充実した学習活動を行うことができた。
〇地域の様々な人々によって守り育てられていることを、子どもが感じ取ることができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
〇本事業の取組を、子どもをはじめ、保護者や地域住民に十分に周知していくこと。
〇子どもたちが、ボランティアの方々と共に活動したり気軽に話したりする機会をより充実させること。
〇ボランティアの高齢化に伴い、ボランティア活動を終える方が出てきたこと。また、ボランティアを増やすための効果的な働きかけがなかなかできず、世代交代がうまく進みそうにない実態があること。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印
（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

彦根南サポートオフィス８年目の取組　～継続は力なり～

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	南中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：30 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□郷土学習　■その他［グリーンカーテンづくり］

［地域未来塾］　年間開催日数：27 日　地域コーディネーター数：１人（兼務１人）　平均参加人数：10 人

・学習形態　：　■個別の学力補充　□教材を使って一斉学習　□その他（　　）

・教室の持ち方　：　■放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）

・学習支援員等人数　：　学習支援員８人　協働活動支援員０人　協働活動サポーター０人

・学習支援員等の属性　：　□企業人　□行政職員　■元教員　■大学生　■地域住民　□NPO 等関係者　■その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

〇地域学校協働本部事業では、グリーンカーテンづくり（６月）・図書室の本の整理（毎週木曜日）・環境整備作業（11・12 月）を地域や保護者の方と協力して活動している。

〇地域未来塾事業では、夏季休業中の補充学習・質問教室の指導者として、教員だけでなく地域の大学生の協力を得て実施している。また、９月～２月に３年生を対象とした放課後学習会「水曜ゼミ」を、地域の大学生・元教員、保護者が学習支援員として指導にあたっている。

■　実施に当たっての工夫

〇地域と学校が連携した活動を推進するために、地域や保護者のボランティア募集チラシを配布したり回覧したりして人材確保を図った。また、校区の小・中学校の活動を紹介したボランティア便りを作成し、地域への啓発を行った。

〇校区の小・中学校の地域コーディネーターと地域連携担当教員が定期的に会議を開催して活動報告・情報交換、運営について話し合った。また、コーディネーターが校区の小学校と連携して、水曜ゼミの学習支援員の確保にあたった。

【グリーンカーテンづくり】

■　事業の成果

〇ボランティア便りや募集チラシ等の広報活動の成果として、毎年行っている事業が地域や保護者の方に定着しており、環境整備作業は中学生の地域貢献活動と合わせて実施しているため、多くの親子での参加があった。

〇コーディネーターが校区の小学校の活動を取材する中で、ボランティアの方とつながる機会ができ、小学校より結び付きが少ない中学校にも地域の方の協力をお願いすることができた。

〇水曜ゼミは、家庭では一人で学習できない生徒の学習の場となり、年齢の近い大学生の学習支援員に積極的に質問するなど、意欲的に取り組んでいた。

【水曜ゼミ】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇地域学校協働本部事業は、学区の小学校では浸透しているようになってきたが、中学校としてはまだまだで、活動を充実させるためにはボランティアの人材確保が難しい状況である。今後は地域の団体や校区にある大学と連携・協働して事業を推進していきたい。

〇地域未来塾事業では、参加生徒に対して学習支援員の人数が少ない日もあり、安定した人材確保が必要である。また、３年生以外の学年にも放課後学習会の開催を望む意見もあるため、今後は全学年において実施できるように、学習支援員の確保と開催日時の調整が必要である。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

〇地域学校協働活動の様子を広報するために学校ホームページに掲載している。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（〇）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域と共に、子どもを見守る　～登下校の安全確保の取組～

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	城南小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　（兼務０人）　ボランティア登録数：85 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

本校では、主に読書ボランティア、子ども見守り、学習支援を中心に地域から支援を受けて学習活動の充実を図っている。その中から、下校時や一人歩きする子どもの安全確保についての取組を紹介する。

彦根市から出される不審者情報は著しく増加しており、子どもに対する脅威が増している。また、集団で下校していても、自宅に帰るまでには最終的に一人で歩くことになる子も多く、安全確保が難しい。そこで、青少年育成協議会を中心に、地域住民が主体となってパトロール隊を組織し、子どもが集団下校から離れて一人歩きとなる区域の巡回パトロールを行っていただいている。

パトロール隊は、巡回時に全方位カメラにより周辺情報を映像記録し、有事の際には警察に情報提供することになっている。このような仕組みを地域と協力してつくることで、犯罪を未然防止し、子どもの安全確保を図るよう取り組んだ。

■　実施に当たっての工夫

（1）子ども会を中心に、子どもが下校時に一人歩きになる区間を把握する。

（2）上記の区間を中心に、地域の当番が小学生の下校時刻に合わせ、自転車でパトロールする。

（3）自転車パトロールの当事者は、全方位カメラを装着したヘルメットを順送りし着用する。カメラに挿入するマイクロＳＤカードは公民館金庫で保管する。

（4）事件・事故が発生したときには、警察の要請に基づきＳＤカードの情報を提供する。画像の再生・閲覧は警察が捜査として使用するときのみとする。

【パトロール隊スタートイベント】

■　事業の成果

・当番制でパトロールを実施することにより、子どもの下校時の安全確保につながっている。

・パトロール時には腕章を付けることや、広報誌や新聞等で取組を報道するなど、子どもを見守っていることをアピールすることで、犯罪の抑止効果につながっている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・現在、一部の自治会のみでの取組となっているが、今後は校区全体に取組を広げ、子どもの安全を確保できるようにしたい。

・本取り組みを開始して間もないころ、「カメラを付けた怪しい人が自転車でうろうろしている。」という通報を受けたことがあった。その人物は腕に腕章らしきものも付けていたということから、自転車パトロールをしていただいていた方が不審者に間違えられたものと思われる。地域住民への周知を広げ、理解をいただくとともに協力を得られるように呼びかけていきたい。

・個人情報保護の観点から、カメラで撮影することに抵抗を感じておられる方もおられると思われる。画像の再生・閲覧はせず事件が起こったときに警察に情報提供するのみとすることになっているが、ＳＤカードの保管方法など、プライバシー保護にも十分配慮をしていきたい。

■　その他

・地域学校協働活動を進めるにあたって、青少年育成協議会をはじめ、学校・自治会・子ども会・教育委員会・警察・子どもセンター等と合同会議を持ち、連携をとりながら事業を進めている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

つなげよう　子どもを育む　地域の力　　～地域の力で学びを深める～

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	城陽小学校　学校運営協議会　：□有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成23年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：75人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

〇第３学年　総合的な学習の時間

「めざせ！城陽はかせ」～今につながる昔のくらし～

子どもたちが昔の生活の様子について知っていることは、祖父母等から聞く、めんこやビー玉などの遊びについてがほとんどであり、本単元の目標「昔の道具やそれらを使っていた頃の暮らしの様子について調べ、人々の生活の移り変わりについて考える」を達成することは難しい。指導計画の作成にあたっては、地域の人々の協力も得つつ全教師が一体となって指導に当たるなどの指導体制について工夫を行うことについても配慮事項となっていることから、３年生児童の祖父母を中心に、地域のことをよくご存知の方にゲストティーチャーとして来校いただき、各々の課題解決とつなげることができた。教室やオープンスペース等に、テーマごとにコーナーを設定し、ゲストティーチャーに質問をしたり、話を聞いたりして学習を進めた。今の暮らしの便利さだけに焦点をあてるのではなく、時代の背景やその変化と人々の暮らしは密接にかかわりあってきたことを改めて見つめ直したり、昔の生活の様子に思いを馳せながらその時代その時代の人々のかかわりやそれぞれの果たす役割、立場などについて深く考えたりする有意義な機会となった。

また、城陽子どもまつりでは、地域の方を招いて自分たちの学習の成果を発表し、さらに学びを深めることができた。

【地域の方からお話を聞く様子】

〇全学年　読書活動

地域の方に図書ボランティアをお願いし、図書室の本の整理や、新刊図書が入ったときの本の登録、年中行事に合わせた図書室のデコレーションなどをお願いしている。また、毎週火曜日の8:30～8:40に、学級毎に読み聞かせをお願いしている。子どもたちは読み聞かせを楽しみにしており、読書意欲の高揚につながっている。さらに、春と秋にお話し会を行い、ひこね市児童図書研究グループの方に読み聞かせをしていただいた。様々な工夫でお話の世界に浸ることができ、想像力を掻き立て豊かな心の育成につながった。

【ひこね市児童図書研究グループによるお話し会】

〇全学年　夏休み算数科補充学習

毎年夏休みには、希望者を対象に算数科の補充学習を行っている。今年度は４日間実施した。この時に地域の方にゲストティーチャーとして採点や、個別指導に当たっていただき、効果的に学習できるようにしている。また、近くの県立大学の学生にもボランティアでゲストティーチャーをお願いし補充学習の成果を高めている。

■　実施に当たっての工夫

効果的な学習が行えるように、事前に綿密な打ち合わせを行った。また、事後の学習の様子を知らせ、全体を通しての学習のまとめを発表する場として「城陽子どもまつり」を行い、地域の方を招待して成果を見ていただく機会を設けている。また、「学校だより」を通じて、保護者や地域の方へ活動について発信をしている。

■　事業の成果

本やインターネット等で調べるよりも、身近な方から直接お話いただくことで、子どもたちは実感を伴った学習をすることができた。また、地域の方々が子どもの指導のために何度か学校を訪問していただくことで、学校とのつながりをより深めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

できるだけ毎年継続して活動が進められるように、ボランティアの確保に努めたい。また、新たな活動を計画するために、様々な教科や領域の地域ボランティアを発掘していきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

We Love かめやま

彦根市	活動名：南中学校区地域学校協働本部	亀山小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：30 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）栽培活動支援

毎年サツマイモの苗植え・収穫をボランティアに支援していただいている。植え方を丁寧に指導いただいたおかげで、今年も豊作となった。また、学校花壇の花の育苗も手伝っていただいた。育った苗を近隣の施設や地域の独居老人に届ける活動は、本校の伝統となっている。配達は子どもたちが行うが、配達先の多い町はその町のボランティアにお手伝いをお願いした。

（２）家庭科学習への支援

家庭科のミシン学習や調理実習に、ボランティアをお願いした。子ども一人ひとりへの支援が充実し、満足のいく活動となっている。

（３）学力向上への支援

夏休みに、全校児童対象に学力補充教室（算数・国語教室）を開催している。今年度は、地域の教員ＯＢ９名に入っていただき、個別指導に当たっていただいた。

（４）ふるさと学習への支援

３年の地域学習や２年の生活科などでも、地域のことをボランティアの方々から詳しくお話をお聞きし、ふるさとへの思いを深めることができている。年度末には、亀山っこ発表会を学校で開催し、お世話になったボランティアの方々を招き、１年間のふるさと学習の成果を披露している。

【栽培活動　サツマイモ苗植え】

■　実施に当たっての工夫

〇地域コーディネーターは、長年安全ボランティアとして尽力いただいた方にお願いしているため、学校の事情や子どもの実態について理解していただいている。前コーディネーターとの連携を密にとり、栽培活動時などは、二人で学校に出向いてくださっている。

〇担当教職員とコーディネーターが打合せを綿密に行っている。どんな人が必要か、どんな内容で支援してもらうかなどについてコーディネーターと十分話し合い、交渉に当たってもらえるようにしている。

〇毎週金曜日の放課後に定期的にコーディネーターに来校していただき、学校との連絡がスムーズに行えるようにしている。

〇校内掲示や学校だよりにより、ボランティアの支援を受けている様子を子どもや保護者、地域に発信している。

【地域学習　歴史探訪】

■　事業の成果

〇コーディネーターに学校のニーズにあった人材を発掘していただき、教育活動の充実につながった。

〇小規模校であるため、教職員の数も限られているが、ボランティアのおかげで安全に学習を実施することができている。

〇ボランティアから様々な支援を受ける中で、子どもたちは、教職員だけでなく地域の様々な方から支えられていることを実感し進んで挨拶をしたり話しかけたりするなど、自分からかかわりを深めることができている。

〇支援の必要な行事や学習内容の時期になると、コーディネーターから声を掛け、助言をしてくださっている。ゲストティーチャーやボランティアとの連絡役になっていただいていることが、担任の負担軽減につながっている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇地域が抱える問題点として、ボランティアに来ていただいている方々の高齢化があげられる。ボランティアの輪の広がりを期待したいところであるが、難しい面もある。

〇さまざまな活動場面でボランティアの支援がほしいところであるが、限られた補助金の中、多くの方に来ていただくことは難しいのが現状である。

〇ボランティアとの事前打合せは担任を中心に行っているが、話の視点が少しずれたり、内容が難しかったりすることがある。指導してもらう内容についての綿密な打合せが必要である。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

未来に向け、地域と学校（生徒）で創る協働活動・学びの放課後学習会

彦根市	活動名：彦根中学校区地域学校協働本部	彦根中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：４人（兼務２人）　ボランティア登録数：143 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□郷土学習　□その他［　　］

［地域未来塾］　年間開催日数：40 日　地域コーディネーター数：２人（兼務２人）　平均参加人数：15 人

・学習形態　：　■個別の学力補充　□教材を使って一斉学習　□その他（　　）

・教室の持ち方　：　■放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）

・学習支援員等人数　：　学習支援員５人　協働活動支援員　協働活動サポーター

・学習支援員等の属性　：　□企業人　□行政職員　■元教員　■大学生　□地域住民　□NPO 等関係者　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）緑のカーテンプロジェクト（取組５年目）

・多くの生徒に呼びかけ、自分たちのつくった緑のカーテンであるという意識づけになった。

・５月上旬：３年生の学年集会で取組説明。５月中旬：支柱、ネット張り、プランターに移植、生徒会環境委員会やボランティア部による水やり。10 月中旬：ゴーヤの撤去作業

（２）学校行事などへの参加協力

・地域コーディネーターに依頼し、各種団体に声をかけていただき、ボランティアを募集する。

・長距離遠足の交通指導、合唱コンクールなどの学校行事における駐車場整理、校地内の環境整備（葉刈り、除草作業等）

（３）地域貢献活動への参加協力

・生徒が地域の一員として地域活動に参加する中で、感謝の心を持ったり、地域の良さを知ったりする機会となった。

・年度初めに自治会長さんに年間行事やボランティア活動で中学生が参加できるものを報告する。依頼された活動を生徒に知らせ、ボランティアを募り、各種団体に報告する。参加後に報告書を学校へ提出し、参加率の高い生徒は表彰する。

（４）ゲストティーチャーによる特別講義や支援員の協力

・助産師による性教育（１年、３年）、職場体験前のマナー講座（２年）、放課後の学習支援（全学年）、スマホ講座（全学年）

（５）放課後学習会

・３年生では、11 月から毎週月曜日と金曜日を基本にして、放課後学習会を実施している。生徒が持ってくる学習教材のわからない問題や、数学と英語の基礎定着プリントに対する支援を、学習支援員と教員が数名程度で行っている。

・１、２年生では、テスト前の期間を利用して、放課後の学習支援を行っている。生徒の自主学習に対する支援を、学習支援員と教員が数名程度で行っている。

■　実施に当たっての工夫

・学期に一回の地域コーディネーター担当者会議を開き、活動の反省と今後の予定について協議してきた。

・地域コーディネーターと連携して、自治会や各種団体に協力要請をしていただき、活動の交流を図ることができた。

・学区の小学校とも連携をとりながら、進めることができた。

・学習支援員の確保については、近隣大学の学生や地域の大学生に機会あるごとに呼びかけている。

【緑のカーテン設置作業】

■　事業の成果

・緑のカーテンプロジェクトは取組５年目になり、生徒や地域の中で定着してきた。作業を通じて、自分たちの学校環境は、自分たちでよくしていく意識づけになった。

・長距離遠足では、水分補給、交通指導、同一歩行等、多くのボランティアの方に参加していただいたことにより、生徒たちも地域に守られていることを実感できた。

・地域未来塾では、家庭学習に取り組めない生徒が、年齢の近い大学生の学習支援員に積極的に質問するなど、短時間ではあるが学習にまじめに取り組んでいた。

【地域貢献啓発のぼり旗】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・従来からの事業内容はほぼ定着してきているが、さらに工夫を加えた取組により、地域と学校の関係づくりを活発にしていきたい。

・地域未来塾では、学習支援員の数が不足しており、人材確保が難しい現状にある。

■　その他

・活動状況は、本校ＨＰにて掲載している。https://www.fureai-cloud.jp/hikone-jh-hikone/

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域の方に見守られて育つ「かわせっ子」

彦根市	活動名：彦根中学校区地域学校協働本部	河瀬小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務０人）　ボランティア登録数：65 人
■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□郷土学習　□その他［　　］

■地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）「店ではたらく人」

３年生では、社会科の学習で、近くにあるビバシティに毎年見学に行っている。今年は、学校で「食育体験ツアー」の説明を聞いた後、徒歩でビバシティに出かけた。到着後２チームに分かれて、買い物ゲームと店舗見学をした。この活動の中で、ボランティアの方に、行き帰りの安全指導とお店の中での見守りをお願いした。自動車の通行量が多い道路を徒歩で移動することから、交差点ごとに安全に横断ができるように立ち番をしてくださり、安心して移動をすることができた。また、店舗内では、子どもたちが落ち着いて見学できるように見守っていただき、たくさんのことを発見したり学んだりすることができた。

【ビバシティでの買い物体験】

（２）「夏休み学習教室」「冬休み学習教室」

４～６年生の国語科、算数科においてつまずきのある児童を対象に、「夏休み学習教室」を開催した。また、理科の楽しさを実感することや算数の難しい課題に挑戦することを目的に「冬休み学習教室」を開催した。指導は、本校職員の他に、学習支援員として退職教員や地域の大学生にお願いをした。子どもたちの学びたいという意欲をしっかり受け止め、学力の向上を図ることができた。

（３）「町探検」

２年生の生活科、３年生の社会科で町探検に出かけている。東西南北、それぞれの地域を訪ね、地域の方にその施設の役割や歴史を聞く機会をもった。実際にその地域に住み、よりよい地域になるように協力し、努力されている方々のお話を聞くことは、児童の心に残る活動になっている。

■　実施に当たっての工夫

〇年に３回、中学校ブロックでコーディネーターの方との話し合いをもち、ＰＤＣＡサイクルで活動を進めることができている。年度当初の話し合いでは、昨年度の実践を元に今年度の計画を話し合った。年度途中の話し合いでは、他校の実践を聞く機会があり、活動の参考となっている。

〇年度当初には、学区全体にボランティアの募集の呼びかけをしている。本年度は新たに、戦争体験のお話を申し出てくださる方やエプロン製作の支援を申し出てくださる方があった。また、グループとして、厚生保護女性会のみなさんが図書の整理や読み聞かせ、安全指導に来てくださった。呼びかけをしたことから、ボランティアとして登録してくださる方が広がっている。

■　事業の成果

〇人と関わるとてもよい機会になっている。地域の方とのつながりが深まり、普段の生活の中でも、自然にあいさつを交わすなどあたたかい関わりができている。

〇地域の方とふれあうことで、地域の良さや歴史を知るだけでなく、自分たちの地域を自慢や誇りに思う気持ちが育っている。

〇あたたかく見守っていただくことで、子どもたちが安心して活動に取り組め、感謝の気持ちが育ってきている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇年度当初に、コーディネーターの方を紹介し、その役割について本校職員が理解をする場を設けることが大切である。

〇できるだけ早めに、お願いしたい内容と日時をコーディネーターの方に伝えることで、いろんな方に連絡を取っていただくことができ、よりよい「連携･協働」に向けての準備ができる。

〇ＰＤＣＡサイクルを大切に、よりよい活動になるよう、双方向での意見の交流を大切にしていきたい。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

〇本校では学校運営協議会は立ち上げていないが、地域コーディネーターをはじめとする地域の方たちに、その都度、学校行事の案内を届けることによって、参観に来ていただき、子どもの様子を見ていただいている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域の力を学校に～地域、保護者、学校が一体となって取り組む学ぶ力の育成

彦根市	活動名：彦根中学校区地域学校協働本部	高宮小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務０人）　ボランティア登録数：80 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

【伝統的踊り「カボチャ踊り」】

主に、３・４年生を対象にした事業である。学校へ数回出向いていただいたり、週末や夏季休業中に地域で行われている練習に子どもたちが自主的に参加したりして、保存会の方や地域の皆さんと一緒に楽しんでいる。また、教えていただいた踊りを運動会で保存会の皆さんとともに披露し、全校、保護者、地域への発表の場とした。

【サツマイモの植え付けと収穫】

学校敷地内にある学級園は、面積が狭いうえ、土の質も野菜を育てるのにふさわしいとは言いがたい。そこで、２年生の生活科「サツマイモを育てよう」の学習に合わせて、畑の土の改良から、植え付け、収穫と子どもたちの学びを支えていただいている。近年、家庭で野菜を育てた経験の少ない児童は、畝づくりから収穫の仕方など、どれも熱心に学ぶことができた。

【名人と一緒にサツマイモの苗うえ】

【ブロッコリー畑の見学】

３年生は社会科の学習で見学に出かけたスーパーで、並んでいる野菜はいろいろな地域から運ばれていることに興味を抱いた。そこで、地元の高宮地域にも野菜を出荷しているところがあることを知り、地元の農家に苗の植え付けの方法から成長の様子を聞いたり、収穫の様子を見せていただいたりした。

【大きく育ったブロッコリーに感動】

■　実施に当たっての工夫

・事前の打ち合わせの中で指導者の願いはもちろん、支援者の思いを十分話合い、「地域のよさを学ばせたい」という学習のねらいを明確にすることで、活動が一層充実したものになるようにした。

・家族以外の地域の方とのふれあいを通して、自分たちが多くの人に支えられ、見守られ、大切にされているということに気づけるようにした。

・地域の方に子どもたちの生き生きとした活動の様子や喜びの感想を伝えることで、より積極的に伝統を受け継いでいくことができるようにした。

■　事業の成果

【カボチャ踊り】

保護者や地域には「『かぼちゃ踊り』は、はじめて･･･。」という方も数多いが、地域文化に親しみ、伝統を受け継いでいこうとする子どもたちの姿をほほえましいものと受け取り、好評価である。

【ブロッコリー畑の見学】

高宮地域にも野菜を作っている方が多いことを知り、スーパーで買う野菜が、自分たちの地域で育てられていることを知り、改めて地域がいろいろなところとつながっていることに気がついた。

【サツマイモの植え付けと収穫】

大きなサツマイモが収穫でき、支援者へ感謝の気持ちをもつことできた。また、時折、学校を訪れて畑の世話をしてくださっている姿を見かけ、見えないところでいろいろな苦労をしてくださっているからこそ、大きな芋が収穫できることを痛感したようである。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

子どもたちや職員も、直接支援いただいた方の顔はわかるが、コーディネーターや他学年の活動支援者は知らない。年度当初の顔合わせ会、年度終わりに感謝の気持ちを伝える場が設定できるといい。また、保護者（ＰＴＡ）、職員が入れ替わっていくことで、本事業の継続的な取組が危惧される。そこで、今年度は、支援者バンクの確立をして、活動が継続できるようにした。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（ ○ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

鳥居本中学校サポートオフィスの取組

彦根市	活動名：鳥居本中学校区地域学校協働本部	鳥居本中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 22 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：200 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援

■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

［地域未来塾］　年間開催日数：８日　地域コーディネーター数：１人（兼務１人）　平均参加人数：５人

・学習形態　：　■個別の学力補充　□教材を使って一斉学習　□その他（　　）

・教室の持ち方　：　□放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）

・学習支援員等人数　：　学習支援員４人

・学習支援員等の属性　：　□企業人　□行政職員　□元教員　□大学生　■地域住民　□NPO 等関係者　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）男鬼森林学習

学区有林（財産区共有山林）の森林整備作業について学習し、植林や間伐作業などを実際に体験することで、森林の保全と有効な活用との調和について理解する。

☆１年・・・植樹　２年・・・伐採　３年・・・活用する

【男鬼森林学習：伐採】

（２）地域との連携

☆宿場祭り　・・・今年は台風の影響で中止

☆学区運動会・・・吹奏楽部の入場行進、開会式での演奏
中学生が役員として活動

☆学区文化祭・・・３年生卒業研究の発表、吹奏楽の演奏、３年生合唱の発表、
木材加工品の販売、さんあかグッズの販売

（３）さんあかレンジャー

あいさつ運動で小学校に行って活躍している。10 月に１年生より新メンバーを選出し、認証式を実施した。

（４）基礎的な学力の補充（地域未来塾）

長期休業中に出される課題（ワーク）の基礎的な問題やわからない問題を中心に、個別に教えている。

■　実施に当たっての工夫

〇鳥居本地区地域教育協議会を年３回開催し、１学期に地域支援の趣旨・目的を小中で共有し、今年度の活動・役割について確認をした。２学期は中間総括を行い、後半の活動に生かすようにしている。３学期は年度末総括を行い、次年度につないでいく。

■　事業の成果

〇地域の行事に中学生が参加していく活動があることは、地域と中学生（中学校）がお互いに支え、支えられるという関係づくりにおいて効果があると考えられる。特に、中学生の活動を実際に発信して、地域の方に見てもらうということが、彼らの励みになっている。また、地域の方も中学生の活動を見て、頼もしく思ったり、身近に感じたり、これからの地域の担い手としての期待感を持たれている。さんあかレンジャーの活躍や地区運動会、宿場まつり、学区文化祭での活動に特に表れている。

〇地域学校協働本部事業に、鳥居本学区自治連合会や老壮会等が積極的に関わってくださり、地域と中学生を結ぶ活動が多く実践できている。特に、地域の高齢者の方に手紙を書き、体育祭への招待もかねた取組や、３学期には、１年生のお年寄り交流活動を行う予定である。

〇地域未来塾は、わかりやすく教えてもらっていると生徒に好評である。また、学習を通して、地域の方と中学生が交流できている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇学校・家庭・地域の交流が深まることにより、相互の信頼関係が強化され地域ぐるみで子育てをし、地域の活性化を目指し、今後の活動にもつながるよう、改善に努めていきたい。また、男鬼森林学習の継続・発展的な運営や、さんあかレンジャーのさらなる活躍の場を考えていくことが大切だと考えている。

〇地域未来塾の学習支援をしてくださる地域の方が限定されている。支援をしてくださる方が今以上に集まらない。

〇地域未来塾を平日の放課後等に実施できないかを検討中である。

■　その他

〇１小学校・１中学校で、鳥居本学園として小中一貫教育を行っている。地域協働活動、クリーン活動・資源回収など小中で連携して行っている取組がある。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（〇）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（〇）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

「ふるさとに生きる喜びを」地域とつながる体験活動の支援

彦根市	活動名：鳥居本中学校区地域学校協働本部	鳥居本小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 21 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務０人）　ボランティア登録数：100 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

〇１年 生活科・６年総合　「生き物探検」

５月に１・６年児童が仏生寺町の矢倉川に入ってマスやカニなどをつかむ体験を行っている。青少年育成協議会や仏生寺町老壮クラブの方々が、周辺の除草、川へ降りる階段整備など安全な学習の場づくりや、当日の児童の活動支援の他、網や児童がつかんだ魚の運搬まで配慮してくださる。多年度に渡り地域の協力を得て実施している学習であり、児童が鳥居本の豊かな自然や人々の温かな思いに触れる機会として定着している。今年度、地域の講師から笹尾地域の歴史や豊かな自然を聞く学習を一体化して取り入れた。

【生き物探検】

〇３年　総合　「鳥居本お仕事名人」

10 月・11 月、３年生児童が、鳥居本地域でもの作りをしておられる商店・工場に見学に行く活動を実施した。江戸時代から醤油を製造・販売されている商店や、消火栓の製造・販売が日本一を誇る工場長さんから話を伺う活動を通して、本地域とのつながりを大切にしてこの道一筋でがんばっておられる方々の生き方に触れ、その素晴らしさに気づき、地域に誇りをもつことができた。

〇４年　総合　「矢倉川調査隊」

６月、鳥居本在住の彦根市環境保全員さん３名の協力を得て、学校近くの矢倉川で水生生物による水質調査を行った。きれいな川に棲む水生生物が多く見つかり、身近な川に対する見方を新たにする児童もいた。学校の理科室では彦根港湾の水と矢倉川の水、水道水の水質をパックテストで確かめ、矢倉川の水質は、水道水に近く、きれいであることが分かり、児童はより地域の川を大切にしたいとの思いを強くした。

【稲刈り】

〇５年　総合　「米づくり」

小野町在住の方々と保護者の支援を得て、５年生は米づくりを行った。児童は地域の産業である稲作を体験するとともに、そのお米を頂くことで農業の大切さを考える機会となった。また、自然の恵みや地域の方々の尽力に感謝する気持ちをもつことができた。

■　実施に当たっての工夫

活動の事前にコーディネーターと本事業担当・担任が綿密に打合せを行っている。地域の方の思いを大切にしながら、学習のねらいを明確に伝えることが大切である。

■　事業の成果

地域の人々の協力や支援を受け、全学年で地域の人・もの・自然に触れる体験活動を実施することができた。活動の中で、児童は地域の人々の温かさ、自然の豊かさに触れ、自分の住む町への親しみや誇りを深めることができた。コーディネーターが広く保護者に参加を呼びかけることで様々な活動への支援やその参加数が徐々に増えている。毎年米作りを支援いただいている地域の人々からは、「毎年楽しみにしています。いつも子どもから元気をもらい、感謝しています」と感想をいただいた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

地域の豊かな教育力を学校教育に生かせるよう、今後も地域との連携を密にして教材開発を行っていきたい。また、児童から地域への発信を充実し、より児童の主体的な学びを推進したい。小中一貫型の鳥居本学園としては、今後本事業をどのように小中が連携して運営するか新たな課題も見えている。

■　その他

鳥居本学園ホームページ　https://www.fureai-cloud.jp/toriimoto-hikone/　小中学校の様子をお知らせしています。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域の人と共に歩む地域協働活動

彦根市	活動名：稲枝中学校区支援地域協議会	稲枝中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務１人）　ボランティア登録数：９人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□郷土学習　■その他［特別支援学級への学習支援］

［地域未来塾］　年間開催日数：30 日　地域コーディネーター数：１人（兼務１人）　平均参加人数：９人

・学習形態　：　■個別の学力補充　□教材を使って一斉学習　□その他（　　）

・教室の持ち方　：　■放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）

・学習支援員等人数　：　学習支援員８人　協働活動支援員０人　協働活動サポーター０人

・学習支援員等の属性　：　□企業人　□行政職員　■元教員　■大学生　■地域住民　□NPO 等関係者　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）読書活動支援

４人の読み聞かせボランティアの方に隔週火曜日の読書タイムの時間に学年単位で読み聞かせをしていただいている。

（２）特別支援学級への学習支援

特別支援学級における作業学習の一環として、スクール農園の経営を行っている。学習がスムーズに進むように特別支援学級の担任と地域コーディネーター兼ボランティアが日常的に打ち合わせを行い、計画的に活動を行っている。

（３）学校行事への支援

今年度は体育祭が平日開催となり、勤務等の都合もあり保護者の支援が難しくなった。そこで、地域コーディネーターに依頼し、学区内から看護師さんと退職された養護教諭の方に支援していただくことになった。猛暑の昨今では、生徒の健康で安全な活動に手厚く対応していただき、大変よかった。

（４）地域の諸団体と共に行う地域貢献活動

〇稲枝駅前環境美化活動　〇夏のイルミネーション（稲枝ルミネ）の準備・飾り付け･後始末

〇サマーフェスタ（地域の祭り）や地域の文化祭における吹奏楽部の演奏

（５）地域未来塾では、地域在住の方や学区内にある聖泉大学の学生、教育実習生など８名の協力を得て進められた。質問教室として、おもに基礎学力の充実を目的に進められた。

【稲枝駅前環境美化活動】

■　実施に当たっての工夫

〇毎学期、読み聞かせボランティアさんと地域コーディネーターと学校の担当者と交流会を行い、スケジュールの調整をしたり、生徒の様子、本の内容などを話し合ったりしている。

〇野菜の栽培では、どの作業にも適期があり、栽培の計画を綿密に立てなければならない。また、天候にも左右されるため早めに担任との連絡調整が大切である。

〇地域の行事や学校の行事は、あらかじめ期日が決まっているので、ボランティアの依頼や各種団体との連絡調整は早めに行っている。

■　事業の成果

〇朝読書（読み聞かせ）をすることにより、落ち着いて一日のスタートを切ることができた。

〇生徒が農園での活動を楽しく感じたり、種まき、収穫、販売を通して新しい体験や発見をしたりして、生活に必要な知識やスキルを身につけることができた。

〇地域貢献活動に参加することによって、地域のアイデンティティを感じたり、自分たちも地域づくりに参画しているんだという意識が育ってきたりしている。滋賀県青少年育成県民大会で表彰された。

〇今年度は、地域の方で退職をされた社会人の方が母校の生徒の学力の向上を願い、地域未来塾の学習支援者として指導をしていただいた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇課題としては、ボランティアの固定化、高齢化を改善しなければならない。また、地域未来塾事業では、年間を通してシステム化しておくとスムーズに事業が進む。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

稲枝中学校では、学校関係者評価委員会において学校の取組について評価、点検してもらっているが、その委員会において各代表が稲枝中学校の未来志向において、どのような連携･協働ができるのかを模索し、計画実行していくことにより、よりよい稲枝中学校がイメージできる。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動

彦根市	活動名：稲枝中学校区支援地域協議会	稲枝東小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：28 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

本校では、５年生の総合的な学習の時間の一つとして毎年、「米作り」に取り組んでいる。地域のボランティアの方々の協力を得て、田植えや稲刈りなどの体験活動を実施している。

春の田植えでは、裸足で田んぼに入り、土に足を取られながらも意欲的に苗を植える姿が見られた。秋の稲刈りでは、各自が鎌で刈り取った稲を、ボランティアの方や教師に満足そうに見せる姿が数多く見られた。「いつも食べているお米が、こんなにも多くの労力や工夫によって作られていることを知りました。これからはもっと食べ物を大切にしていきたいです。」と日記に綴るなど、働く人々の思いや食べ物のありがたさを改めて考え直すことができる貴重な機会となった。

また、収穫した米を精米して、２月に実施する「ひびきあい活動」で味わったり、全校に取り組みを紹介してから給食として全校児童でいただいたりするなど、みんなで収穫を喜び、分け合うことができた。

【田植えの様子】

【稲刈りの様子】

■　実施に当たっての工夫

貴重な体験をさせていただいている「米作り」だが、ボランティアの方々の支援や配慮によって支えられているところが大きい。また、活動の実施にあたっては、ボランティアの方からアイデアをいただくことも多く、日々のコミュニケーションを豊かにし、学校とボランティアの方の間の風通しをよくしておくことが、活動を活性化させていく上で重要であると感じている。

■　事業の成果

〇ボランティアとしてご活躍いただいている方が、新たな方を紹介してくださることもあり、学校支援への熱い思いがボランティアの方々の間で引き継がれている。

〇従来の学校にありがちだった「垣根」が低くなっており、地域の方々が気軽に学校へ立ち寄ってくださっている。

〇年間を通して関わってくださる活動もあり、子どもたちの気になる言動については直ぐさま学校へ情報を伝えてくださるので、児童理解や指導においても役立っている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

学習支援・栽培・環境美化・交通安全・生徒指導等でお世話になっている本事業であるが、さらなる活動の広がりが期待される。学校と地域が知恵を出し合い、新たな活動を模索していきたい。

■　その他

ボランティアの方々との交流の様子を、日々の学校生活のお知らせとともにホームページで紹介している。

(https://www.fureai-cloud.jp/inaehigashi-hikone/)

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

ふるさとに誇りをもち未来をひらく「いなむらっ子」の育成をめざして

彦根市	活動名：稲枝中学校区支援地域協議会	稲枝北小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：61 人

■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

①お話タイム（隔週木曜日 8:15～8:30　各教室で読み聞かせ）…お話ボランティア７名に来ていただき、季節や教科学習に合わせて様々なジャンルの本を読み聞かせていただいたり、学期に１回ずつ交流会を開いたりしている。

②環境整備活動…まちづくり協議会の方々による池の清掃、運動場周辺の除草、プール清掃などを行っていただいている。毎年、各町からたくさんのボランティアの方にお手伝いいただいている。

③各教科の学習活動…焼き芋（１・２年）、町たんけん（２年）、米作り・昔の暮らし（３年）、　曽根沼干拓・真珠の養殖など（４年）、びわ湖について・ヨシ刈り（５年）、地域学習（６年）、書き初め・百人一首（５・６年）など毎年来ていただいている方や新しい分野について来ていただく方など様々おられ、子どもの深い学びにつながっている。

④スクールガード…保護者も含め、たくさんの方に見守り活動をしていただいている。

⑤稲村かるたオリエンテーリング…今年 29 回目。今回は、出路方面へ行き、ポイントでは、ボランティアの方が資料を準備して児童に説明をしてくださった。また、次年度のコースのポイントについて、夏休みにボランティアの方に協力していただき、教師の研修を実施した。

⑥運動会の江州音頭…江州音頭を行うに当たって、櫓を組み、子ども、保護者、地域の方が一同に会して、賑やかに踊ることができた。本校の学区の出身の方に来ていただいて、音頭を取ってもらった。

⑦ふれあいタイム…祖父母や地域のお年寄りを招き、体育館で全校児童と一緒に給食を食べたり、その後の学習では、昔の遊びをしたりかるた取りなどをしたりして楽しく過ごした。

⑧クラブ活動…ふれあいクラブでは、地域のお年寄りとグラウンドゴルフをしたり、近くのデイサービスへ慰問したりして、地域との交流を深めている。

⑨放課後学力補充…月（下学年）水（上学年）の対象児童に、学習支援員（元小学校教員、各日１名）の方に 15:00～16:00 の１時間学力補充をしていただいている。

【池の清掃】

【運動会の江州音頭】

■　実施に当たっての工夫

・ボランティアバンクを作成し、毎年更新して、たくさんのボランティアの方と連絡を取れるようにしている。

・地域コーディネーターやまちづくり協議会の役員の方と密に連絡を取り合い、協力していただきたいボランティアを探してもらうようにしている。

・三世代の家庭も多いので、児童の祖父母を通して、様々な学習活動に協力してもらえるよう、つながりを大切にしている。

■　事業の成果

・児童とボランティアとのつながりが深くなり、町で出会ったときにも挨拶をすることができるようになった。

・地域学習などでは、自分一人ではできない体験をさせてもらったり、地域について詳しく説明をしてもらったりして、深い学びにつながった。

・児童数の減少に伴い、なかなか行き届かない環境整備を支援していただくことで、気持ちのよい環境で学習させていただいており、感謝の気持ちも育ってきている。

・学力補充では、苦手な部分をしっかり指導してもらうことができ、児童もわかるうれしさを感じながら取り組んでいる。学習支援員も、指導後に担任と密に連絡を取り、次の指導に生かすことができている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・高齢化により、活動の継続が難しくなることが予想される。引き継いでいただける方や新しい方を増やしていく必要がある。

・郷土学習については、限られた時数の中で効率的に行っていく必要がある。特に、ゲストティーチャーとして来ていただく場合は、話していただく時間や内容についてしっかり打合せをするようにしたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（ ○ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

「ＡＬＬ　はえみ」：地域とともに、学びの充実をめざして

彦根市	活動名：稲枝中学校区支援地域協議会	稲枝西小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：41 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）地域と共に花づくり

全校で花の世話をし、校庭には四季折々の花が美しく咲いている。種まき・苗植え・除草・土作りなどは、６年生とフラワー委員会の子どもたちが行っているが、手間のかかるポットへの植え替えは地域の皆さんと一緒に活動している。

花の世話を通して「がんばる心」「優しい心」「豊かな心」の育成を学校・地域が共に目指している。地域の皆さんが大勢来てくださる入学式と卒業式は、一人一鉢栽培のサクラソウで飾る。また、運動会には夏休みに親子で育てたプランターの花を並べて、「花の輪運動会」を行っている。

（２）クラブ活動

幅広く専門的な活動体験を目指し、５年前から地域の方に指導に入っていただている。今年度は茶道クラブで継続実施となった。子どもたちは、日常の学習内容・指導者とは異なる中で、意欲的に活動している。

【茶道クラブ】

■　実施に当たっての工夫

〇支援者は、お手伝いではなく、教職員と共に子どもたちを育てるパートナーという存在である。活動前から、子どもにつけたい力や学習のねらい、お互いの役割分担等についての話をする時間を可能な範囲で設けている。

〇支援してくださるボランティアの方やゲストティーチャーに感謝の気持ちを持つことを大切にしたいと考えている。掲示板に顔写真や活動内容を掲示している。

■　事業の成果

〇子どもたちから支援者に声をかけたり、支援者から子どもたちへ話しかけたり、相互の交流が見られた。そんな中で、子どもを通してのつながりだけではなく、地域住民と学校もつながる中で、新たな支援者が増えて、活動の幅が広がり、多様な活動が実施できた。

〇今年度は、支援者から「子どもたちと過ごした時間は楽しく有意義であり、元気をもらった」という声をたくさんいただいた。子どもたちが書いた手紙を「宝物です」と大事にしてくださる姿も嬉しかった。

〇読書ボランティアさんから、高学年では長編を聞く力もついてくるので、毎回担当を代わって読むのではなく、連続で入って長編やシリーズものなどを読みたいというご意見を頂いた。年度後半は、従来と形を変えての実践を行い、子どもたちも次の読み語りの時間を楽しみにしていた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇年度当初、年間指導計画を基に、支援していただきたい活動について事前に伝える機会を設ける。見通しをもった支援を計画的に実施できるようにする。

〇多くの方々にお世話になっているが、短く単発の交流が多い。じっくりふれあう機会を増やし、お世話になった方に気持ちを伝える場を持ちたい。ボランティアの方にも「やりがい」「楽しみ」のある活動となればと願う

■　その他（学校運営協議会との連携等）

〇年間３回の会議を持つ。１学期は、学校から学校経営方針の説明を行い、交流を行った。２学期は中間学校評価を元に、子どもたちの姿や学校のあり方についてのご意見をいただいた。学校の様子をよりご理解いただけるように、音楽会やはえみ祭り等への誘いかけを行った。３学期は今年度のまとめと来年度に向けての課題を話し合う予定である。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

「子どもたちの笑顔のために」　チームわかバンク３年目の取組

彦根市	活動名：若葉小学校地域学校協働本部	若葉小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　（兼務０人）　ボランティア登録数：60 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■郷土学習　■その他［　畑の活動　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）命の学習としての畑の活動から「収穫感謝祭」への取組

昨年度から実施している夏の「収穫感謝祭」。今年度は子どもたちが育てたい夏野菜を学年ごとに決め、水やりや草取り等育てる過程を大切にしながら、命の尊さ、収穫の喜びを実感できるように配慮した。収穫感謝祭の内容については、学校とわかバンクの皆さんで、昨年度の課題であった子どもの参加の仕方やＰＴＡとの連携、酷暑の中で安全に行うための方策等について話し合った。

７月 26 日に子どもたちが畑で夏野菜を収穫し、翌 27 日に第２回収穫感謝祭を実施した。

当日、学校教員による「野菜〇×クイズ」や「若葉の森ビンゴゲーム」で楽しい時間を過ごした。その間にわかバンクの皆さんや教職員、ＰＴＡの方々で夏野菜カレーを作り、食事タイムでは和やかな雰囲気でカレーを食べることができた。

食の大切さや収穫の喜びを感じるとともに、みんなで集い子どもたちの笑顔を真ん中に、保護者、地域、そして教職員が「輪」を作ることができた。

【収穫感謝祭「カレーおいしいね！」】

（２）平和堂見学

３年生では、近くの店に出かけ見学を通して自分の生活と販売の仕事とのかかわりを考える社会科学習があり、10 月５日、校区内の平和堂見学を行った。

店内で班ごとに分かれて調査活動を行う際に、ややもすると周りのお客さん等に迷惑をかけてしまうことがあるが、わかバンクの皆さんに店内各ポイントにて見守っていただくことで、安心してグループで調査活動を行うことができた。

その後、わかバンクの皆さんを招待して学びをまとめた発表会を行った。見学に同行していただいた方だけでなく、普段、登下校や畑の活動等でもお世話になっている方もお越しいただき、子どもたちは相手意識・目的意識をもって、張り切って発表することができた。

２年生の町探検も、昨年同様、意義ある活動になった。

【グループでの平和堂見学】

■　実施に当たっての工夫

〇「収穫感謝祭」では、地域コーディネーターが昨年度末より地域の方へ、コミュニティ・スクールの活動や収穫感謝祭の実施について話をしていただいてご理解を得ることができ、地域からの賛助金をもとに収穫感謝祭をより充実させることができた。酷暑の時期でもあることから、暑さ対策として散水ミストの効果的な活用や冷房の効いた室内での活動もよかった。事後に運営協議会にて振り返りを行い、無理なくいつまでも続く活動をしていきたい思いを共有することができた。

〇「平和堂見学」では、あらかじめの打ち合わせにおいて、グループが困っているときや社会のマナーを乱しているときに声をかけていただくようにお願いし、グループの様子を温かく、根気強く見守っていただいた。おかげで、子どもたちが自分たちで見学し学習を深めたという達成感をもつことができた。

■　事業の成果

〇「子どもたちの笑顔のために」という思いで学校へ協力してくださる地域の方が増え、組織も安定してきた。

〇「学習支援」「図書支援」「見守り支援」「広報支援」の４つのリーダーが、責任をもって進めてくださるので、どの活動も価値ある成果を感じることができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇学校支援メンバーの一定の方に負担がかからないよう、話し合いを進めていきたい。今年度ＰＴＡとの連携が進んだので、より深まっていくように働きかけていく。

〇１、２年生を対象に、学習とスポーツの支援として「土曜講座」体験会を月に２回スタートした。生活習慣を整えることや地域とのつながりを大切にするためにも、体験会から「土曜支援」として定着させていきたい。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

〇４回実施している運営協議会の中で、活動計画や振り返りができるよう、またＰＴＡとの連携しながら進められるようにしていく。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

近江八幡市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部　□地域未来塾　■放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿

市立すべての校園所に地域学校協働活動推進員を配属し、地域住民の力を学校園教育に生かすため「地域学校協働本部」を設置し、支援体制作りを進めてきた。コミュニティ・スクールの導入に伴い、地域と学校との協働体制の構築を重点に置き、学校･家庭･地域が連携し、ともに子どもと向き合い、目標を同じくして活動する。

■本年度の具体的活動

４月 24 日（火）事務局会議（各校園所の事業担当者対象）〔ひまわり館〕
４月 26 日（木）事務局会議（地域学校協働活動推進員対象）および委嘱式、情報交換会〔桐原コミセン〕
７月 24 日（火）研修会「スポーツに人権～考えてみよう指導のあり方～」〔運動公園体育館〕
８月　８日（水）学校支援メニューフェア in 近江八幡〔桐原小学校〕
９月 26 日（水）研修会「見て学ぼう・動いて学ぼう（スポーツ推進員より）」〔金田小学校〕
２月予定　　推進員情報交換会議・来年度方針説明会および事務局会議

■本年度の成果

・年度当初に各校園所の事業担当者対象の会議と地域学校協働活動推進員対象の会議を開催し、事業説明会および情報交換会を持つことで、協働の意識やコーディネート機能の強化について理解を深めた。
・ボランティアを依頼する際のガイドラインとしてボランティア向けと受け入れる教職員向けのプリントを作成した。
・放課後子ども教室「寺子屋近江八幡」を５校で実施し、それぞれ特色のあるプログラムに取り組んだ。
・平成 31 年度からの体制を整えるため「近江八幡市地域学校協働活動推進員設置要綱」を制定した。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

・本年度は、名称のみを「地域学校協働活動推進員」「地域学校協働本部」に変更し、地域学校協働活動推進員設置要綱を制定した。
・平成 31 年度から、社会教育法に基づいて地域学校協働活動推進員に委嘱する。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

・平成 29 年度に老蘇小学校をコミュニティ・スクール第１号として指定し、その取組を広め成果を共有した。
・平成 30 年度は、「地域の協働体制を確認し、コミュニティ・スクール設置について検討する」として、コミュニティ・スクール推進委員会を立ち上げ、研修会や説明会を行った。
・2019 年度には、足並みをそろえてコミュニティ・スクールを推進するため、希望をとり幼稚園１園、小学校４校（中学校区に１校ずつ）・中学校１校を推進校とする。
・推進校を中心として理解を深め、各校の連携体制を整えて計画的に設置を推進し、2021 年度には近江八幡市の市立校園の学校運営協議会の設置を完了する。

■地域学校協働活動と学校運営協議会の一体的な取組

【コミュニティ・スクール　老蘇小学校の取組】

老蘇小学校では、地域とともにある学校として取組の充実を図るため、学校運営協議会で学校の現状を伝え、必要な支援を求めることで、スクールガード活動・地域学習・読み聞かせ活動など校長の運営方針に沿った支援活動が進められ、多様な取組が行われている。地域学校協働活動推進員も委員として会議に出席し協議会の意向を理解してコーディネートをされている。

放課後子ども教室では、学習支援員に老蘇小学校出身の大学生を起用するなど、若者をコミュニティ・スクールに巻き込むための工夫もされている。夏休みには、彼らの専門を生かして「寺子屋老蘇サイエンスワールド」という理科学習のプログラムを実施した。

【サイエンスワールド】

学校で行う漢字検定を子どもや保護者だけでなく地域の方にも広く呼びかけ、学校を地域とともに学ぶ場とする社会教育的な取組、地域とともに行う防災の取組も行われている。まちづくり協議会・こども園・小学校で協力し、地域ぐるみで「老蘇ビオトープまつり」などの行事も開催され、小学校がコミュニティの中心になりつつある。

地域の宝を学校に！ （八幡小学校）

近江八幡市	活動名：八幡小学校地域学校協働本部	八幡小学校 学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］ 開始年度：平成 24 年度 地域学校協働活動推進員等数：１人 ボランティア登録数：114 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） □地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援
□学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他［ ］

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

【北之庄菜植え】（３年生）
近江八幡で守り育ててきた地域野菜「北之庄菜」を子どもたち自らが育て、食べる取組を地域の方々がサポートしている。

【八幡堀巡り】（４年生）
学区にある歴史ある八幡堀。その歴史を学ぶため、「八幡堀を守る会」のみなさんから説明や案内をしていただきながら、小グループで学習をしている。

【パッカー車見学】（４年生）
環境整備で地域に貢献されている地域の企業「（株）日吉」に支援していただき、実物のパッカー車を学校に招いた学習を実施している。子どもたちは、パッカー車のデザインに協力している。

【その他、年中行事】（各学年）
各学級の菜園で様々な野菜を育てるため、畑の土作りから栽培指導までたくさんのボランティアの方々に支援をいただいている。
また、本の読み聞かせや九九の暗唱、ミシン授業、水泳指導、プール監視、ピアノ伴奏、クラブ活動指導、翻訳など、多種多様な支援により子どもたちの学習や学校生活が充実している。

■ 実施に当たっての工夫
・ボランティアルームを設け、打合せや活動前後の休憩に活用している。地域の方々のつながりが深まり、ボランティア間での情報交換・調整が活性化している。
・活動内容を幅広く知ってもらうため、校内の掲示板を活用して実施内容を紹介したり、地域の方にはコミュニティセンターの掲示板を使って活動の様子を発信したりした。
・教職員とボランティア向けに「ボランティア通信」を発行することで、他学年の実施内容を互いに知ったり、ボランティアの輪が広がったりすることを目指した。
・自治会へは、年度の終わりに本事業の活動の報告とお礼を兼ねて文書回覧をしている。
・年度末にボランティア交流会をもち、６年生を送る会を参観するとともに１年を振り返って成果や課題を確認し合っている。

■ 事業の成果
・学校現場だけでは教えられない体験や文化的価値にふれる機会が増え、地域資源を生かした特色のある学習が創り出せている。
・地域のボランティアの方々から学んだり、支えていただいたりする中で、様々な人とのふれ合いや繋がりができ、地域に生活する一人としての自覚が芽生え、地域への愛着が深まっている。
・子どもたちが地域の取組を知ったり、地域の方々の思いにふれたりする機会となっている。
・地域の子どもたちを知っていただく機会になると同時に、地域の方々に学校を身近に感じていただく機会となっている。
・地域学校協働活動推進員のコーディネートにより、ボランティアの方々との打合せ時間を大幅に短縮できている。また、学習支援活動の充実と広がりに繋がっている。

【ヨモギ団子作りの支援】

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
教職員の年齢構成が若返っている現状において、指導者の経験値の低さ（栽培活動や伝統行事、多種多様な生活経験）も見受けられ、学習や活動のねらいを十分に把握できずに地域学校協働活動推進員のコーディネートやボランティアに頼ってしまうことがある。

■「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印
（ ○ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域とともに育てる　「ふるさとに誇りをもち　瞳輝く島の子」　（島小学校）

近江八幡市	活動名：島小学校地域学校協働本部	島小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：330 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）郷土学習、食育・環境学習、各教科等の学習支援
〇ふるさと学習　環境学習　（まち探検　むべ園見学　西の湖学習等）
・３年「ヨシ学習」
（ヨシちまきづくり　ヨシとくらし　ヨシ原の保全　ヨシ刈り　ヨシ工作等）
・４年「菜の花エコプロジェクト」
（菜種栽培　菜種の搾油体験　エコクッキング　エネルギー資源の循環等）
・４年松明づくり　地域の伝統の技を学ぶ　ヨシと菜種で松明を作成
〇授業支援　（昔遊び　昔体験　ミシンボランティア　雅楽体験　米づくり等）
〇エディブル・スクールヤード活動への支援（栽培　調理　食育　農業体験）
〇行事支援　（島アドベンチャー【全校登山】　持久走大会等）

（２）環境整備
・芝生グラウンド整備　・スクール農園整備　・学校周辺整備

（３）見守り活動
・保護者による下校時の巡回パトロール「見守り車パトロール」
・地域の方による登校、下校時の見守り「見守り隊」
・地域の方、保護者による朝の見守り　「行ってらっしゃい運動」

【４年　ほんがら松明づくり】

【３年　ヨシちまきづくり】

■　実施に当たっての工夫
〇ふるさと学習の年間計画を作成したり、前年度担当学年の教員からの引き継ぎを丁寧にしたりすることで、活動の精選と充実を図ることができた。
〇地域学校協働活動推進員と担任の打合せの時間の確保が難しい現状があるため、教務や教頭が学習の内容や流れを担任と相談して把握し、推進員や地域ボランティア、コミュニティセンター等との連絡調整を心がけた。
〇地域の方に支援いただいた活動内容や学習の様子を、学校だよりやまちづくり協議会だより、学校ブログなどで発信し、子どもの様子や感謝の気持ちを伝えるよう努めた。
〇地域の夏祭りや文化祭等の地域の行事、コミュニティセンター主催の子ども体験活動にも教員の参加を呼びかけている。

■　事業の成果
〇毎年、活動を積み重ねていくことで、ボランティアの人数も増え、地域の方が来校される機会が増えた。
〇地域の自然や、伝統文化について地域の方とともに学ぶことで、大切に受け継いでこられた方の思いや生き方にふれることができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
〇地域学校協働活動推進員や地域ボランティアは経験が豊富であり、十分な支援をしていただけるが、担任が単元全体を見通し授業を組み立てて取り組まなければ活動ありきになり学習が深まらない。
〇担任教員が地域に愛着をもち学習を進められるよう、教材研究、地域の方との交流を進めて行きたい。

■　その他
〇島学区地域教育協議会では、地域と協働して子どもを育成するという視点から、学校や児童の課題についても伝え地域の支援をお願いしている。協議会委員の方々からも、学校の課題を受け支援をさらに充実していこうという意見をいただき、スクール農園の新設や栽培、調理学習の補助、地域の安全パトロールの回数を増加するなどの支援の充実を図っていただいた。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印
（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

沖島の自然や文化、地域から学び、豊かでたくましい子どもの育成を目指して　（沖島小学校）

近江八幡市	活動名：沖島小学校地域学校協働本部	沖島小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 25 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：10 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

［放課後子ども教室］　主な活動場所：沖島小学校多目的　年間開催日数：50 日　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務１人）

平均スタッフ数：１人　平均参加人数：12 人　開始年度：平成 28 年度

・活動日　：　□月　□火　■水　□木　■金　□土　□日　□長期休業中

・活動内容　：　■学習支援員を配置した学習支援　□その他の学習支援　□スポーツ　□芸術・文化　□体験活動　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

○　フナ寿司作り

地元の漁師の方にニゴロブナを調達していただき、うろこを取るところから、塩切り、本漬けまで丁寧に指導していただいた。

○　桜の花の塩漬け・キウイジャム作り

ボランティアの方の協力を得て、校地内の桜の花を塩漬けした。また、キウイを収穫しジャム作りをした。

○　消防艇見学・通船での避難訓練

３・４年生が社会科で、救急搬送にも使用される消防艇を見学・乗船体験させていただいた。消防署の見学と併せて、設備を見学させていただき、火災や救急時の迅速な対応や関わる方々の思いについて学んだ。

また、通学や島外への移動に使う通船での避難訓練を全校で実施している。

○　平和学習

６年生が広島への修学旅行の事前学習として、滋賀県平和祈念館の方から戦時中の暮らしについて話を聞いた。その後島内の３名の方から戦争中の話を直接聞かせていただいた。

○　サツマイモの苗植え～水やり～収穫

ボランティアの方の協力を得て、沖島のやさしいアイスの材料であるサツマイモの苗を植え、当番で水やりを行い、収穫した。

○　沖島太鼓の練習

クラブ活動で、全校で、沖島太鼓の演奏に取り組んでいる。専門の先生に来校いただき、指導を仰いでいる。地域の行事に参加して演奏している。

【平和学習…島民の方からの聞き取り】

【通船での避難訓練】

■　実施に当たっての工夫

○　沖島のよさを感じられ、地元の方々の願いに触れられるような体験になるように、心がけている。

○　プロの方の指導を仰げるような機会を作っている。

■　事業の成果

○　地域の方からの指導を受けたり話を聞いたりすることにより、沖島をより身近に感じることができた。また、沖島の高齢の方にとっても子どもと話す機会を通して、生き生きとした楽しい時間を持っていただけた。

○　プロの方の指導を受けることにより、通常授業ではできない体験をすることができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

沖島の地域住民の高齢化が進むにつれ、沖島の文化・産業に携わる方も高齢化している。若い世代の方とも連携を取りながら、講師の発掘を進める必要がある。また、沖島町離島振興推進協議会とも連携し、児童の活動を沖島の活性化につなげられるようにしたい。

放課後子ども教室は、本校の下校時刻が毎日 16 時前になるため、継続して取り組んでいきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（　○　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（　○　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（　○　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

『学校と地域の両輪で』地域と協働した学びを （岡山小学校）

近江八幡市	活動名：岡山小学校地域学校協働本部	岡山小学校	学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］ 開始年度：平成 22 年度 地域学校協働活動推進員等数：１人 ボランティア登録数：180 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） ■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援
■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他［ ］

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

〇６年生は、総合的な学習の時間に茶道体験を行った。茶道の歴史や心得について知り、実際に作法を体験することによって、日本の伝統文化を知り、自国の文化を大切にする心を育む機会となった。

〇５年生は、営農組合や農業委員さん、ＪＡの方の支援・協力を得ながら田植え、稲刈りの体験活動をした。また、２年生は、畑や個人の鉢で野菜づくりに取り組んだ。地域の「野菜の先生」に、土作りや苗の植え方・世話の仕方等のコツを教えてもらい、いろいろな野菜を育て収穫することができた。収穫祭では、お世話になった方々を招待し、地域の方とふれあう機会とすることができた。

〇４年生は、社会科「地域の発展に尽くした人々」の学習で、地域へのフィールドワークを行った。「干拓」が行われた地域で、先人の偉業について語り継いでおられる方からお話を聞くことで、より深い学びとなった。自分の生活を振り返るとともに、将来に向けて今の自分にできることを考える体験型の学習となった。

〇２、３年生のまち探検等、校区内を移動する際、交通量が多い場所や交差点などに立ち、児童の安全確保に協力いただいた。２年生の校外学習では、JR や施設等の利用時に児童の引率補助に協力いただいた。

【４年 元水茎フィールドワーク】

【６年 茶道体験】

■ 実施に当たっての工夫

〇地域学校協働活動推進員は、主に地域のボランティアさんとの調整を行い、学校は、外部講師の依頼をしている。

〇図書ボランティアさんとは、年度当初と年度末に打合せや総括の会議を行い、学期ごとに計画の作成をしている。

〇学校だよりを学区全戸に配布し、支援活動等を適時掲載して地域に発信している。

■ 事業の成果

〇地域ボランティアの協力を得ながら、地域ならではの体験学習に取り組むことにより、地域のよさを学ぶことができ、ふるさとを愛する子どもの育成につなげることができた。

〇子どもたちが多くのボランティアの方々とふれあう機会をもつことにより、コミュニケーションが取れるとともに、地域の大人に見守られているという安心感を持つことができた。また、ボランティアさんに礼状を渡したり、収穫祭などに招待したりして、感謝の気持ちを表す取組などを通して、社会性や感謝の心を育むことができた。

〇教員や子どもたちが多くの地域の方々に支えられていることを実感して豊かな教育活動を推進している。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇学年の児童数が増加しているため、校外学習等を実施する場合に引率ボランティアに協力いただいているが、配慮や支援が必要な児童にどのように対応してよいか困惑されることがあった。事前に担任と打ち合わせを行っているが、ボランティアさんに負担をかけないよう計画の見直しや体制の工夫などが必要である。

〇地域のよさや伝統を伝えていただく方の高齢化に伴い、支援していただくことが年々困難になってきている。地域の新しい人材を発掘し、伝統を引き継いでいただく支援者をいかに増やしていくかが課題である。そのためには、学校の様々な活動を学校だよりやホームページ等で広く発信するとともに、地域の情報収集に努める必要がある。

■ その他（学校ホームページ）

URL:http://www.city.omihachiman.shiga.jp/~okasyo/

■「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域への愛着と誇りを胸に！未来を拓く金田っこ （金田小学校）

近江八幡市	活動名：金田小学校地域学校協働本部	金田小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 25 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：70 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（読み聞かせ等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□郷土学習　■その他［避難所設営、防災学習］

［放課後子ども教室］　主な活動場所：金田小学校体育館・金田コミュニティセンター　年間開催日数：10 日　地域学校協働活動推進員等数：１人　平均スタッフ数：３人　平均参加人数：25 人　開始年度：平成 29 年度

・活動日　：　□月　□火　■水　□木　□金　□土　□日　□長期休業中

・活動内容　：　■学習支援員を配置した学習支援　□その他の学習支援　■スポーツ　□芸術・文化　□体験活動　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）１年「昔遊び・お正月遊び」「おいもを調理しよう」

（２）２年「おでんをつくろう」「ブラジル・フィリピンについて知ろう」

（３）３年「金田のステキ発見」「畑ではたらく人々」「昔のくらし」

（４）４年「地域を守る消防団」「蛇砂川の歴史と現地見学」「福祉体験」「寺子屋」

（５）５年「田んぼではたらく人々」「環境学習」「手縫い名人になろう」

○ **「避難所設営体験・炊き出し体験（防災学習）」**

11 月 15 日、5 年生 177 名が防災学習として避難所設営に取り組んだ。金田学区まちづくり協議会から多くの方が来てくださり、一緒に設営をしたり、豚汁の炊き出しをしたりしてくださった。児童にとって、屋外での調理、飲食という炊き出し体験は、印象に残ったようだった。

（６）６年「ミシン名人になろう」「平和学習」「伝統文化に親しもう（詩吟体験）」

【避難所設営体験】

■　実施に当たっての工夫

○講話だけでなく、本物・実物に触れたり体験したりできる場づくりに努めた。

○担当学年の主任と、地域学校協働活動推進員との連携を密にし、打合せ時間を確保した。

○地域学校協働活動推進員と協力して、学年のニーズに合った講師やボランティアの選定に努めた。

■　事業の成果

○実際に仕事をされている方々の話を聞いたり仕事の様子を見学したりすることで、教室ではできない学習、体験ができた。

○金田学区にお住まいの講師、ボランティアに来ていただくことで、「人」「技術」「地域」がより身近に感じられるようになった。

○地域の安全を守る活動（スクールガード、消防、避難所設営、炊き出し体験等）を日常的に目にしたり、体験したりする中で、防災・安全に対する意識の高まりが見られた。

○放課後子ども学習「寺子屋」では、学力補充に加えてニュースポーツの体験、防災に関わる学習等も取り入れた工夫あるプログラムで、参加した児童にもその保護者にも大変好評だった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○大規模校で、どの学年も人数が多い。（140 名～180 名）その分、講師・ボランティアの方も多数お願いする必要がある。人数確保や日程調整が難しい。学級単位で講話・体験をお願いすると、１日に４～５回、お話をしていただくことになり、負担が大きい。

○講師・ボランティアの方々の高齢化が進んでいる。新たな人材確保が急務である。

■　その他

○金田学区地域教育協議会を、学期に１度開催している。地域と学校が協働で活動した取組について紹介し、理解と協力を求めている。協議会では概ね好意的、建設的な意見が聞かれる。

○高齢化に伴う新たな講師・ボランティアの確保については、協議会でも懸案事項とされている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（ ○ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

学校を通して、地域ぐるみで健やかな子どもたちを育むために　（桐原小学校）

近江八幡市	活動名：桐原小学校地域学校協働本部	桐原小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 24 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：117 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

［放課後子ども教室］　主な活動場所：桐原小学校国際理解教室　年間開催日数：16 日　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）

平均スタッフ数：２人　平均参加人数：22 人　開始年度：平成 30 年度

・活動日　：　□月　□火　□水　■木　□金　□土　□日　□長期休業中

・活動内容　：　■学習支援員を配置した学習支援　□その他の学習支援　□スポーツ　□芸術・文化　□体験活動　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

〇４年　日野川フィールドワーク　「地域ふるさと学習：桐原・日野川のお宝発見」

日野川の恵みとともに人々の暮らしがあったが、時には洪水等の水害にも見舞われてきた。その中で先人の暮らしやまちづくりにおける知恵も育まれ伝えられてきた。そのことを詳しく知っている地域の方から事前学習をしていただいたのち、県の流域政策局の職員の方、地域ボランティアの方とともに、フィールドワークを行い、学びを深めた。

【４年　日野川フィールドワーク】

〇３年　放課後子ども教室「寺子屋桐原」

放課後の居場所づくりや、家庭学習の習慣化を図ることを目的に今年度開設した。３年生を対象として募集したところ 23 名の希望があり、隔週の木曜日の放課後に、大学生の学習支援員の協力を得て行った。毎日の宿題や学習プリントを中心に１時間程度学習に取り組んだ。

■　実施に当たっての工夫

〇学校支援ボランティアさんの活動予定を示したボードを活用することで、教職員全体に周知するとともに計画的に進められるよう配慮した。

〇地域全体に浸透するように、学校だよりやコミュニティセンターだよりに活動の様子を紹介するとともに、ボランティアの募集を行った。

〇学期ごとに地域学校協働本部事業の様子を紹介する壁新聞を作成し、学校支援の輪を広げる取組を進めてきた。

【３年　放課後子ども教室】

■　事業の成果

〇スクールガードの方々の登下校時の見守り活動により、子どもたちは安心して登下校できている。

〇ボランティアの方々が日常的に学校に来ていただいていることから、子どもたちの様子を複数で観察することができ、安全な学校生活を送ることにつながっている。

〇校外学習では、教員だけでは子どもたちの様子を把握できないこともあるが、ボランティアの方々のおかげで、安全に注意を払って取り組むことができている。

〇地域の方々が朝や休み時間を利用して、さまざまなメニューを用意して子どもたちと関わってくださっている。このことは、子どもの居場所づくりや居心地のよい空間づくりにつながっている。

〇家庭科やクラブ活動等、子どもたちの活動を支援していただいている。ボランティアさんとのふれあいの中で、子どもたちの健やかな成長が育まれている。

〇ボランティアの方々による図書館の環境整備や、おはなし会の開催などを通して、本を身近に感じ、本に親しむ子どもたちが増えてきている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇校外学習や授業での支援活動において、ボランティアさんの存在は大変大きく、また、学校としても定着してきているが、ボランティアさんの高齢化で無理をされている部分もある。今後、この活動が継続していけるためにも、コミュニティセンター・地域との連携がより深まり、組織面を考える必要がある。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域とともに体験学習を・ボランティアさんはできるときにできることを（桐原東小学校）

近江八幡市	活動名：桐原東小学校地域学校協働本部	桐原東小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 24 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：150 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）学校支援グループの活動
　地域の方が学校を支えていただく活動の一つとして、各種ボランティアさんの代表者がメンバーとなって月１回の代表者会議を開催している。

（２）地域には、人々に愛されている白鳥川がある。近年その景観が乱れつつあることを懸念して、「白鳥川の景観を良くする会」（略称　景観隊）が立ち上げっている。総勢 100 名程度の方が加入され河川周辺の清掃はもとより、河川の水質や動植物の様子を観察できるような体験学習教室を開いておられる。本校では、毎年５年生が総合的な学習の時間に「白鳥川の学習」を進めることになっていて、事前の学習から現地体験学習、事後の学習発表会まで「景観隊」の方々とともに学習していくことが定着している。

■　実施に当たっての工夫

〇依頼した学年の担当教員とボランティアの方とが短時間でも打合せを行うようにしている。また、依頼は必ず活動推進員さんを通して行い、年度が変わっても毎年の活動が定着していくよう地域と学校をつないでいただいている。
〇「できるときにできることを」の合い言葉のもと、ボランティアさんに気軽に参加していただけるよう呼びかけている。

■　事業の成果

〇地域の人材や自然に触れ、今まで知らなかった郷土の良さや一面を学習することができた。
〇学校行事の支援や見守り活動を行っていただけるため、教員の負担が減り児童によりきめ細かな支援ができることにつながっている。
〇児童と地域の方々とのつながりができ、児童が地域であいさつができたり、地域の方々に学校行事に参加いただいたりして学校生活の充実につながっている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇コーディネーターさんの活動がさらに充実するよう時間数の工夫が必要である。
〇ボランティアさんの高齢化が進み、次の世代の方々に広げていく人材確保が課題である。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

＜白鳥川景観隊の方々による白鳥川体験学習＞

【事前学習】

【河川の生物調べ】

地域でともに育てる馬淵の子　（馬淵小学校）

近江八幡市	活動名：馬淵小学校地域学校協働本部	馬淵小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 24 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：60 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）年間を通した活動

クラブ活動支援	昔遊びクラブ・囲碁クラブ・家庭科クラブで活動支援をしてもらった。年間 12 回実施。

（２）馬っ子（総合的な学習の時間）を中心とした地域との連携・学習支援

農業に関する活動	◇田植えから稲刈り、調理までの米作り体験（２・５年）◇ひょうたんの栽培（４年） ◇学級園での栽培活動（２年・支援学級）
歴史･伝統文化に関する活動	◇茶道体験（６年）　◇しめ縄作り（５年）
人権学習	◇多文化共生（韓国）の学習（３年）
毎日の学習支援	◇家庭科支援（ミシン・調理実習）　◇書道支援

（３）企業・団体・機関と連携した活動

平和学習（６年）	戦時中の様子と馬淵学区に学童疎開した時の体験の話をしてもらった。
赤ちゃん先生（２年）	生活科『大きくなった自分のことを調べよう』の学習単元で、ゲストティーチャーとしてお母さんと赤ちゃんに来校いただいた。
白鳥川の学習（４年）	白鳥川の生き物観察と過去の地域の水害について体験者に話していただいた。また通学路の危険箇所点検・ハザードマップ作りに参加していただいた。

■　実施に当たっての工夫

〇高齢化を理由に活動を辞退されるボランティアがおられたので、新しいボランティアの発掘のため横の繋がりを広めながら実施した。
〇授業（活動）の具体的な内容は、担任が支援者や地域学校協働活動推進員と事前打合せを持って決めている。支援者や地域ボランティアへの最初の依頼は地域コーディネーターが行い、依頼文や謝金，授業前後の支援者への対応は学校の担当者がそれぞれ行っている。
〇ボランティア室を校舎内に確保して、打合せや休憩に使ってもらっている。
〇ボランティアの活動日と内容を職員室内の掲示板で知らせて、先生方に認識してもらっている。

【白鳥川の学習】

■　事業の成果

〇校内でも地域でも周知されてきたのでスムーズに取り組みが進められるようになった。その結果、自宅で教室を開いておられる方が支援してくださったり、退職後の時間をボランティア活動に充ててくださったりする方があり、専門的な内容での支援が可能となった。また、教師は専門的な内容に自ら知識を深めることができ、子どもたちは顔馴染みのボランティアの来校を楽しみにするようになってきている。さらに、ボランティア自身は、継続することにやりがいと楽しみを感じてもらえるようにもなってきて、それぞれが充実した取組となってきた。

【ひょうたんの苗植え】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇ボランティアや教師との打合せを限りある地域学校協働活動推進員の勤務時間内にうまく行う必要がある。
〇小規模校のため、各学年の活動の日程を調整しないと、指導者不足になり対応できない。また、担任間で前年度の引き継ぎをきちんと行わなければいけない。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域の活性化（北里ボランティアポイント）と地域力で育てる学校へ　（北里小学校）

近江八幡市	活動名：北里小学校地域学校協働本部	北里小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 21 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：110 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）メダカシンポジウム

メダカの学校小田分校の方と一緒に田んぼでの田植え、観察・肥料まき・草刈り稲刈りという米作りの一連の作業を体験させていただくとともに、11 月 10 日の祖父母参観日には、『田んぼの向こうに世界が見える』というテーマで田んぼの学校で体験したことや『米作り』や『田んぼにいる生き物』など５年生児童が総合的な学習の時間に調べた内容をまとめて発表した。また、メダカの学校の方からは、これまでの活動のパネル展示をしていただき、５年生の児童や保護者対象に環境にかかわる講演をしていただいた。

【５年生メダカシンポジウム】

（２）地域未来塾以外の学習支援

〇活動の概要と目的

毎週木曜日の朝学習の時間に、地域の方に各クラスで読み語りをしていただくことによって、子どもたちの豊かな心を養い、本好きの子どもを増やすことを目的に実施している。

〇支援員数：約 20 名
〇支援員の属性：読み語りグループ『ほんわか』をはじめとする地域のさまざまな方
〇学習形態：読み語り
〇教室の持ち方と実施日数：毎週木曜日の約 10 分間
〇子どもの平均参加人数：各クラス全員

■　実施に当たっての工夫・・・（２）について

〇地域学校協働活動推進員が地域と学校をつなぐ重要な役割を担っており、学校の思いを地域に、地域の思いを学校に伝えることで双方向にメリットがあるような活動を実施するように心がけている。

■　事業の成果

〇事業開始から 10 年になる。本活動が年間計画の中に位置づけられていることにより、かなり定着している。毎年、実施時期、活動内容について、地域学校協働活動推進員と一緒に各学年の担任が見直しをすることにより、より精査しながら本事業が実施できている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇平成 21 年度の本事業を開始してから、同じ地域学校協働活動推進員が一人で地域と学校を繋ぐ役割を担ってきているが、今後後継者の育成や選任に困難さがある。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

〇本校はコミュニティ・スクールとしてまだ立ち上げてはいないが、本年、今までの「教育評議会」と「地域教育協議会」を統合して学校運営協議会の母体となる「北里小学校教育評議会」ができた。今後、コミュニティ・スクールとして組織の確立を行うことにより、推進員のポジションを複数配置にすることや事業の予算確保について広く協議していかなくてはならない。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

学校のニーズに合わせたボランティアさんたちの活躍　（武佐小学校）

近江八幡市	活動名：武佐小学校地域学校協働本部	武佐小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 21 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：75 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）
〇プールやクラブ活動、家庭科等、少数の教員だけでは一人ひとりに十分に支援できない授業に定期的に参加してもらう。
〇体験的学習で、華道や茶道等文化的で専門的な指導を行ってもらう。
〇地域の文化遺産の紹介や歴史等について、現地での説明を行ってもらったり、学校で講話をしてもらったりする。

■　実施に当たっての工夫
〇学年や学級の実態に合った支援になるように、教員の思いを地域学校協働活動推進員がしっかり聞き取る。
〇ボランティアさんの思いや意欲を理解するために、できるだけ直接出会うようにし、訪問して打合せを行ったり、学校で顔を合わせたりするようにしている。
〇ボランティアさんどうしの交流ができるように、ボランティア室を設けて打合せや休憩に使ってもらっている。
〇地域学校協働活動推進員が、それぞれの活動場面を写真に撮りボランティア便りを作成して様子を伝え理解が得られるように、ボランティアさんに送っている。

【５年家庭科　裁縫】

■　事業の成果
〇地域ボランティアさんが学校に来て、児童の支援を行っていただくことで、学校や児童の様子をよく知っていただくことにつながった。
〇地域ボランティアさんと児童が顔見知りになったり仲良くなったりすることで、地域であいさつしたり声を掛け合ったり、また、地域行事に参加しやすくなるなど交流の機会が増えた。
〇授業や行事で教員の力だけではできない専門的な支援を行ってもらえる。また、担任以外にボランティアさんが支援に入っていただけるので、児童一人ひとりによりきめ細やかな支援ができた。
〇教室内の教科書を中心とした授業だけにならずに、実際に見たり触れたりできる体験的な学習を多く取り入れられた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
〇企業や地域ボランティアさんのできることと学校の要望が合わずに、たくさんの方に登録いただき、それぞれのボランティアさんが持っておられる知識や技能をうまく活用し切れない。
〇地域学校協働活動推進員さんの勤務時間に限りがあるので、ボランティアさんや先生との打合せや聞き取りが不十分になることがある。また、地域学校協働活動推進員さんがボランティアになってしまっている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印
（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

【クラブ活動　生け花】

学校・保護者・地域ぐるみで子どもを見守り、育てる支援活動　（安土小学校）

近江八幡市	活動名：安土小学校地域学校協働本部	安土小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 25 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：135 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

［放課後子ども教室］　主な活動場所：安土小学校教室　年間開催日数：27 日　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）

平均スタッフ数：10 人　平均参加人数：37 人　開始年度：平成 27 年度

・活動日　：　□月　□火　□水　□木　■金　□土　□日　□長期休業中

・活動内容　：　■学習支援員を配置した学習支援　□その他の学習支援　□スポーツ　□芸術・文化　□体験活動　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）全校児童対象の活動

学年	項　目	具体的な取組内容
全校児童	朝の読み聞かせ	・読書ボランティア「にょきにょき」さんに、毎週木曜日、朝読書の時間に、２学年ずつ各学級で読み聞かせをしていただく。また、毎学期１，２回、昼休みに開催してくださるお話会を楽しみにしている。
	見守り あいさつ運動	・日常的に登下校時、学校周辺の交差点で、ボランティアの方々による子ども見守り活動をしていただいた。特に月の初めと中旬の朝には、地域の役員さんとともに，６年生の子どもたちも参加して、校門であいさつ運動を実施した。

（２）学年の活動と連携・協働した活動

学年	項　目	具体的な取組内容
３年生	ふるさと体験学習	・信長ねぎの収穫、ちまきや野菜せんべい作りの各体験をする地域学習を行った。
４年生	西の湖学習	・地域の方々の協力を得て、和船に乗って身近な西の湖巡りを行い、環境について学習した。
５年生	米作り体験	・米作りの一連の活動を、ボランティアの方々の協力を得て行った。
６年生	茶道体験	・地域の施設の和室で、茶道教室の先生の指導により本格的な茶道体験をさせてもらった。

■　実施に当たっての工夫

〇教職員が地域学校協働活動推進員と日常的に連絡を取り合い、学年が必要とする地域人材の情報を共有することに努めている。また、地域の人材を招いたり地域に出向いたりして学習したりする際に、地域学校協働活動推進員から、多くの有益な情報を得ている。

〇あいさつ運動には、大人だけでなく、６年生を中心に児童会の子どもたちが参加して、朝のあいさつが気持ちよくできるように活動を盛り上げている。

〇読書ボランティア「にょきにょきさん」と教職員や地域学校協働活動推進員が、日常的に情報交換しながら、子どもが本に親しむ活動を推進している。

【５年生　稲刈り】

■　事業の成果

〇地域学校協働活動推進員が教職員と連携を密にし、担任の思いや要望を把握することで、適時、適材の地域ボランティアの方々を講師として招いたり、地域での学習に協力いただいたりすることができた。

〇地域ボランティアの協力を得ながら、地域ならではの体験学習に取り組むことにより、地域のよさを学ぶことができ、ふるさとを愛する子どもの育成につなげることができた。

〇子どもたちが多くのボランティアの方々とふれあう機会をもつことにより、コミュニケーションが取れるとともに、地域の大人に見守られているという安心感を持つことができた。ボランティアの方々も、体験を通して子どもたちと関わることで、やりがいや生きがいを感じていただいている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇地域のよさや伝統の技などを伝えていただく方の高齢化に伴い、支援者がだんだん減ってきている。地域の新しい人材を発掘し、いかにボランティアの登録者を増やしていくかが課題である。そのためには、学校の様々な活動を通信やホームページ等で広く発信するとともに、情報収集に努める必要がある。

〇コミュニティセンターやＰＴＡとの連携を深め、広く地域住民を巻き込んだ取組を進めていく必要がある。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（〇）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

老蘇のあたたかさにつつまれた「ふるさと学習」でもっと老蘇を好きになる　（老蘇小学校）

近江八幡市	活動名：老蘇小学校地域学校協働本部	老蘇小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：60 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

［放課後子ども教室］　主な活動場所：老蘇小学校図書室　年間開催日数：20 日　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）

平均スタッフ数：３人　平均参加人数：15 人　開始年度：平成 29 年度

・活動日　：　□月　□火　□水　■木　□金　□土　□日　□長期休業中

・活動内容　：　■学習支援員を配置した学習支援　□その他の学習支援　□スポーツ　□芸術・文化　□体験活動　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）豊かな自然から学ぶ

・ビオトープでの体験活動（全学年）　・タケノコ掘り（２年）　・西の湖学習（４年）　・ヨシ灯り作品作り（４年）

・田んぼへの稚魚の放流（５年）　・田んぼでの生き物調べ（５年）

（２）働く人から学ぶ

・野菜の栽培（２年）・ハチミツ採取体験（２年）・まち探検（２年）

・ネギ農家見学（３年）・養豚場見学（３年）・イチゴ農家見学（３年）

・自動車部品工場見学（５年）・米作り体験（５年）・揚水機場見学（５年）

（３）歴史や伝統から学ぶ

・昔の遊び体験（１年）・ふるさとの偉人から学ぶ（２年）

・昔の暮らしについての聞き取り（３年）・ゴミ処理についての学習（４年）

・老蘇消防団の方のお話（４年）・ふるさと絵屏風の話（４年）

・シーサー作り（５年）・お茶碗製作（６年）・お茶たて体験（６年）

・戦争体験の聞き取り（６年）

【ネギ農家の見学】

（４）支えのもと学ぶ

・登下校の見守り（全校）・絵本の読み聞かせ（全校）・家庭科ボランティア（５年・６年）・米作り体験（５年）

・マラソン大会立ち番（全校）

■　実施に当たっての工夫

・多くの活動が、以前から引き続き行われているものなので、“活動ありき”にならないよう、担任が活動の意義やねらいを明確に持つことを意識している。

・他教科や領域とも関連付けながら活動を進められるように、カリキュラムを構成している。

・活動の様子を「地域支援だより」「校長通信」「学校だより」やホームページ上で発信し、指導者や協力者にお礼の気持ちを伝えるとともに、地域や保護者に対して、活動内容や活動意図への理解が進むようにした。

■　事業の成果

・多くの人と出会い、様々な体験をすることで、いろいろな考え方、生き方に出会うことができた。自分の生き方を見つめ直し、将来の夢などについて考える機会が増え、夢や展望を持つ児童が増えた。

・ふるさとの自然や歴史、文化、人などについて知ることで、自分が住んでいるふるさと“老蘇”のよさを再発見することにつながり、そこに住んでいる自分にも自信が持てるようになった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・子どもの活動や思考の流れにそって体験活動を組み入れることで、それぞれの体験活動の効果が出るので、単元全体の構成を熟考する必要がある。

・体験活動の多くは、講師を招いて指導いただく方法を取るので、児童の主体性を生かす工夫が必要である。「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、課題作りの段階で、児童の課題意識をどれだけ高められるかが重要である。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

・学校運営協議会では、地域の文化、歴史、人材などについての話題がよく上がる。学校と学校運営協議会が密に連携することで、地域の思いを反映した教育ができ、また、学校が要望する支援を地域から受けられるようになる。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

「地域の方は学校へ、八中生は地域へ」の相互関係を大切に　（八幡中学校）

近江八幡市	活動名：八幡中学校地域学校協働本部	八幡中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 25 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：100 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）授業支援ボランティア
　１年被服実習支援（７月）　全学年水泳実習支援（６月～７月）
　全学年書道（毛筆）実習支援（10 月）　全学年剣道実習支援（10 月～11 月）

（２）総合学習支援ボランティア
　１年八幡フィールドワーク支援（10 月）
　２年職場体験学習交通安全指導支援（11 月）特別支援学級茶道体験支援（３月）

（３）人生伝承塾・・１年生
　目的を近江八幡に根づく伝統工芸や物産、現代社会を形成する新技術など、近江八幡での「ものづくり」の見聞、体験を深め、「ものづくり」の楽しさ、難しさ、人間が生み出した技術のすばらしさを知る。加えて、生徒が自分の将来や身近な職業ついて考える機会とし、以下の場所で 12 月上旬の午後に実施する。

【剣道実習】

伝統工芸・・・数珠玉加工（株式会社カワサキ）、藁細工（西川畳店）、瓦細工（かわらミュージアム）、陶芸（水茎焼き陶芸の里）、座布団製作（愛善ふとん）、インクジェット印刷（美十）、皮革製品（コトワ靴製作所）、皮革製品（Cogokoro）、でっちようかん（清寿家）、靴べら製作（八景会）、小銭入れづくり（人権ネットワーク八幡）、パン作り（お菓司にしかわ）、巻きずし（ひょうたんや）
現代の新技術・・工業製品（八幡工業高等学校）

■　実施に当たっての工夫
〇各コミュニティセンターと連携を密にとり、地域から広くボランティアを募っている。
〇職員室に地域学校協働活動推進員の座席を設け、常に交流が持てるようにしている。
〇実技教科の実習では授業中の活動なのでボランティアの方が何を、どこまで生徒に接していけばよいのか等話し合う直前の打ち合わせを重視している。

■　事業の成果
〇実技教科の実習では、教師一人では目が届きにくい場面が多々ある。各授業に平均３～４名の支援ボランティアの方が来てくださり、生徒にとって有益であった。
〇例年同じ活動を積み重ねている中で、新たなボランティアの方も来てくださるようになった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
〇ボランティアの方の専用の部屋を確保できず、休憩時間など車の中で休んでもらっていることもある。また、猛暑の中での水泳実習では、くれぐれも無理のないようお伝えしているが、ボランティアの方の熱中症等の心配もしている。
〇例年の積み重ねもあり、年々スムーズに支援活動が進むようになってきた。生徒の実際の様子を地域に発信していってもらう役割も今後期待していきたい。

■　その他
　めざす地域連携の形として【学校を支援する地域】⇔【地域に貢献する学校】を目指している。八中太鼓の地域での演奏や生徒個々も各学区のイベントにボランティアとして積極的に参加している。また、職員も一人５回の数値目標を立て地域の行事（懇談会・お祭り等）に進んで参加するなど「地域に貢献する学校づくり」を目指している。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印
（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（　〇　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（　〇　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

開巻有益　～心ときめく図書室の充実をめざして～　（八幡東中学校）

近江八幡市	活動名：八幡東地域学校協働本部	八幡東中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：10 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）
（１）学校司書（週２回）と図書ボランティア（月１回）との協働により、読書への関心を高める。
（２）図書ボランティアの方にも本の貸し出しを行い、生徒との共通の話題作りを行う。
（３）学校図書館運用会議（月１回）により、学校司書、地域学校協働活動推進員、教員が図書館の有効活用のための連携を図り、地域との連携を図るための活動を協議する。
（４）ＰＴＡの会議などを図書室で行い、保護者、地域に対して開かれた図書室をアピールする。
（５）ＰＴＡによる学級文庫や蔵書充実のための支援・協力を図る。
（６）近江八幡市教育大綱の目標にある「読書環境の充実」をめざす。

【図書ボランティアの活動の様子】

■実施に当たっての工夫
〇教員、学校司書、地域学校協働活動推進員が連携し、ボランティアの協力を得ながら、学校行事や授業での学習内容を把握し、それに応じた特設コーナーを設置するなどして生徒の興味や関心に応じた図書室運営を行う。
〇生徒が主体となって図書室運営をするために、生徒会図書委員会や放送委員会などと連携しながらボランティアだけの取組にならないように配慮する。
〇季節や時期に応じた図書室内、図書室前掲示板、生徒昇降口などの表示の工夫をする。

■　事業の成果
〇図書室の雰囲気の向上により、生徒会図書委員会の活動が活発になり、開館日の当番活動や、本の紹介文（ＰＯＰ）の製作など様々な活動を精力的に行うようになった。
〇ボランティア任せにならないように、協働の視点を大切にすることで、教職員、生徒、地域の方に自分たちの学校という意識が芽生えているように感じる。
〇一昨年度から図書室の充実に特に力を入れており、継続的に取り組むことで、生徒の図書室利用者や借りる冊数も増えており、落ち着いた学校づくりに結びついている。
〇ボランティアを含め地域の方との交流の場が持て、開かれた学校づくりに役立っている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
〇図書ボランティアと教職員だけの取組ではなく、一昨年度から本事業として地域学校協働活動推進員を配置されたことと、市から週２回学校司書を配置されたことにより、より組織的に図書館運営が行えるようになってきた。しかし、まだまだ定着しているとは言い切れないため、事業の継続を切に望む。
〇地域学校協働活動推進員の勤務時間や事業予算が削減されたため、事業の充実のためにも予算の増額を希望する。

【図書ボランティアによる図書掲示】

■　その他（学校運営協議会との連携等）
※開巻有益…読書はためになるということ。読書を奨励する語。「開巻」は書物を開く意。転じて読書。「有益」は役に立つこと。「八幡東中学校図書だより」のタイトル。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印
（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（〇）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（〇）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域とともに子どもを育てる地域学校協働本部事業　（八幡西中学校）

近江八幡市	活動名：八幡西中学校地域学校協働本部	八幡西中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 21 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：30 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）学校を支援していただく一方的な取組だけでなく、１年生技術科の栽培分野の学習に桐原学区協働のまちづくり協議会の事業である「地域花いっぱい運動」の予算をいただき、プランターで花を育て、校区の幼稚園や小学校、コミュニティセンターや子どもセンターなどの施設へお裾分けを行っている。

（２）本校は、地域行事への生徒の参加を推進しているが、特に学区の運動会の日は部活動を中止して参加を呼びかけている。部活単位で運動会の役員も担っている。
　また、吹奏楽部の発表の場として、または、生徒会のボランティア活動の場として地域の文化祭等の行事にも参加している。

（３）地域学校協働活動推進員のネットワークを生かして、学校環境を整えるためのお手伝いを依頼した。例えば地域の大工さんにお願いして木製のスロープを製作してもらって設置し、バリアフリー化し、定期的に華道の先生に来校してもらい、お花を生けてもらうとともに、華道の世界の魅力を紹介してもらうなど、学校環境作りに地域の方に協力していただくことができた。

（４）人権学習ではそれぞれの学年で、自らの体験や活動を語っていただく講師としてボランティアにお世話になった。さらに、定期テスト前に本校の卒業生で教師を目指している大学生を中心に質問教室の学習支援をしていただいた。

（５）部活動については、毎年、地域から大きな支援をいただいている。現在、テニス部、吹奏楽部では、ほぼ１年をとおしてお世話になっている。これらの部活動のボランティアは毎日の部活動だけでなく、練習試合、公式試合でも時間が許せばベンチに入り、指導をしていただいている。技術指導だけでなく、マナーや試合に臨む心構えなど、学校教育方針に沿って指導していただいている。

【授業で栽培した花を地域へ】

【地域文化祭の模擬店の運営協力】

■　実施に当たっての工夫

○学習支援や部活支援など生徒に直接関わることで支援していただく場合、生徒の学力や性格などを理解し行う必要がある。個人情報の取り扱いについては十分配慮を行い、ボランティアにも十分説明をしたうえで実施をしている。さらに、必要に応じて担当教員とボランティアが話すようにしている。

○地域の支援をいただくという一方向だけの取組だけでなく、地域コミュニティセンターと連携して、生徒が地域で活動したり教職員が地域に出向いたりする機会を増やすよう取り組み、学校と地域が共に子どもを育てる実践を行った。

■　事業の成果

○保護者や地域の学校への関心が高まり、理解と協力が増え、学校としての評価が高まった。

○生徒が地域で活躍する行事や機会を自治会や町づくり協議会で作っていただき、生徒が地域で活動することも増えてきた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○地域には子どもの健全育成に対して熱心に取り組んでこられた方もたくさんおられる。学校教育に協力の意思を示してくださっている方もあるが、「学校の考えるニーズと地域の支援者の一致」が事業発足当時からうまく進展しないという実態がある。

○地域との連携・協働を進めるには、教員も地域に出向き地域の方と話したり、地域で活動したりすることが必要になる。そのための時間確保や時間外勤務、土・日の出勤等が新たな課題となる。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（　○　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（　○　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（　○　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

ふるさとに愛着と誇りを　～地域の人材を活用したふるさと学習の推進～　（安土中学校）

近江八幡市	活動名：安土中学校地域学校協働本部	安土中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 22 年度　地域学校協働活動推進員等数：　1 人（兼務　人）　ボランティア登録数：　50 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）総合的な学習の時間「ふるさと学習」
地域を知るため、地域ボランティアを依頼して「安土城趾」「観音寺城趾」をめぐって、フィールドワークを行う。

（２）地域行事への中学生の参画
中学生を地域の行事（体育大会、文化祭、福祉フェスティバル等）に参画させることで、地域の一員としての自覚を持ち、ふるさとを愛する心を育てる。地域としても、行事に参加することで関心を持ってもらい、活性化させる。

（３）茶道体験学習
安土において織田信長が盛んにしたと言われる茶道について、地域の茶道の先生を招き、茶室や和室を会場として１年生で全員が茶道を体験する。茶道のお手前だけでなく、その歴史と精神にも触れてお話を聞く。

（４）浴衣の着付け、地元食材を活かした調理実習
家庭科の授業で、地域の方をコーディネートし、指導していただく。

（５）読み聞かせ、図書館ボランティア
地域の読み聞かせボランティアに朝の会で読み聞かせをしてもらう。また、図書館ボランティアとして昼休みの図書室の開館をお願いし、毎日図書室を開館するとともに、地域の方と中学生が接する機会とする。

【お茶の先生を招いての茶道体験学習】

【浴衣の着付け教室】

■　実施に当たっての工夫
〇学校と地域のニーズを結びつけることを、地域学校協働活動推進員と連携して考え、具体化するようにしている。
〇学校の教育課程に「ふるさと教育」として年間計画に位置づけて取組を行う。

■　事業の成果
〇中学生の活動を紹介することで、地域からも評価を受け、活動の場が広がってきた。
〇地域の方に、得意分野を活かした授業や環境整備にボランティアとして参画してもらうことにより、教育活動が深まった。
〇「ふるさと教育」を通して、地域のことや地域の人々を知り、ふるさとに関心を持ち、愛着を持たせることができた。

茶道体験学習の生徒感想
・日本の歴史的文化はこれからも大切だと思う。外国からのものばかりに流されず、日本独自の文化にもたくさん触れていくべきだと思った。
・お茶をとおして相手を思うことが大事だと感じました。作法だけでなく、全てのことを丁寧にしていき、相手のために全力を尽くすことが必要だとわかりました。
・お茶を飲む、ただそれだけなのに、全然違う一日になったと感じました。また、飾られるお花にもこだわりがあり、意味があって驚きました。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
〇地域ボランティアのリストを充実させること
〇地域のニーズと学校のニーズの重なりを検討すること

■　その他（学校ホームページ）
安土中学校 HP　http://www.city.omihachiman.shiga.jp/~anchu/

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印
（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

“にこにこ、きらきら、武佐っ子”を育む　あったか支援の力　（武佐こども園）

近江八幡市	活動名：武佐こども園地域学校協働本部	武佐こども園　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 27 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：20 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

①えほんタイム

毎月２回、各クラスに絵本の読み聞かせを行う。手遊びなどを交えながら、たくさんのお話を読んでもらうことで、ボランティアの方との交流も深まり、子どもたちは毎回楽しみにしている。また、各年齢の参観時には、図書館司書による『お話会』を開催している。夏季の貸し出しのない時期に、絵本の修理を行っている。

【絵本タイム】

②栽培活動

夏野菜や、さつまいもの植え付けなど、季節に応じた野菜や花の栽培を園児と一緒に行う。園児は、苗の植え付けや種の蒔き方などを教えてもらったりすることで、栽培に興味をもち、世話をしたり、生長の様子を見たりすることも楽しんでいる。

秋には一緒に芋掘りをし、収穫したさつまいもで、ホクホクのやきいもを一緒に味わい共に収穫を喜んだ。

③行事支援

食育活動をはじめ、焼き芋や餅つきなどの行事の補助をする。食育教室では、豆腐の切り方や米のとぎ方などを丁寧に知らせ、作る楽しさや食べる喜びを一緒に感じられるように調理補助を行っている。

今年度は、ゲストボランティアとして地域の方を招き、一緒に凧作りも行った。

④保育教材作り（布製おもちゃ）

指先を使って遊べる布のおもちゃ作りを中心に、人形の服の修理や作成などを行う。また、出来上がったおもちゃを使って一緒に遊ぶ『ふれあいタイム』では、子どもが手作りのおもちゃで喜んで遊ぶ様子を見守ったり、ふれあったりすることで次の制作への計画につながっている。

【ふれあいタイム】

⑤あいさつ運動

毎月１日、15 日にあいさつ運動を行っている。園長と一緒に通園門前に立って挨拶をしながら迎える。５歳児もあいさつ運動に参加することで、保護者への啓発になっている。

■　実施に当たっての工夫

〇ボランティア活動を知ってもらうために、活動の様子を掲載した通信を保護者向けに発行し、情報発信をしている。
〇未就園児の子どもを連れての保護者も参加しやすいように、職員でサポートし合う。
〇保育教材作りは園児と直接触れ合う機会が少ないので、出来上がった教材をボランティアが保育室に持っていき、一緒に遊んだり園児が感謝の気持ちを伝えたりするようにしている。

■　事業の成果

〇毎月定期的に行っている『絵本タイム』では、「今日は、どんな絵本かな？」と園児が心待ちにしたり、色々な人とのふれあいや、おはなしを楽しんだりする姿が見られ、継続した取組のよさを感じる。
〇行事支援や栽培活動などを通して、職員も知識や方法などを経験豊かな方から教えてもらうことができ、保育の中に取り入れていくことで、子どもたちの興味・関心を高めることにつながっている。
〇おもちゃ作りや栽培活動など、職員だけではなかなか出来ないことに協力していただき、保育環境がよくなり園児の活動がより充実している。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇今年度は、ボランティアに保護者の参加が増え、保護者どうしの交流にもつながっている。今後も誘いかける中で関心を広げていきたい。
〇行事支援については事前の打ち合わせと段取りを行うことで活動がスムーズに行えるので、大切にしていきたい。
〇地域の行事等に参加し、園と地域の交流を広げる中で、地域の人材から新たにボランティアに参加してもらえるよう働きかけていきたい。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

〇園運営評議会の評議員としてボランティアさんにも入っていただき、園の様子を伝えたり、助言をもらったりして連携している。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（　〇　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（　〇　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

子どもは地域の宝！地域のみんなで育てよう！ （八幡幼稚園）

近江八幡市	活動名：八幡幼稚園地域学校協働本部	八幡幼稚園 学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］ 開始年度：平成 27 年度 地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人） ボランティア登録数：15 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） □地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援

■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

□地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 □郷土学習 □その他［ ］

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）歌指導 月に１回、５歳児が歌の指導をしてもらうことで、歌う時の姿勢や心をこめて歌うことの大切さなどを学ぶことができた。また、学区の行事で歌の発表をして、地域の方にも聴いていただくことができた。

（２）江州音頭指導 ゲストティーチャーを迎え、祖父母参観日に子どもと祖父母を対象に指導していただいた。初めて江州音頭を踊る方、懐かしさを感じる方がいた。歌詞や振付に込められた意味を教えてもらいながら、地域の伝統文化に親しむ機会となった。

【江州音頭指導】

■ 実施に当たっての工夫

〇コミュニティセンターや園の保護者が集まる機会にチラシを配布し、地域から幅広くボランティアを募った。また、活動の内容をまとめたお便りを保護者向けに発信し、関心をもってもらえるようにした。

〇保護者ボランティアについては、活動の時間を登園時や降園前の１時間程度に設定し、気軽に無理なく参加できるようにした。

■ 事業の成果

〇初めての集団生活を送る３歳児にとって、地域の人たちに関わってもらうことで安心して幼稚園生活を送ることができた。

〇地域の行事に参加することで、子どもたちが自分の住んでいる地域に関心や親しみをもつことができた。（松明見学、左義長見学、文化の日の集い参加等）

〇地域の方との関わりの中で、子どもたちは「こんにちは」「ありがとう」等の言葉を交わしている。感謝の気持ちや社会のマナーが自然に身に付き、育つ機会となっている。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇ボランティアが固定化しないよう、現在活動してくださっているボランティアの方々を中心にしながら、支援ボランティアの参加拡大を図る。また、少しでも多くの方に参加してもらえるよう、時間帯の設定やチラシ配布などの工夫をする。

〇園の行事と支援していただける事業をうまくかみ合わせ、有効な人材活用ができるようにする。

〇継続的な地域の方々との関わりにより、優しく関わってもらった経験を積み重ね、感謝する気持ちがもてるよう、子どもの心を育てていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

～　地域のみんなで岡山っ子を育てよう　～　（岡山幼稚園）

近江八幡市	活動名：岡山幼稚園地域学校協働本部	岡山幼稚園　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 25 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：35 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□郷土学習　■その他［　保育参加　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）
・３歳児の入園当初の見守りや生活支援、プール遊びの見守りや着替えの支援、給食の見守りや支援
・保育参観日等の託児
・葉刈り、花苗植え、畑作業
・折り紙、手品、コマ回し、お茶席体験、歌唱指導、フラワーアレンジメント教室、木工教室など

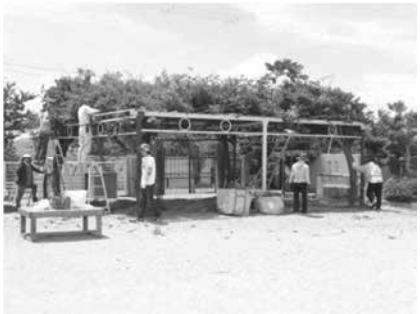
■　実施に当たっての工夫
・実施に当たって、園と地域学校協働活動推進員の方とでどのような支援や活動をしていただきたいのか打合せをし、その都度ボランティアの方に依頼をした。

■　事業の成果
・ボランティアの方は幼稚園事業に理解を示し、とても協力的に活動してくださっている。
・体験活動では、地域に人材が豊富で毎年恒例になっている活動がたくさんあり、子どもたちとの関わりも深まっている。また、ゲストティーチャーに憧れたり、より親しみを感じたりして、活動への意欲を持つことにつながっている。
・地域の方に園に来ていただくことで、園のことや園児のことを知っていただく機会になっている。
・地域の方との自然なふれ合いができるとともに、自分たちのために活動してくださっていることに感謝の気持ちを持つことができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
・ボランティアの方々が活動の中で感じておられることなどを聞かせてもらう、話し合いの場をつくることができていない。地域学校協働活動推進員の方が聞いたことを伝えてくださっているが、直接話ができる場を設けていきたい。
・毎年恒例になっている活動が多く、交流が深まってきているが、今後はさらに人材を発掘していきたい。

■　その他（学校運営協議会との連携等）
・地域の情報誌の１ページに“ふれあいひろばだより”として掲載したり、園のホームページにアップしたりして地域や市民に活動内容を発信している。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印
（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。



【葉刈り】

【コマ回し教室】

地域とともに・・・子どもたちに豊かな体験を （桐原幼稚園）

近江八幡市	活動名：桐原幼稚園地域学校協働本部	桐原幼稚園	学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］ 開始年度：平成 25 年度 地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人） ボランティア登録数：40 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） □地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 □子どもの安全確保、見守り □部活動支援
□学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 □郷土学習 □その他［ ］

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）絵本の読み聞かせの活動は、３歳児は午前中、４・５歳児は給食が終わって一息ついた時間に地域のボランティアさんが来てくださる。ボランティアの方々が絵本を読んでくださる間、目をキラキラさせて絵本に集中してくれる子どもたちを見て、次はどの絵本を読んであげようかとボランティアの方々も楽しみに来てくださる。絵本は昔から読み継がれたもの、科学系のもの、季節にそったもの、子どもたちとの掛け合いをしながら楽しむものなど、さまざまな絵本を保護者や先生以外の方に読んでもらうのは子どもたちにとって良い経験になる。

（２）園庭にある畑の下準備作業に参加してくださる地域の方は、農業をやっておられる方が多く、肥料の種類や量、土作りの仕方などを教えてもらいながら保護者のボランティアとも連携し作業している。保護者のボランティアは農作業になじみがないため、地域の方との異世代交流にもなっている。耕うん機での耕し作業の時には、見たことのない機械の動きに子どもたちが喜んでいた。

（３）運動遊びは、園全体で取り組んでいる活動の一つである。今年度は、保護者の運動クラブの方にボランティアとして、子どもたちに運動時の援助の方法などについて学ぶ機会を設け、学んだ事を子どもとの活動時に活かしてもらった。

■ 実施に当たっての工夫

事業の活動内容・成果をお便りにまとめ、月に一回程度作成・配布し、ボランティア活動の中で興味のあることから参加してもらえるようにした。成果を知らせることでボランティアの意欲も湧く。

【畑の耕し作業】

■ 事業の成果

〇地域の方や保護者が畑の作業をしている様子を子どもたちが見て、その畑に子どもたちが種を蒔く・苗を植える・水をやるなどお世話することにより、植物が生長するのを体験し、それを収穫し食べることの喜びを感じることができた。家では食べなかった物でも幼稚園で作ったことで食べられるようになったと話してくださる保護者もいる。

〇本園にボランティアに来てくださる地域の方は、スクールガードや小学校のボランティアとしても子どもたちと関わってくださる方も多いので、小学校に入学してからも見知った人が通学路などで見守ってくださることが子どもたちの安心材料になっていると思われる。

〇ＰＴＡ総会や講演会の際の未就園児の託児支援は、普段ゆっくり話を聴けない保護者も集中して聴くことができたと喜んでいた。

〇運動クラブの保護者に研修を通し指導法について学ぶ機会を持てたことで、新たな支援ボランティアの育成につながった。

【運動クラブさんと遊ぼう】

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

ボランティアが固定化してしまう。参加してくださる方が偏ってしまうので、ボランティアの負担にならないように支援ボランティアをどうやって増やしていくかが課題である。より地域や保護者に活動状況を発信していければと思う。

■「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域の人や自然とのふれ合いで心豊かに！自分が好き、人が好き、馬淵が好き、馬淵っ子（馬淵幼稚園）

近江八幡市	活動名：馬淵幼稚園地域学校協働本部	馬淵幼稚園　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：23 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）絵本大好き！

・毎月２回絵本ボランティアの方が２名、各クラスに絵本の読み聞かせに来てくださっている。ボランティアの方が“子どもたちへ”と遊びや季節に応じて厳選してくださった絵本は、幼児にとって興味深く楽しみな時間となっている。また、４月から回数を重ねるごとに、絵本についてだけでなくいろいろな話のやりとりを楽しめる特別なお客様の時間になっている。

・未就園児を対象にした絵本貸し出しでは主に在園児の弟妹の利用が多いが“お兄ちゃん、お姉ちゃんと同じように絵本を借りる”ということがとても嬉しそうで繰り返し借りる姿がある。また保護者は貸し出しに来てくださるボランティアの方に“気軽に子育てについて話せる大先輩ママ”として、悩みを相談したり、園で過ごしている我が子の様子について良いところを知らせてもらったりしている。

（２）遊ぶの大好き！

・ 幼児一人ひとりとの関わりが必要な遊びの場面の中でボランティアの方が参加したい遊びを選んで来ていただき、幼児が１人ずつ認めてもらったり励ましてもらったり一緒に楽しんでもらったりやり方を教えてもらったりできるようにした。縄跳びで跳んだ回数を数えてもらったり、雲梯や鉄棒でできるようになったところを見てもらったり、凧揚げしたりなどして一緒に過ごしていただいた。

・遊びに必要なままごと用エプロンや戸外遊び用テーブルを作っていただいた。また、生活や遊びの場が整うようにピアノカバーや目隠しカーテンなども作っていただいた。

■　実施に当たっての工夫

〇地域学校協働活動推進員の方の声かけがきっかけとなって、ボランティアに来ていただける方々の輪が広がり、いろいろな方にお越しいただくようになった。それぞれの方の特技や生かしてみようと思われる職歴・幼稚園でやってみたいことなどを教えていただいて、園で支援をお願いしたい場面をお伝えし、どの関わりをどのようにお願いするかなど具体的に話し合うことを大切にした。

■　事業の成果

〇単学級で園児数も少なく人とのかかわりにおいて課題のある環境の中で、いろいろな人とかかわることのできる機会となった。

〇ボランティアの方が少しずつ増えて幼児の遊びや生活の様々な場面で関わってもらえるようになったことで、共に遊びに参加してもらい幼児の遊びへの満足感がより満たされた。また遊びや生活に必要なものを作っていただいたことで場が整ったり豊かになったりした。

〇未就園児の絵本貸し出しでは、ブックスタートの良い機会となった。また子育ての中で絵本の読み聞かせの時間を大切にするきっかけにもなった。保護者は教師の他に我が子のことについて話せる場としてボランティアの方と話すことに期待をもつようになり、幼稚園をより身近に感じていただけるようになった。

〇園畑での栽培支援では苗植えや種蒔きの当日だけでなく、その後の生長についても気にかけていただき、必要に応じてアドバイスをもらい、草むしりや支柱の設置などをお手伝いしてくださるようになった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇遊びや生活の環境づくりをしていただく時には、幼児に危険がなくボランティアの方に来ていただく時間と合うようであれば制作の様子も見せていただき、身近な“地域の人との関わりの場”としていく。そして感謝の気持ちをもったり、作っていただいたものを大切にしようとする気持ちを育んだりしたい。

〇栽培支援についてはボランティアの方に園にお越しいただいたときは幼児もともに世話などができるように誘いかけ、関わりが増え一緒に野菜を育てることが楽しみにできるようにしたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（　〇　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（　〇　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

【祖父母交流（折り紙）】

保護者・地域の方のキラッとを保育の中に・・ （金田幼稚園）

近江八幡市	活動名：金田幼稚園地域学校協働本部	金田幼稚園 学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］ 開始年度：平成 23 年度 地域学校協働活動推進員等数：１人 ボランティア登録数：30 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） □地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 □子どもの安全確保、見守り □部活動支援
■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 □郷土学習 □その他［ ］

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）
・週１回の読み聞かせの活動には、卒園児の保護者からも新たな登録があり、協力者が増えつつある。活動が定着しているので、子どもたちは、ボランティアの方と親しくなり、いろいろな絵本との出会いを楽しみにしている。
・以前から作っていただいた段ボール製の滑り台等今年度も補修をしていただき、物を大切にしようするという意識にもつなげていけた。
・園周辺の環境整備（生け垣の整備や除草）や１年を通じての栽培活動など地域の方や園児の祖父母に来ていただき、一緒に収穫を喜び、栽培活動への関心も高めている。
・地域の方から、毎年栗畑での栗拾いに招待していただいている。20 年以上続く秋の行事となっている。事前に手作り紙芝居で、栗拾いができるのは、お世話をしていてくださるからということをわかりやすく伝えている。
・伝統ある篠田神社の花火の話を聞かせていただいたり、コスモス畑に出かけたりなどして地域の文化や自然に触れる機会をもっている。
・学区内の保育園、高校との交流や、コミュニティセンター（文化祭・独居高齢者との触れ合い）との交流も継続している。

■ 実施に当たっての工夫
・園が必要としている支援に、ボランティアの得意分野を生かしていていただけるよう連携をしている。
・除草や栽培活動では、園児には直接見えない時間に活動していてくださることが多いので、行事の時に招待したり、年度末には、感謝の気持ちを持てるように”ありがとうの会”を開いたりして、直接園児がボランティアの方と触れ合える機会をもっている。

■ 事業の成果
・地域に出かけたことで、家庭からも出かけるきっかけや地域行事に関心を持つことができた。
・継続しての活動では、ボランティアの方から声をかけていただき、卒園後も何かのお手伝いができればと新たに登録していただいた方もある。園が地域の方の力を得意分野で生かす場となっている。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
・地域の方からもいつも、積極的に声をかけていただき進んで活動していただいているが、負担感があるのではと危惧している。
・園児の保護者がもっと参加できるような活動内容を考えたり、地域の人材発掘を活かしたりする工夫が必要である。

■「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印
（ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

【篠田神社で花火のお話を聞いたよ】

【大きな栗をいっぱいみ～つけた】

“心わくわく　みんなが輝く　ボランティア活動”　（北里幼稚園）

近江八幡市	活動名：北里幼稚園地域学校協働本部	北里幼稚園　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 25 年度　地域学校協働活動推進員等数：1 人（兼務０人）ボランティア登録数：20 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■ 学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

①紙芝居・絵本の読み聞かせ

地域ボランティアや保護者ボランティアによる紙芝居や絵本の読み聞かせを、毎月１回ずつ定期的に取り入れている。数年前から取り入れているので、読み聞かせの活動が定着しており、子どもたちも楽しみにしている。英語の絵本の読み聞かせを含めた“英語で遊ぼう”も、５歳児を対象に毎月行った。

②食育活動支援

幼児課主催の食育教室で、保護者のボランティアを募り、手伝っていただいたり、園や地域の畑で収穫したサツマイモを焼き芋にしたり、大根やにんじんをおでんに調理して食べたりした。旬の野菜をいただくことで食に関する意識を高めることができた。また、包丁を使う経験をしたことで自信と関心が持て、その後家庭でも料理をする姿が増えたようである。

③託児支援

参観日等の保護者が参加する行事に、就園前の子どもの託児をする活動を行っている。在園児の様子をゆっくり参観でき、講演会での話もじっくり聞くことができるので、好評を得ている。

④教材作り

園児がままごと遊びの保育活動の中で使うエプロンや食物等を布やフェルト等で、手作りしてもらう。

⑤園行事支援

お茶会や運動会などの園行事に参加し、サポートしてもらう。

⑥環境整備支援

プランターの花植えや、野菜の苗植えなど環境整備や栽培活動を共に行っている。

■　実施に当たっての工夫

・今年度の初めに、ボランティア便りを発行し、学区内にボランティアの募集を行った。
・幼稚園から発行している便り（地域向け、保護者向け）に記事を掲載し、活動の様子を情報発信した。

■　事業の成果

・この事業を通して、様々な人との触れ合いが広がり、子どもたちにとっても多くの人に見守ってもらえているという安心感があり、良い経験となっている。
・保護者ボランティアと地域学校協働活動推進員が、活動後に反省会をしながら会話できることがまた良い交流の場となり、子育ての励みにもなっている。また、地域ボランティアと保護者ボランティアとが、共に活動することで顔見知りになり、地域の中での交流にもつながっている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・継続的に地域の方に幼稚園に来ていただくことができたが、今後はさらにいろいろな方に参加していただき、有効な人材活用ができるようにする。また、子どもたちの健やかな育成につながるような事業内容となるよう、検討を加えていく。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

【お茶会】

【英語で遊ぼう】

げんき・いきいき・あづちっ子　～つながる・ひろがる・ボランティアの輪～　（安土幼稚園）

近江八幡市	活動名：安土幼稚園地域学校協働本部	安土幼稚園	学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 24 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：56 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）託児

参観日等保護者が参加する園行事に、就園前の子どもの託児をすることで、ゆっくり安心して自分の子に関わることができている。ボランティアの持ち味を生かしながら、子どもたちに関わってくださることで、家庭とは違う人との関わりがもてるとともにボランティアの方にとっての生きがいの場ともなっている。

（２）おはなし・図書

おはなしボランティアによる月１回の子どもたちへのおはなし会をしている。子どもたちの興味関心に合ったものや季節感のあるものを選んでくださり、幼児の楽しみな時間になっている。園のなつまつりでは、おはなしコーナーを設け、親子で楽しんでもらうよい機会となった。また、図書ボランティアによる絵本棚の整理や絵本の修繕、壁面制作など居心地のよい絵本室は、子どもたちがより絵本に親しめる環境になっている。

【なつまつりおはなし会の様子】

（３）環境

幼児とともに園庭や正門周辺の花壇の花植えを行っている。丁寧に関わってくださり、幼児が興味をもって取り組むことができた。また、園庭の芝刈りや除草作業などを行うことで幼児が思いきりのびのびと活動できる環境になっている。

■　実施に当たっての工夫

〇地域学校協働活動推進員・ボランティアの方と幼児の姿を共通理解し、保育内容について見通しを立てながら、活動を工夫している。また、子どもたちのために尽力してくださっていることに職員が感謝の気持ちを持ち、そのことを幼児も感じられるようにした。

〇誰もができる時に参加するボランティア活動ということをベースに、個々のキラリと光る持ち味や特技を生かせる場を模索していくことで、ボランティア自身がよりやりがいを感じながら、活動できるようにしていった。

【ボランティアだより(ボランティア作)】

■　事業の成果

園、地域学校協働活動推進員、ボランティアそれぞれがもっている“幼稚園をよくしたい”“子どもたちのために”という思いが園を支え子どもたちの成長や安心･安全につながっている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇地域学校協働活動推進員が活動をコーディネートするために、子どもの実態や課題等を理解しながら活動に参加したり、ボランティアと密に連携したりすることが必要であり時間の確保が難しい。

〇現在位置付けられている活動だけでなく、地域の人材を発掘し、保育にどう活かしていけるかを探っていきたい。

〇活動の内容を広く知っていただき新たにボランティア登録をしてくださる方を広げていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（　〇　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（　〇　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

は・あ・と・がだいじ　～地域の方と心でつながる園教育を～　（老蘇こども園）

近江八幡市	活動名：老蘇こども園地域学校協働本部	老蘇こども園　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 25 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：31 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■ □学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■ □郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）
⑴ 栽培活動→畑作りや苗植え、収穫を一緒に行い、プランターの土作りや花苗植えの作業をしていただいている。
⑵ 環境→ビオトープまつりや運動会にむけて地域ボランティアの方、保護者、職員が協力し合い園庭整備を行っている。
⑶ 絵本→月１回のペースで絵本ボランティアの方に読み聞かせをしていただいている。また、ポルトガル語を母国語にされるボランティアの方にも来ていただき、多文化に触れる機会となっている。
⑷ 園外保育付き添いおよび郷土文化の伝承→奥石神社（老蘇の杜）や、十三仏等に同行していただき、地域の歴史やいわれ等郷土についての話を聞かせていただいている。
⑸おいそビオトープまつり→老蘇まちづくり協議会･老蘇小学校ビオトープ委員会･老蘇こども園が共催して本園の園庭を会場に開催しており地域の方･児童･園児が参加し地域交流の場となっている。
⑹ 避難訓練：老蘇コミュニティセンターへ２次避難→避難訓練時に老蘇コミュニティセンターと連携し２次避難所としてコミュニティセンターに避難し、防災についての話を聞き、避難所としての施設の見学を行う。

■　実施に当たっての工夫
〇地域の集会や会議の折に地域ボランティアの説明をして、理解し協力していただけるように努めている。加えて保護者が集う場で協力･協働を働きかけ、地域の方と保護者･園が一緒に活動できるように進める。
〇年度末にボランティアの方との交流会を実施し、お世話になった方々に感謝の気持ちを伝える中で、園に対する理解を得られる機会を設けている。
〇卒園児の保護者に声をかけ、継続してつながっていただけるように、ボランティアの登録をお願している。

■　事業の成果
〇保護者だけでなく、祖父母の方も園行事に理解を示していただき、協力的かつ自主的に参加してくださっている。
〇ボランティア活動を通して、園に親しみを持っていただくことができ、地域の方が来園しやすくなった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
〇ボランティアの方が地域や多方面でも活躍され、募った日に先約があり、協力いただけないことがある。また、登録されている方が高齢化してきたことで、行事の内容によっては体力的に難しいこともある。今後、更に新たな人材確保に努める必要がある。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印
（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

【花の苗植えの様子】

地域と共に育てよう　きらっと輝く笑顔の八保っ子　（八幡保育所）

近江八幡市	活動名：八幡保育所地域学校協働本部	八幡保育所　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）ボランティア登録数：登録制ではない
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

①保育支援

・七夕の集い　：民生委員さんに来ていただき、笹に飾り付けを一緒にしたり、歌を歌ったりして交流を図る。
・地域ふれあいサロン訪問　：お年寄りのふれあいサロンに出かけ、一緒に折り紙を折ったり、ふれあいあそびをしたりしながら、地域の方と交流を図る。
・食育支援活動　：支援員さんに保育所に来ていただき、一緒に活動を進めながら行事の充実を図る。
保護者の方と一緒にクッキング（ごはんが炊けるまで、だしってどんな味？）を行い、食についての興味を深める。
・人権啓発劇　：保育参観の後に、保護者さんにより、啓発劇をしていただき、人権について考える機会をつくる。

②環境整備

・栽培活動畑の土づくりや野菜の苗植えを一緒に行い、菜園活動の充実を図る。

■　実施に当たっての工夫

〇八幡保育所保育運営委員会の協力を得て実施している。
〇啓発劇は、子どもたちに親しみやすい絵本から保護者の方に選んでもらい、劇に参加しやすい雰囲気をつくる。

■　事業の成果

〇活動の後は、写真の掲示を行い、保護者の方にも活動内容を知ってもらう事で、保護者や地域の方を結ぶきっかけになった。
〇支援員さんの顔を子どもたちが覚え、様々な方がかかわってくださる事で感謝の気持ちにつながった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇八幡保育所保育運営委員会や、支援員さんの協力を得て、保育所行事とボランティアさんとの調整を行っていく。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（〇）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

【やきいもパーティー】

【地域ふれあいサロン訪問】

地域のみんなで育てよう“桐原っこ”　（桐原保育所）

近江八幡市	活動名：桐原保育所地域学校協働本部	桐原保育所　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：登録制ではない
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）保育支援
・人形劇鑑賞、音楽鑑賞、昔あそび・・・七夕のつどいやクリスマス訪問など、ボランティアさんの出し物を見たり、一緒に遊んだりして交流する。

（２）環境整備
・栽培活動・・・畑の土づくり、畝づくり
・室内環境・・・玩具の整理や修理

■　実施に当たっての工夫
・桐原保育所保育運営委員会や桐原コミュニティセンターの協力をいただきながら実施している。

■　事業の成果
・子どもたちには、顔見知りのボランティアさんも多く、安心感をもって人との関わりの心地よさや感謝の気持ちを感じたり、社会性を身につけたりすることに繋がっている。
・人形劇や、七夕、クリスマス訪問など、保育所行事の充実が図れ、子どもたちが豊かな文化に触れる機会になっている。
・環境整備をしていただく事で、家庭的な雰囲気の温かい保育環境が整えられている。

【椅子座布団づくり】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
・保育所行事に来ていただく事が多いが、日頃の保育にも定期的に来ていただける方の開拓が難しい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印
（　〇　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（　〇　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（　〇　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

【地域の方との音楽交流】

草津市における地域協働合校の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部　□地域未来塾　■放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿

草津市では平成10年度から、「地域協働合校推進事業」に取り組んでおり、学校・家庭・地域がそれぞれの教育機能を十分に発揮し、互いに協働することにより、子どもと大人がともに知恵を出し合い、体験、活動することで、様々な学びや発見、成長につなげる。人と人、人と地域がつながる機会となり、未来を担う子どもたちが地元を知り、愛し、子どもたちと共により良くしていこうとする輝く人づくり・まちづくりを目指している。

【地域コーディネーター会議】

■本年度の具体的活動

（１）運営委員会

第１回（４月13日）地域協働合校推進事業の趣旨説明と地域学校協働本部事業との関連性と方向性について

第２回（６月19日）コミュニティ・スクールと地域協働合校推進事業についての研修討議

第３回（２月開催予定）総括会議

（２）地域コーディネーター

業務説明会（４月20日）地域コーディネーターの機能と業務について

情報交換会（７月27日）草津市立クリーンセンター見学と１学期の地域コーディネーターの活動報告および課題の検討、情報交換

地域学校協働活動推進員の委嘱にかかる説明会（12月中旬開催予定）

総括会議（１月23日開催予定）

（３）地域協働合校研修会（11月１日）

対象：地域協働合校担当教職員、地域コーディネーター、小中学校ＰＴＡ、まちづくり協議会地域協働合校推進委員、地域まちづくりセンター職員、市関係課職員

内容：講演と分散会を行い、10年、20年後の状況を見据え、今の子どもたちに必要なことは何かを学校・家庭・地域の連携・協働を再確認しながら、話し合った。

（４）広報活動

地域協働合校推進事業に関する通信『協働通心』を年７回発行

広報先：地域まちづくりセンターや市内小中学校、地域コーディネーターへ配布、庁内掲示、草津市ＨＰ掲載

■本年度の成果

地域の方が学習支援をしてくださる中で、“本物”を見た子どもたちの取り組む姿勢、聞く姿勢に変化が見られ、その後、その活動に限らず、今までよりも前向きに一生懸命取り組むようになったと、地域コーディネーターの情報交換の中で聞くことができた。また、地域コーディネーターと地域とのつながりから、えふえむ草津に３名の地域コーディネーターが出演し、各学校の地域協働合校の取組を中心に、支援ボランティアの募集を発信する等、広くＰＲすることができた。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

今年度は、９月に学校で支援していただいていたボランティアの方々にアンケートを実施した。85%の方が３回以上支援に参加したと回答されたが、同時に支援者の高齢化、固定化が課題であることが明確になった。支援のきっかけとしては、「知り合いからの誘い」が多いことから、支援を経験していただいた方が自信を持って、地域協働合校の良さを伝えていただけるような、より充実した学校・家庭・地域とともに実のある活動にしていかなければならないと感じた。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

平成31年４月から地域学校協働活動推進員として教育委員会が委嘱する方向で準備を進めている。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

平成30年４月から市内全小中学校（計20校）に学校運営協議会を導入

地域の人に学び、地域に生きる私たち （志津小学校）

草津市	活動名：志津小学校地域協働合校	志津小学校 学校運営協議会 ： ■有 □無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］ 開始年度：平成 27 年度 地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人） ボランティア登録数：200 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） ■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援
■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他［ ］

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）志津のお宝発見（３年生）

３年生の総合的な学習の時間では、「志津のお宝発見」と題して、自分たちの住んでいる地域の学習を進めた。その中で、志津地区にはホタルの生息地が多いことがわかった。そこで、「草津でホタルを楽しむ会」の代表の方に来ていただき、ホタルの生態や生育環境について映像を使いクイズを交えたお話をしていただいた。

また、地域にあるバラ園やカーネーションハウスの花作りを見学させていただいたり、ふなずしをつくっておられる会社を訪ねて作業を見学させていただいた。

草津市内に一つしかない企業が地域にあることを知り、地域を誇れる学習となった。

【ホタルの生態について学ぼう】

（２）米作り体験（５年生）

５年生は、校区にある田んぼを借りて、田植えから稲刈りまでの体験的な学習をさせていただいた。田んぼが学校の近くにあり、田植えから稲刈りまでの稲の生長の様子を何度も観に行くことができた。

収穫祭では、田んぼのお世話をしてくださった方をお招きし、米について自分たちが調べたことを発表したり、新米を炊いて塩おにぎりをつくり、一緒にいただいたりする活動をした。

これらのことから、食に対して関心を持ち、感謝の気持ちを持つ活動となった。

【お米収穫祭】

■ 実施に当たっての工夫

〇地域のボランティアの方々には、学習活動の趣旨を理解していただくために事前に直接お出会いして、詳細な打ち合わせをした。

〇活動後には、子どもたちが書いたお礼状や感想文をお渡しして、今後も支援していただけるようにしている。

■ 事業の成果

〇地域の方々との交流を通じて子どもたちは、地域のことを知りいろいろな発見をすることができた。これらを通して、地域の自然や人々に関心を持つと共に感謝の気持ちが育ってきている。

〇地域の方々から教えていただく中で、子どもたちは自分たちでできることを見つけ、さらに意欲を持つきっかけとなった。

〇地域の方々に学校の活動を知っていただく機会となり、さらに地域協働合校を推し進めるきっかけとなった。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇ボランティアの方と学校の都合等により、活動に関する日程調整が難しいので、学校の担当者と地域コーディネーターとの綿密な打ち合わせが必要である。

〇体験的な活動を実施する際は、学習活動の狙いをしっかり持つ必要がある。

〇学年により活動数に偏りが生じるので、年度当初に各学年主任に地域協働合校の趣旨を理解してもらう必要がある。

〇万一の事故を想定して、ボランティアの方々の傷害共済保険への加入が不可欠である。

■ その他（学校運営協議会との連携等）

〇学校だよりや志津小学校のホームページ(http://www.shizu-p.skc.ed.jp/tiiki.html)で、地域協働合校事業の取り組みについて紹介している。

■「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

子どもと大人の『共育ち』をめざして （志津南小学校）

草津市	活動名：志津南小学校地域協働合校	志津南小学校	学校運営協議会 ： ■有 □無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］ 開始年度：平成 28 年度 地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人） ボランティア登録数：125 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） ■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 □子どもの安全確保、見守り □部活動支援
■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他［ ］

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）「さつまいもを育てよう」（２年生）
地域の方が整備した畑で、さつまいもの植え方や世話の仕方、収穫の仕方を教えていただいた。収穫祭には地域の方を招待し、共に収穫を喜んだ。

（２）「伯母川たんけん」（３年生）
学校の近くの伯母川に行き、たくさんの生き物に触れた。地域を流れている伯母川のよさを再発見した。

（３）「りょうぶの道たんけん」（３年生）
地域にある「りょうぶの道」を、地域の方と共に歩き、道のいわれを聞いたり、草木の名前を教えていただいたりした。

（４）「たんぼのこ」（５年生）
地域の方の田んぼをお借りして、田植え・稲刈り・脱穀を、田んぼの持ち主の方に指導していただきながら行った。脱穀においては、昔の足踏脱穀機を使用した。収穫祭には、米作りでお世話になった方を招待して感謝の気持ちを伝える機会を持った。

（５）「木瓜原遺跡見学」（６年生）
立命館大学敷地内にある木瓜原遺跡を見学し、地域の歴史を学んだ。

（６）「立命館大学 学生サークル連携６ＤＡＹＳ！」（全学年）
学年ごとに、学生ボランティアの企画による紙飛行機作りやダンス、手作りプラネタリウムで星の学習などを楽しんだ。将来の夢や自分の進路を考えるきっかけとなった。

【さつまいもの収穫（２年生）】

【木瓜原遺跡見学（６年生）】

■ 実施に当たっての工夫
〇事前に学校と地域コーディネーターの打ち合わせを実施した。また、活動後もできるだけ懇談の時間を持ち、来ていただいた感想を話し合うなどボランティアの方の充実感や達成感、子どもたちとのつながりが深まるようにした。どの活動も、数年来継続して行っており、活動内容を充実させるため資料等を残すように心がけている。そして資料を基に毎年子どもの実態に合わせて活動内容を工夫している。

■ 事業の成果
〇地域の自然に触れる機会を持ったことで、自分たちの町について、もっと知りたい、大切にしていきたいという思いが積み上がっている。近隣の立命館大学との活動も何年も継続して行われ、学生ボランティアに憧れを持つ児童も増えている。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
〇子どもと地域とのつながりを大切にした学習を進めていくために、子どもたちの学習が受け身になるだけでなく、共に育ちゆく学びの環境づくりが大切である。また多様な学習を行っているが、地域における人材や資源の有効的活用を考え、地域の風土、環境、文化とともに安全、防災、ＩＣＴ、情報、英語などの専門的知識を持つ方また経験のある方等、地域コーディネーターを中心に確保するとともに、教育資源を活用し、学習教材を深め広げていき地域の活性化の一端を担うことが必要である。

■ その他（学校運営協議会との連携等）
〇年に４回、学校運営協議会において、地域協働合校の事業計画や実施状況を報告している。会議で出た意見や助言等を次の活動に活かしている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに〇印
（ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に活かすことができた。

ふれあい、学び合い、心をひびかせる　草津っ子　（草津小学校）

草津市	活動名：草津小学校地域協働合校	草津小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 27 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：120 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）「なでしこの花を育てよう」

全校的に総合的な学習の時間等を活用し、環境ボランティアの指導をいただき、湖南農業高等学校の協力を得たりしながら、なでしこの苗を植え育て、水やりや草引き作業等、日々の世話をしている。また、本校児童のエコ委員会が中心となり、なでしこの花を大切にする運動を進めている。「なでしこ」は、本校の校章の図柄であり、子どもたちにより愛着を感じさせながら愛校心を育てている。

（２）「水のめぐみ“米づくり”」

第５学年の総合的な学習では、敷地内にある学校田で稲を育て、土づくりから稲の収穫、食べるまでの「米作り」を学習している。特に田植え、稲刈りでは、子どもたち一人ひとりに、ボランティアさんが丁寧に指導していただくことで、米作りに対する想いや願いを感じながら学習するよい機会となっている。また、収穫後の「お米パーティー」では、ボランティアの方を招き、学んだことを発表したり、収穫した米で作ったおにぎりを共にいただいたりして、交流を深めている。

■　実施に当たっての工夫

〇事前のミーティングでは、ボランティアの想いや活動の工夫などを伺った。それを、活動学年の担任や関わる児童に伝えることで、学校とボランティアがともに活動をつくっていけるように心がけた。事後のミーティングでは、活動の良かった点や改善点を確認することで、次回も見据え、継続的な取り組みになるように話し合った。

〇活動中だけでなく、活動後にもボランティアの方が「来てよかった、続けていきたい」と考えていただける活動を目指した。子どもたちとの交流がその時限りではなく、学習後の発表会などでふれあうことで関わりを深め、感謝の気持ちを伝えることでボランティアの方のやりがいにつながるように取り組んだ。

■　事業の成果

〇何年も継続してボランティア活動に取り組んでいただいている方が多いので、活動の流れや学校の様子をよく知っていただいていることから、スムーズに活動を行うことができている。

〇継続して取り組んでいることがボランティアの方の「私たちが草津小学校の教育活動を支えている」という誇りや生き甲斐につながっている。

〇学習のまとめである「お米パーティー」や「おいもパーティー」、運動会や歌声集会等の学校行事にも積極的に参加していただくことで、交流の機会も増え、関わりが深まることで、子どもたちは「いろいろな人に見守ってもらっている」と感じ、豊かな心の成長につながっている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇継続的な活動が多く、ボランティアの方に任せてしまうことがあるので、学校環境の整備など活動を問わず、共に考える場をさらに設け、各学校職員に伝えることで、よりよい関係を目指したい。

〇ボランティアの方の熱心な支援で、一人ひとりの子どもに丁寧に指導していただいている。おかげで学習は予定通りに進むが、一方で、「子どもたちが試行錯誤をし、自力解決する力をつける学習」を目指すことも必要である。そのためにも、学習のねらいや役割分担について、ボランティアと学校が十分に共通理解しておくことが大切である。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

〇年４回の学校運営協議会において連絡調整等を実施している。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

【なでしこの草引き作業】

『人・もの・地域』と出会い、ふれあい、高め合おう！ （草津第二小学校）

草津市	活動名：草津第二小学校地域協働合校	草津第二小学校	学校運営協議会 ： ■有 □無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］ 開始年度：平成 27 年度 地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人） ボランティア登録数：110 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） ■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援

■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他［ ］

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）６年生 平和学習（学習支援）

毎年６年生では、11 月に実施する広島への修学旅行（大久野島・広島平和記念公園）を軸に、１学期から２学期にかけて息の長い平和学習を行っている。戦争については、滋賀県や草津市の地元にも目を向けて、学びを深めている。

６月には滋賀県平和祈念館から講師を招いて出前授業をしていただいた。写真や映像、実物資料をもとに滋賀にまつわる戦争の記録についてお話をうかがった。戦争のためにたくさんの方々が命を落とされ、その方たちの数と同じだけの家族や友だちの悲しい、つらい思いがあったことを知って、「平和を願うってどんなこと？」「私たちが今考えなければならないことは？」ということをみんなで考えた。

また、修学旅行を終えてからは、校区内にお住まいの 98 歳の方をゲストティーチャーに迎え、学徒兵として入隊しビルマで戦争を体験されたことや当時の草津の様子についてお話をうかがった。生きるか死ぬかの恐ろしい体験を「地獄のようだった」と語られ、子どもたちへ平和への願いを伝えてくださった。

【戦争体験者からのお話】

（２）１、２年生 防災教育〔ナインイヤーズプラン〕（学習支援、安全確保）

湖南広域消防西消防署から申し出を受け、「幼い時から防災への意識を高めたい」という願い・目標を共有して、低学年を対象とした防災教育（ナインイヤーズプラン）を「防災の日」前日の８月 31 日に実施した。消防署員とマスコットキャラクターの「らいくん」が講師となり、地震が起こったら頭を守ること、火事が起こったら呼吸確保のために姿勢を低くして移動することなどを教えていただいた。その後、煙の中を移動する活動をして、命を守るための行動ができるよう体験的に学んだ。

【ナインイヤーズプラン】

■ 実施に当たっての工夫

〇６年担任団が地域コーディネーターと連携して、地域の方（滋賀県平和祈念館、戦争体験者）へ早めに連絡をとり、スムーズに実施できるようにした。戦争体験者のお宅には地域コーディネーターが何度も打合せに伺い、有意義な学びができるよう努めた。

〇湖南広域消防西消防署とは、避難訓練も含めて防災教育担当教諭が打合せを重ね、協力・連携する関係を深めた。

■ 事業の成果

〇戦後 70 余年が経ち、戦争体験者から話を聞く機会を持つことが困難になってきている。そのような中、滋賀県での戦争の実態をうかがい、広島修学旅行で被爆体験者から、また校区内に住む出征体験者から直接お話を聞いて学べたことは、平和学習を進めるうえで貴重な機会・成果となった。

〇防災教育の充実が望まれている今日、消防署と連携・協力を深めて、新たな教育活動ができたことは大きな成果である。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇地域内に戦争体験者が減ってきている中、滋賀県平和祈念館などの施設・機関と連携を深めて、平和学習の質の維持に努めたい。

■ その他（学校運営協議会との連携等）

〇地域との連携事業（主に学習支援）を学校運営協議会で詳しく報告するとともに、地域の人材の紹介等をお願いしている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

いいな　いいな　ともに学んでふれ合うまち　渋川　（渋川小学校）

草津市	活動名：渋川小学校地域協働合校	渋川小学校　学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 27 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：250 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）「滋賀の郷土料理学習」

５年生は、漁師や農家の方、郷土料理の専門家など、様々な人に教わりながら、アメノイオご飯、湖魚の佃煮、丁稚羊羹など滋賀の郷土料理作りに取り組んだ。そして、学んだことをまとめ、ふるさとの食文化を継承していくために、「滋賀の郷土料理博物館」を開館した。

（２）「世界農業遺産学習」

６年生は、滋賀県が登録を目指す「世界農業遺産」についての学びを深めた。琵琶湖と共生してきた滋賀の農林水産業の魅力を考えることを通して、郷土への愛着や誇りを深めることをねらっている。学習の成果をまとめ「渋川ＥＳＤ（いいまち・しぶかわ・だいすき）ミュージアム」を開館した。

【アメノイオご飯試食会】

■　実施に当たっての工夫

〇５年生の取り組みでは、滋賀の郷土料理について調べるだけではなく、調理をして味わう体験を数多く取り入れた。また、学校の畑では、農家と連携し、大豆、日野菜、小松菜などの野菜の栽培に取り組み、その野菜を使って郷土料理の調理実習を行った。さらに、滋賀の郷土料理や食文化のすばらしさを伝えるために、博物館づくりだけではなく、子どもたちが地域に出かけていって、地域の人々と郷土料理について考える交流会を実施した。

〇６年生の取り組みでは、農業・漁業に携わる人をゲストティーチャーとして学校に招いて話を聞くことができた。滋賀の農林水産業の現状に学ぶため、様々な人と協働する中で、コアユの佃煮試食、セタシジミご飯試食など多様な体験を取り入れることができた。

【渋川ＥＳＤミュージアム】

■　事業の成果

〇本報告では、２事例であるがどの学年でも地域の方に協力を得て子どもたちの豊かな体験の場・学習の場を提供していただいている。活動を通して子どもたちは地域に対する愛着を育み、地域行事に積極的に参加する児童も多い。また、保護者にも地域のことを知ってもらう機会となっている。テーマの通り、子どもも大人も活動に関わることで学び、ふれ合いを深めている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇同じ活動でも、子どもの実態に合わせて工夫の余地がある。「毎年取り組んでいるから・・・」という活動にならないように、めあてをしっかり意識して取り組みたい。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

〇本校の地域と連携で進めてきた環境教育の取り組みは、学校運営協議会において報告し、その内容について協議会でも議論してきた。さらに協議会とは別に「渋川小学校エコスクール支援委員会」を設置している。委員会には、本校教員だけではなく、保護者、地域、行政、研究機関、企業が参画し、環境教育のプログラムの検討を重ねながら実践してきた。

〇本校の環境教育の実践は、様々な方面から評価された。2018 年の低炭素杯では、『文部科学大臣賞』を受賞し、学校自慢エコ大賞では、『大賞』を受賞し、滋賀ＩＣＴ大賞では、『優秀賞』を受賞した。今後も地域協働で取り組む環境教育を、持続可能なまちづくりを担う次世代育成と捉え推進していきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

ふるさと大好き！　矢倉っ子　（矢倉小学校）

草津市	活動名：矢倉小学校地域協働合校	矢倉小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：90　人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

５年生では、「お米を育てよう」の学習で、田植え体験からお世話になっている地域ボランティアの方々に来ていただき「収穫祭」を行った。

「収穫祭」では、水田で育てたうるち米ともち米を炊いて食べた。米の種類の違いによる食感や味の違いを感じたり、100%玄米を炊いて食べたりし、収穫できた感謝の気持ちを持つことができた。

また、脱穀したあとの稲藁を使って「飾りづくり」にも取り組んだ。藁の編み方をボランティアの方に教えていただき、リースを作ることができた。昔は藁を使って米を入れる俵を作ったり、縄や草履など生活に必要な物を作ったりすることも学び、何でも無駄なく使い切る先人の知恵に触れることができた。

【５年収穫祭　飾りづくり】

■　実施に当たっての工夫

〇活動を通して、地域の方々の思いが子どもたちにしっかりと伝わり、相互に学び合い、響き合えるよう、担任も交えた事前打ち合わせをしっかり行うよう心がけてきた。また、活動が単発の取り組みに終わるのではなく、事後の感想やお礼の手紙を届けたり、発表会や収穫祭等に来ていただいたりして、子どもたちの学習の成果を見ていただく機会を持ち、継続して関わり合う中で「つながり」を大切にしてきた。

■　事業の成果

〇ボランティアに関わってくださっている方の多くは、長年にわたって継続的に本校に関わってくださっている。そのため、学習のねらいや大まかな流れを把握してくださっているので、毎年担任が交代しても、スムーズに学習を進めることができ大変助かっている。また、全国学力・学習状況調査での質問項目「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」を見ると、本校の児童は、全国あるいは全県に比べて毎年ポイントが高い。これは、学習を通して地域とのつながりがしっかりと築かれていることの証であると考えている。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問項目が高いことから、出会い、関わることが、自分のめざす将来の生き方像につながってきていると考えられる。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇ボランティアの方の高齢化が進み、活動によっては継続が危ぶまれるものもある。また、よりよい活動をと願うボランティアの思いが、学習時間の超過や学年相応でない学習活動につながることもあり、無理なく、限られた時間の中でより良いものにしていくためにも、事前の打ち合わせをしっかりとしていきたい。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

〇学校運営協議会の委員には、まちづくり協議会会長や、地域コーディネーターの方にも参画いただいている。会議の中で、地域協働合校の取り組みについても紹介し、活動が子どもたちにとってよりよいものになるための示唆をいただきながら、活動に生かすよう検討している。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　〇　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（　〇　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（　〇　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

手をつなぎ、心通わす　誘（ゆう）・融（ゆう）（融け合う）老上　（老上小学校）

草津市	活動名：老上小学校地域協働合校	老上小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：179 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

〇ふれあい老上まつり

昨年度まで老上西小学校区と共同開催していたが、今年度より老上小学校区だけで開催されている。第１日は小学校での学習発表、第２日は小学校区挙げての「まつり」となり、子どもたちを中心に地域全体の「ふれあい」の場となった。

学習発表会の会場準備なども担ってくださり、華やかな会場で大勢の保護者・地域の方に来校いただいての「まつり」となっている。

【ふれあい老上まつり】

〇花ボランティア・ルンルン

昨年度から子どもたちの委員会活動とも連携し、花の世話を一緒に進めていただいている。子どもたち自身が環境整備を進めながら、保護者や地域の方との触れ合いが増す取組となっている。

■　実施に当たっての工夫

〇昨年度創設したサポーターバンクを活用して、クラブ活動や家庭科の学習など実習を伴う場面でのサポートをはじめ、校内外の体験活動など様々な場面で支援していただけるように今後も工夫していきたい。

〇ボランティア同士の交流が図れるよう、図書室サポーターと読み聞かせボランティアで合同懇談会を開催している。

【花ボランティア・ルンルン】

■　事業の成果

〇花ボランティアやサポーターバンクのように、学校に関心を持ち「できる範囲で少しずつサポートをしていこう」という形で関わってくださる支援の輪が広がっている。

〇子どもたちが地域の方の支援に触れる場面が増え、地域の方やふるさとへの愛着を感じ、豊かな人間性を養うきっかけとなる取組となっている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇取組を充実させるため、入念な打ち合わせや準備等が必要となる。学校・地域双方の負担を軽減するため、地域コーディネーターの果たす役割が必要不可欠となっている。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

〇学校ホームページ　http://www.oikami-p.skc.ed.jp

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　〇　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（　〇　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（　〇　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

やってみよう 2018！ ～地域とともに共同（協働）する学校～ （老上西小学校）

草津市	活動名：老上西小学校地域協働合校	老上西小学校 学校運営協議会 ： ■有 □無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］ 開始年度：平成 28 年度 地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人） ボランティア登録数：65 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） ■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援
□学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 □郷土学習 □その他［ ］

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）栽培体験活動

さつまいも（１年）や大根（２年）、米（５年）などの作物を栽培している。これらの作物を育てるだけでなく、農業合校の方やサポーターの方の協力を得ながら、収穫をして食べるところまで継続してつながりのある学習を行っている。

（２）学習支援

２、３年生の町たんけんや５、６年生の家庭科ミシン学習に昨年よりたくさんの方に参加いただいた。たくさんのサポーターの方に来ていただくことで、子どもとの関わりが増え、よりきめ細やかに子どもを見ていただくことができている。

（３）読書活動の推進

読み聞かせや図書ボランティアにたくさんの方が登録いただいている。毎週火曜日の朝に読み聞かせをしていただいているが、朝の時間だけでなく、昼休みを使って自分たちで制作した大型紙芝居の読み聞かせを行っていただいた。

【１年 やきいも】

【大階段 読み聞かせ】

■ 実施に当たっての工夫

○年間の見通しを持つ
年度当初に年間の活動計画を作成し、保護者や地域に配布・回覧している。

○「できるときに、できることを」
「できるときに、できることを」を合言葉に、協力いただける方に可能な範囲で幅広くサポーター募集を行っている。

○取組の発信
コミュニティ・スクール通信を発行したり、活動の様子を模造紙にまとめて掲示したり、ホームページに掲載したりするなどして本校の取組を発信している。

■ 事業の成果

○地域コーディネーターを中心に見通しを持って活動することで、地域とのつながりもできてきている。
○保護者、地域の方に徐々に浸透し、11 月の活動までのべ 150 名を超えるサポーターの方に協力をいただいた。
○サポーター同士のつながりが広がり、新たなサポーターとして参加していただく方が増えた。
○子どもたちが教師だけでなく、地域や保護者など様々な方々と関わり、触れ合うことができている。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○新しいサポーターの方も増えたが、さらに周知・発信し、もっと多くの人に関わっていただけるようにしていきたい。
○学習支援だけでなく、各専門分野での人材の発掘を行っていきたい。
○休み時間の活動やその他ボランティア活動など、授業時間以外での活動を開発していきたい。
○サポーターが主体となって行う活動を充実していきたい。
○サポーター活動の充実に伴い、地域コーディネーターの負担が大きくなってきている。地域コーディネーターの人員を増やしていく必要がある。

■ その他（学校運営協議会との連携等）

○年間４回の学校運営協議会を開催している。学校の取組や子どもの様子を伝え、話し合う中で、学校の課題や目標を共有することができた。さらに協議を重ね、「地域とともにある学校」づくりを進めていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

（ ○ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

すきです玉川　わたしも参加　つくるよろこび　（玉川小学校）

草津市	活動名：玉川小学校地域協働合校	玉川小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：130 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

学区には立命館大学びわこ・くさつキャンパス（ＢＫＣ）があり、パナソニック草津工場を始め多くの企業が点在する地域である。ここ数年では、駅前開発でマンション群が建ち並び、また、京滋バイパス沿いに住宅地が造成されるなど新興地区と旧地区が混在した地域でもある。本学区の方々はそれぞれが連携を取りながら、小学校の活動に対して非常に協力的であり、環境を整えていただいたり、子どもたちの学習を助けていただいたりしている。地域の特性を生かした活動は、地域の方にとっても、子どもたちにとっても有意義な取り組みとなるように仕組んでいる。

【玉川萩まつりステージの部】

（１）玉川萩まつりは地域の方々、学校、企業など玉川学区の力を結集して行われている地域のお祭りである。本校を会場の中心として、午前中は幼稚園、小学校、中学校、高校の発表が行われている。午後からは、模擬店やふれあいコーナーなど子どもたちがとても楽しみにしている取り組みがある。子どもたちだけでなく地域の方も笑顔になるような内容になっており、子どもたちと大人が楽しくコミュニケーションが取れる場となっている。

（２）１年生は５月に芋の苗植え、10 月に芋掘りを体験している。１年生のけん玉教室・昔遊びでは、人との関わりを大切に取り組んでいる。地域のみなさんとの交流を楽しむことができるように仕組んでいる。２年生は、地域の高齢者とのふれあい活動をめあてとして、萩まつりに披露するステージ発表のリハーサルを見ていただきアドバイスをいただいたり、各教室ではおもちゃ作りを一緒に楽しんだりする活動を実施した。

（３）３年生のそろばん教室は、地域のそろばん教室の先生に教えていただいて今年で 19 年目になる。３年生になると、そろばんの先生と一緒に学習することを知っていて、楽しみにしている子どもがいる。昨年度からは４年生にも来ていただいている。

（４）５年生は米作りの学習の中で、稲刈り体験を計画した。今年度は湖南農業高等学校の協力を得て実施する予定であったが、前日の悪天候のため中止となり残念であった。ただ、日本文化に触れる体験として「わらない」「しめ縄づくり」については、地域の方の協力を得て実施することができた。

■　実施に当たっての工夫

玉川小学校の地域協働合校の伝統として行われている活動を大事にしている。行事が終わった後に地域のみなさんと反省会をもち、来ていただいた方とその日のうちに話し合って次年度に生かすようにしてきた。地域コーディネーターが代わったり、実施団体の担当が代わったりしても、次年度スムーズな取組ができるよう引き継ぎを大事にし、毎年行事を見直し、より良い取り組みになるようにしている。

【高齢者とのふれあい２年生】

■　事業の成果

子どもたちは地域の中で生活している。地域の中にはいろいろな技能を持った方がたくさんいるということを地域協働合校の行事を通して学んできた。地域の方とのつながりを持つよいきっかけになっており、登下校時には、挨拶を交わす姿も見られるようになった。中には、地域に帰った時に、地域で関わっていただいているみなさんに感謝の気持ちを直接伝えている子どももいた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

小学生と地域のみなさんとをつないで一緒に活動することで、玉川学区の良さや特徴を知り、玉川を愛する子どもたちが増えてほしいと願っている。玉川のことが大好きといえる子どもになるように今まで続いてきた伝統的な活動を継承しながら、新たな取組を取り入れていきたいと考えている。ただ、現在教えていただいている方たちの高齢化や宅地開発が進む現状を鑑み、併せて、事業についても活動場所の見直しなども再考する時期に来ている。学校と地域を結ぶ力をもっと高められるようにコーディネートをしていきたい。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

学校運営協議会については、学期に一度話し合いの会議を持っている。学校の取組の現状報告やそれに対するアドバイス、課題解決に向けて貴重なご意見をいただいている。今年度は、２学期当初の暑さ対策を相談したところ、自治会の方から体育館にスポットクーラーを６台入れていただいたり、ＰＴＡからは塩分補給のための塩飴を準備していただいたりした。お蔭で運動会の練習は充実したものになり、本番ではその成果がみられた。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

「素敵な出会い　みんなで創るまち　南笠東　～学びの場づくり～」　（南笠東小学校）

草津市	活動名：南笠東小学校地域協働合校	南笠東小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：60 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■郷土学習　■その他［地域公開講座］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）まちづくり協議会の事業「学区敬老会」「地域で彩るコラボレーション」に参加

本校では、１、２年生の時に「おいも作り」や「昔遊び」といった行事でお世話になった老人クラブの方に感謝を伝えるとともに、お世話になった地域のお年寄りの方々への感謝の気持ちを育てるために、４年生では「学区敬老会」に参加している。また、３年生は、地域の一員として、交流を図るとともに、日頃の学習の成果の場として「地域で彩るコラボレーション」に参加をしている。

【老人クラブの方といも苗植え】

（２）オープンスクール＆地域公開講座

夏期休業期間中と冬期休業期間中のそれぞれ３日間を「オープンスクール」と題して、児童や本校卒業生、保護者、地域住民、未就学児に学校図書館を開放し、図書ボランティアさんや市立図書館の司書の方による読み聞かせを行ったり、近隣の大学の学生ボランティアに手伝ったりしていただきながら休業期間中の課題に取り組んでいる。また、オープンスクールと並行しながら地域公開講座を実施して、大学や企業の協力のもと、環境教育や漢字学習などにも取り組んでいる。

【地域公開講座　読み聞かせ】

■　実施に当たっての工夫

〇本校では、１年生から４年生まで、老人クラブの方々と関わりを持てるように、どの学年でも交流をとれるようにしている。
例えば、低学年では、「おいも作り」や「昔遊び」、中学年では「学区敬老会」や「地域で彩るコラボレーション」である。

■　事業の成果

〇一昨年度より地域コーディネーターが配置されたことにより、様々な人材の紹介や地域の諸団体との橋渡しをしていただけた。
〇地域には様々な技能を持った人がいることを知ったり、地域の伝統的なものに触れたりすることで地域の良さに気づいたりする児童もいた。
〇学校の施設を公開したり、児童と同じ内容の授業をしたりすることで、より小学校を身近に感じていただけた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇打ち合わせの時間が多く必要になることがあり、その時間の確保をすることが課題となっている。学校・地域双方の良さを最大限に活かすためには、今後も地域コーディネーターの果たす役割が大きく、継続した配置が必要である。
〇読み聞かせ、登下校や校外学習の見守りなど学習サポーターとしての人材が発掘はされているが、学習支援としてのボランティアについては認知が低く、また敷居も高いと言える。子どもたちにとってより身近な存在として地域を感じられるように、呼びかけを続けていきたい。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

〇南笠東小学校ＨＰにて様々な活動を紹介しています。
http://www.minamigasa-p.skc.ed.jp/

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

出会い・ふれあい・学び合い　～みんなで育てる山田の子～　（山田小学校）

草津市	活動名：山田小学校地域協働合校	山田小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：90 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）ニゴロブナ稚魚の放流
　山田漁業共同組合の皆さんの協力のもと、びわ湖にニゴロブナを放流する活動を続けている。初めて魚に触れた子、初めて船からびわ湖を見た子もいる。この活動を通してびわ湖の環境を考えるきっかけとしたい。

【ニゴロブナ稚魚の放流】

（２）室戸台風殉難慰霊式
　本校では、今から 84 年前の室戸台風で大勢の被害者が出た。被害にあわれた地域の方の話を聞き、亡くなられた方々を追悼するとともに、自然の偉大さについて考えさせるきっかけとしたい。
　地域の方々とともに、全校で持ち寄った花で献花をし、歌い継がれた「学友の霊に捧げる歌」を歌う。

（３）その他
　読書サークル「トトロ」の皆さんによる読み聞かせ、ビニールハウスでのネギ植えと収穫など。

【読み聞かせ】

■　実施に当たっての工夫

〇地域との窓口を担任から、地域コーディネーターに移行していくことで、よりスムーズに調整が進み、内容のある活動になるようにしている。
〇校内の掲示板に『地域協働合校コーナー』を設け、それぞれの学年の取組について広め、見通しが持てるようにしている。また、地域のボランティアの顔写真を掲示し、様々な場面でお世話になっている地域の方々の顔と名前がわかるようにしている。

■　事業の成果

〇掲示板を見つめる子どもの姿がよく見られる。「この人、知ってる！」「〇年になったらこんなことができる！」という歓声もあり、地域の方とのふれあいを楽しみにしている姿が見られた。
〇歩いていける範囲に、漁港、ビニールハウスや農業センター、田畑などがあるので、様々な体験ができる環境にあり、地域の方々の協力のもと、ともにふれあいながら体験を進めている。そのため、アンケート等で「地域行事に参加している」と答える子どもが多い。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇地域の高齢化が進み、恒例の学習も実施が困難なケースがでてきている。学習自体は続けたいので、地域コーディネーターを中心に人材発掘を進めていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

協力して育つ　共に育つ　響いて育つ　子どもの夢育て　（笠縫小学校）

草津市	活動名：笠縫小学校地域協働合校	笠縫小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成27年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：85人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

［放課後子ども教室］　主な活動場所：笠縫小学校図工室　年間開催日数：50日　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）

平均スタッフ数：２人　平均参加人数：20人　開始年度：平成30年度

・活動日　：　■月　□火　□水　□木　■金　□土　□日　□長期休業中

・活動内容　：　□学習指導員を配置した学習支援　■その他の学習支援　□スポーツ　□芸術・文化　□体験活動　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）栽培体験合校

３年生の総合的な学習の時間では、学区にお住まいの「アオバナの先生」を招き、苗の植え方や世話の仕方を、実演を交えながら教えていただいた。子どもたちは先生の教えをしっかり守って熱心に世話を続けた。その甲斐があって７月には多くの花が咲き、摘んだ花でハンカチを染める活動を行うことができた。

【アオバナについてのお話を聞く】

（２）地域の人と学ぶ合校

６年生の総合的な学習の時間では、学区の伝統である「サンヤレ踊り」、「講踊り」、地域で生まれた日本画家の野添平米さんや横井金谷さんについて学ぶ機会を設けている。子どもたちを６つのグループに分け、実際に地域に出向いて地域の方より話を聞いたり実演を通したりして学んでいる。その後、学んだことをタブレットパソコンや画用紙などにまとめ、低学年の子どもたちに自分たちの学びを伝えている。

たんぽぽ学級（特別支援学級）の子どもたちは、年に１回、学区の民生委員児童委員さんと製作や調理などの交流を行っている。民生委員児童委員さんの方から交流の企画を出していただいたり、必要な物を準備していただいたりと、積極的に関わってもらっている。

（３）地域安全・学校安全合校

子ども見守り隊の方々による登下校の見守りを行っている。長年続けていただいている方も多く、見守るだけでなく指導もしていただいている。１年間の感謝とお礼を伝える場として、３学期末の修了式に見守り隊の方をお招きしている。

（４）放課後自習広場

今年度は月曜日と金曜日に実施し、希望申込にて１・２・３年生各10数名が年間を通じて参加している。児童が宿題や自主学習の用意を持参し、主体的に学習をしている。毎回２名の支援員が、学習支援を行っている。

【地域の方から偉人について学ぶ】

■　実施に当たっての工夫

〇地域のよさを感じたり学校や校区のことを詳しく調べたり、校区の人たちの生き方や温かさに触れたりするような活動を大切にしていきたいと考え、教科等との関連をふまえ、活動を仕組んでいる。

■　事業の成果

〇コーディネーターの方をはじめ、継続してボランティア活動に取り組んでいただいている方が多く、教員以上に活動を把握されており、主だった活動にスムーズに取り組むことができている。民生委員児童委員さんのように、進んでアイデアを出していただくこともあり、地域の子どもたちの育ちに自分たちも積極的に関わっていこうとされる姿は、学校にとっても本当にありがたいことである。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇継続してボランティア活動に取り組んでいただく方が多いものの、一方で新たな人材を見出していくことが課題である。その上で、コーディネーターとの連携は大変重要であるが、コーディネーターに任せきりになっている状況である。今後は、連携を密にして人材の発掘につとめていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

ふるさとの「いのち」とふれ合う東っ子　（笠縫東小学校）

草津市	活動名：笠縫東小学校地域協働合校	笠縫東小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 27 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務０人）　ボランティア登録数：80 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

〇米作りを学ぼう（５年）

総合的な学習の時間では米作りについて学び、校区内の田んぼをお借りして田植えや稲刈りの体験をしている。事前学習として、田んぼの世話をしていただいている地域の方に来ていただき、田植えまでの作業の工程や、環境こだわり米を作るための取り組みについて話を聞く機会をもっている。手間はかかるが、環境のことを考えて作る米へのこだわりを聞かせていただくことで、環境問題への関心を高めることができた。稲刈り後には収穫感謝祭を開き、お世話になった地域の方を招待して交流する機会を持つ。米作りについて調べたことを発表したり、自分たちで作った新米のおにぎりを食べたり、地域の方と楽しくふれあう活動をしたりして感謝の気持ちを伝える場となっている。

【苗が育つまでの話】

〇葉山川生き物調査（５年）

地域で葉山川の環境保全活動をしておられる草津塾の方と一緒に、葉山川の生き物調査を行った。地域の学習ボランティアの方から水質調査の方法や生き物の捕まえ方について説明を聞き、一緒に調査を行った。見つけた生き物について解説をしていただき、いのち豊かな葉山川の様子を知ることができた。中には外来種の生き物もいて、固有種の生き物が食べられているという実態も教えていただいた。

【葉山川生き物調査】

■　実施に当たっての工夫

〇生き物調査はこれまで４年生で活動を行っていたが、５年生のびわ湖環境学習とのつながりから、５年生へと移行した。

〇収穫感謝祭では子どもたちが企画･運営をし､地域の方に感謝の言葉を述べたり、手紙を渡したりして、今後も交流を深められるようにしている。

■　事業の成果

〇地域の方と活動することで、環境を大切にする地域の方の思いに触れることができた。これらの活動をきっかけに、子どもたちは自分にできることを考え､意欲的に学ぶことができた。また､自分たちのためにたくさんの準備をしてくださったことを知り、感謝の気持ちを持つことができた。

〇地域の方とのつながりができ、総合的な学習の時間に子どもたちが「この方にお話を聞きたい。」と手紙で交流をしたり、お話を伺ったり、さらに学習を深める機会につながった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇何年も継続して活動に取り組んでいただいている分、学習の進め方はよく把握してくださっているが、子どもたちの実態によってねらいなどが変わってくるので、こちらが子どもたちにどんな力をつけたいかをしっかりと意識し、事前の打ち合わせで共通理解を図ることが大切である。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

〇学校運営協議会のメンバーの一人は「地域協働合校推進協議会」の会長も務めておられるので、子どもと地域との協働学習の様子も話題に上り、学習効果や懸念事項など把握してもらっている。懸念事項としては、校外自然観察の「葉山川学習」の際に、外来種のクモや亀など危険生物に留意し安全に学習してほしいとのことである。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（〇）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（〇）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

ふるさと常盤から豊かな生き方を学ぼう （常盤小学校）

草津市	活動名：常盤小学校地域協働合校	常盤小学校 学校運営協議会 ： ■有 □無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］ 開始年度：平成 27 年度 地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人） ボランティア登録数：200 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） ■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援
■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他［ ］

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）「ときわ探検」（３年生） 第１回・・・志那神社
第２回・・・三大神社
第３回・・・芦浦観音寺

３回に分けて探検に出かけた。それぞれの場所で、神社やお寺の方から歴史や言い伝えなどを聞かせていただいた。その後、境内を散策し、お気に入りの場所をスケッチしたり、さらに質問をしたりして、学習を深めた。常盤学区に住んでいても自分の家から遠いところのことは知らない子どもも多く、また家の近くでも、じっくり話を聞く機会もないことから、自分の住んでいるところにこんな素敵なところがあるんだと改めて実感することができた。

【三大神社】

（2）水６チャレンジ応援団（コミュニティ・スクールくさつ常盤小との連携）

約２週間に一度、水曜日の特設６時間目に、コミュニティ・スクール学校運営協議会委員の方にご協力いただき、５年生の算数を中心に学力向上のために指導いただいている。未来の「常盤」を担う子どもを育てるべく、担任等とともに少人数指導を行っている。地域の方の励ましが、子どもたちのやる気につながっている。

■ 実施に当たっての工夫

〇地域の方々の「ふるさと常盤」を愛する思いや後世に伝えていきたいという思いが子どもに伝わるよう、そして、目の前の子どもの実態にあった内容になるよう地域コーディネーターと学校担当者、そして担任を交えて事前の打ち合わせを行ってきた。

〇正面玄関に「地域協働合校コーナー」を設け、日々お世話になっている地域の方の姿を載せさせていただき、感謝の気持ちを忘れないようにしている。

【地域協働合校コーナー】

■ 事業の成果

〇昨年度より引き続き、地域コーディネーターをしてくださっている方のおかげで、教職員の担当者に異動があっても、スムーズに活動を行うことができた。また、全国学力状況調査の結果においても、５年生までに地域での学習や地域の方に教えていただいたことは、87.5%の子どもが覚えており、地域の行事に参加している子どもも 90%いる。学習を通して地域とのつながりがしっかりできていると感じている。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇せっかく素敵な活動をしているので、子どもたちだけでなく、保護者のボランティアさんを募って、親御さんも巻き込んで共に学んでいただく機会を増やせればさらに親子で「常盤」について語り合うことができるだろう。子どもたちが大人になったら、ボランティアとして戻ってきてくれることが理想である。

■ その他（学校運営協議会との連携等）

〇年４回学校運営協議会にて連絡調整を行っている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

栗東市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部　□地域未来塾　■放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿
・学校を核として、学校、家庭および地域住民相互の連携および協力を推進し、まち全体で地域の将来を担う子どもたちを育成するとともに地域のコミュニティの活性化を図る。

■本年度の具体的活動
・市内９小学校区のうち８小学校区において、地域住民の方にサポータースタッフとして協力をいただきながら放課後子ども教室を開催。年間を通じて、放課後を中心に週１回程度の割合で放課後や週末におけるスポーツや体験・文化活動をとおして、子どもと地域住民との交流などを行う。
・市内３中学校区のうち１中学校区において、地域学校協働本部を設置し、地域サポーターの方々により組織された団体が基幹となって、地域ぐるみで青少年の健全育成や、学校や家庭での教育活動支援に取り組む。

■本年度の成果
・放課後子ども教室事業では、学校の校庭や教室等に安全・安心して活動できる子どもの居場所（活動拠点）を設け、地域の大人、退職教員、大学生、青少年・社会教育団体関係者等を安全管理員等として配置し、年間を通じて放課後を中心に週１回程度スポーツや体験・文化活動を行い、子どもたちには放課後を楽しく過ごしてもらうことができた。また、子どもたちと地域住民との交流も深めることができた。
・地域学校協働本部事業では、学習環境支援、図書室支援、環境整備支援、栗中コミュニティガーデンなどの校内での活動や、通学マナーアップ、学校行事支援などの地域に目を向けた校外での活動を通して、地域サポーターの方々と生徒との交流が促進され、地域と学校との連携を深めることができた。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて
・放課後子ども教室事業、地域学校協働本部事業とも協働活動に欠かすことのできない地域サポーターの方々の高齢化が進み、慢性的なスタッフ不足が大きな課題となっている。特に放課後子ども教室事業では、活動が実施される時間帯において、若い世代の方は、就労や、小学生未満の子どもの育児、また、スタッフの主要構成世代となっているシルバー世代の方についても就労されている方が増えてきており、なかなかスタッフが集まらないのが現状である。今後の活動を継続していくに当たり、地域住民の方に対して活動への理解を深めてもらえるような情報提供を行うとともに、保護者の方などにも声をかけしながら少しずつでもスタッフの確保を進めていきたいと考えている。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況
・地域学校協働活動推進員の委嘱はしていない。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画
・域内の公立学校園の学校運営協議会の導入も行っていない。
今年度は、コミュニティ・スクールに係る学習会を実施するなどの取組を行った。

■その他
・放課後子ども教室事業では、季節に応じたイベントやお楽しみ会など、子どもたちが楽しめるよう工夫しながら活動を行った。
・地域学校協働本部事業では、長年にわたる活動により、ユニフォームを着たサポーターさんが生徒やその保護者に自然な形で受け入れられ、和やかな雰囲気で開かれた学校づくりにつながっている。

【放課後子ども教室】

【地域学校協働本部】

地域と学校を結ぶ栗東中学校支援地域事業本部「栗中サポーターズクラブ」　（栗東中学校）

栗東市	活動名：栗東中学校支援地域本部 「栗中サポーターズクラブ」	栗東中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：1 人（兼務０人）　ボランティア登録数：39 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）学 習 環 境 支 援　：　美化活動や危険箇所の点検を兼ねながら廊下から授業を見守る支援（月１～２回程度）

（2）図 書 室 支 援　：　新着図書の蔵書作業や、本の整理、カーテンレールの修理などの環境整備

（3）環 境 整 備 支 援　：　破損箇所修理や植栽伐採、ＰＴＡ環境整備支援、家庭部員との協働雑巾作りなど、校舎内外の学校生活環境向上全般における支援

（4）通学マナーアップ　：　登下校時の危険箇所での立番活動

（5）学 校 行 事 支 援　：　生徒との地域ゴミ拾い活動、校外学習時の立番、チャレンジウィーク起業体験支援

（6）栗中コミュニティガーデン　：　生徒とサポーターさんとの協働運営菜園で野菜の栽培、収穫支援

■　実施に当たっての工夫

〇年度初めにサポーター会議を開き、活動計画をお知らせする。また、毎月サポーター通信で会員さんに周知している。申し込み制。申し込み状況を把握しながら事務局からも働きかけ人数調整をする。

〇専用のユニフォームを着て、活動が見てすぐにわかるようにする。保護者さんや地域の方にも、理解協力が得やすい。

〇サポーター通信を月１回発行。保護者や地域の役員さんにも配布し、活動の様子を伝える。近隣の生徒が通信を届け、地域とのつながりの機会とする。

〇無理のない範囲で、生徒たちと一緒に活動することを心がけ、温かで心豊かな生徒の育成、自ら取り組もうとする意欲を高める。

〇活動の様子を校長室前掲示板に掲載。来校されたお客様にも幅広く活動を知っていただく。

〇サポーター室を設け、活動時だけでなく、活動計画を立てるなど気軽に立ち寄っていただいている。なごやかな雰囲気の中、いろんな感想や意見を出し合うなど、サポーターさんどうしの交流の場としても役立っている。

【図書委員との本の整理】

【エコロジー委員との畑作業】

■　事業の成果

〇規律や安全面での支援

月１回から２回程度、授業中、廊下からの見守りを実施。三者懇談会中の放課後には駐輪場やグラウンドの巡回、校外学習時には駅周辺の見守りなど、学校行事で手薄になりがちな箇所を支援している。また、樹木の伐採や砂場の整備、校内環境整備などの支援も行っている。

〇図書室支援による担当教員の負担軽減

図書室支援・・図書室の本の整理やカーテンレールの修理、じゅうたんの清掃など図書室を利用しやすい環境作り。今年度は、図書委員と定期的に継続して協働新書蔵書作業を実施。生徒たちに、楽しく行事に関わっていこうとする意欲が芽生えてきた。

〇サポーターとの協働による生徒の心の醸成・サポーターの活躍の場の提供

種まきや苗植え、野菜の収穫などの作業を通して、土に触れ、野菜を育てる喜びを実感、心の醸成につなげている。近隣の協働ゴミ清掃では、ゴミの多さに気づき、そのことについて考えるきっかけを提供した。地域から提供いただいた中古タオルで雑巾を作る取組では、校内環境整備への意識を高め、授業とは違った学びがあった。ミシン掛けが苦手な生徒への支援にもなった。また、着付け教室、畑作業、耕耘機の修理など、サポーターさんの専門知識を生かした活躍の場の提供にもなっている。

〇全体を通して

長年にわたり、校内での活動と地域に目を向けた校外での活動が、途切れることなく続けられている。今までに関わってこられたたくさんの方々の努力のたまものである。生徒や保護者は、ユニフォームを着たサポーターさんを自然な形で受け入れ、和やかな雰囲気であいさつをしたり会話を交わしたりできる。開かれた学校づくりに貢献していただいている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

サポーターさん自身の高齢化が課題である。徐々に引き継いでもらえるように取り組みたい。保護者も少数ながら参加いただいている。引き続き、加入の呼びかけを続ける。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

学校運営協議会は設置していないが、地域のサポーターが構成メンバー含まれる学校協議会において連携を図っている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

卓球を通してみんなとふれあう「金勝放課後子ども広場」

栗東市	活動名：金勝放課後子ども広場	金勝小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［放課後子ども教室］　主な活動場所：コミュニティセンター金勝
年間開催日数：５日　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）
平均スタッフ数：８人　平均参加人数：20 人　開始年度：平成 19 年度

・活動日　：　□月　■火　□水　■木　□金　□土　□日　□長期休業中
・活動内容　：　□学習指導員を配置した学習支援　□その他の学習支援　■スポーツ　□芸術・文化　□体験活動　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）
・地域の方々にサポータースタッフとしてご協力をいただきながら事業活動を行った。
・コミュニティセンターにある卓球台を活用し、卓球の体験活動を通して異学年の子どもたちや地域住民との交流を深める機会とした。

■　実施に当たっての工夫
・夏休みの期間を活用し、コミュニティセンターにある卓球台を活用し、卓球を通じてスポーツの楽しさを感じてもらいながら、子どもたちの協調性を育み、仲間づくりのきっかけとした。
・コミュニティセンターがふれあいサロン事業として実施しているシニア卓球教室に参加されている地域の方々にサポータースタッフとしてご協力をいただき、地域住民と子どもたちの交流にもつなげている。

【卓球活動①】

■　事業の成果
・卓球を通して、子どもたちにスポーツの楽しさを感じてもらうことができた。
・卓球の経験がほとんどない子どもたちにも、サポータースタッフの方が丁寧に指導していただいたおかげで、最初はラケットに球が当たらなかった子どもも徐々に上達するにつれ、笑顔が増えて和気あいあいとした和やかな雰囲気で卓球を楽しむことができていた。
・異学年同士の子どもたちによる交流を深めることができた。
・サポータースタッフとして事業に関わっていただいている地域の方と、子どもたちが一緒に活動することにより、地域住民の交流を深めることができた。

【卓球活動②】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
・継続的にコミュニティセンターや地域の方々の協力が得られるかどうかが課題となっている。
・夏休み以外の期間においても活動を広げていけるように取り組みを進めていく。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印
（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

活動を通してみんなとふれあう「葉山東ふれあい子ども広場」

栗東市	活動名：葉山東ふれあい子ども広場	葉山東小学校　学校運営協議会　：□有　■無

地域学校協働活動概要
［放課後子ども教室］　主な活動場所：葉山東小学校体育館　コミュニティセンター葉山東
年間開催日数：27 日　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）
平均スタッフ数：11 人　平均参加人数：42 人　開始年度：平成 19 年度
・活動日　：　□月　□火　■水　□木　□金　□土　□日　□長期休業中
・活動内容　：　□学習指導員を配置した学習支援　■その他の学習支援　■スポーツ　■芸術・文化　□体験活動　■その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）
・地域の方々にサポータースタッフとしてご協力をいただきながら事業活動を行った。
・「軽スポーツ」「クラフト」「将棋」の３部門で参加者を募集した。
・「軽スポーツ」部門は、小学校の体育館でボール遊びや大なわとび、卓球等の軽スポーツを実施した。
・「クラフト」部門は、コミュニティセンターで、折り紙や画用紙などを使用し、季節感のある作品づくりに取り組んだ。
・「将棋」部門は、コミュニティセンターで、初心者でも楽しめるように、駒の並べ方から、動き方までをサポータースタッフに丁寧に指導していただいた。
・長期休暇前には、３部門合同のお楽しみ会を行い、レクリエーション活動を通じて部門を越えた子どもたちの交流を行った。

【将　棋】

■　実施に当たっての工夫
・通常は３部門がそれぞれ別々に活動しているため、他部門の参加者との交流機会がないことから、年に数回、全部門合同でお楽しみ会を実施し、別部門の参加者との交流を図った。
・「クラフト」部門ではコミュニティセンターにおいて実施される地域の事業とも連携して、クラフトで作った作品を展示し、地域の方に活動の成果を見ていただく機会を設けた。

【軽スポーツ】

■　事業の成果
・「軽スポーツ」「クラフト」「将棋」の３部門によるそれぞれの活動を通じて、子どもたちは楽しく放課後を過ごすことができた。
・異学年同士の子どもたちによる交流を深めることができた。
・サポータースタッフとして事業に関わっていただいている地域の方と、子どもたちが一緒に活動することにより、地域住民の交流を深めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
・スタッフの高齢化やスタッフの人数不足が大きな課題となっている。
・夏季期間（７月～９月）における活動について、軽スポーツ部門については、活動場所である体育館内の温度が高くなりすぎ、熱中症事故のリスクを考慮すると実施が難しくなってきている。

■　その他
・学校には参加児童への連絡調整等で協力いただいている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印
（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

いつも楽しいみんなの広場「はるたっこ広場」

栗東市	活動名：はるたっこ広場	治田小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［放課後子ども教室］　主な活動場所：治田小学校体育館　コミュニティセンター治田
年間開催日数：22 日　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）
平均スタッフ数：６人　平均参加人数：34 人　開始年度：平成 19 年度
・活動日　：　□月　□火　□水　□木　■金　□土　□日　□長期休業中
・活動内容　：　□学習指導員を配置した学習支援　■その他の学習支援　■スポーツ　□芸術・文化　■体験活動　■その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）
・地域の方々にサポータースタッフとしてご協力をいただきながら事業活動を行った。
・高学年の授業により体育館が使用できない間は、コミュニティセンターにおいて宿題に取り組んだり、絵本の読み聞かせを行ったりした。
・体育館の使用が可能になった時点で体育館へ移動し、ボール遊びやなわとび、バドミントンなど、軽スポーツを中心とした自由遊びを行った。
・季節の体験活動として七夕飾りづくりを行った。
・クリスマスにはお楽しみ会を開催し、コミュニティセンターの調理室を借りてホットケーキづくりを行った。

【絵本の読み聞かせ】

■　実施に当たっての工夫
・高学年の授業で体育館が使えない時間帯を有効に活用できるように、コミュニティセンターを利用し、宿題や読み聞かせを行った。
・体育館では子どもたちの自主性に任せた自由遊びを基本とし、サポータースタッフは見守り活動を主としながら子どもたちとの交流を行った。

■　事業の成果
・自由遊びや、読み聞かせなどを通じて、子どもたちは楽しく放課後を過ごすことができた。
・異学年同士の子どもたちによる交流を深めることができた。
・サポータースタッフとして事業に関わっていただいている地域の方と、子どもたちが一緒に活動することにより、地域住民と子どもたちとの交流を深めることができた。

【自由遊び】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
・スタッフの高齢化やスタッフの人数不足が大きな課題となっている。
・夏季期間（７月～９月）における活動については、活動場所である体育館内の温度が高くなりすぎ、熱中症事故のリスクを考慮すると実施が難しくなってきている。

■　その他
・学校には参加児童への連絡調整等で協力をいただいている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印
（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

新しい体験にどんどんチャレンジ「チャレンジはるひがっこ」

栗東市	活動名：チャレンジはるひがっこ	治田東小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［放課後子ども教室］　主な活動場所：治田東小学校体育館
年間開催日数：30 日　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）
平均スタッフ数：10 人　平均参加人数：16 人　開始年度：平成 19 年度
・活動日　：　□月　□火　■水　□木　□金　□土　□日　□長期休業中
・活動内容　：　□学習指導員を配置した学習支援　■その他の学習支援　■スポーツ　□芸術・文化　■体験活動　■その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）
・地域の方々にサポータースタッフとしてご協力をいただきながら事業活動を行った。
・子どもたちの自主性に任せた自由遊びを基本とし、なわとびや、ボール遊び、バドミントン、折り紙、お絵かきなど、やりたい事が出来るようにした。
・６月にはちぎり絵、10 月にはもちつき大会、12 月にはクリスマス会、２月には節分遊びなど、季節に応じた体験活動を行った。
・夏季休暇期間中に親子参加のお楽しみ会として、ながしそうめんを実施した。

【自由遊び】

■　実施に当たっての工夫
・通常時の活動では、子どもたちの自主性を尊重した自由遊びを基本とし、サポータースタッフは、子どもたちの見守りや遊びの補助を行うようにしている。
・２ヶ月に１回程度季節に応じた体験活動を実施した。
・夏季休暇期間中には親子で参加できるお楽しみ会を実施し、参加者の保護者やきょうだいも含めた家族同士が交流できる機会を設けた。

【夏休みお楽しみ会】

■　事業の成果
・自由遊びや、季節に応じた体験活動などを通じて、子どもたちは楽しく放課後を過ごすことができた。
・異学年同士の子どもたちによる交流を深めることができた。
・サポータースタッフとして事業の関わっていただいている地域の方と、子どもたちが一緒に活動することにより、地域住民とこどもたちとの交流を深めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
・スタッフの高齢化やスタッフの人数不足が大きな課題となっている。
・夏季期間（７月～９月）における活動については、活動場所である体育館内の温度が高くなりすぎ、熱中症事故のリスクを考慮すると実施が難しくなってきている。

■　その他
・学校には参加児童への連絡調整等で協力いただいている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印
（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

放課後の時間をのびのび過ごす「治西のびのび広場」

栗東市	活動名：治西のびのび広場	治田西小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［放課後子ども教室］　主な活動場所：治田西小学校家庭科室ほか
年間開催日数：30 日　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）
平均スタッフ数：９人　平均参加人数：36 人　開始年度：平成 19 年度
・活動日　：　■月　■火　■水　■木　■金　■土　■日　■長期休業中　※活動内容により曜日を変えています。
・活動内容　：　□学習指導員を配置した学習支援　■その他の学習支援　■スポーツ　□芸術・文化　■体験活動　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）
・教員がスタッフとして参加し、活動内容の決定等、主体的に活動に関わっている。
・地域の方々にサポータースタッフとしてご協力をいただきながら事業活動を行っている。
・地域の総合型スポーツクラブと協働し、ニュースポーツやミニバス、バドミントンなどのスポーツを体験した。
・人権学習の一環として地域のふれあい文化祭でステージ発表を行った。
・夏休み期間中の活動では小学校のプールを利用し水泳を行った。

【平和学習】

■　実施に当たっての工夫
・人権学習、集団遊び、創作活動、平和学習、クッキング、スポーツ体験など、毎回内容を変えながら様々なジャンルの体験活動を行った。
・帰宅時には、地域のサポータースタッフが子どもたちと一緒に帰ることにより、保護者の迎えがなくても活動に参加できるようにした。

【ふれあい文化祭にむけた取組】

■　事業の成果
・軽スポーツや創作活動、人権学習など様々な体験活動などを通じて、子どもたちは楽しく放課後を過ごすことができた。
・異学年同士の子どもたちによる交流を深めることができた。
・サポータースタッフとして事業に関わっていただいている地域の方と、子どもたちが一緒に活動することにより、地域住民と子どもたちとの交流を深めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
・スタッフの高齢化やスタッフの人数不足が課題となっている。

■　その他
・教員がスタッフとして参加し、活動内容の決定等、主体的に活動に関わっている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印
（ ○ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

いつも楽しいわくわく活動「大宝わくわくタイム」

栗東市	活動名：大宝わくわくタイム	大宝小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［放課後子ども教室］　主な活動場所：大宝小学校体育館
年間開催日数：22 日　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）
平均スタッフ数：７人　平均参加人数：41 人　開始年度：平成 19 年度
・活動日　：　□月　□火　■水　□木　□金　□土　□日　□長期休業中
・活動内容　：　□学習指導員を配置した学習支援　■その他の学習支援　■スポーツ　□芸術・文化　■体験活動　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）
・地域の方々にサポータースタッフとしてご協力をいただきながら事業活動を行った。
・活動内容についてはスタッフ会議で事前に決定し、毎回違う活動を行った。
【主な活動内容】
ボール運びリレー、おにごっこ、スプーンリレー、じゃんけんゲーム、新聞紙タワー作り、ペットボトルボーリング、二人三脚リレー、紙飛行機、紙鉄砲作り、ぬいとりリレー、絵本の読み聞かせ、びっくりコラージュ、木の実あそび、紙皿フリスビー、スローイングビンゴ　など

【宿題タイム】

■　実施に当たっての工夫
・活動内容については個人で行うものやチームで協力して行うものなど、毎回内容を変え、様々な体験を通して子どもたちが楽しめるようにした。
・七夕飾りづくりやクリスマスグッズ作り、お正月あそびなどの季節に応じた活動内容も取り入れた。
・毎回の活動後には子どもたちの大好きなドッジボールを行うが、年齢差、体力差などに考慮した対戦を行いみんなが楽しめるようにした。

【ボール運びリレー】

■　事業の成果
・毎回内容の違う体験活動を通して、子どもたちは楽しく放課後を過ごすとともに、色々なことに興味を持つきっかけとなった。
・異学年同士の子どもたちによる交流を深めることができた。
・サポータースタッフとして事業に関わっていただいている地域の方と、子どもたちが一緒に活動することにより、地域住民と子どもたちとの交流を深めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
・スタッフの高齢化やスタッフの人数不足が大きな課題となっている。
・夏季期間（７月～９月）における活動については、活動場所である体育館内の温度が高くなりすぎ、熱中症事故のリスクを考慮すると実施が難しくなってきている。

■　その他
・学校には参加児童への連絡調整等で協力いただいている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印
（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

明るく元気に太陽のように「さんさん・キッズ」

栗東市	活動名：さんさん・キッズ	大宝東小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［放課後子ども教室］　主な活動場所：大宝東小学校体育館
年間開催日数：24 日　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）
平均スタッフ数：10 人　平均参加人数：46 人　開始年度：平成 19 年度
・活動日　：　□月　□火　■水　□木　□金　□土　□日　□長期休業中
・活動内容　：　□学習指導員を配置した学習支援　■その他の学習支援　■スポーツ　■芸術・文化　■体験活動　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）
・地域の方々にサポータースタッフとしてご協力をいただきながら事業活動を行った。
・子どもたちの自主性に任せた自由遊びを基本とし、なわとびや、ボール遊び、バドミントン、折り紙、工作、お絵かきなど、やりたい事ができるようにした。
・７月にはしゃぼん遊び、１月にはかるた遊びの体験活動を実施した。

【しゃぼん玉あそび】

■　実施に当たっての工夫
・通常時の活動では、子どもたちの自主性を尊重した自由遊びや創作活動を基本とし、サポータースタッフは、子どもたちの見守りや遊びの補助を行うようにしている。
・しゃぼん遊びや、かるた遊びなどの体験活動も取り入れ子どもたちが楽しめるようにした。

【自由遊び】

■　事業の成果
・自由遊びや、体験活動などを通じて、子どもたちは楽しく放課後を過ごすことができた。
・異学年同士の子どもたちによる交流を深めることができた。
・サポータースタッフとして事業に関わっていただいている地域の方と、子どもたちが一緒に活動することにより、地域住民と子どもたちとの交流を深めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
・スタッフの確保が課題となっている。
・夏季期間（７月～９月）における活動については、活動場所である体育館内の温度が高くなりすぎ、熱中症事故のリスクを考慮すると実施が難しくなってきている。

■　その他
・学校には参加児童への連絡調整等で協力いただいている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印
（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域の方とのふれあい大事に「大宝西ふれあい子ども広場」

栗東市	活動名：大宝西ふれあい子ども広場	大宝西小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［放課後子ども教室］　主な活動場所：大宝西小学校体育館
年間開催日数：22 日　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）
平均スタッフ数：11 人　平均参加人数：39 人　開始年度：平成 19 年度
・活動日　：　□月　□火　■水　□木　□金　□土　□日　□長期休業中
・活動内容　：　□学習指導員を配置した学習支援　■その他の学習支援　■スポーツ　□芸術・文化　■体験活動　■その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）
・地域の方々にサポータースタッフとしてご協力をいただきながら事業活動を行った。
・月に１回程度季節に応じた体験活動を行った。
　６、７月　七夕笹飾りづくり　10 月　大縄跳び　11 月　落ち葉拾い
　12 月　クリスマス会　１月　かるた大会　２月　カプラ
・毎月、誕生月の子どもたちに対し、参加者全員で歌を歌うなどのお祝いを行った。

【七夕飾りづくり】

■　実施に当たっての工夫
・通常時の活動では、子どもたちの自主性を尊重した自由遊びを基本とし、サポータースタッフは、子どもたちの見守りや遊びの補助を行うようにした。
・季節に応じた体験活動では、参加者をグループ分けして活動を行うことにより、異学年同士の交流を深めることにつなげた。

■　事業の成果
・自由遊びや、体験活動などを通じて、子どもたちは楽しく放課後を過ごすことができた。
・異学年同士の子どもたちによる交流を深めることができた。
・サポータースタッフとして事業に関わっていただいている地域の方と、子どもたちが一緒に活動することにより、地域住民とこどもたちとの交流を深めることができた。

【自由遊び】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
・スタッフの高齢化やスタッフの人数不足が課題となっている。
・夏季期間（７月～９月）における活動については、活動場所である体育館内の温度が高くなりすぎ、熱中症事故のリスクを考慮すると実施が難しくなってきている。

■　その他
・学校には参加児童への連絡調整等で協力いただいている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印
（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

甲賀市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ □地域学校協働本部　□地域未来塾　■放課後子ども教室　■土曜日の教育支援

■目指す姿

教育方針に基づき、本市がめざす教育の姿を実現するために、次の３つの教育目標を掲げ、教育施策を推進していく。

１．ともに学び　ともに育ち　ともに生きる
２．豊かな心と健やかな体を育む
３．郷土への誇りを持ち、世界に発信できる人を育てる

■本年度の具体的活動

放課後子ども教室では、岩上公民館を拠点として、放課後や長期休業中に体験学習を実施している。

土曜日の教育支援では、公民館を拠点とし地域の多様な経験や技能を持つ人材、高等学校の協力を得ながら、土曜日に体験活動を実施している。

また、今年度からの取り組みとして、甲賀市社会教育委員の会議で、地域学校協働活動の円滑な実施に向けた「地域学校協働活動を推進するために」と題した提言をまとめ、施策に反映できるよう進めている。

第１回　「今後の進め方」について
第２回　「テーマ選定と今後のスケジュール」について
第３回　「学校経営の基本を学ぶ」について（現地研修）

■本年度の成果

保護者や児童から、公民館が安全・安心な活動拠点として一定の評価を得ている。

また、甲賀市社会教育委員の会議では、学校経営の現状についての理解を図るため、市内小学校を訪問し現地研修を実施した。授業時数や校務分掌など具体的な資料を確認し、学校が置かれている状況について一定の共通理解を図れた。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

地域学校協働活動の推進に向け、人件費や活動費の予算確保が必須になるが、予算確保に苦慮している。

地域学校協働活動が地域の教育力を高め、まちづくりを推進し、ひいては学校経営の負担を軽減できることを啓発していく必要がある。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

現状、委嘱はないが、制度を進める上での必要性について、今後検討していく。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

導入なし。

【社会教育委員の会議】

甲賀市放課後子ども教室（岩上公民館）

甲賀市	活動名：岩上公民館子ども教室	水口小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

［放課後子ども教室］　主な活動場所：岩上公民館　年間開催日数：10 日　地域学校協働活動推進員等数：１人
平均スタッフ数：３人　平均参加人数：４人　開始年度：平成 28 年度
・活動日　：　□月　□火　■水　□木　□金　□土　□日　■長期休業中
・活動内容　：　□学習支援　□スポーツ　□芸術・文化　■体験活動　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

放課後や長期休業中に公民館を活用し、地域の方々に講師や活動支援者をお願いしながら、子どもたちに様々な体験活動を提供している。

地域の協力が必要不可欠な当事業において、必要に応じ地域の方と話し合いの場を設け、お互いの課題等を共有しながら事業を進めている。

第１回　牛乳パッククラフト
第２回　天体観望
第３回　木の実クラフト
第４回　冬休み宿題お助け講座　書き初め

■　実施に当たっての工夫

・全校生徒が一斉に帰宅する水曜日に教室を実施し、多くの児童が参加できるようにしている。
・児童の公民館への送迎は、保護者にお願いしている。
・第４回講師に、地域づくり型生涯カレッジ推進事業（あいこうか生涯カレッジ）の受講修了者に依頼し、学びの実践を推進することができた。

【天体観望】

■　事業の成果

・毎回参加してくれる児童があり、公民館が子どもたちの安全・安心な活動拠点として機能している。
・保護者から、公民館を使い家庭では体験させてあげられない活動を設けていることに喜びの声をいただいている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

児童の安全・安心な活動拠点（居場所）になるための手法として様々な体験活動を用意しているが、限られた人員では開催回数に限度があり目的達成には多くの時間がかかる。地域主導で地域の方に教育力を発揮してもらうことが重要になる。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

あいの土っこ“きらねっ人”いきいき活動

甲賀市	活動名：子ども公民館講座 あいの土っこ“きらねっ人”いきいき活動	土山小学校・大野小学校 学校運営協議会 ： □有 ■無

［土曜日の教育支援］ 主な活動場所：土山中央公民館 年間開催日数：７日 地域学校協働活動推進員等数：０人（兼務０人）
平均スタッフ数：10 人 平均参加人数：17 人 開始年度：平成 27 年度
・活動内容 ： □学習支援 □スポーツ ■芸術・文化 ■体験活動 ■その他

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）
- 作品製作（折紙、スライム）
- ふれあいあそび（おじゃみ、カロムなど）
- 天体観測
- 地域の大人が指導者・スタッフとなり、昔遊びを中心とした体験活動を行う。
- 指導者は日本の文化を伝承したいという思いをもとに活動しており、学校から依頼を受けて江州音頭や昔遊びの指導に行くなど、日頃から交流を続けている。

【夏休みあそびのひろば（折り紙）】

■ 実施に当たっての工夫
- 日常生活の中で体験できない昔遊びを指導する。
- 子どもが参加しやすいように町内の公民館や公共施設を巡回したり、文化祭など地域事業の開催にあわせて事業を行ったりしている。
- 参加者募集はチラシを作成し町内の小学校と保育園を通じて配布を依頼している。また、事業紹介は公民館広報紙を発行し、町内全戸配布をしている。
- ボランティアバンクの登録者が 22 名あり、事業への参加は都度登録者に案内し協力を依頼している。
- 日本の伝統や文化を感じてもらいながら、指導者一人ひとりの特技を活かした内容を取り入れている。

■ 事業の成果
- 学校が休業になる日に事業を行うことで子どもの居場所づくりができ、公民館の活性化につながる。
- 子どもの参加は保護者に送迎を求めているが、一緒に参加される保護者も多い。
- 保護者にとっては友だちと交流する子どもの姿をみて、成長を感じていただく機会になっている。
- 普段ふれあう機会のない地域の方や子どもたちとの交流が楽しいという保護者の感想もあり、参加することで新しい発見や気づきにつながっている。
- 指導者自身も指導という役割以上に、子どもたちと遊ぶことで元気がもらえると話している。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
指導者の高齢化にともない指導者の育成が必要
少子化により参加者の減少
学校との連携が図れていない。

■「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印
（ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

ＫＯＫＡ楽こども公民館、子ども天文クラブ

甲賀市	活動名：ＫＯＫＡ楽こども公民館 子ども天文クラブ	大原小学校・油日小学校・佐山小学校・甲賀中学校 学校運営協議会 ： □有 ■無

［土曜日の教育支援］ 主な活動場所：かふか生涯学習館 年間開催日数：30 日 地域学校協働活動推進員等数：０人（兼務０人）
平均スタッフ数：３人 平均参加人数：15 人 開始年度：平成 27 年度
・活動内容 ： □学習支援 □スポーツ □芸術・文化 ■体験活動 □その他

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

「ＫＯＫＡ楽こども公民館」では、お菓子づくり教室や茶道教室などを開催し、ものづくりに対する関心や伝統文化への関心を高め、他校の子どもたちと交流する中で、仲間づくりやコミュニケーション能力を育む実践をしている。

「子ども天文クラブ」では、年度当初に受講生の募集を行い、６月から月１回程度の連続講座を開催し、西日本最大級の屈折型天体望遠鏡を使いながら、太陽系内外の惑星・恒星の観望や季節の星座を学んでいる。

いずれも、チラシが町内児童に全て行き渡るよう、学校と連携して配布している。

また、地域住民が活動支援者として協力し、子どもたちと積極的に関わろうとする姿が多く見られ、地域で子どもを育てる風土が根付いている。

■ 実施に当たっての工夫

お菓子づくり教室は、例年非常に多くの申込があることから、午前と午後の２部制で開催し、多くの子どもたちに学びの機会を提供することができた。

子ども天文クラブでは、８月にペルセウス座流星群観測会を実施するなど季節や時事に合わせ、子どもたちが興味や好奇心を持ちやすいテーマを選定している。

天体観測は天気に影響を受けやすいことから、突然の荒天にも対応できるよう、プラネタリウム映像やクラフトなど代替のものを用意している。

また、夜に開催することが多く、保護者による送迎をお願いしていることから、自然と親子参加となり、家庭教育支援にもつながっている。

【お菓子づくり教室】

■ 事業の成果

継続して参加している子どもは知識も深まり、リーダーシップを発揮する場面や他校の子どもと積極的に関わる姿が見られた。

講師や活動支援者からは、「子どもと関わることで元気や笑顔をもらっている。」など、普段の生活では得られない楽しみを感じていただいている。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

事業は土曜日に実施することが多く、学校の支援を依頼するのに難しい面があり、学校との連携が図りきれていないところがある。今後は、近隣にある高等学校の生徒に対し、活動支援者として関わっていただけるよう働きかけ、地域・学校・家庭が一体となって子どもたちを育んでいけるような連携を推進していく。

■「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

（ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

野洲市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ □地域学校協働本部　□地域未来塾　■放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿

市内のさまざまな分野で活躍する幅広い関係者が連携して、学校・家庭・地域社会全体における子どもの生きる力を育む方策および休日等の子どもたちの安全で健やかな居場所を確保し、児童の健全育成を支援し、地域の教育力の向上および地域における人々の交流の促進につなげることを目指す。

■本年度の具体的活動

地域子ども教室の諮問機関である「野洲市地域教育協議会」において、事業内容の情報交換などを年２回行っている。

①運営委員会の協議内容

回	実　施　日	参加人数	協　議　内　容
1	平成 30 年 ５月 25 日	13 名	(1) 平成 30 年度 野洲市地域子ども教室の予算について (2) 平成 30 年度 野洲市地域子ども教室の事業計画について
2	平成 31 年 ３月１日	ー名	(1) 平成 30 年度 野洲市地域子ども教室の実施状況について (2) 平成 31 年度 野洲市地域子ども教室の概要について

②構成委員（所属・役職名）

野洲市青少年育成市民会議会長、野洲学区青少年育成会議役員、三上地域教育推進委員会地域教育推進サポーター、祇王学区青少年育成会議会長、篠原学区子ども教室運営協議会会長、北野小学校区青少年育成会会長、中主学区青少年育成会議会長、野洲学区わくわく子どもクラブ事務局、三上地域教育推進委員会事務局、コミュニティセンターぎおう事務局長、篠原地域子ども教室運営協議会事務局、コミュニティセンターきたの事務局長、中主地域子ども教室運営協議会事務局、小学校校長会代表、小学校教頭会代表

■本年度の成果

・子ども教室を通じて、子どもたちの協調性や自主性、社会性が育ってきている。
・地域の方が子ども教室に関わってくださることで、地域の交流が生まれ、「地域の子どもは地域で育てる」という雰囲気ができている。
・今年度より、校区外の子どもも各クラブに参加できるようにしている。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

・教室を運営してくださっているスタッフの確保が難しくなってきている。市民活動サークルとして登録をされている方や、各地域のコミュニティセンターで活動されている団体などへも積極的に協力の呼びかけを行っていきたい。
・次年度から、地域学校協働本部の導入を予定している。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

現在は、市職員が事務局として担っている。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

学校運営協議会については、協議中である。

まず一度やってみよう。いろいろなことを体験して、初めて分かることがいっぱいある！

野洲市	活動名：野洲学区わくわく子どもクラブ	野洲小学校 （市内の全小学校の児童が参加可） 学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働活動概要

［放課後子ども教室］ 主な活動場所：コミュニティセンターやす 年間開催日数：55 日

地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）

平均スタッフ数：３人 平均参加人数：14 人 開始年度：平成 18 年度

・活動日 ： □月 □火 □水 □木 □金 ■土 □日 □長期休業中

・活動内容 ： □学習指導員を配置した学習支援 □その他の学習支援 □スポーツ ■芸術・文化 ■体験活動 □その他

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

・学校では基礎的な学習があり、派生的に子どもたちが、やってみたいと思う体験学習を主体的にテーマに掲げている。
また、子どもの興味を引き付け、参加意欲を高めることをねらい、ネーミングを以下のように工夫している。

① いけ花教室 花の命を大切に季節に合わせて楽しくお部屋を飾ろう！をテーマにしている。
② 絵手紙教室 絵を描くにはものの形をしっかり見なくてはね。自然観察も大事ですね。絵手紙をとどけよう！
③ 親子クッキング 朝食を食べない子どもが多く、食育をテーマに保護者に朝食の大切さを認識していただきつつ料理を通じて親子のコミュニケーションをはかる。
④ 日本舞踊 琴や三味線の邦楽に合わせて手先指先の動き、足の運びのけいこ！美しい体の動かし方が、身につけば最高です。
⑤ 茶道教室 おいしいお菓子とお茶で楽しいひとときを！日本の四季を感じて！お菓子の職人さんについて和菓子づくりの体験もあります。

・すべての教室において、地元のお店に協力いただき、材料の購入はじめ、職人さんの出前講座で手作り体験を実施している。
・座学ではなく、体験し、手・身体を使って学習する事に重きをおいて進めている。

■ 実施に当たっての工夫

・安全対策として、保護者に送迎をお願いしている。
・子ども教室の募集方法については、小学校と協力しながらプログラムや教室の内容の説明を児童に広く丁寧に説明し、興味を持って取り組んでもらえるように広報している。
・年度初めには開講式を小劇場で開催している。

【わくわく親子クッキング】

■ 事業の成果

・クラブ形式のため、同年代のつながりだけでなく異年代との交流ができた。
・上級生との具体的な関わり合いを通じて、教室の内容だけではなく、礼儀、人との付き合い方、集団の中の関わり方を学習することができた。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

指導者・サポーターの後継者問題が深刻である。

■「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに〇印

（ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

【わくわく日本舞踊】

今年も新しい自分にチャレンジ！「三上楽しいクラブ活動」

野洲市	活動名：三上楽しいクラブ活動	三上小学校 （市内の全小学校の児童が参加可） 学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働活動概要
［放課後子ども教室］ 主な活動場所：コミュニティセンターみかみ 年間開催日数：50 日
地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）
平均スタッフ数：2.6 人 平均参加人数：15 人 開始年度：平成 14 年度
・活動日 ： □月 □火 □水 □木 □金 ■土 ■日 □長期休業中
・活動内容 ： □学習指導員を配置した学習支援 □その他の学習支援 □スポーツ ■芸術・文化 □体験活動 □その他

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）
・学校完全５日制の実施に伴い、親子で休日を有意義に過ごすことを目的として平成 14 年９月から楽しいクラブ活動が始まった。年度初めに小学校を窓口に募集し、子どもは一年間を通して参加する。生け花・茶道・クッキング・将棋など、様々なクラブ活動があり同じクラブを継続する子ども、いろいろなクラブを経験する子どもさまざまであるが、時間が重ならない様複数のクラブを楽しむ子どもも多くいる。
・協働活動支援員は全員が三上学区の方で、日々の学校見守りをされていたり、声掛けをされていたりで、子どもたちとも何かしらのつながりがあるように見受けられる。また、コミュニティセンターが発信する広報紙を見て協働活動支援員を希望してくださった方もあり、うれしく思う。

■ 実施に当たっての工夫
・クラブ数が多いため、学校事業、地域事業などを年間計画カレンダーに記載し、４月と 10 月の年２回配布。
・コミセンみかみのまつり事業で生け花は展示、茶道は呈茶で日々の学習発表ができることを目標としている。
・将棋では、パソコンやマグネット版を使い楽しく取り組んでいる。また毎年、他館の子ども教室との交流戦も続けている。
・クッキングは大変人気で、ケガのないよう子ども４人に１人程度の割合でサポート（毎回５名でサポート）していただいている。

■ 事業の成果
コミセン事業（悠紀まつり）では毎年茶道クラブと利用団体の茶道(同好会)の皆さんとで 150 名分の呈茶を提供していて、地域の方に大変喜ばれている。同時に生け花クラブは展示発表を行い、まつりを盛り立てている。(写真参照)
あいさつもよくできるようになってきた。縦割りの構成になっているため、上級生が下級生の事を思いやる姿も見かけることがある。
卒業した子どもが手伝いに来てくれることもあり、継続の大切さを感じる。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
・指導者の高齢化と事業継続の体制づくりが模索中である。
・この「楽しいクラブ活動」が、習い事や休日の面倒を見るという部分も少なくなく、献身的な協働活動支援員のボランティア活動に対する保護者の理解が薄く感じられる。

■「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印
（ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

【悠紀まつり 生け花展示】

【悠紀まつり 呈茶コーナー】

色んなことにチャレンジしてみよう！！「祇王子どもクラブ」

野洲市	活動名：祇王子どもクラブ	祇王小学校（市内の全小学校の児童が参加可） 学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働活動概要

［放課後子ども教室］ 主な活動場所：コミュニティセンターぎおう 年間開催日数：53 日

地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）

平均スタッフ数：７人 平均参加人数：21 人 開始年度：平成 17 年度

・活動日 ： □月 □火 □水 □木 □金 ■土 ■日 □長期休業中

・活動内容 ： □学習指導員を配置した学習支援 □その他の学習支援 ■スポーツ ■芸術・文化 ■体験活動 □その他

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

・**よさこい妓王** よさこい踊りを通して子どもの健全な育成活動と、地域に『笑顔と元気』を届けたいと活動している。色々な地域イベントに出場し、地域に根付き地域住民との交流を増やしている。

・**クッキング教室** 学区の健康推進員の指導の下、料理を作る楽しさや健全な身体作りを目的に実施している。また、“早寝早起き、朝食”の大切さを学ぶ場としても実施している。

２つの教室とも学校や地域と、企画や募集を連携して行っている。

■ 実施に当たっての工夫

・なるべく幅広く子どもたちに参加をしてもらうよう日程、内容の調整を行っている。また、他事業との重複をしないように、配慮しながら、時間なども調整している。

・祇王学区には、妓王まちづくり推進協議会があるので、地域とのふれあいを重視し、指導者はなるべく地域から出てもらうようにしている。

【よさこい妓王】

■ 事業の成果

・子どもたちが教室で習った料理を家族に振る舞ったり、家事を手伝えるようになり、親子の会話が増え、保護者の方も地域事業に関心を持って他の地域事業にも参加してもらえるようになった。

・演舞を人前で披露することで、自信を持ち、積極的な思考が持てるようになった。

・地域の人と交流することで、子どもたち自ら、地域の大切さを学んでくれている。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・**よさこい妓王**では、子どもたちが中学に進学すると塾や部活などが忙しくなり、継続が難しく、人員が減少方向になってきている事が課題である。

・**クッキング教室**では、近年とても人気があり申込みが殺到しているので、参加者から「回数を増やして欲しい。」との要望があるが、他の事業との兼ね合いもあるので、日程調整が難しい。学区の健康推進員の人数が少なく、回数を増やすのが困難な状況なので、地域と連携しながら、新たなクッキング教室の開拓をしていく必要がある。

■「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

【クッキング教室】

かわいい子には体験を！！自然に触れ、人に触れ、健やかな成長を育む「ワクワクしのっ子」

野洲市	活動名：篠原地域子ども教室	篠原小学校（市内の全小学校の児童が参加可） 学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働活動概要

［放課後子ども教室］ 主な活動場所：コミュニティセンターしのはら 年間開催日数：65 日

地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）

平均スタッフ数：2.5 人 平均参加人数：14 人 開始年度：平成 17 年度

・活動日 ： □月 □火 □水 □木 □金 ■土 ■日 ■長期休業中

・活動内容 ： □学習指導員を配置した学習支援 □その他の学習支援 □スポーツ ■芸術・文化 ■体験活動 ■その他

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

しのたけ同窓会という学校を卒業した方々による運営団体より補助金をいただき、事業を展開している。

（１）冬休みには子どもとサンタの夢パーティーを、学校の役員の方々や地域の方々にお手伝いいただきながら開催している。

（２）12 月に青少年育成会議、地域子ども教室役員・健康推進員の協力を得て、餅つき大会を実施している。

（３）地域のボランティアの講師を招き、月１回篠原小学生を対象とした「子どもお茶教室」を実施している。

（４）年２回篠原小学生を対象とした「子ども手編み教室」を本年度から実施した。

（５）野洲市内小学生を対象とした「ジュニアオーケストラ」毎週土曜日実施。

■ 実施に当たっての工夫

・年間通じての教室では、指導者の負担や進行具合を考えて、低学年と高学年の開始時間をずらしている。核になるのは、青少年育成会議であるが、地域子ども教室、自治会長・補導委員、民生委員、更生保護女性会の応援をいただけるよう日程調整や、支援の仕方など、会議を行い努めている。

・今年度は新しい事業（フラワーアレンジ・手編み）を開催したところ、たくさんの参加者が集まった。

・新しく地域の指導者が確保できた。

・地元の子どもたちが積極的に参加したことにより、ボランティアや指導者が増えた。

【手編み教室】

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・小学校の児童数が少ない中、参加人員を募る事や、指導者の高齢化により開催回数が減ることがある。

・女子の参加者が多い傾向にあるので、男子の参加を促す事業があれば開催していきたい。

各種団体のさらなる協力を得て、さらに事業を進めていきたい。また、年々低学年の参加が増え、高齢者指導が難しくなり、今後は指導者の年齢層も考えなければならない。

■ その他（学校運営協議会との連携等）

事業は学校の休日に行うことが多いので難しいこともあるが、これから先は、連携・協働ができていければと思う。

■「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

（ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

【フラワーアレンジメント教室】

活動を通してみんなと触れ合う「北野っ子フレンドリークラブ」

野洲市	活動名：北野っ子フレンドリークラブ	北野小学校 （市内の全小学校の児童が参加可） 学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働活動概要
［放課後子ども教室］ 主な活動場所：コミュニティセンターきたの 年間開催日数：24 日
地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）
平均スタッフ数：７人 平均参加人数：25 人 開始年度：平成 17 年度
・活動日 ： □月 □火 □水 □木 □金 ■土 □日 □長期休業中
・活動内容 ： □学習指導員を配置した学習支援 □その他の学習支援 ■スポーツ ■芸術・文化 □体験活動 ■その他

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）
・北野学区青少年育成会が年間計画を立案し、北野小学校を通して参加者を募集し、主として、土曜日の９時 30 分から 11 時 30 分までの約２時間、北野学区青少年育成会役員がコーディネートし、北野学区青少年育成会が依頼した協働活動支援員と北野学区育成会役員が協力して、教室の指導および安全管理を実施している。
・年間の子ども教室の募集は学校を通じて行い、学校にも活動内容などを知ってもらう。

・平成 30 年度実施の教室と回数は下記の通りである。
お菓子作り教室：２回、クッキング教室：３回、パソコン教室：４回、絵画教室：１回、将棋教室：３回
ケーキ作り教室：１回

■ 実施に当たっての工夫
・１～３年生は、保護者の送迎を原則とした。
・参加者一人ひとりに寄り添い、配慮して実施している。
・緊急時のために、申込書に固定電話、または携帯番号を必ず記入していただいている。
・スタッフの募集については、料理教室は健康推進員にお願いしたり、市内で様々な活動をされている方に依頼したりしている。

【パソコン教室】

■ 事業の成果
・教室の編成を同年代のみにせず、クラブ形式的で行っており、その結果、異年代の意見交換を取り入れられて良かった。
・どの教室も子どもたちの明るく楽しそうな雰囲気があり、子どもの居場所づくりを目的とする「地域子ども教室」の成果となっているのではないかと思う。
・保護者から、「学校では料理教室などの機会がないのでありがたいです。」というような感謝の電話があった。

【ケーキ作り教室】

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
今後の課題 指導者探しが問題
サポーターの後継者が問題として残る

■「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印
（ ○ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

体験は心と体の栄養だ！さあ元気になろう！

野洲市	活動名：中主地域子ども教室（中里学区）	中主小学校　（市内の全小学校の児童が参加可） 学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働活動概要
［放課後子ども教室］　主な活動場所：コミュニティセンターなかさと　年間開催日数：20 日（各 10 日）
地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）
平均スタッフ数：２人　平均参加人数：10 人　開始年度：平成 18 年度（茶道）、平成 24 年度（手芸）
・活動日　：　□月　□火　□水　□木　□金　□土　■日　□長期休業中
・活動内容　：　□学習指導員を配置した学習支援　□その他の学習支援　□スポーツ　■芸術・文化　□体験活動　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

参加者を募集する際に、小学校を通じてチラシ（申込用紙）の配布を行い、子どもたちが家庭に持ち帰ることにより事業の周知を図るとともに、家庭内の親子のコミュニケーションのきっかけづくりに寄与している。また、学校においては、子ども教室の事業との日程調整を行い、子どもたちが参加しやすい環境づくりに努めている。

■　実施に当たっての工夫

〔茶道クラブ〕
- 茶道に関わる礼儀作法を学ぶことにより、その経験が家庭内でも実行できるように指導方法に工夫を凝らしている。
- 子どもたちに 12 月だけクリスマスにちなんで、お茶菓子をケーキにしたりして、ちょっとした楽しみがもてるように工夫している。
- 小学校６年生の参加者には、作法等を身につけて学び終えた証として学校茶道〔奨励賞〕（裏千家）を付与している。

〔手芸クラブ〕
- 子どもに合わせて、教材を選び、各々小さくても作品作りの達成感や喜びを味わってもらうようにしている。
- 年に一度、地域の文化振興会の発表会で作品展示することで、子どもたちのモチベーションアップにつながるようにしている。

■　事業の成果
- 手芸クラブ参加者においては、集中力の持続性や作品づくりに対する意欲が増し、おそらくそのことが学習意欲の高揚に結び付く一助となっていると考えられる。また、子どもたちの間で互いに教え合いながら作業を行うようになり、仲間づくりの意識が高まっている。
- 子ども教室を長年継続して行うことにより、習い始めのころはおどおどしていた子どもたちも、在籍年数が経過するにつれ、自信を持つようになり、態度や言葉から成長を感じられることがある。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〔課題〕
- 子どもたちの習熟度にばらつきがあるので、少数の指導者で教えるのが難しい。
- 子どもたちの集中力を持続させる工夫が必要である。
- 習いごと的な要素が強まりつつあることから、再度、子どもたちの居場所づくりのあり方を検討する必要がある。

〔今後の連携等〕
- 指導者や協力者の発掘に当たっては、学校や学区青少年育成会議などとの連携を深める。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印
（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

【茶道クラブの様子　その１】

【茶道クラブの様子　その２】

みんな仲良くいろいろ体験　いつも元気な中主っ子

野洲市	活動名：中主地域子ども教室（兵主学区）	中主小学校（市内の全小学校の児童が参加可） 学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［放課後子ども教室］　主な活動場所：コミュニティセンターひょうず　年間開催日数：20 日
地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）
平均スタッフ数：３人　平均参加人数：30 人　開始年度：平成 18 年度
・活動日　：　□月　□火　□水　□木　□金　■土　■日　■長期休業中
・活動内容　：　□学習指導員を配置した学習支援　□その他の学習支援　□スポーツ　■芸術・文化　■体験活動　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）
・子ども教室において、地域のボランティアの方に協力を依頼し、子どもと一緒に遊んだり、工作作りの手助けなどをしてもらったりしている。
・毎年のセンターのお祭りにおいて、お抹茶コーナーの接待を茶道クラブの子どもたちが着物姿で参加してくれているが、地域の方に大変好評である。

【クッキング教室】

■　実施に当たっての工夫
・教室開催チラシは毎回、小学校に持って行って全校児童に配布を依頼している。
・教室開催時には子どもたちが安全に楽しく過ごせることに留意している
・クッキング教室の場合は、全員が少しずつでも調理に参加できるように交代で材料を切ったり、炒めたりしてもらっている。

■　事業の成果
・小学１年から卒業するまで毎年参加してくれる子どもも多く、友だちとうまく関われなかった子どもが、成長して楽しく過ごす様子が見られたりする。
・きょうだい２～３人が一緒に参加できるので、保護者も喜んでおられる。

【陶芸教室】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
・小学１年生から６年生までみんなが楽しめる内容にすることはなかなか難しく内容や教材を探すのに苦慮している。
・また、地域の方にボランティアに来ていただくのも、限られた方しかおられずボランティア活動が地域に根付いていないのも現状である。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印
（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

湖南市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部　■地域未来塾　□放課後子ども教室　■土曜日の教育支援

■目指す姿

・　本市では明日を担う子どもを育てるため、「楽しくて力のつく湖南市教育」を標榜し、「夢と志を育て、『生きる力の根っこ』（自尊感情）を太くする」をスローガンに掲げている。学校教育を通して育てようとしている「生きる力」とは、人生 100 年時代を見据えた変化の激しい時代にあっても、思いやりのある豊かな心を持ちながら、自ら考え自ら行動し、たくましく未来を切り拓くことができる力であり、これからの湖南市を支える子どもたちには、課題の解決が困難に思えるときであっても決してあきらめることなく、周りの仲間と相談しながら、力を合わせ困難を切り拓いていける「自らが踏ん張って、何とかしようとする態度」と「仲間と協力して、何とかできる力」を育てることを目指している。

■本年度の具体的活動

〇市内コーディネーター等（地域学校協働活動推進員）運営会議　年２回　校区独自開催１～２回

第１回　４月 25 日（火）・コーディネーター等（地域学校協働活動推進員）委嘱状交付

・地域学校協働活動推進事業、家庭教育支援基盤構築事業等の運営と報告について

第２回　10 月 23 日（火）～１月 11 日（金）

・国、県、市「学校を核とした地域力強化プラン」運営、取組の動向と、取組の評価について

〇市内学校運営協議会理事長・地域学校協働本部委員等交流会議　11 月 27 日（火）

〇市内学校評議員・学校運営協議会理事・地域学校協働本部委員、地域まちづくり協議会役員、教職員、地域ボランティア等合同研修会（兼：運営委員会、事業成果報告会）　平成 31 年２月 21 日（木）

◇功労者感謝状贈呈５年次　　◇実践発表　菩提寺北小学校の取組成果発表

◇講演「子どもの学びを保障する地域と学校の連携・協働とは」

講師　立命館大学経済学部 准教授　武井 哲郎 氏

■本年度の成果

・　地域学校協働活動の従来からの「環境整備」「登下校安全指導」「学校行事」「クラブ活動支援」「学習支援」等に加え、学校がつなぐ役割を果たし、小学校で「土曜日の教育支援活動」、中学校で「地域未来塾（放課後等学習教室）」により、学力補充、進路保障のための学習支援や体験活動の取組を積極的に実施。地域との連携・協働、小中連携、中高連携等によりめざす児童・生徒の育つ姿を求めた取組を地道に推進している。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

・　各コミュニティ・スクール、各地域学校協働本部の取組や成果等の周知と地域人材の育成を図る中で、各本部等の経済的自立との関連から各区自治会、地域まちづくり協議会、地元企業やＮＰＯ法人等との連携・協働を継続して進めていく必要がある。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

・　「地域学校協働本部」地域コーディネーター24 名、「土曜日の教育支援活動」コーディネーター12 名、「地域未来塾（放課後等学習教室）学習支援員９名、家庭教育支援コーディネーター（支援員）５名に対して各々「地域学校協働活動推進員」として委嘱。

【子どもたちが運営する模擬店】

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

・　平成 28 年度より「全ての学校が、コミュニティ・スクールへ」を本市教育委員会の方針として掲げ、「地域と協働する学校づくり」を推進している。平成 31 年度４月には市内小学校９校中７校、中学校４校中３校が学校運営協議会を設置となる。

子どもたちの安全を第一に考え、大人たちが今できることは

湖南市	活動名：石部小地域学校協働本部	石部小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：150 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

［土曜日の教育支援］　主な活動場所：石部まちづくりセンター　年間開催日数：10 日　地域学校協働活動推進員等数：１人

平均スタッフ数：15 人　平均参加人数：80 人　開始年度：平成 26 年度

・活動内容　：　■学習支援　□スポーツ　□芸術・文化　□体験活動　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

本校は、「思いやり」と「自ら正しく判断し行動できる力」を育成することを目標において、学校と地域と家庭が協働し、活動を展開している。今年度は、子どもたちの安全を第一に考え、石部小学校校区の通学路危険箇所や「110 番の家」を記した安全マップを作成し、通学路の安全確認を図ることにした。

【学校運営協議会の「校外活動支援委員会」の活動】
- 「こなん子 110 番の家」の確認
- 通学路における危険地帯の現状確認（用水路、ブロック塀、見通しの悪い交差点）

【学校の活動】
- 教職員が児童と一緒に下校し、危険箇所の確認
- 増水した用水路の写真を見せ、全校児童に指導
- 地震時のブロック塀の危険を、全校児童に指導

【ＰＴＡの活動】
- 下校時に合わせた巡回活動
- 保護者に通学路を歩いてもらい危険箇所を確認

【安全マップ作成の様子】

■　実施に当たっての工夫
- 学校運営協議会、教職員、保護者が実際に歩いて通学路の確認をし、それぞれの意見を集約した「安全マップ」となるようにしたこと。
- 通学路を「安全マップ」に記入したこと。
- 誰が見てもわかりやすいように、写真を貼り付箋で情報を書き込んだこと。

【完成した安全マップの一部】

■　事業の成果
- 小学校を中心に通学路、危険箇所など一目で確認できる資料となり、「110 番の家」の依頼等が今後必要な地域の絞り込みができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
- 大人が危険箇所を確認し、安全マップを作成した。これを用いて、子どもたちが学び、子どもたち自らが判断できる力を付けていくことが必要である。
- 今年度は、学校運営協議会、学校、ＰＴＡとそれぞれが子どもたちのために通学路での安全の確保を図ったが、今後はさらに連携・協働して活動していく場を設けていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて

（　○　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（　○　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（　○　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

ふるさと意識の醸成、そしてリーダーの育成を目指す「みなみっこ土曜講座」

湖南市	活動名：石部南小地域学校協働本部 （みなみっこ応援団）	石部南小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 21 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：175 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援

■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

［土曜日の教育支援］　主な活動場所：石部南小学校体育館　年間開催日数：10 日　地域学校協働活動推進員等数：１人

平均スタッフ数：10 人　平均参加人数：30 人　開始年度：平成 28 年度

・活動内容　：　■学習支援　■スポーツ　■芸術・文化　■体験活動　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

○　10 回開催の「みなみっこ土曜講座」では、「ふるさと意識の醸成」「主体性の育成」を大きな柱とし企画段階からの児童の参画により、子どもたちの思いを生かしながら実施している。下記の太字の活動については、校区にある県立近江学園を会場に子どもたちへの研修を行ったり、地域に伝わる伝統行事に参加したりと、地域の特徴を生かした活動になっている。

第　１回　県立近江学園を訪問しよう！
第　２回　地域の伝統行事「いもちおくり」に参加しよう！
第　３回　レッツクッキング！　飯ごう炊飯＆カレー作り
第　４回　わくわくスポーツデー（猛暑のため中止）
第　５回　水でっぽうを作ろう！
第　６回　染め物にチャレンジ！マイバックを作ろう！（台風のため中止）
第　７回　ペットボトルロケットを飛ばそう！
第　８回　近江学園「ふれあい広場」に参加しよう！
第　９回　新年を迎えよう「もちつき＆しめ飾り作り」
第 10 回　地域の伝統芸能「石部太鼓」にチャレンジしよう！

【伝統行事「いもちおくり」】

■　実施に当たっての工夫

・活動目的の明確化　①自主性の育成　②ふるさと意識の醸成の二本柱
・企画段階からの児童の参画
・学年縦割りグループ編成によるリーダーの育成
・理事会のメンバーや地域学校協働活動推進員の人脈の活用
・ＰＴＡ、区長会、石部南まちづくり協議会、スポーツ少年団、体育協会等との連携
・協賛団体の確保

【レッツ！ クッキング】

■　事業の成果

・講座ごとに、班のリーダーとなった高学年が、進んで下学年の面倒を見る姿が多く見られた。
・昨年度に引き続き参加する児童（いわゆるリピーター）が、活動の中心となって活躍できた。
・近江学園「ふれあい広場」には 23 名の子どもたちが自主的にボランティアとして参加して担当の仕事で力を発揮するとともに、後片付けなど最後までやりきることができ、地域の方からもお褒めの言葉をいただくことができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・講座によって参加学年のかたよりがあるため、参加対象学年をどのように設定するかが難しい。
・１回の活動にかなり大がかりな準備が必要。準備も活動に含めながら、一つの大きな活動を数回に分けていくことも検討。
・活動経費の捻出する方法や安全での課題について検討が必要。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

・学校運営協議会理事が、児童会本部の児童との懇談会を持ち、実際に子どもの声を企画に生かしている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて

（ ○ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域と協働して開く　「さんさん教室」

湖南市	活動名：みくもっ子地域学校協働本部	三雲小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 23 年度　地域学校協働活動推進員等数：３人（兼務０人）　ボランティア登録数：290 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□郷土学習　□その他［　　］

［土曜日の教育支援］　主な活動場所：学区内公民館等　年間開催日数：12 日　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）

平均スタッフ数：15 人　平均参加人数：30 人　開始年度：平成 27 年度

・活動内容　：　■学習支援　□スポーツ　■芸術・文化　■体験活動　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

土曜日の教育支援活動「さんさん教室」を「みくも学区まちづくり協議会」、健康推進員協議会等と連携・協働し実施している。

昨年度までは、夏休み中の 10 日間を使い、自主学習時間のほか、理科実験や食育を行ってきた。今年度は、さらに秋季に２日を加え、ふるさと歴史探訪として地域の方を講師に迎えてフィールドワークを行った。スタッフの確保や一部材料費の負担をみくも学区まちづくり協議会にも担っていただくことで、より充実した運営ができた。

■　実施に当たっての工夫

「さんさん教室」の体験活動に関わる企画および数年次にわたる方向性については、地域（みくも学区まちづくり協議会）と学校が協議、スタッフの確保は主に地域（みくも学区まちづくり協議会）が担当、参加児童の募集については学校（土曜日の教育支援コーディネーター）が担当と役割分担することにより、スムーズな運営ができた。

夏休み中の回は、学区内の公民館等４か所の会場で開催。地区を指定することで、安全に参加するとともに、スタッフの人数に見合った参加児童数となった。

【ふるさとの史跡 三雲城跡を探訪】

■　事業の成果

第１～10 回　夏休みの宿題等、自主学習
第１～４回　昔遊び、抹茶体験
第６～９回　「どんな朝ごはん食べたい？　おにぎり作ろう」
第５，10 回　「ふしぎとあそぼう　スライム」
第 11, 12 回　「ふるさと歴史探訪」　八島寺、丸岡城跡、三雲城跡　フィールドワーク

ふるさと歴史探訪では、手作りのイラスト資料を用いた、わかりやすいレクチャーを受けて参加した児童も、地域の大人もともに「ふるさと」について思いを巡らせることができた。「ふるさとって、どんなもの？」との問いかけに、児童からは「大切なところ」「家族とずっといるところ」「長く伝えられてきた歴史」などの声があがった。フィールドワークに出ることで、郷土に対する関心が深まり、次年度以降も継続の希望が寄せられている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

協働している「みくも学区まちづくり協議会」のエリアは、三雲小学校および三雲東小学校の学区のため、今年度より三雲東小学校とも連携し、第 11, 12 回の「ふるさと歴史探訪」を共同開催した。今後も三雲東小学校との連携を継続していきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

互いに感謝を伝え合い、あたたかい気持ちのあふれる地域に

湖南市	活動名：東っ子地域学校協働本部 （　ひがしっこそだて隊　）	三雲東小学校　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成23年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：130人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□郷土学習

■その他［ゲストティーチャー・校外学習引率・裁縫ミシン学習支援・昔遊び支援］

［土曜日の教育支援］　主な活動場所：児童館・まちづくりｾﾝﾀｰ　年間開催日数：12日　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）
平均スタッフ数：３人　平均参加人数：20人　開始年度：平成26年度

・活動内容　：　■学習支援　□スポーツ　□芸術・文化　■体験活動　■その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

今年度はクラブ活動支援、ゲストティーチャーによる授業を新たに取り入れた。地域学校協働本部の活動開始以来地域の方に様々な形で支援していただいている。それぞれの学年でかかわっていただいているボランティアさんと全校の児童が顔を合わせ、感謝の気持ちを伝える機会を児童の委員会活動と合同で企画。全校集会のときにメッセージを渡し、音楽発表を見ていただく「感謝を伝える会」を企画した。

■　実施に当たっての工夫

・今年度お世話になったボランティアさんすべての方へ学校から案内状を届け、都合の付く方すべてに参加していただけるようにした。
・児童にはお世話になったボランティアさんへ感謝のメッセージを書き、各学年の代表に一言添えて渡してもらった。
・校報にも載せて、参加できなかった地域の方へもお知らせした。
・学校と地域を結ぶコーディネート担当者が学校の窓口となり、地域学校協働推進員と連携し、教員の要望などを把握し連絡・調整を行った。

【感謝を伝える会】

■　事業の成果

・児童、教職員、地域ボランティアそれぞれが顔を覚えるよい機会となった。
・児童から感謝のメッセージはもちろん、ボランティアさんから児童へ「わたしたちもみなさんから元気をもらっています。」と一言添えてくださったことで、児童にもうれしいメッセージを伝えていただくことができた。（元気の共有）

【私たちもみなさんから元気をもらっています】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・活動開始以来ボランティアの高齢化等協力者の方々にも多様な変化がある。学校と地域で問題を共有し、情報交換することで、形を変えながらも協力を続けていただいている。その年その年で様々な変化に対応できる柔軟性を持って活動を続けていきたい。
・今年度、地域学校協働活動をはじめとする外部人材を活用した取組を整理し、年間活動一覧を作成した。学校は何ができるのか、地域は何ができるのか今後の活動の参考にしていきたい。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

・甲西中学校区（甲西中学校、三雲小学校、本校）の中で、ボランティアを共有していけるよう検討している。昨年度より図書ボランティア（朝の読み聞かせ等）の支援が始まっている。
・土曜日の教育支援活動では地域まちづくり協議会と連携しており、同じ甲西中学区の三雲小学校と合同で地域の史跡を巡って学習する「ふるさと歴史探訪」を２回開催することができた。

■「支援」から「連携・協働」に向けて

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（　○　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（　○　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

子どもと地域が連携・協働して行う岩根のまちづくり

湖南市	活動名：岩根小地域学校協働本部 （　根っこ応援団　）	岩根小学校　学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：220 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援

■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

［土曜日の教育支援］　主な活動場所：岩根まちづくりセンター　年間開催日数：20 日　地域学校協働活動推進員等数：１人

平均スタッフ数：６人　平均参加人数：７人　開始年度：平成 22 年度

・活動内容　：　■学習支援　□スポーツ　□芸術・文化　□体験活動　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

岩根小学校は、開校 144 年目という歴史ある学校であり、今年はコミュニティ・スクール 12 年目にあたる。「しんどい子によりそい」「子どもをお客さんにしない」は、岩根小教育方針の合い言葉として定着しており、ボランティアのみなさんもそれぞれの活動のなかでどのようにしんどい子に寄り添うのか、「子どもをお客さんにしない」ためにはどうすればよいのかを考えて行動していただいている。地域の教育力を生かしながら、子どもたちの今日的課題の解決と豊かな学びの実現をめざしている。

特徴的な活動の一つに「ホタルまつり」がある。ホタルが飛び交う様子を愛でる鑑賞会を開催し、地域の方とともに、子どもたちに郷土愛・自然環境保護の思いを育てる活動を展開している。「ホタルまつり」当日は地域の方も多数お越しになり、６年生が「お店活動」「ホタル学習の成果発表」に活躍し、自分たちで「やりきった」達成感を得る中で、子どもの主体性を育んでいる。

■　実施に当たっての工夫

・「ホタルまつり」には、子ども、保護者、教師、地域の方、まちづくり協議会の方、学校運営委員会理事などがそれぞれの良さを活かし、６年生児童は、お店活動や学習発表をし、駐車場の安全管理やお店活動のテント設営には、地域の方やまちづくり協議会の方、理事が担当。保護者は調理等の補助、教師は児童管理をして運営している。

・「ホタルまつり実行委員会」は夜に行うが、児童の意見を反映するために学級で事前に話し合いを行い、その内容を実行委員会で活かすようにしている。企画段階から子どもの意見を取り入れている。

【ホタル学習の成果発表】

■　事業の成果

・年々地域の方の参加が増えている。地域への学校評価の結果を見てもその認知度は高い。

・自分たちの学校は地域の学校としての意識を育て、年度始めの６月に行うため、他の様々な活動に学校の経営方針が浸透しやすい。

・この活動は岩根小学校が災害の避難場所になった場合にそのまま当てはめて活動できるものとしても価値がある。

【お店活動　６年生が運営】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・すべての保護者、すべての地域の方に、こうした活動や理念を理解してもらっているとはまだ言えない状況がある。今後、新たな理解者・協力者を求めたい。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

・まちづくり協議会との連携により、防災運動会、長期休業中の学習会を実施することができたが、さらに連携・協働を深めていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて

（ ○ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

菩っ子のために～地域・保護者・学校が連携・協働しあう

湖南市	活動名：菩提寺小地域学校協働本部 （菩っこを育てる会）	菩提寺小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 22 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務２人）　ボランティア登録数：220 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

［土曜日の教育支援］　主な活動場所：菩提寺小学校・菩提寺まちづくりセンター　年間開催日数：10 日　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務２人）　平均スタッフ数：７人　平均参加人数：26 人　開始年度：平成 26 年度

・活動内容　：　■学習支援　□スポーツ　■芸術・文化　■体験活動　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

『きずなロード』

本校は高台にある小学校で、車道を挟み左右にある坂道を歩いて児童は通っている。登り切ったところで校門前を横切り学校敷地内に入るようになっている。車の行き交う校門前を横切ることは危険だという声があり、地域の協力をいただき、児童が安心して歩くことができる『きずなロード』が完成。おかげで登下校時に校門前を横切る児童がなくなり登下校の安全が確保された。

きらめき運動会『入退場門』設置

本校が行う運動会には、昔ながらの入・退場門が設置されている。杉や藁を使い、子どもたちが描いた絵も貼った入退場門。

【新しく出来たきずなロード】

■　実施に当たっての工夫

『きずなロード』

地域の企業に協力を呼びかけると共に、地元の壮年会の皆さんに相談、協力をお願いした。新たな通用口を作り、校門を横切ることがないようにした。児童が歩く通学路（学校敷地内）は、雨が降るとぬかるんで歩きにくくなるため、クラッシャーを敷き、ガードレールを設置し問題を解消してもらった。

きらめき運動会『入退場門』

運動会前、絵（はがきサイズ）の募集を児童に発信した。白い入退場門の柱の四面に児童の絵を貼り、伝統的な入退場門に新しい要素が加わった。

【みんなで作った入退場門】

■　事業の成果

・自動車の行き来する校門を横切ることなく、児童が安全に登下校できるようになった。また、歩きにくかったぬかるんだ場所は、クラッシャーを敷き詰めたおかげで、雨が降っても気にすることなく歩くことができるようになった。

・上記に挙げた活動以外でも、校外学習や特別行事など多方面で、地域や保護者の協力がスムーズになってきた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・認知度が上がってきたとはいっても、協力いただく方たちは固定化しており、新たに協力していただける人材の開拓が必要。

・活発に広報活動をしていき、今年度以上に事業の認知度を上げていきたい。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

・学校運営協議会「理事会」で、学校が困っていること、お願いしたいことなどを挙げることにより、「どうしたら良いか」、「何をしたら良いのか」、理事の皆さんが課題解決に向け熟議いただき，実際の解決の行動に移すことが円滑にできるようになってきた。

■「支援」から「連携・協働」に向けて

（ ○ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

第10回　開催記念　あすなろカーニバル　　≪学校と地域の力を集結≫

湖南市	活動名：あすなろ地域学校協働本部 （あすなろ応援団）	菩提寺北小学校　学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成21年度　　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：200人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

［土曜日の教育支援］主な活動場所：菩提寺まちづくりセンター・菩提寺北小学校　　年間開催日数：10日
地域学校協働活動推進員等数：１人　平均スタッフ数：４人　　平均参加人数：45人　　開始年度：平成26年度
活動内容　：　■学習支援　□スポーツ　■芸術・文化　■体験活動　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）
第10回　あすなろカーニバル　10月６日(土)　開催
・ふるまい餅つき＆豚汁、模擬店（フランクフルト・プチクレープ・たこせんべい・ジュース・コーヒー販売）
・昔あそびコーナー（コマ、お手玉、福笑い、型抜き、折り紙、けん玉　等）
・菩北小ギネスに挑戦コーナー、手作りマルシェ、バザー、モノづくりコーナー（楽器作り）、
・音楽で綴る絵本の世界など多彩な内容で開催。

■　実施に当たっての工夫
あすなろカーニバル
・多彩な内容で子どもも大人も、それぞれが経験や体験ができるようにしている。
・地域の方が作ってくれる豚汁と、地域の方、お父さん、お母さん、先生たちがついてくれるお餅に舌鼓をうち、日ごろの学校生活とは違う一日を過ごし大きな親睦ができる。
・午後の部からは、開催10周年の記念に、校長先生&歴代ＰＴＡ会長によるバンド披露があり参加者はそれに合わせる手作り楽器を製作。みんなでセッションして盛り上がった。

【子どもたちが運営する模擬店】

■　事業の成果
あすなろカーニバル
・今年度は「あすなろカーニバル10周年記念」の開催となり、地域の子どもたちの「ふるさとづくり」を目指しやってきて、今ではボランティアを含め500人ほどの参加者が来てくれるまでになり、積み上げてきた学校と地域との絆の深さを再確認した。
・子どもたちも高学年になったら模擬店の運営ができることを楽しみにし、大人のサブ的手助けではなく、責任をもって行動し運営する自立的ボランティアを経験できた。また卒業生(主に中学生)もボランティアとして多数の生徒が参加してくれるようになり、小中連携も進んできていることにも大きな意義がある。

【手作り楽器 製作中♪♪】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
あすなろカーニバルを実施するにあたり、当日は大勢のボランティアさんが動くが開催日までの多種多様な雑多な準備等はほとんど、「あすなろママさんスタッフ」と呼ばれるボランティアさんが担っている。このボランティアさんをもっと増やし、楽しく楽に開催準備ができればと考える。
今年度10回を経て、さらに充実したものにしていきたい。

■　その他（学校運営協議会との連携等）
あすなろ学校運営協議会はカーニバル開催においても、主催者として全てのブースの責任者となり運営の中心を担った。たえず、カーニバルスタッフ・ボランティアと連絡連携を取りあすなろ応援団活動を運営協議会の一部とし、学校と地域の協働に大きな力を発揮している。

■「支援」から「連携・協働」に向けて
（ ○ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

協力して下田をきれいに！！『下田っ子 クリーン作戦』

湖南市	活動名：下田小地域学校協働本部 （下田っ子応援隊　なすびぃず）	下田小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成23年度　地域学校協働活動推進員等数：2人（兼務2人）　ボランティア登録数：40人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

［土曜日の教育支援］　主な活動場所：下田小学校　年間開催日数：10日　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務２人）

平均スタッフ数：５人　平均参加人数：10人　開始年度：平成26年度

・活動内容　：　■学習支援　□スポーツ　□芸術・文化　■体験活動　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

毎年6月下旬、県下一斉清掃の時期にあわせて学校行事として行われてきた、通学路の清掃活動「下田っ子 クリーン作戦」。数年前より、地域のボランティアも参加し、子どもたちとともに「自分たちの住む地域を、自分たちで美しく！！」という共通の目標を持って活動を続けてきた。

今年度は、下田小学校で通常の掃除の時間に、子どもたちに掃除の仕方を指導しているボランティアグループの「コメットさん☆彡」のメンバーも「下田っ子 クリーン作戦」に参加し日々の掃除と同じく、子どもたちに「ごみの分別」等の指導を行った。

■　実施に当たっての工夫

①各地区の民生児童委員の方々にもボランティアとして協力いただき、どの地区にもボランティアが付き添えるようにし、通学路の危険個所の把握、指導等を行った。

②通常の掃除の時間に子どもたちとともに活動している「コメットさん☆彡」のメンバーにも参加していただき、ごみの分別等の指導を行った。

【ボランティアと通学路を歩く】

■　事業の成果

①通学路を子どもたちとボランティアが一緒に歩き、ごみ拾いをすることで、「自分たちの住む地域を、自分たちで美しく！！」という共通の目標に向かってともに協力し、活動することができた。

②通学路に潜む「危険箇所」の把握ができた（特に、下校時の危険個所）。

③各地区の担当をしている教職員と地域のボランティアが、共通の目標を持って活動することで、互いに顔見知りになり、その後の「連携・協働」の活動にも良い影響があった。

④自分たちで通学路のごみを拾い、きれいにしていく中で、「なぜ「ポイ捨て」をしてはいけないか」、「これからも自分たちの住む地域を美しくするにはどうしたらよいか」等を考える良いきっかけになった。

【ごみ拾いながら歩く 】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

①「下田っ子 クリーン作戦」は１年一度の活動なのだが、１年に複数回（例えば、学期ごと）実施すれば、日頃から「自分たちの住む地域を、自分たちで美しく！！」という気持ちで過ごせるのではないか。

②現在は学校行事として行われいる活動だが、学校運営協議会や地域の団体と協力して「下田っ子 クリーン作戦」を行うことができれば、いっそう地域の方々と「連携・協働」できるのではないか。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

下田小学校がコミュニティ・スクールとなり、学校運営協議会が設置されて２年目となる今年度。地域学校協働本部の活動について、理事の理解がますます深まり、「連携・協働」して活動を進めるため熟議を進めている。現在、地域へ活動内容等様々な情報の発信はどうすればいいか熟議し、今年度作成したリーフレットの学区全戸配布を行った。

■「支援」から「連携・協働」に向けて

（ ○ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域と学校がつながりあう「心のふるさとづくり」

湖南市	活動名：みとっこ地域学校協働本部 （みとっこ応援団）	水戸小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 22 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務２人）　ボランティア登録数：65 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援

■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　■その他［　外国にルーツをもつ児童の交流会　］

［土曜日の教育支援］　主な活動場所：水戸小学校図工室　年間開催日数：10 日　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務２人）

平均スタッフ数：10 人　平均参加人数：17 人　開始年度：平成 26 年度

・活動内容　：　■学習支援　□スポーツ　■芸術・文化　■体験活動　■その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

学校で・・・２学期、５年生の家庭科の授業でミシンを使ったナップサックづくりに挑戦。ミシン補助のボランティアと先生が子どもの様子を見て打合せしながら授業を進めていった。

地域で・・・地域で行われる水戸まつりの運営スタッフとして子どもが参加。スタンプラリーを担当し、受付からクイズの出題、景品のポップコーン渡し、地域の屋台でお店やさんを体験するなど子どもが主体的に取り組んだ。

■　実施に当たっての工夫

学校で・・・９月 11 日、担当の先生とボランティアでどのように授業を進めていくかとミシンの点検を兼ねた打ち合わせを実施。毎年ミシン授業の時間が短いのではという地域からの声もあり今年はいつもより長い授業時間を確保して、一つ一つ丁寧な指導を心がけた。【ナップサック計画 2018】を作成し共有。　①イントロ、ナップサック配布　②印つけ　③空ミシン、ミシン注意事項　④糸をかけてみよう　⑤糸で縫ってみよう　⑥印つけ　⑦印つけ　⑧空きどまり、印つけ、平布しつけ　⑨両わきまちぱり、しつけ　⑩本ぬい、返しぬい　⑪⑫しつけ、本ぬい　⑬ひも通し口、まちぱり打ち　⑭本ぬい、ひも通し⇒完成！！

【学校とみとっこ応援団の連絡会議】

地域で・・・以前より地域の行事、おまつりに子どもたちがスタッフとして参加できることはないかという声があり、子どもたちの大好きなクイズなら楽しみながら参加できるのではと、まちづくり協議会の青少年部会と学校とで協議。４年生以上の子どもたちに呼びかけ自主的な参加を募ったところ 16 名の申し込み。打ち合わせを 11 月 15 日、27 日の昼休みに行い、12 月９日の当日９：30～11：00、11：00～12：30、12：30～14：00 の三つの時間に分けどんな仕事が必要か、場所はどうするか、担当はどうするか話し合った結果 12：30 まではスタンプラリーを、13：00～は地域の屋台に参加することとなった。

【フェスタ子どもスタッフ会議】

■　事業の成果

上記の家庭科の授業以外でも子どもたちは日々ボランティアや先生と関わりながら成長している。あいさつ一つも立派な「体験」であり、ミシンの体験からは自分の存在を受け止めてもらえたことやできたときの喜び、また失敗してもやり直してできるということを学べた。今回、初めて地域行事のスタッフとして参加することになり、これまでお客として参加していた行事の裏側を見ることで、たくさんの人が関わって一つの大きなものができていることや「みとっこ」としての責任感、作りあげる喜びも子どもたちの表情から見てとれた。地域の方からも子どもたちが運営側に参加したことで、人手不足の解消や地域づくりの担い手として期待できるとうれしい声を聞くことができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

授業の補助としてボランティアが入る場合の子どもとの関わり方やことばがけや注意の仕方が難しい。ボランティアが悩まれている様子だったので、単元の途中と最後に先生を交えてミーティングを行った。ボランティアは先生ではないということで言うことを聞いてくれない、乱暴なことば遣いをするなど子どもがボランティアを迎える準備ができていないこと、ボランティアが「１回言ったらわかるだろう」という気持ちからイライラしてしまうことなどが原因であるとわかった。今後事業を進めていく中でありのままの子どもの姿を見てもらうことが大切だが子どもたちが、今何をする時かを自分で考えられるように成長してほしい。ボランティアがやった方が早いだろうと手を出すのも少し待ってもらうこと、そして、やはり学校や子どもと関わり感じた思いをコーディネーターが丁寧に聞き取ることが重要である。

■　その他（学校運営協議会との連携等）　平成 31 年度よりＣＳへ移行に向け準備中。

■「支援」から「連携・協働」に向けて

（ ○ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

自尊感情も高まった生徒の主体的活動～「ふれあいまつり」への参画をどう支援するか～

湖南市	活動名：石部中地域学校協働本部	石部中学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 26 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：208 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□郷土学習　□その他［　　］

［地域未来塾］　年間開催日数：25 日　地域学校協働活動推進員：２人　平均参加人数：１人

・学習形態　：　■個別の学力補充　□教材を使って一斉学習　□その他（　　）

・教室の持ち方　：　□放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　■その他（　夜間　）

・学習支援員等人数　：　学習支援員２人　協働活動支援員０人　協働活動サポーター４人

・学習支援員等の属性　：　□企業人　□行政職員　■元教員　■大学生　■地域住民　□NPO 等関係者　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

☆ 石部ふれあいまつり（H30.10.7）・石部南ふれあいまつり（H30.11.11）への参画

地域の方からの「中学生に〇〇を手伝ってほしい」という声に応えるだけでなく、自分たちが地域に対して何ができるかを話し合うところからスタートし、準備物の用意（買い物を含む）、当日の準備と運営、後片付けまですべてを中学生が担当した。

・H29.7.18 第３回ＣＳ理事会で「現在、各地区の夏まつりスタッフとして生徒が参加しているが、当日限りのお手伝いではなく、生徒が計画・実施していけるものがあればよいと思う」との提案あり。すぐに実施するのは準備も整わないため、29 年度は中学生自身がしたいことの意見を出し合う準備期間とし、30 年度からの実施をめざす。

・H29.8.3 ＣＳ理事と生徒との懇談会（この日を皮切りに生徒の話し合いを見守る会を数回開催）。H30.6.4 の話し合いで、小学生以下を対象に「お茶席」「アメつかみ」「射的」「輪投げ」「わたがし」から成る中学生ブースを運営することに決定。

・当日参加したのは、石部ふれあいまつりに３年生を中心とする 17 名、石部南ふれあいまつりには２・１年生を中心とする 17 名。

【射的「ここをこうして……」】

■　実施に当たっての工夫

・地域での会議は授業が行われている時間帯や夜間に開催されるため、中学生に代わって地域コーディネーターやＣＳ理事が出席して中学生の思いを述べるようにした。

・中学生の発案でスタンプラリー形式で回れるようにしたが、石部で用意した 100 枚の台紙は午前中に早々となくなり、その経験を生かして石部南では 150 枚に増やした。

【順番待っててね】

■　事業の成果　（11 月全校集会における生徒発表より）

10 月７日、私は生徒会執行部の一員として、石部ふれあいまつりに参加しました。今までまつりにお手伝いとして参加させていただいたことは何回かありました。しかし、企画から運営まで全て私たち自身で行うのは初めてでした。多少なりとも不安はありましたが、私たちは５月の終わりから地域の代表の方と準備を始めており、地域の方の協力もあって、うまく意見をまとめることができました。

私たちが考えた企画は、お茶席、アメつかみ、射的、輪投げ、わたがしでした。「地域の子どもたちにもたくさん来てもらえるものにしたい」という目的があったので、それに沿って考えたものでした。その後、各担当に分かれて準備をしました。

そして迎えた当日。私たちは表情に不安の色を隠せないでいました。本当に子どもたちがたくさん来てくれるのだろうか。当初予定していた数よりお客様が少なかったらどうしよう。何もかもが初めてのことだったので、ドキドキしながらまつりが始まる時間を待っていました。しかし、地域の方の優しい応援や支えにより、私たちの不安は解消され、笑顔でお客様を迎えることができました。私たちのブースにはたくさんの子どもたちが来てくれました。彼らの笑顔を見ると、「このまつりに参加させてもらえて本当によかった」と心から思うことができました。ふれあいまつりが終わった後、地域の方から「いつもは年配の方が多いのですが、中学生のみなさんのおかげで、ここ最近見られなかった親子連れが、特に子どもさんの姿が多かったのでうれしかったです」という感謝の言葉もいただきました。

私たちの代の生徒会が行う地域での活動はこれで終わりとなりました。しかし、石中生徒会はまだ続いていきます。これからも石中生は地域の方と協力し、石部を盛り上げてほしいです。

■「支援」から「連携・協働」に向けて

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

Chance（チャンス）・Challenge（チャレンジ）・Change（チェンジ）　～心にぬくもりを～

湖南市	活動名：甲西中地域学校協働本部	甲西中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務２人）　ボランティア登録数：80 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

［地域未来塾］　年間開催日数：43 日　地域学校協働活動推進員：２人（兼務２人）　平均参加人数：10 人

・学習形態　：　■個別の学力補充　□教材を使って一斉学習　□その他（　　）

・教室の持ち方　：　■放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）

・学習支援員等人数　：　学習支援員２人　協働活動支援員６人　協働活動サポーター０人

・学習支援員等の属性　：　□企業人　□行政職員　■元教員　□大学生　■地域住民　□NPO 等関係者　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）文化体験講座（学校行事）・・・・・・・・・地域ボランティア講師が学校へ（地域の方約 60 名参加）

（２）みちくさコンパス（地域行事）・・・・・・・中学生ボランティアが地域へ（中学生がのべ 127 名参加）

（３）HP 再作成（ミニ部活としての体験活動）・・・地域ボランティア講師が学校へ〈ミニ部活として希望生徒が設定日に活動〉

■　実施に当たっての工夫

「文化祭体験講座」：講座は 19 講座を用意。希望制にし、生徒全員が体験する。体験後に成果を披露する場を設けていることで体験内容の充実を図った。11 月の取組ではあるが、５月からボランティア講師の依頼などの準備を始めている。

「みちくさコンパス」：今回初めて生徒会から出店。また、生徒の自主性を重視しボランティア募集という形で生徒に呼びかけた。（ボランティアをしてやる）という気持ちでなく、「自分磨きのためにさせていただく」という気持ちを持たせる呼びかけをした。また、ボランティア募集用紙の形式を定めて、この用紙はボランティア募集のものだという意識付けをした。また、地域の主催者側の人に、直接学校で話していただいき、手伝いではなく、スタッフの一員だという自覚を促した。

「HP 再作成」：以前の HP は誰もが更新できる設定ではなかったので、新たに作成するにあたり、写真や動画撮影、漫画を書いたり文章を書いたりなど興味のある生徒を募り、地域のボランティア講師とともに作成し、２月より新たな HP 開設。

■　事業の成果

・６年目を迎える「みちくさコンパス」は、昨年度まで２日間にわたる地域行事であったが、今年度は１日での実施。127 名の生徒が積極的に参加、演技や演奏を披露、地域の方々とともに来客の受付けや接待などスタッフの一員として活躍した。

・「文化祭体験講座」では、指導者も受講者も発表を目指して熱心に楽しく取り組めた。
閉会式に演技や演奏をステージで披露したり、作った作品を教室に飾ったり大切にする生徒が多かった。講師が地域の方々なので、色々なところで出会うことも多く、元気にあいさつができている。

・HP については、興味のある生徒が少しの時間を利用して作成に携わり、やりがいを感じている。今後、さらに更新するための工夫をしていく。

・その他の活動として１・２年における朝読書の読み語り、図書室開設支援、書写の授業、音楽の授業支援、「本の帯コンクール」作業支援、職場体験事前学習（キャリア教育支援）、まちづくり協議会と中学生によるまちづくり懇談会の開催。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・11 月開催の「みちくさコンパス」では、３連休の真中日の１日開催となり、家庭での時間や高校の体験入学や他の地域での行事とも重なり生徒に参加が制限され、自由にボランティアできない状況もあった。

・地域の方とともに活動を重ねる中で、地域の良さに触れ、地域の人の温かさを感じ、その中で湖南市の一員であることに誇りをもってくれればと願っている。

・朝読書時の「読み語り」では、ボランティアも小中連携で行うことで、９ヵ年にわたる支援になっている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

【みちくさコンパス：生徒会出店】

地域の力を学校へ　中学生の力を地域へ

湖南市	活動名：甲西北中地域学校協働本部	甲西北中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 26 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務２人）　ボランティア登録数：23 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□郷土学習　□その他［　　］

［地域未来塾］　年間開催日数：25 日　地域学校協働活動推進員：２人（兼務２人）　平均参加人数：６人

・学習形態　：　■個別の学力補充　□教材を使って一斉学習　□その他（　　）

・教室の持ち方　：　■放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）

・学習支援員等人数　：　学習支援員２人　協働活動支援員２人　協働活動サポーター４人

・学習支援員等の属性　：　□企業人　□行政職員　□元教員　□大学生　■地域住民　□NPO 等関係者　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

【木材加工・被服実習における学習支援（地域の力を学校へ）】

第１学年の技術・家庭科では、電動の機器を使った実習を行っているが、使い方が十分に理解できずうまく使えなかったり、作業の進捗に個人差が生じたりすることも少なくない。今年度は、技術分野ではベルトサンダーや電動ドリルを使って木材を加工し、ウッドクロックの制作に取り組んだ。毎時間数名のボランティアが、実演して使い方を説明したり、釘打ちなどのポイントを教えたりしながら丁寧に支援してくださった。

また、家庭分野でもミシンを使った被服実習（ファイルカバー制作）に取り組んだ。手縫いでの運針のコツを教えてもらったり、ミシンの準備を支援してもらったりすることで、生徒はスムーズに作業を進めることができた。

【裁縫の基本を学ぶ(被服実習)】

【ボランティア体験による地域参加（中学生の力を地域へ）】

毎年、地域の行事には中学生のボランティアスタッフとしての参加要請がある。単なる参加者としてではなく、地域の方とともに模擬店の店員や会場スタッフなど運営側の一員として活動している。

■　実施に当たっての工夫

【学習支援】地域コーディネーターがボランティアとの連絡・調整を行い、授業者とは授業計画や支援の内容について事前に打合せを行っている。授業後には、生徒の様子についての感想を聞くとともに、手際よく作業を進めたり、わかりやすく説明したりするためのアドバイスも得ている。

【地域参加】地域コーディネーターが学校とまちづくり協議会等との橋渡しをしながら、生徒の参加の方法等について調整を行っている。さらに、当日には直接生徒の活動の様子を見ながら、励ましや助言を行うようにしている。

■　事業の成果

【学習支援】ボランティアの方の声かけにより一人ひとりの生徒にきめ細かく支援ができ、作業をスムーズに進めることができた。また、分からないことや疑問をボランティアに聞くことで、積極的に質問をして解決しようとする姿が見られた。

【地域参加】地域の方からの温かな助言や支援により、地域の一員ということを自覚しながら活動に取り組めた。また、励ましや感謝の言葉をかけてもらうことで、積極的に貢献しようとする姿も見られるようになった。

【フェスタでスタッフとして活動】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

毎年参加してくださる地域の方や、積極的に参加する生徒も増えてきている。

さらに地域と連携・協働の体制づくりを行い、人員の確保を図りたい。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

来年度よりコミュニティ・スクールとなるが、学校運営協議会でも引き続き、生徒の姿を中心に【学習支援】や【地域参加】の成果や課題を議論していきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域と共に子どもを育てる　～様々な活動を通して　地域の方は学校へ子どもは地域へ～

湖南市	活動名：日枝中地域学校協働本部	日枝中学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 25 年度　地域学校協働活動推進員等数：５人（兼務２人）　ボランティア登録数：40 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□郷土学習　□その他［　　］

［地域未来塾］　年間開催日数：12 日　地域学校協働活動推進員：３人（兼務２人）　平均参加人数：13 人

・学習形態　：　■個別の学力補充　□教材を使って一斉学習　□その他（　　）

・教室の持ち方　：　□放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）

・学習支援員等人数　：　学習支援員３人　協働活動支援員 17 人　協働活動サポーター　０人

・学習支援員等の属性　：　□企業人　□行政職員　■元教員　■大学生　■地域住民　□NPO 等関係者　■その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

着付け教室

日本の伝統衣装である浴衣の着付けやたたみ方を地域の方より学び、地域のお祭りへの参加を促す。地域の夏祭りに多くの中学生が参加することで、地域の活性化と共に子どもたちの地域への愛着を育む活動として位置づけている。

７月に行われている地域のお祭り前に、家庭科で「浴衣の着付けとたたみ方」の授業を行った。１グループ４～５人に対し地域から着付けを教えてくださる方が各班に１名付き添い、自分で浴衣の着脱と片付けが出来るように指導していただいた。

女子と男子それぞれが班に分かれ、各班に２着ずつ浴衣を用意し着付けに挑戦。使用した帯や浴衣は地域の方や呉服屋さんに提供していただいた物を使用した。

■　実施に当たっての工夫

授業の日程を地域のお祭りに近い時期に設定することによって、より中学生が興味をもって取り組めるように配慮した。

男子の浴衣は「おはしょり」が無いため、クラス内で身長別に班を構成し体形に合った長さの浴衣を用意することにより、スムーズに着付けが出来るように工夫した。

時間にゆとりを持って体験できるよう教科担任と事前ミーティングを行い、時間配分を考慮し、繰り返し練習を行えるよう心がけた。

【浴衣の着方を学ぼう】

■　事業の成果

お祭りとの相乗効果もあり、生徒はとても興味を持って前向きに授業に取り組むことができた。後日、教科担任がお祭りの街頭指導を行った際も浴衣を着用した生徒たちが「先生、見て！家の浴衣を自分で着られたよ」と声掛けしてくれたと報告があった。また、地域サポーターとして参加してくれた地域の方々も、普段なかなか接する機会がない生徒たちに伝統の大切さや良さが伝えられて良かったとの声をいただき地域の交流と活性化に学校の力を生かすことができたと感じた。

また、地域の方から教わったことを生徒同士が教えあっている姿も多く見られ、自分が教える立場に立つことでより学びが深くなっていると感じられる場面もあった。

【浴衣のたたみ方の練習】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

教科担当の教師から来年度もこの時期に授業を行いたいとの意見をあった。

参加した地域サポーターの方からは、生徒たちが自分自身で行う着付けの習熟度を上げられるよう、地域でもお祭りの直前に着付けサポート教室を開いてはどうかとの意見も上がっていた。

■「支援」から「連携・協働」に向けて

（ ○ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

高島市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部　□地域未来塾　□放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿

地域学校協働活動を通じ、「地域の子どもを育む一員」としての当事者意識を持つことで、子どもへの関心や地域の教育力を高め、地域・子ども・学校の関係をより強いつながりへと発展させ、世代を超えた地域コミュニティが形成されることをめざす。

■本年度の具体的活動

〇地域学校協働活動を中学校区単位でスタート
・関係団体に活動の目的や概要などの周知や協力依頼を行ったほか、広報誌で活動事例や地域学校協働活動推進員を紹介し、広く市民にも啓発を行った。
・学校のニーズや地域性などを生かし、それぞれの中学校区で特色ある取り組みが行われている。

〇地域学校協働活動推進員を各中学校区に配置
・推進員の委嘱にあたって、学校、公民館、地域の関係者から推薦いただき、地域や学校事情に精通した方を選任することができた。
・地域学校協働活動推進員の会議を定期的に持ち、各地域での取り組み状況や課題等について意見交換を行った。

〇コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の合同研修会開催
・地域学校協働活動推進員、学校運営協議会委員、学校教職員、社会教育関係委員等を対象に活動の意義を広め、地域とともにある学校づくりを推進するため研修会を実施した。
期日　10 月 28 日（日）
場所　高島市立安曇川中学校体育館
内容　講演　演題　「今、なぜコミュニティ・スクールなのか」
講師　文部科学省初等中等教育局視学委員　貝ノ瀬　滋　氏
グループワーク　熟議テーマ「これからの子どもたちの姿を話そう」

■本年度の成果

本年度は、市内すべての中学校区でこの活動への取組をはじめ、地域学校協働活動推進員を配置し、関係機関等と連携しながら、学校や地域の特色を生かした事業を展開することができた。学校運営協議会も本年度より全ての小中学校で導入されたことから、学校運営協議会で話し合われているビジョンや目的を共有し、二つが車の両輪となって地域とともにある学校づくりに取り組んでいる。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

・地域学校協働本部の組織体制強化
・ボランティア登録制度の導入検討
・地域支援活動の充実

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

今年度地域学校協働活動推進員６名を委嘱し中学校区ごとに配置した。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

市内公立学校すべてに学校運営協議会を導入した。

【学校と地域で熟議を実践】

つながり響きあう教育を目指して　～　高島学園地域学校協働本部　～

高島市	活動名：高島学園地域学校協働本部	高島学園（高島小学校･高島中学校） 学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：－（登録制なし）
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）道場シリーズの展開

昨年から始まった２年生対象の「九九道場」が好評で今年は九九に加えて３年生対象の「わり算道場」、そして冬には全学年対象の「昔の遊び道場」を開催。休み時間を利用して地域の皆さんと交流を深め、学習意欲の向上にも繋がった。また昨年同様地域ボランティア以外に中学生も参加することで、異年齢交流も図れた。

（２）授業へのかかわり

５・６年生の家庭科授業で特に児童が苦手なミシンを使う授業に、裁縫上手なボランティアに大いに活躍してもらう。先生からは大好評、またボランティアからも自分の力が発揮できて生き甲斐を感じた、等の声が聞かれた。

また、２年生対象の町たんけん授業では春と秋の２回に分けてボランティアに地域を案内してもらい、郷土の歴史や商業など詳しく知ることができ、わが町に関心を持たせることができた。

（３）地域事業への参加（中学生）

昨年同様、高島の伝統行事「大溝祭り」に中学生と教職員が曳山の曳き手として参加し、地域の皆さんとの交流と生の郷土学習をすることができた。また「たかしま夏まつり」にスタッフとして参加し、存在感ある地域の一員として認められている。

また、自治会主催の「芝桜の植え替え」では地域の方と汗を流し、地域の福祉事業「ふれあいサロン」では吹奏楽部が地域に出向いて演奏を行い、交流を深めた。

■　実施に当たっての工夫

学校がボランティアを必要とする場合、学校だより等に主旨と内容等記述してもらうことで、保護者層のボランティアも獲得することができた。また、参加したボランティアの口コミも大いに役に立った。さらに、公民館に学校だよりや活動の様子（写真）を掲示することで、幅広い地域住民に関心を持ってもらうなど、情報発信を行った。

地域学校協働活動推進員は、地域の関係団体と常に情報共有すること、ボランティアと繋がる努力をしたことで、ボランティアの数を減らさないことができた。

■　事業の成果

・生徒・児童は・・・地域ボランティアの方と関わる事業を楽しみにしている。
　地域に対して関心が深まった。
・ボランティアは・・活動に生き甲斐を感じてもらえた。また、参加事業が定着し、
　前もって個人のスケジュールに入れてもらえるようになった。
・地域は・・・・・・学校に対する理解が深まり、地域からのアクションも増えた。
・学校は・・・・・・学校と地域が繋がることで、知り合いが増えた。
　授業等の支援で教員の負担が軽減された。

【２年生　九九道場】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

年数を重ねる事に、個人または団体から理解・関心が深まり、継続的な活動へと発展するよう行っていきたい。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

今年度より発足した学校運営協議会では、地域学校協働活動推進員が協働活動の様子を必ず報告し理解を深めてもらうこと、また協働活動に積極的に参加してもらえるよう、呼びかけを心がけている。

【７・８・９年生　自然体験学習】

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（〇）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（〇）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

つながり響きあう教育をめざして　～マキノ地域学校協働本部～

高島市	活動名：マキノ地域学校協働本部	マキノ東小学校・マキノ西小学校・マキノ南小学校 マキノ中学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働活動］　開始年度：平成30年度　地域学校協働活動推進員等数：1人　ボランティア登録数：ー（登録制なし）

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

(1) 台風被害復旧支援（図書室の復旧）

９月の台風21号の被害により校舎の窓ガラスが割れ、図書室の本の上にガラス破片が飛び散ったことから、図書のＮＰＯ、ボランティア等がガラスの破片の除去、図書室の清掃に取り組んだ。本にガラス破片が紛れ込むという危険性もあり、当初は図書に関わるＮＰＯに協力をしてもらい、誰でも支援が可能なようマニュアルを作ってもらい、保護者の支援ボランティアにまでボランティアの幅を拡大し、11月中に延べ100名以上のボランティアの協力を得て、図書室機能の早期復帰が可能となった。

(2) 台湾中学校との交流

ビワイチ体験（自転車による琵琶湖一周）に訪れた台湾の中学生とマキノ中学校の生徒が交流を行った。長浜から自転車でマキノへ移動してくる台湾中学生が交流会実施時間に来られるようマキノの地元の自転車に精通したボランティアが先導、パンク補修、伴走を行った他、プレゼント用の品物を地元施設から提供してもらえるよう調整を行うことで交流事業を実施することができた。マキノ中学校は台湾等の中学生等の交流について、びわこビジターズビューロー（滋賀県地域観光協会）とも今後の実施に向けての調整を行うことができた。

■　実施に当たっての工夫

本年度９月から具体的な地域学校協働活動を行ったが、地域学校協働活動推進員がそのネットワークを活かすとともに、関係団体の会議等に出席しＰＲ、調整を行った。また、学校から地域に対し活動のＰＲ、学校行事への参加呼びかけなど積極的な情報提供に努めた。この地域では、協力をお願いすれば協力が得られるものの、参加呼び掛けだけでは協力を得ることが難しいことから、マキノ東小学校のように具体的な図書ボランティアからそのつながりを活かし、他の分野や人にボランティアの幅を広げていくようにしたいと考えている。

■　事業の成果

○子ども　地域への理解・関心の深まり
　　異世代間の交流
　　コミュニケーション能力の向上
○学校　新たなボランティア人材の発掘
　　円滑な学校行事の実施
　　地域への理解・関心の深まり
○地域　地域の教育力の向上、地域の活性化
　　社会参加の提供
　　世代を超えたコミュニティの形成

【台風被害支援図書ボランティア】

【台湾中学生との交流】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

協働に欠かせないのは関係者をつなぐのに必要な調整であるが、調整に係るエネルギー、時間、交通費等に対する理解が薄いと考えられる。この事業が教育サイド、学校がメインになっているが、学校関係者の中には、他の機関、人材等に対する考えや地域に対する理解が薄いように感じる。今後は、地域、協働についての研修も絡め、地域の人にも進んで活動に協力してもらえる仕組みにしていきたい。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

協働活動を進めるにあたって、学校運営協議会のメンバーはできるだけ多様なメンバーが必要であると思われるが、まだ十分ではないと考えられる。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（ ○ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

つながり響き合う教育をめざして　～　今津地域学校協働本部　～

高島市	活動名：今津地域学校協働本部	今津東小学校・今津北小学校・今津中学校 学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 30 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：　―　（登録制なし）

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）関係団体との連携

地域内の学校には、それぞれ学校単位で地域の方によるボランティア組織ができており、それら団体の活動も大切にしながら、連携を図り地域支援にも活動が広がるよう関係づくりに努めた。

また今年度、地区内で子ども食堂開設への機運が高まり、子どもに関わる地域内の関係団体が集まって、子どもへの思いや具体的な実施方法について検討する準備会があり、地域学校協働活動推進員も加わり福祉関係の団体ともつながりを築くことができた。

（２）高齢者との交流事業

中学生ぐらいの子どもたちとゲートボールをしながら交流をしたいとの申し出が地域の高齢者からあり、地域との連携・協働の良い機会と考え、７月下旬から今津中学校と実施日等について調整した。

（３）地域イベントへの参加

地域のまちづくり行事である「たかしま市民活動フェスタ2018」に今津中学校生15名が参加。この件は今津中学校からボランティア活動に適当な受け入れ先を紹介してほしいとの依頼を受け、高島市社会福祉協議会と連携して実現したもの。

■　実施に当たっての工夫

関係団体との連携については、地域学校協働活動推進員がそれぞれの活動に参加するなどして、地域学校協働活動について周知したほか、地域の公民館とも連携を図り地域の人材について情報を交換し合うなど、今後の活動にスムーズにつながるよう準備を進めた。

地域から要請のあった行事については、中学生がボランティアとして参加するため、当然ながら危険がないことを優先し、授業に影響がないよう学校が休みの日を選定した。

■　事業の成果

子どもに関係する地域の団体へ地域学校協働活動の趣旨や目的を広められた。年度後半で、地域行事へのつなぎもでき、実際に子どもの活動を見てもらったり、ともに行事を実施したりすることで、交流が図れた。

【地域行事へ中学生が参加】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・既存の学校支援ボランティア団体との連携。

・高齢者や福祉関係団体との関係づくり

（２）のゲートボールの件では、実施日を夏休みに設定したため、部活等と重なることが多く、最終的には中止となったが、来春以降も福祉協議会等と連携しボランティア活動を続ける。

・「学校支援メニュー」の有効活用。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

学校運営協議会は、定期的に開催され「学校の課題と地域の課題について」や「どのような子どもに育てるのか」といったテーマで熟議が行われている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

つながり響き合う教育をめざして　～　朽木地域学校協働本部　～

高島市	活動名：朽木地域学校協働本部	朽木東小学校・朽木西小学校・朽木中学校 学校運営協議会　：　■有　□無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成30年度　地域学校協働活動推進員等数：1人　ボランティア登録数：－（登録制なし）

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）朽木文化祭

朽木東小学校は、朽木文化祭で今年度初めて授業日として全学年音楽発表をし、中学校は、総合的な学習の時間に取り組んできた太鼓演奏と２年生のダンスを発表した。子どもたちの発表があるとのことで、たくさんの地域の方が見てくださり、会場の『やまびこ館大ホール』が満員となり立ち見の方もあった。子どもたちのがんばりが観られて、地域の方に笑顔が溢れた。

（2）５・６年朽木一周サイクリング

「ふるさと朽木」の自然と歴史・文化に興味関心を持ち、森林や河川・地形や土地の様子を観察し、心身を鍛える機会とするという目的を持ち実施された「朽木一周サイクリング」。事前に何回か下見に行き、安全に配慮し、計画され、当日は、自転車での先導や伴走、休憩所の準備や自転車修理など子どもたちがより快適に走行できるよう地域の方や保護者の協力があった。大変険しい坂道もあったが、走行途中、「がんばれ」と応援もあり、力を振り絞り走行出来た。朽木の自然の発見があり、がんばったことへの満足感もあった。

（3）中学校チャレンジトレイル

ふるさと学習の一貫として朽木を走るトレイル（中央分水嶺高島トレイルのおにゅう峠から三国峠）を歩き、朽木の大自然を体感し、トレイル上に残された伝承地や遺跡・昔話から当時に思いを馳せ、朽木の理解と愛着を深め、忍耐力や精神力を培うという目的で実施された。朽木の歴史に詳しい方に話を聞き事前学習をしたり、台風による倒木や土砂崩れの把握と安全確保に向けて動いてくださる方にお世話になったりして、実施することができた。当日、天候はあまりよくなく琵琶湖や若狭湾の眺望は難しかったが、雨に濡れ寒さにも耐え、また途中ルート変更もあったが、山のことをよく知っておられる方にも同行願い、全員無事踏破するという貴重な体験をすることができた。

（4）西地区草の根文化の集い

午前中、４名の子どもたちによる「歌謡ショー」「旅日記」「和太鼓演奏」を地域の人に参観してもらった。自分たちの思いを地域の人に届くように歌にあった振り付けを工夫したり、京都の旅を映像で紹介したり、和太鼓演奏では、練習の成果をしっかり発揮することができ、地域の人からの大きな拍手をいただいた。午後は、卒業生による和太鼓演奏もあった。子どもたちは保護者や地域の人とふれあい充実した時間をすごせた。地域の方も大変嬉しそうに子どもたちの発表を観てくださり、涙される方もあり、地域と学校のつながりの強さを感じた。

■　実施に当たっての工夫

今年度途中から始まった地域学校協働活動では、既存の支援活動を大切にしている。今年度は、各校の地域との繋がりの実態を把握することに努め、それぞれの行事や活動に協働していただける人を紹介したり、お願いしたりする役目をした。人を探すに当たっては、地域のことをよく知っている人に聞いたり、学校の教師と相談したりした。（子どもたちの成長を中心に置き、学校の思いや考えを大事にした。）

■　事業の成果

・子ども・・・地域の歴史や自然への興味関心の向上
・学校　・・・新たなボランティア人材の活用　　円滑な学校行事の実施
・地域　・・・学校への関心の高まり　　学校への協力強化

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・協力体制の確立（連絡方法・学校行事の精選・学校間の連携）
・コミュニティ・スクールの地域への啓蒙

■　その他（学校運営協議会との連携等）

学校運営協議会で、各校の課題について話し合う中で地域との連携や協力体制のことが話題になる。

【５・６年朽木一周サイクリング】

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

つながり響きあう教育を目指して　～安曇川地域学校協働本部～

高島市	活動名：安曇川地域学校協働本部	安曇小学校・青柳小学校・本庄小学校・安曇川中学校 学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成30年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：－（登録制なし）

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）学校支援ボランティア・・　九九指導、マラソンボランティア（安曇小）、ミシンボランティア（青柳小・本庄小）

（２）環境整備・・・・・・・・　花壇の整備、苗の提供（安曇小）、グラウンド除草（本庄小）

（３）給食会・・・・・・・・・　地域の方とともに給食を食べ交流を図る（青柳小）

（４）図書ボランティア・・・・　朝の読み聞かせ（英語の本を１，２年に交代で毎週読む）（青柳小）

■　実施に当たっての工夫

・学校便りなどを通じ、ボランティア会員を募った。（安曇小）

・民生委員児童委員が定期的に学校を訪問し交流を図り、学習サポートにつなげる。（青柳小）

・保護者は日中の活動が難しいことから、祖父母対象にボランティア参加を呼び掛け、ボランティア作業終了後に授業参観を行った。（本庄小）

・多くの地域の方が中学校へ来てもらえるよう、以前から実施している地域住民対象の校内カフェ（安中カフェ）を活用し、高齢者と生徒が交流できるようにした。（安曇川中）

■　事業の成果

・九九道場などで先生以外の地域の人に褒めてもらい、子どもの自信につながった。（安曇小、青柳小、本庄小）

・地域の人も「楽しかった」という声があり、楽しんで学校サポートをしてもらえた。（青柳小）

・祖父母が学校のためにしてくれる姿を見て子どもはうれしそうだ。（本庄小）

・高齢者が中学生と一緒に懇談することにより、認め合いやほめあうことで、お互い、いい関係が築けた。（安曇川中）

【民生委員との給食会】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・サポートしてくださる人をどのように募り、続けてもらうか。
学校の必要性とサポートの確保

・ボランティアリーダー的な存在を増やし、協働本部を組織化していかねばならない。

・元気な高齢者や、子どもがいる、いないにかかわらず、地域の方にもっとサポート役になってもらいたい。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

・どのような子どもに育てたいか、学校と共通の目標を持ち、地域でどのように進めていったらいいか。
もっと支援の方法を具体的に話し合い、時にはリーダーとなって動いていただきたい。

【安中カフェでの語らい】

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

あたたかく　しっかり見守ろう　私たち（新旭）の子どもと学校

高島市	活動名：新旭地域学校協働本部	新旭南小学校・新旭北小学校・湖西中学校 学校運営協議会　：■有　□無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成30年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：71人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　■その他［広報紙の発行、子育て・教育相談窓口能勢開設］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）学校図書室の活性化活動（新旭北小）

バーコード管理の導入作業に携わる図書ボランティアが10数人集まり、３か月で図書室がリニューアルオープンした。これを機に児童の読書活動を高めようと図書ボランティアのグループが引き続き図書館活動を支援し、図書室の活性化に繋げている。

（２）始業前の校庭・校舎内見守り・声かけ活動（湖西中）

「地域の人にどんどん校内に入って、生徒の姿を見たり声かけをしたりして、生徒の現状を知っていただくとともに、やさしく誠実な大人の姿を示してほしい」との中学校の要請に応えるために、20 人余りの「むくげの花の会」会員が都合のつく日に、始業前に校門や昇降口、校舎内で挨拶・声かけをしたり、読書タイムに一緒に読書したりする。毎日平均６人の会員が、笑顔で参加している。生徒たちは、安心感や快い緊張感で１時間目の授業を迎えることになる。

（３）「学習相談ルーム」の開設（湖西中）

中学校の支援要請で、学期末試験の１週間前から「学習相談ルーム」を開設し、試験に向けて主に数学と英語の学習会（学力補充）を行うものである。主に町内在住の元教員10数人がボランティアで、中学校の教員とともに学習支援に当たる。同様に、夏期休業中の前期と後期にも各１週間ほど（学年によって３日間も有り）開設した。

【「学習相談ルーム」の開設】

（４）「おいで！小学生」「来て！中学生」の活動

子どもたちをゲームやスマホから解放し、自然体験・感動体験・社会貢献等、「子どもたちの活動の場・活躍の場」を提供するために、関係各団体・機関・施設等の代表者による「新旭地域学校協働活動推進協議会」を開催して協力を呼びかけている。子ども食堂を開設して交流の場や手伝いの場を設けたり、中学校美術部に看板の製作を依頼したり、中学生生徒会が小学校夏休み算数教室での学習支援に出向いたり、中学校吹奏楽部が町の福祉祭りや文化祭、保育園や小学校で演奏したりした。

■　実施に当たっての工夫

（１）新旭の偉人「清水安三先生」のように、新旭の子どもたちが困難にめげず、たくましくやさしく育つことを願って、協働本部の拠点を「学而事人（学んで人に事える）室」と名付け、各校の支援組織を「むくげの花の会」（湖西中）、「夢の会」（新旭南小）、「希望（のぞみ）の会」（新旭北小）とすることで、町民や関係者が協働本部への親しみや理解を深め、目標を共有しやすくした。

（２）３校の教職員の方々との共通理解を図るため、協働本部事業の方針や活動状況等の情報を積極的に提供しようと、「活動の週計画」と併せて「学而事人室の窓」（広報紙）発行してきた。（11月で22号）

（３）各校に「支援組織を結成し、それぞれ、２週に１回（例えば、中学校は第１・３木曜日９時～）世話人会を開催し、提出された学校の支援要請について対応を協議し支援の手配する」とのシステムを構築した。

■　事業の成果

（１）地域の人の前で明るくはりきって活動する小学生や、地域の人に笑顔で挨拶する中学生が増えている。

（２）多い日には５種28人のボランティアが入る小学校、毎日平均６名、６～10月まで延べ約800人の地域の方が入る中学校、支援組織の世話人からは「次第に学校の敷居が低くなってきた」との声を聞けるようになった。

（３）各校の支援組織の活動が起爆剤になり、会員登録はしないが学校（子ども）のためならと、仕事を休んででもボランティア活動に参加される方や、「何でも言っておくれ、私にできることなら」と言われる方が徐々に増えているように思われる。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・各校支援組織の自主運営化を目指し、支援の輪の拡張により地域総がかりの子育てにつなげる。
・「おいで！小学生」「来て！中学生」の活動を促進するための工夫や協力の呼びかけに努めたい。
・学校からの強い要請である「下校時の安全見守り」について、不規則な時刻、勤務の時間帯等の問題点を克服したい。
・学校から提起され、「毎月５日」を「あいさつ運動の強調日」として取り組むも拡がりが見られない。広報活動を強化したい。
・町内の保育・幼稚園や学童保育所にも連携の輪を広げ、支援活動や協働活動に取り組みたい。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

・各校支援組織の世話人として「学校運営協議会委員２名」が加わり、協働本部と学校運営協議会との連携を密にしている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

東近江市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部　□地域未来塾　□放課後子ども教室　■土曜日の教育支援

【地域学校協働本部】

■目指す姿

市内全小中学校に地域学校協働本部を設置し、幅広い地域住民や企業・団体等が参画し、地域と学校の連携・協働による持続可能な活動の充実を目指し推進していく。また、活動を通して、子どもたちの心豊かな成長を支え、社会全体の教育力の向上および地域の活性化を図る。

■本年度の具体的活動

〇本部長（担当者）と地域学校協働活動推進員との合同会議の開催（４月・３月）
〇東近江市地域学校協働活動推進に向けた運営委員会の開催（10 月・２月）
〇東近江市地域学校協働活動推進員連絡会の開催（毎月）
・各本部における取組の報告、情報交換、質疑応答
・研修会の開催（２月）
・少人数でのグループワーク
・県教育委員会主催の研修会報告
〇学習支援（地域未来塾：本部内実施）の活動内容
「東近江アミーゴ教室」　国語、算数、社会等の学習支援および日本語の習得
・活動の概要と目的
「地域に根づき育つ子」をテーマとした児童・生徒の学習支援
・支援員数：９人
・支援員の属性：日本語支援相談員及び地域住民
・学習形態：個別学習
・教室のもち方と実施日数：毎週土曜日の午後２時から午後４時
・子どもの平均参加人数：10 人
八日市南小学校、箕作小学校、御園小学校、玉緒小学校の児童を中心に市内全域からの参加を募っている。

【合同会議の様子（４月）】

■本年度の成果

〇今年度、これまでの学校支援地域本部事業を地域学校協働活動とし、地域住民等と学校との総合的な連絡調整等を行う「地域コーディネーター」を「地域学校協働活動推進員」として、教育委員会が委嘱し、法律に位置付けられた存在として、地域学校協働活動の推進に関わっていただいた。
〇毎月、地域学校協働活動推進員連絡会を開催し、各本部における取組の報告や情報交換を行い、成功事例や課題等を共有することができた。また、連絡会の中で、少人数でのグループワークを取り入れたことは、具体的な方策へのきっかけづくりや、課題や疑問の解決に有効であった。
〇東近江市地域学校協働活動の推進に向けた運営委員会を組織し、開催に至った。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

〇市街地や山間部等、各地域の特色は異なるが、それぞれの地域の特徴を生かし、持続可能な活動を見い出し推進していく。また、地域ボランティア等の人材確保が必要である。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況：平成 30 年度委嘱済み

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画：持続可能なものとするために、今後も検討を重ねていく。

【土曜日の教育支援】

〇東近江市蒲生地区（蒲生マックスクラブ：11 教室）
茶道クラブ／ＫＩＤＳ　ＦＬＯＷＥＲ／あかねジュニアバンド／陶芸クラブ／蒲生野太鼓わらべ組／マックスダンス（初級）／マックスダンス（中級）／マックスダンス（上級）／囲碁・将棋クラブ／わくわくチャレンジ隊／そろばんクラブ
〇東近江市玉緒地区（玉緒キッズダンス：２教室）
キッズダンス（初級）／キッズダンス（中級）

地域とともにある学校・子ども応援団

東近江市	活動名：玉緒小学校地域学校協働本部	玉緒小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 24 年度　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：52 人
■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

・生活科（１年生・２年生）

「さつまいもを育てよう」：苗の植え方、育て方、掘り方などを子どもたちに丁寧に分かりやすく教えていただいた。年間を通して、世話もしていただいた。

「さつまいも収穫」：お世話になった方を招いて感謝の手紙を渡し、蒸し芋を作って一緒に楽しい時間を過ごした。

「探検しよう」：２年生が地域にある いちご園に行って、いちごについて教えていただき、収穫を楽しんだ。

・社会科・理科・総合的な学習（３年生・４年生・５年生・６年生）

３年生「地域探検」　：校区内の自動車整備工場、牛舎、スーパーマーケット、キュウリハウスを見学した。子どもたちにわかりやすく説明していただき、子どもたちの質問にも答えていただいた。

４年生「里山探検隊」　：地域にある大森町の里山に出かけて、自然の中で薪割りをしたり、のこぎりを使って木を切ったり、木の枝を集めてグループで協力して小屋を作ったり等、学校の中ではできない貴重な体験学習ができた。

５年生「田んぼの学習」：農業委員さんや、地主さんにお世話いただき、田植えや稲刈り、脱穀の体験学習をした。その後お世話になった方々を招いて「感謝祭」を開催した。

６年生「キャリア教育」：今年度は、薬剤師さん、池田牧場の方、大工さん、美容師さんを招いて、それぞれの方の仕事に対する思いなどの話をしていただき、その後実際に仕事を体験した。また、玉緒幼稚園を訪問して幼稚園教諭の仕事について学んだ。

・家庭科（５年生）

５年生「初めてのソーイング」「ミシンを使って」：各班に１人のボランティアさんに付いていただき、個々の児童にきめ細やかな指導や助言をしていただいた。

・図工　（１年生・５年生）

「絵手紙を書こう」　：地域に住んでおられる絵の得意な方に来校いただき、絵手紙の書き方を教えていただいた。

・その他

ミシンの点検修理

図書室の環境整備・飾り（月２回程度）　読み語り（月２～３回程度）　図書室開放（朝週１～２回）

登下校の見守り（毎日）

■　実施に当たっての工夫

・ボランティアの依頼は、ボランティアの方の得意な事を活かした活動内容を依頼するように心がけた。
・ボランティアの方との打合せは、実際の教材を使って説明するようにした。
・ボランティアの方の生きがいになるような活動の依頼を心がけた。

■　事業の成果

・同じ方に何度か支援していただいたことで、活動もスムーズに進行し、事前の打合せも短時間で行うことができた。
・ボランティアさん同士も顔見知りになり、新しい方を紹介していただけた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・学校からの要望で、ボランティアを探したが、適材の人を見つけることができないこともあった。
・ボランティア登録の方の特技を活かそうと心がけたが、学校の希望とうまく結びつけることができなかった。
・新たな地域の人材を見つけ出すことが今後の課題である。

【５年生　田んぼの学校】

■「支援」から「連携・協働」に向けて

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（　○　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（　○　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

日本語支援ボランティア団体との連携による日本語学習支援活動

東近江市	活動名：御園小学校地域学校協働本部	御園小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：15 人
■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

本校に在籍する外国籍児童・帰国子女等、日本語指導が必要な児童に対し、基本的な会話や読み書きの基礎学習に対して地域のボランティアが学習支援を行い、日常生活や学習活動に日本語で取り組むことができるようになることを目的とした活動を行っている。日本語支援地域ボランティア団体に所属する方が、当番制により週に２日、月曜日と木曜日の午前中に来校され、基礎的な日本語指導が必要な児童への個別学習支援に取り組んでいる。主な活動内容は、絵カードなどを用いた読み書きの学習を基本としながら、文部科学省や文化庁が発行している教材等を使用し、学習支援を行っている。

■　実施に当たっての工夫

一人ひとりの生活環境や経験、言語環境が大きく異なる中、効果的な日本語指導のあり方について検討している。１学期当初は、自作の教材、絵カード等を使って文字の正しい書き方と読み方の定着を図ることを目標に取り組んだ。その後、文字に沿って単語を書いて語彙の習得を目指した。また、平仮名からカタカナへの展開を図った。単純な読み書きの学習が連続するため、集中して学習を継続することができるように、意欲・関心を高めながら進めた。

【ボランティアとの学習支援】

■　事業の成果

日本語指導が必要な児童にとって学習支援も大切であるが、日本の文化に慣れ、基本的な生活習慣を身につけていくことも大切なポイントである。そのため、日々児童とのコミュニケーションを積極的に取り、信頼関係を築けるように心がけた。また、できたことをたくさん褒め、自尊感情が育つよう努めた。その結果、外国籍児童に行ったアンケート結果では、在籍学級での学習と日本語指導教室での学習を比較したところ、日本語指導教室での評価が高かった。今後も、引き続き外国籍児童が安心して過ごせるように取り組んでいきたいと考えている。

【ボランティアとの個別レッスン】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

地域ボランティアの方々が支援活動を行うにあたって一番大切なことは、地域ボランティアと学校関係者が情報交換を密に行い、互いに話しやすい雰囲気づくりに努めることだと考えている。そのため少なくとも学期に１回程度、情報交換会を持ち、互いの考えや児童の様子について交流することが必要である。また、教材づくりを教員と共に行うことでボランティアの方々に楽しく気軽に関わってもらえるようにしていく必要があると考える。

■　その他

お問い合わせ
東近江市立御園小学校　ホームページアドレス
http://www2.higashiomi.ed.jp/misonosho/

■「支援」から「連携・協働」に向けて

（ ○ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

輝け南っ子！！　～地域を学ぶ、地域の人々と学ぶ～

東近江市	活動名：八日市南小学校地域学校協働本部	八日市南小学校　学校運営協議会：□有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 24 年度　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：50 人
■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）
（１）滋賀学園陸上部生徒による市陸上記録会の練習および指導
（２）特別支援学級、畑の先生とじゃがいも、さつまいも、大根などの植え付け及び収穫
（３）大凧保存会による大凧作りの指導
（４）３年生児童が南部コミュニティセンターで、地域の方と一緒にじゃがいも掘り
（５）２年生児童が八日市南高校生と一緒にさつまいも植えおよび収穫
（６）今年度からグラウンドの芝生化により、芝生刈りや水やり等の支援
（７）真鍮家さんによる江州音頭の指導
（８）学習教室（地域未来塾：本部内実施）の実施（活動の概要と目的）
・目的：学習習慣を身につける（宿題やドリルなど予習や復習を支援する）
・支援員数：14 人
・支援員の属性：学生：２人　教員ＯＢ：２人　その他　地域住民等：10 人
・学習形態：宿題、ドリル学習
・実施日数：夏休み４日　冬休み２日　春休み２日　合計８日
・子どもの平均参加人数：25 人

【市陸上記録会の練習】

【全校生徒で総おどり】

■　実施に当たっての工夫
・市陸上記録会の練習では、高校生が事前に練習計画を考え、限られた時間の中、どのように指導すれば良いかを考えてくれている。
・特別支援学級の畑では、地域の方が畝を作ってくださり、休みの期間の水やりもお世話になっている。
・江州音頭では、八日市南小学校の歌を作っていただき、みんなで歌う練習や踊りの練習を行った。また、休み時間に全校生徒で総おどりを実施した。

■　事業の成果
・市陸上記録会の練習では、陸上部の先生から高校生の勉強にもなると喜んでいただいている。また、小学生からも、年齢の近い先輩からの指導に、もっと教えてほしいとの声があった。
・地域の方に支援いただき、子どもたちと一緒に特別支援学級の畑で野菜を育てている。
・江州音頭では、地域の夏祭りで小学生がたくさん参加し、合いの手を大きな声でかけていた。地域の方も小学生がたくさん行事に参加し、声が聞こえることを喜んでくださった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
・市陸上記録会の練習は、雨の日が中止になってしまうので、今後、雨の場合の計画を検討する。
・江州音頭では、地域の方にも総おどりをお知らせし、一緒に踊っていただくようにする。

■「支援」から「連携・協働」に向けて
（　○　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（　○　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（　○　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域と共に歩む学校

東近江市	活動名：箕作小学校地域学校協働本部	箕作小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 25 年度　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：128 人
■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

・箕作小学校地域学校協働本部は、校区内の「清水小脇街づくり委員会」、「太郎坊応援団」、「中野地区まちづくり協議会」と連携し、各学年の様々な教育活動や芝生化された校庭整備など支援の継続、充実がみられる。
・テーマ「地域とともに歩む学校」の実践は、１年生の昔遊び学習や２年生の町探検、３年生の町調べなど、全学年が地域の自然、文化にふれる機会を大切にして取り組んだ。
・特に６年生は、東近江大凧保存会の指導を受け、子どもたちが考えた判じもんを入れた地域伝統文化の２畳敷大凧を制作し、グラウンドで大空高く揚げることができた。
・５、６年生の家庭科授業においてボランティアの支援を受け、ミシンを使った実習をすることができた。
・「野菜の先生」や「田んぼの先生」から作物づくりを基礎から学び、野菜や米を収穫することができた。
・全学年対象に、年間を通してボランティアによる読み語りを実施し、日本・世界の名作に親しむ機会を得ることができた。
・持久走大会では、保護者と地域の方々が共に全児童に声援を送り、子どもたちを励ました。
・学習教室の実施（活動の概要と目的）
　子どもたちが地域の大人とかかわりながら様々な体験活動を行うことで、子どもたちの社会性、自主性、創造性を育むことを目的とする。
　・支援員数：17 人　・支援員の属性：元教員、元公務員、薬剤師、塾指導員
　・学習形態：個人指導　・実施日数：夏期休業期間４日
　・子どもの平均参加人数：28 人

【２年生「畑の先生」】

【３年生「町調べ学習」】

■　実施に当たっての工夫

・各学年の学習のねらいや取組のテーマ〝見て・聞いて・やってみる〟をモットーにした学習活動について、地域学校協働活動推進員が地域と学校との連携を密にし、適切な支援活動がなされるように努めた。
・支援内容に適したボランティア人材を確保し、適宜依頼できるように各所、各団体、個人に幅広く声をかけている。
・これまでの取組を継続し、学校と地域、ボランティアの三者が共に安心感と親近感、信頼感がもてるように、日頃からできる限りお互いの思いや考えが伝わる連携を積み重ねている。

■　事業の成果

・学区が広範囲であるため、広くボランティアの人材を募ることに難しさもあるが、公的機関、各種団体などと細やかに連携を図ることにより、ボランティアからボランティアへと支援の輪に広がりがみられ、さらに適材適所のボランティアを依頼することができてきている。
・自分たちの住む町を学習する中で、地域に対する関心が高まり、子どもたちが地域のひとりとしての自覚や地域への親近感を持てるようになった。地域の方々も、子どもたちとのかかわりの積み重ねにより、その成長を見守ることに充実感を持つ事ができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・「地域とともに歩む学校」として学校と地域の絆をさらに深め、充実した活動にするためにも、打合せや相談、学習計画の立案への参画、活動後の反省や評価、問題提起、課題解決方法の探求など、発展的に循環した取組となるように考えていくことが必要である。
・子どもたちが多くの人と適時適切に関わりを積み重ね、より確かな人格形成が築けるよう、学校と地域との連携の充実が不可欠である。

■「支援」から「連携・協働」に向けて

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（　○　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（　○　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域とのつながりを深め、広げる活動

東近江市	活動名：八日市北小学校地域学校協働本部	八日市北小学校 学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］ 開始年度：平成 28 年度 地域学校協働活動推進員数：１人 ボランティア登録数：30 人
■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） □地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援
■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 □郷土学習 □その他［ ］

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）４年生 総合的な学習「河辺いきものの森での体験学習（通年）」
・地域の森の中で、それぞれの季節に応じた様々な体験学習を通して、自然や生きものについて学ぶ。
・学んだことを生かして、３年生を招待してやまのこイベントを企画・運営する。
・職員さんが専門的な知識を教えてくださるので、目で見て肌で感じる学習ができた。

（２）５年生 総合的な学習「田んぼの学習」
・ＪＡの方、田んぼの地主さん、ボランティアさんにサポートしていただき、米ができるまでの学習を行う。
・昔の米作りの様子が分かる写真を提供していただいたり、米の様子を間近で観察できるよう、鉢植えにした稲を提供していただいたりした。

（３）６年生 家庭科 「魚の食べ方教室」
ゲストティーチャーとして市内の公設卸売市場から来ていただき、市場のしくみや魚の食べ方の説明を聞いた。その後、ひとり一匹のアジを丸ごと食べる体験を通して、毎日の食事で命を食べていることについて考えた。

（４）全年生 読み聞かせ・図書室経営のサポート
・毎週火曜日の朝、ボランティアさんによる読み聞かせを全クラスで実施している。
・行事ごとに図書室の飾り付けをしていただいたり、お話会などのイベントを企画していただいたりしている。

【河辺いきものの森での体験学習】

【公設卸売市場の説明】

■ 実施に当たっての工夫
（１）地域学校協働活動推進員と学校担当者が担任の先生とボランティアさんの間に入り、うまく連携できるようサポートに努めた。
（２）支援していただいてよかった内容は今後も継続しつつ、新たな内容についても広げていけるよう活動を進めた。
（３）地域学校協働活動推進員がボランティアさんとの連絡をこまめにとるようにした。

■ 事業の成果
（１）専門的な知識や技能を持っておられる方に支援していただき、子どもたちの学習がより深まった。
（２）今年度、地域の方々にサポートしていただく中で支援の幅が広がった。次年度に向けて実施可能な活動が見えてきた。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
（１）新たなボランティアの発掘と、関わっていただく新たな学習内容を探る。
（２）学校教育にたくさんのボランティアさんが関わってくださっていることを保護者や地域の方に周知する。
（３）次年度への申し送りを確実に行い、子どもたちにとって、より深まった学習ができるようにしていく。

■「支援」から「連携・協働」に向けて
（ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

「地域の子どもは地域で守る・育てる」～つながる地域と学校～

東近江市	活動名：八日市西小学校地域学校協働本部	八日市西小学校 学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］ 開始年度：平成 24 年度 地域学校協働活動推進員数：１人 ボランティア登録数：225 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） ■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援
■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他［ ］

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）「子ども見守り隊」の活動

11 地区で「子ども見守り隊」を結成し、児童の登下校を見守っていただいている。児童の下校時刻をお知らせすると、それに合わせて学校まで迎えに来てくださる方もいる。通学路の危険個所を教えていただいたり、日常の子どもたちの様子を伺ったりと、必要な情報を提供していただいている。夏季休業中には、見守り隊の研修会を行い、２月の終わりには「６年生を送る会」を参観していただき、学校職員や子どもたちとの交流の機会としている。

【２年生 町探検】

（2）生活科や社会科の校外学習の引率

１年生では年間を通して近くの公園へ出かけ、季節の変化を見たり自然物を使った遊びをしたりしている。公園までの引率や、公園での遊びの支援等をボランティアにお願いしている。山の中での活動範囲が広いため、教員だけでは見回れないが、ボランティアがいてくださるおかげで、安全に学習を行うことができる。

２年生、３年生では町探検、校区探検を実施しているが、行き先毎に小グループに分かれるという学習を今年度から取り入れ、各グループに１人ずつボランティアをお願いしている。ボランティアが地域の方で、各訪問先の方と顔見知りであるため、見学もスムーズに行うことができた。行き先が違うため、あとの交流学習での子どもたちの様子は意欲的であった。教員だけの引率ではなく、教員とボランティアを組み合わせることで、安全面でもさらに配慮することができた。

６年生の社会科では、近くの雪野山古墳について現地でボランティアの方に説明をしていただいた。一緒に頂上まで登り、実際に見ることで八日市西小学校区の歴史を身近に感じることができた。

【５年生 稲刈り】

（3）田んぼの学校での田植えや稲刈り体験の作業指導や活動支援

５年生が総合的な学習の時間に年間を通して田んぼの学習を行っている。調べ学習だけでなく、実際に田植えや稲刈りを体験する学習をしている。苗の植え方や稲刈りの仕方を実際に目の前で教えていただき体験することで、昔ながらの農作業がどのようなものであったかを考える学習である。稲刈り時には、同時に脱穀作業も行い、昔の道具（足踏み脱穀機、千歯こき）にも触れている。

■ 実施に当たっての工夫

〇地域学校協働活動推進員と連携し、年間を通してどのような支援が必要なのかを事前に検討しておく。
また、地域学校協働活動推進員と各学年の打合せを行い、詳しい内容が各ボランティアに伝わるようにしている。
〇人材のデータをファイリングしている。
〇学校だよりや学年通信等で活動内容や学習の取組を地域に発信している。

■ 事業の成果

〇地域学校協働活動推進員と各学級担任との連携がうまくとれた。
〇地域の方の声かけにより、新たなボランティアの登録者が 10 名ほど増えた。
〇地域の方とふれ合うことで、子どもたちの日常を見ていただける事や子どもたちが地域の方との接し方を学ぶよい機会となった。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇ボランティアの登録者は増えているが、活動を辞退される方も出てきている。新たに登録していただける方を増やすためにも、どのような活動をしているのかが分かるような発信をしていく必要がある。
〇地域行事への参加は、今のところ各地区への文化祭参加だけである。今後どのように地域行事等へ参加していくのかを考えていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて

（ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域で学び、地域で育つ布小っ子

東近江市	活動名：布引小学校地域学校協働本部	布引小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：28 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

通年　ボランティア読み聞かせ、校外活動引率支援、スクールガード活動支援
４～５月　５年生「田んぼの学校」実施計画・打合せ・田植え
６月　３年生　地域学習「布施公園調べ」、出前授業「布施の溜・城」
　５年生「田んぼの学校」田んぼの虫学習補助
　６年生　歴史学習「八日市壺焼谷遺跡調べ」、「出前授業　布施山城」
７～９月　５年生「田んぼの学校」打合せ・稲刈り・脱穀作業
10 月　５年生「田んぼの学校」収穫感謝祭
　６年生　防災学習「出前講座　防災紙芝居」
11 月　５年生　国語科学習「和の文化を受けつぐ」
　３年生　社会科学習「漬け物工場見学」
12 月　全　校　大型紙芝居「泣いた赤鬼」

【３年生　布施の溜・城】

■　実施に当たっての工夫
〇地域学校協働活動推進員の出勤日を固定することで、教員との円滑な打合せを進めることができた。
〇学校だより等で、地域と学校が連携・協働している事例を取り上げて広報に努めた。
〇地域学校協働活動推進員が地域やコミュニティセンターに出向き、学校と地域の連携に努めた。
〇「布引っ子応援団」のチラシを作成し、新たなボランティア人材の掘り起こしに取り組んだ。

■　事業の成果
昨年度からの地域コーディネーターが地域学校協働活動推進員に委嘱され、地域学習の出前授業や校外学習の相談、教材の発掘など、学習支援ボランティアの充実に取り組んだ。地域からの声も地域学校協働活動推進員を通して届くようになり、体験学習や出前授業につながる事例もあった。年間を通して、地域学習の講師や学校支援ボランティアの掘り起こし、スクールガード活動のサポートまで取り組むことができるようになった。

【５年生　和の文化を受けつぐ】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
〇地域学校協働活動を「見える化」し、連絡体制を整え、校内体制の充実を図る。
〇学校支援ボランティアの継続に向けて、名簿等を作成して、校内での引き継ぎを確実に行う。
〇広い校地の学習環境の整備のため、施設メンテナンス型のボランティアの充実を模索していく。
〇地域学校協働本部の活動について、地域や保護者への広報活動をさらに充実させる。

■　その他
今年度発足した「布引っ子応援団」が広く知られるよう、今後も継続して広報活動に努め、地域との連携・協働の層を厚くしていく。

■「支援」から「連携・協働」に向けて
（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（　〇　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

「地域とともにある学校づくり、魅力がいっぱい、持続可能な教育環境づくり」

東近江市	活動名：市原小学校地域学校協働本部	市原小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 25 年度　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：90 人
■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）
・「まなびぃ」（本部内地域未来塾）
活動の概要と目的　１：子どもたちの社会性、自主性、創造性等の豊かな人間性をじっくり涵養
２：子どもたちの学力向上の一助、学びの時間の拡張、学びの機会の選択肢を増やす。
支援員数：４人、支援員の属性：地域学校協働活動推進員、学習支援員、学習支援ボランティア
学習形態：個別学習、ペア学習、グループ学習（ＰＣ活用・プリント学習など）
教室のもち方と実施日数：毎月第１金曜日を基本に、下学年（16:00から）上学年（17:00から）に分けた２コマで実施
子どもの平均参加人数：約30人（全校児童数の約34%）
・「いつも身近に本を置こうプロジェクト」（地区集合場所に本を置き、登校時の待ち時間もミニ図書館で読書）
・学校支援ボランティアによる授業補助やボランティア、関係機関、民間等との連携事業
・ボランティアの皆さんが育てた花の苗で花壇を整備
・認知症こどもサポーター養成講座（福祉教育）
・読み語りボランティアによる魅力ある学校図書館づくり（読書環境、読み語り、創作クラフト等のイベントなど）
・漢字検定の実施（７月、１月）児童のみならず地域、保護者の方からも募集する。

■　実施に当たっての工夫
・毎月１回、ボランティア会議を開催し、各活動の反省と今後の計画を立てている。
・ぬくもり（手づくり感）を大事にする。（心が通い合うコミュニケーションで、風通しの良い環境づくりを目指す）
・児童を中心に据え、教職員と保護者、地域の方々とのつながりを大事にする。（一体感を目指す）
・持続可能な視点を持って、続ける事を大事にする。（持続可能な教育環境づくりを目指す）

【「まなびぃ」の様子】

■　事業の成果
・保護者や地域の方々の来校者数が地区住民数の２倍以上となっている。（地域の人が行き交う学校づくりの進展）
・ホームページの更新を頻繁に行うことによりアクセス数も増加し、学校認知度もアップしている。
・地域の人と児童との絆が深まった。学校全体が笑顔と活気に溢れている。挨拶が自然にできるようになった。
・教職員、特に若手教員にとって、連携事業等を通して地域の人々との多様な交流体験がよりよいＯＪＴとなっている。

【読み語りボランティアによる
創作クラフト活動】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
・各活動の前には、学校と地域が、目標の共有化を図る必要がある。
・保護者や地域の方々に本事業の活動を知ってもらう必要がある。（ＨＰや広報紙等で、周知の徹底をさらに図っていく）

■　その他
・認知症こどもサポーター養成講座：市役所、社会福祉協議会、高齢者施設、民生委員児童委員、地域ボランティア等、多くの方々が支えてくださり、近隣のグループホーム「やすらぎの里」を訪問。（３年目）
・全校マラソン大会の安全な運営　スクールガードによる見守り活動（４年目）
・読み語りボランティアによる創作クラフト活動
・公立図書館と読み語りボランティアとのコラボ事業「図書館まつり」
・「地域の日」毎月第２水曜日の昼休みを自由参観の日に設定。地域住民、保護者の皆様が来校している。隣接する幼稚園からは毎月５歳児を中心に年間を通して定期的に来校している。

■「支援」から「連携・協働」に向けて
（ ○ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

郷土の魅力発見！　～地域の力を生かし、わくわくしながら学び合える“山小っ子”を目指して～

東近江市	活動名：山上小学校地域学校協働本部	山上小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成29年度　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：22人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

【２年生　生活科　「もっとなかよし　まちたんけん　～つたえよう、永源寺の名人たち～」】
多様な趣味や特技を持っている人々、豊かな自然を生かして職業を営む人々、地域に根ざした店舗を営む人々などにスポットを当て、地域の人々との関わりを広げ深めることで、自分たちの住む町への愛着を持てるように活動を進めた。町探検で実際に名人に会ってインタビューしたり、学校に名人を招いて話を聞いたりして、地域の方々と活発に交流できた。

【４年生　総合的な学習の時間　「稲荷山のひみつをさぐろう！」】
地域のボランティアさんにガイドをお願いし、学校の裏山にある稲荷山に出かけ、体験的な活動を重視しながら学習を進めた。ボランティアさんには、稲荷山散策のガイドや地域の歴史の紹介、調べ学習のお手伝いなど、単元全体を通して関わっていただくことで、身近な自然に触れる体験学習を中心とした主体的な学習活動につながった。

【５年生　総合的な学習の時間　「和南川生き物調査」】
愛知川清流会の方々にご協力いただき、学校の近くを流れる和南川にて生き物調査を行った。また、水生生物について調べることで、川の水質や生態系について学習を深めた。学習したことをフローティングスクールにおいて他校と交流し合い、愛知川水系から琵琶湖、琵琶湖から淀川水系に至るまで、共通の課題として問題解決的な活動につなげた。

【６年生　総合的な学習の時間　「わたしたちの山上と戦争」】
地域の戦争体験者を学校に招き、戦時中のくらしや、特攻隊員として赴任した際の経験談を語っていただいた。自分たちの住む地区での具体的な戦争体験を聞くことで、様々な思いを抱き、平和について深く考え、平和の尊さや平和を維持していくために、自分ができることについて主体的に考える活動を進めた。

【和南川生き物調査】

■　実施に当たっての工夫

〇昨年度から事業が始まったこともあり、まずは地域の方々とのつながりを広げようと、教職員にアンケートを行った。いつ、どの教科で、どんな支援を必要としているのか、年度初めと２学期の初めに聞き取りを行い、必要な支援を把握することからスタートした。アンケートをもとに必要な支援を明確にし、地域学校協働活動推進員からボランティアをお願いすることで、支援の輪を広げられるようにした。

〇どの学年の取組でも、活動前にボランティアの方々、担任、地域学校協働活動推進員の綿密な打ち合わせを行い、学校とボランティアの方が、活動の目的や子どもに付けたい力について共通の認識を持てるようにした。

〇地域に眠る様々な歴史や文化、人々と触れ合うことで、地域学習を進めるヒントを得ることや教材の発掘につなげることを目的に、教職員の研修を位置づけ、フィールドワークを行った。

■　事業の成果

〇地域との新たなつながりを創出し、広げることで、学校教育活動の中に地域の力を生かす取組を位置づけることができた。

〇地域を教材にして学ぶ子どもの姿から、意欲的・主体的な様子が見られた。本物に触れ、実体験を重ねていくことで、実感を伴った理解や、新たな気付き・考えにつなげることができた。

〇学校に様々な人が集まり、それぞれの経験や知識を生かした活動を展開していくことで、支援をしてくださる地域の方々にとっても自分を生かす場となった。活発な地域づくりにつながり、学校と地域双方にメリットがある活動になった。

〇フィールドワークを実施することで、教職員自身が地域をより身近に感じることができ、新しい地域の魅力を発見し、新たな地域社会との接点を広げ、今後の地域学習の充実とその可能性を広げることができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

地域の高齢化が進み、今後新たなボランティアをどう創出していくか、持続可能な方法の検討を重ねていくことが重要である。

■　その他

山上小学校HP：http://www2.higashiomi.ed.jp/yamasho/

■「支援」から「連携・協働」に向けて

（ ○ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域の方に支えられて、地域の方とともに学ぶ

東近江市	活動名：五個荘小学校地域学校協働本部	五個荘小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 25 年度　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：120 人
■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）授業補助
- 総合的な学習の時間「ふるさと学習」で、地域の歴史や取組について話をしていただき、話をもとに子どもたちが学習を深め、学習発表会で地域の方や保護者に発信した。
- 五個荘の郷土料理「泥亀汁」作りにおける支援
- 茶道、生け花、和太鼓など、クラブ活動における支援
- 家庭科での手縫い、ミシンの学習支援
- 地域の方に昔のくらしや昔の遊びについて教えていただく
- 本の読み聞かせ

（２）学校行事支援
- 校外学習やたてわり遠足等の引率補助や交通安全見守り

（３）学校周辺環境整備
- 学校周りの植木の剪定

【ふるさと学習】

【泥亀汁作り】

■　実施に当たっての工夫
（１）職員への周知を図るため、いつ、誰が、どんな目的で来校されたかが分かるように、ホワイトボードを設置した。また、年間にどのような活動があったかを整理した。
（２）地域学校協働活動推進員と教職員が打合せをする時間を設定した。また、年度当初に１年間の活動の見通しが持てるように計画を立てた。
（３）多くの方に協力いただけるように、「学校だより」やホームページでボランティア活動の紹介をした。
（４）参加してくださったボランティアさんを学校行事に招待して、日頃の子どもたちの様子を参観していただいた。

■　事業の成果
（１）地域学校協働活動推進員による地域の方々への積極的な働きかけにより、新たな事業への協力を依頼することができた。
（２）事業が定着しつつあり、スムーズに活動を行うことができた。また、学校に来てくださる地域の方も活動を楽しみにしていただいている。
（３）専門的な知識を持ったボランティアさんに直接教えていただくことにより、子どもたちにとって充実した活動となった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
（１）地域と学校が連携した活動は実施することができたが、協働的な活動にまでは至っていない。
（２）今後も、より地域に根ざした活動を展開していく必要がある。

■　その他
五個荘小学校ホームページ　http://www2.higashiomi.ed.jp/gokasho/

■「支援」から「連携・協働」に向けて
（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域とつながる学校づくり　「みんなで育てよう　愛東南の子どもたち」

東近江市	活動名：愛東南小学校地域学校協働本部	愛東南小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：28 人
■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

〇全校【ボランティアグループ「ブッくんの会」による読み聞かせ】
毎週火曜日と木曜日の「本の時間」の 15 分間、全校学年部ごとに読み聞かせの実施
年に一度、ＰＴＡ主催の「親子お話会」では、紙芝居や劇などの実施
（今年度は、人形劇「はなさかじいさん」）

〇１年生　生活科【昔から伝わる遊びを楽しもう】
コマ回し、あやとり、お手玉、おはじき等の指導と支援

〇３年生　社会科【わたしたちのまちのようす】
青山町でお茶を栽培されている農家さんを訪問

〇３年生　総合的な学習の時間【愛東の農家の名人さんに学ぼう】
イチゴ、ブドウ、ブロッコリー、メロンを栽培されている地域の農家さんを訪問
「名人さんに話を聞こう会」でのゲストティーチャー

〇４年生　社会科地域教材【井について調べよう】
地域学校協働活動推進員の引率の元、鯰江井の見学
社会科の授業でのゲストティーチャー

〇５年生　総合的な学習の時間【米について調べよう・田んぼの学校】
学習支援・・・田植え、稲刈り、脱穀の作業

〇５年生　家庭科【はじめてのソーイング】【わくわくミシン】
学習支援　・・・玉どめ、玉結び、なみぬい、ミシンなど

〇クラブ活動【手芸・手作りクラブ】　羊毛フェルト、消しゴムはんこなどの制作指導と支援

【ブッくんの会による人形劇】

【３年生　名人さんに話を聞こう会】

■　実施に当たっての工夫

〇地域学校協働活動推進員が学校行事の際に、本活動の意義および内容についての説明やボランティア登録のお願いなどを行った。愛東地区全体でボランティア登録の呼びかけのチラシを配布し、地域の方々に理解と協力を得られるようにした。

〇学校側のニーズを地域学校協働活動推進員に細かく伝え、人材の掘り起こしをしてもらった。

■　事業の成果

〇ボランティアグループ「ブッくんの会」による読み聞かせが継続的に続いていることで、子どもたちの読書の習慣化や質の向上につながっている。

〇地域学習においては、専門的な知識や技能を持っておられるゲストティーチャーを招くことで、より学習効果が上がった。その成果を 11 月の「くすのきまつり」で、保護者や地域の方々、また、招待したゲストティーチャーの方々の前で発表した。

〇地域学習のボランティアの方は、毎年来ていただいている方が多く、学習のねらいや内容も把握した上で、子どもたちの発達段階に応じた話をしていただけることが大変よい。

〇今年初めて、学習支援ボランティアとして家庭科の授業に入ってもらい、個に応じた細やかな指導をしていただいた。ボランティアの方も、子どもたちとのふれあいを楽しまれていた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇年度ごとにボランティア登録名簿を見直し、異動等で教職員がかわっても、継続的に地域との連携が取れる体制づくりが必要である。

〇地域学校協働活動について、保護者や地域への広報活動をより充実させる。

〇新たなボランティアとして、環境や安全面でのボランティア人材の掘り起こしを進めていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域の教育力を結集し、「地域と共に歩む学校」をめざして

東近江市	活動名：愛東北小学校地域学校協働本部	愛東北小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 26 年度　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：32 人
■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

①読み聞かせ活動

愛東北小学校では、18 人の読書ボランティアの方に支援いただいている。全学年を対象にした読み聞かせを毎月１回、朝の始業前に行っている。また、１年生のみ月２回程度、下校前に行っている。子どもたちは、ボランティアさんの読み聞かせの日を心待ちにしており、朝、控え室に当番の児童がお迎えに行っている。絵本だけでなく、紙芝居等、工夫した読み聞かせに目を輝かせ聞きいっている。読み聞かせ後、ボランティアの方々で交流の時間を持ち、お互いに工夫点などを学び合うようにしている。

【稲刈りの様子】

②５年生「田んぼの子」の体験学習

当校は、ＮＰＯ法人「茗荷村」、集落の農業法人、ボランティアグループ等の 14 人の方々の協力を得て、「田んぼの子」の学習が進められている。

農村地域の本校の児童も、最近では農業体験に乏しくなっている中で、この体験学習は貴重な場となっている。田植え・稲刈りはもちろんのこと、稲の生長を見届ける学習等を通して、米作りの苦労と喜びを味わうことができている。収穫後に「お米パーティー」を開き、協力いただいたボランティアスタッフを招待して学習の成果を発表し、収穫の喜びを実感する機会を設けている。
稲刈りでは、ボランティアの方々の支援のおかげで、うまく鎌を使い、期待以上に広い場を刈り、大人から「うまいもんやな。」とほめられ頑張ることができた。

当本部では、学校側の依頼に対し、情報などを集約的に持っておられるところへの協力依頼を第一歩としている。

【ミシン学習の支援】

③５年生の家庭科ミシン学習への支援・補助

ミシンの学習は、児童の学習効率や安全面での留意を図るための手立てが必要である。そこで、ボランティアを募り、４人の支援ボランティアを確保して糸縫いを行った。ボランティアと子どもたちの和やかな交流もあり、和気あいあいと家庭科の学習が進み、子どもたちも充実した顔をしていた。

■　実施に当たっての工夫
〇関わっていただく地域の方々と学校の先生方とが、お互いに負担とならない適度な距離感を保つように努めている。
〇地域住民の学校への関心や思いが高まるように、ボランティア人員が少しでも増えるようにしている。

■　事業の成果
〇ボランティアの方々の支援により、児童の学習効果が上がり、学習への励みにつながっている。
〇子どもたちとの交流を通して、少しずつ地域住民による学校支援の輪が広がっている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
〇子どもたちの学習や生活の充実に向けて、学校教職員と地域学校協働活動推進員との連携を密にとるように努めたい。
〇地域人材を効果的に学校教育につなげていくために、情報収集のアンテナを高くし、ボランティアの更なる拡充に努めたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて
（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

ふるさとの宝・東押立の文化・豊かな自然に学ぶ「地域の学校」

東近江市	活動名：湖東第一小学校地域学校協働本部	湖東第一小学校 学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］ 開始年度：平成 25 年度 地域学校協働活動推進員数：１人 ボランティア登録数：27 人

■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） ■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援

■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

□地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他［ ］

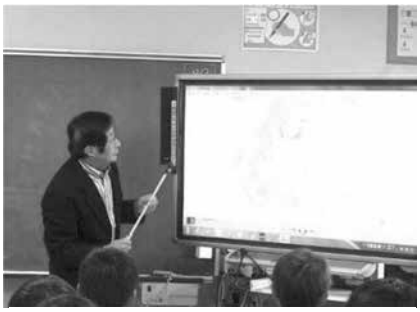
■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）田んぼの学校

田園地帯の広がる自然豊かな地域に在る本校は、「田んぼの学校」の取組で、３年生、４年生、５年生は、毎年、地域の方々の力を借りて、田植えや稲刈りを体験している。また、５年生は収穫したお米を使ってアイデア料理を調理し、お世話になった方々をお招きして『収穫感謝祭』を開き、地域の方との交流を深めている。

（２）校区について学ぶ

校区は古くから愛知郡東押立村としての文化の中心であった名残が多く残っている地域である。３年生の社会科「発見！！私たちの町の宝物」では、校区の町の自慢や宝物を見つける学習をしている。今年度も北花沢・南花沢町の「ハナノキ」、読合堂町の「半鐘」など地域に残る文化について学習した。また、６年生は社会科の歴史学習で大沢町の戦争疎開体験者から「校区の戦争中の話」を聞かせていただいた。



【６年生 校区についての歴史学習】

（３）家庭科における学習支援

地域の老人会の方に手縫いの仕方やミシンの基本的な使い方について、継続して支援いただいている。子どもたちがつまずいた時に、その場の状況に応じて支援をしていただくことにより、限られた時間で裁縫の技能を身につけることができている。

（４）学習環境整備

今年はＤＩＹボランティアとして、薄くなったペンキの塗り直しや、いすの修繕、ドングリの穴あけなど工具を使って作業をしていただいた。

（５）学習教室の実施「夏休み学習教室 地域未来塾：本部内実施」

〇活動の概要と目的

本校では、毎年、夏季休業中に、国語・算数を中心に基礎基本の定着と理解を深めることを目的として、全校児童希望者を対象に学習教室を実施している。単級で教職員の人数が少ない本校は、夏季休業中は、特に出張や水泳の指導が重なるため、指導者を確保することが困難である。今年度は、少しでも多くの指導者を確保するために、地域に住んでおられる教員ＯＢの方に協力を得て実施することができた。

〇支援員数：４名

〇支援員の属性：地域在住の教職員ＯＢ、学生、地域の協力者

〇学習形態：少人数（４～５名）指導、プリント学習

〇教室のもち方と実施日数：図書室と家庭科室に学年ごとに集まって学習を進める。３日間、各２時間程度

〇子どもの平均参加人数：30 名

■ 実施に当たっての工夫

・次年度以降も継続した事業にするために、過度の負担にならないような計画を立てるようにした。

・ボランティアさんの得意な分野で支援をしていただけるよう、支援や指導内容、その範囲について打合せを行った。

■ 事業の成果

・子どもたちは、学びたい内容について実際に体験をされた方から生の声として教えていただくことができ、学習内容を深めることができた。（６年生・校区についての歴史学習）

・参加した児童にとっては、短時間であったが、「できた・わかった」という充実感を得ることができた。また、夏季休業中で学校職員も手薄になる時でもあるので、ボランティアさんの支援を得ることで有意義な活動になった。（夏休み学習教室）

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

ボランティアの方々と短期だけのつながりではなく、学校全体としてのつながりを大切にしながら長期的な関わりを持ち続けていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて

（ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

育てよう湖二っ子！（ありがとう　素直な気持ちを大切に）

東近江市	活動名：湖東第二小学校地域学校協働本部	湖東第二小学校　　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］開始年度：平成23年度　地域学校協働活動推進委員：１人　ボランティア登録数：38人

■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充、読み聞かせ等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによる町づくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　活動の概要

①学習支援ボランティア：読み聞かせ・家庭科指導補助・ピアノ伴奏・夏休み宿題教室・九九暗唱支援等
②ゲストティーチャー　：地域見学（お寺・石材店・史跡・料理店・工務店・介護タクシーなど）・茶道・華道・釘打ち指導
③環境ボランティア　：松などの剪定・校舎周辺の草刈り
④その他　：サッカーチーム依頼・交通安全教室依頼・自転車大会指導依頼

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

①読み聞かせボランティア（ポンぽんの会）
毎月第２・第４火曜日の朝学習の時間に、絵本の読み聞かせに来ていただいている。10年以上継続して来ていただいている方も多く、子どもたちは大変楽しみにしている。

②音楽ボランティア
音楽会に向け、合奏の補助やピアノ伴奏に何度も来ていただいた。パート練習やリコーダーが苦手な子どもたちを支援していただき、楽器の演奏技能を高めることができた。

③茶道・華道
６年生の総合的な学習で、日本の伝統文化を学ぶ時間として、茶道・華道の先生を招き、指導していただいた。作法だけでなく、姿勢を正すことやおもてなしの心も教えていただけて大変よかった。この経験をもとに、湖二っ子フェスティバル（生活科・総合的な学習の発表会）でお茶の接待をして、保護者や地域の方に喜んでいただいた。

④夏休み宿題教室
平成29年度から長期休業中に地域の社会人や高校生に協力を得て、学習支援を行っている。今年度は、夏の猛暑のため、中止となった。

【読み聞かせグループ】

【石松さんお仕事】

■　学習支援（地域未来塾：本部内実施）の活動内容

○活動の概要と目的：夏休みの宿題教室　○支援員数　８人
○支援員の属性：社会人、高校生　○学習形態：夏休みの宿題指導（個別指導）
○教室の持ち方と実施日数：夏休み２日間　○子どもの平均参加人数：約20人

■　実施に当たっての工夫

・学校支援の年間見通しと支援実績記録の活用
・保護者からの人材情報および地域学校協働活動推進員連絡会での情報活用

■　事業の成果

①学習支援ボランティア
・保護者、地域の学校理解が深まり、開かれた学校づくりにつながっている。
・子どもたちの学習を支援していただき、学習意欲の高まりにつながっている。保護者の喜ぶ声もある。
・地域ボランティアの方々は、子どもたちとつながることによって、エネルギーをもらえると大変喜んでくださっている。

②ゲストティーチャー
・学習ニーズに合わせ、専門的な知識や技能を持っておられるゲストティーチャーを積極的に招くことで、教育効果が高められた。
・地域で学ぶ、地域を学ぶ「ふるさと学習」が推進され、地域との結びつきが強くなり、子どもたちに郷土愛が培われている。
・地域の方からは「子どもたちにわかる説明の仕方が難しい」という声も聞くが、自分の知識や経験を活かせる機会として、やりがいを持っていただいている。

③環境ボランティア
・昨年度に引き続き、前庭の松等の剪定や校舎周辺の草刈りをしてくださる環境ボランティアさんの協力で、前庭や校舎周辺が大変きれいになった。このことも長年取り組んできた成果であるといえる。

④地域とともにある学校づくり
・地域ボランティアの協力が年々充実する中で、地域の方が主体的に学校支援に向けて取り組もうとする機運も高まっている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

地域の方にも学校支援ボランティアをお願いしているが、人材情報が乏しい。

■　その他　（湖東第二小学校）　http://www2.higashiomi.ed.jp/kot2sho/

■　「支援」から「連携・協働」に向けて

（ ○ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

おとなの「生き甲斐みつけ」と子どもの「まなび」を地元発見に！

東近江市	活動名：湖東第三小学校地域学校協働本部	湖東第三小学校　学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成30年度　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：27人
■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　■学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

〇２年生の生活科「まち探検」、３年生の社会科「地域学習」において、「まちづくり協議会歴史文化プロジェクト」と連携し、地域学校協働活動推進員も積極的に参画して、『愛知井を辿る』を意識した「まち探検」とした。また、２地区の案内役にプロジェクトのメンバーが加わった。

〇本年度も読書ボランティアグループ『あめんぼ』が定期的に学校に集まり、パネルシアターや紙芝居の制作、稽古・打合せを実施するなど、熱心な取組状況であり、昼休みに定期的に発表活動をしている。「朝読書」には、一般の読書ボランティアも巻き込んで毎月「読み語り」も実施し、中学校への広がりも見せた。

〇伝統の花壇づくりを継承すべく園芸ボランティアが２年目を迎え、児童の活発な活動を生み、成果も現れた。

〇「こもれび『小田苅家』」での活動（子ども食堂）と地域での活動を有機的につなげ、さらに深めるために、放課後や土曜日の活動のルール作りを模索していかなければならない。効果的な学習となるような仕掛けとヒントを共有できるようにするためには、工夫と検討がさらに必要である。

〇１年生の「秋みつけ」で、「すこやかの杜（もり）グラウンドゴルフ場」の全面的な協力を得て、工作指導などもお世話いただき、さらに深みと広がりのある活動になった。

■　実施に当たっての工夫

〇子どもたちが地域の良さに気づき愛着を持てるよう、今年度も「まち探検」でパナホームズ敷地内の古墳見学を行ったり、４年生の学習に繋がる『愛知井』の箇所や、各町の高低差に注意を促して、この地が「扇状地」にあることを意識させたりした。

〇５年生の田んぼの学校では、今年度もかねてからの田んぼ提供協力者や農業委員と協力して、「昔の刈り取り・脱穀」の体験学習を意識的に取り入れた。

〇６年生の平和学習（歴史学習）で、出前授業に至るまでの学習に厚みを持たせるためにこの地域の昔の写真や戦時中の写真などを資料提供して打合せを行った。疎開時代の経験を語るゲストティーチャーを今年度も招いて授業につなげることができた。

〇一昨年度末から発行を始めた地域学校協働本部推進通信を今年度も月刊で発行した。

【『愛知井とともに』は校区に回覧で配布】

■　事業の成果

〇読書ボランティアやその他のボランティアなど、かねてから登録していただいている方の紹介で、さらに新たなメンバーが加わり、複数の活動へと広がりを見せた。

〇担任と地域学校協働活動推進員が連携することで、新たな取組も生まれ、今年度の「生活・社会科の研究」に深まりが生まれる一助となった。さらに、「まちづくり協議会歴史文化プロジェクト」との連携も生まれて広がりを見せた。

〇１年生の生活科では、「秋みつけ」や「むかしあそび」で、「湖東地区グラウンドゴルフ連盟」との連携が生まれ、すこやかの杜（もり）での活動に結びついた。

〇３年生「まち探検」では、地元大企業の内部に入らせていただいて、古墳の存在と以後の学習への発展も考慮できた。

〇『愛知井とともに』を発行し続けている成果として、地域とのつながりがより深くなり、近くの「こもれび『小田苅家』」での「あじさい食堂（子ども食堂）」への参加者も徐々に増え、連携を深めている。

【『すこやかの杜 G.G.場』での秋みつけ】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇地域学校協働活動推進員と各担任の連絡調整には放課後のわずかな時間しかない限られた時間内で、効果的な学習となるような仕掛けとヒントを共有できるようにするためには、工夫と検討がさらに必要である。

〇「こもれび『小田苅家』」での活動と地域での活動を有機的につなげ、さらに深めるために、放課後や土曜日の活動のルール作りを模索していかなければならない。

■　その他　「まち協」子育て支援プロジェクトとの連携も模索していく。

■「支援」から「連携・協働」に向けて

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

蒲生の子は蒲生で守り育てよう。地域の教育力を結集し、蒲生東小学校を支援しよう。

東近江市	活動名：蒲生東小学校地域学校協働本部	蒲生東小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：27 人
■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　■その他［　あかね通学合宿ボランティア　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

「生活科」や「社会科」「理科」「総合的な学習の時間」などで、地域教材を活かしたり、体験活動をもとにして学んだりする活動などで、これまでの経験を活かした地域住民ならではのゲストティーチャーや学習支援、安全支援等を実施している。

今年度は、朝タイムの読み聞かせ、交通安全教室、全校遠足、引渡し訓練、マラソン大会、１年生の生活科「さんぽ」「昔の遊び」、２年生の生活科「お店探検」「生きもの探検」、総合的な学習の時間では、３年生の「町探検」「農場見学」「お店見学」「工場見学」、４年生の「環境学習」「福祉シニア体験」、５年生の「田んぼの学習」「児童会フェスティバルのだんごづくり」「ミシンボランティア」、他に６年生の社会科「あかね古墳見学」「平和学習」・理科「地層見学」、あかね通学合宿などへの支援を行った。

【１年生　生活科「秋のさんぽ」】

■　実施に当たっての工夫

蒲生東小学校地域学校協働本部は、平成 13 年に発足したボランティア「三弓会」を母体として支援活動を継続している。

「できる人が、できるときに、できることを支援する」「人から強制されるのではなく、自発的に行う」「先生や子どもと一緒に活動し、学校をよりよくしていく活動にしよう」「ボランティア自身の経験や専門性を活かそう」という考えを基本に、少しずつ支援の輪を広げながら現在まで活動を続けてきた。

毎月定例のボランティア会議では、実施した活動について反省を出し合い、２～３か月先を見通して参加者を募っている。地域学校協働活動推進員が、担任と相手方との連携を細やかに支援している。

【５年生「田んぼの学習」】

■　事業の成果

地域の方々の専門性や技能を活かした支援や安全への配慮をしていただき、豊かな学習活動を展開することができている。また、地域住民が学校の教育活動に関わることで、地域の絆が深まり教育力が向上し、郷土愛を培うことにもつながっている。

子どもたちは、ボランティアの専門的な知識や技能に触れたり、多様な体験の機会を得られたりすることによって、学習意欲が喚起され、自ら問題を解決しようとする意欲を高めることができている。ボランティアの方々とも顔なじみになり、親しみを感じながら安心して活動している。今年度、体験活動後に子どもたちの学習の成果物や発表会を地域住民が参観できる機会を増やしたことで、学習のねらいに応じた支援の在り方や体験活動の活かし方についても考えることができた。

子どもたちの学びを感じながら、蒲生東小学校の地域の資源や教育力を活かした特色ある教育活動の推進に寄与していることが、ボランティアの誇りでもあり、郷土愛を高めることにもつながっている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

活動する子どもたちの様子などから、手応えを感じることはできているが、学習のねらいに応じた支援ができているかについては、具体的に担任や子どもたちが作った成果物などから知りたいと思っている。また、地域の良さを感じながら創り上げられてきた蒲生東小学校の学習活動を継承するため、新しいボランティアの育成や、ボランティアに求められる新たなニーズへの対応が課題である。

■「支援」から「連携・協働」に向けて

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

蒲生の子は蒲生で守りそだてよう

東近江市	蒲生西小学校地域学校協働本部	蒲生西小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成20年度　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：83人

■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

「蒲生の子は蒲生で守り育てよう」のキャッチフレーズのもと、児童は地域の一員であることを念頭に、地域のボランティアの方々に活動していただいている。

〇児童の下校時には、各地区の方々により「下校見守り」を継続的に実施している。

〇「田んぼの学校」や「栽培活動」は地域団体等のボランティアに協力してもらい、個別指導や小グループ毎の指導を行っている。

〇「あかね通学合宿」は、校区の６年生を対象に実施している。公民館等で宿泊し、自治会やボランティアの方々による見守りの中、自立した生活を目指している。

〇地域の特性に応じたゲストティーチャーを招く「地域から学ぶゲストティーチャー授業」は、「ふるさと蒲生」を意識していく地域学習の場としており、地域の教育力も高められている。

■　実施に当たっての工夫

（１）支援の内容に適したボランティアをお願いするようにしている。

（２）「あかね通学合宿」は、児童が家庭・学校では体験できないことをこの合宿で経験する場とする。また、地域住民と子どもたち、地域と学校がつながる機会となるように、ゲストティーチャーをはじめ、自治会の中から広くボランティアをお願いしている。

【田植えボランティア】

■　事業の成果

（１）「あかね通学合宿」は参加後、児童の家庭から「生活に自主性が見られるようになった。」等の意見を多く聞くことができている。地域の方と児童の年齢を越えた繋がりが見られ、様々な交流が生まれている。

（２）農業団体と学校との継続的なパイプができつつあり、様々な活動に協力してもらえる関係となっている。

（３）児童が地域学習を通して、地域理解が深まると共に、地域の様々な事象について学んでいこうとする態度が育ってきている。

（４）地域の大きな行事、イベントに児童が参加することは、地域の一員であることの意識づけになっている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

（１）ボランティアの多くが固定化されつつあると共に、高齢化もみられるため、多様な人材の確保が必要である。

（２）「あかね通学合宿」については、自治会の施設に頼る面が多い。自治会に大きな負担をお願いすることとなり、受け入れてもらえる自治体が少なくなっている。学校やＰＴＡ組織内においても、「あかね通学合宿」のあり方については様々な意見があるので、内容等について検討を重ねることが重要である。

【ボランティアによる読み語り】

■　その他

参考ＵＲＬ　蒲生西小学校ＨＰ　http://www2.higashiomi.ed.jp/ganishisho/

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

蒲生の子は蒲生で守り育てよう

東近江市	活動名：蒲生北小学校地域学校協働本部	蒲生北小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：50 人
■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

〇多くのボランティアと共に学校田での農作業

本校には、学校の田んぼがあり、面積も５畝ほどある。田植えの活動と稲刈りの活動は、５年生だけでなく３年生も行っている。また、春には田植え前の代掻きや元肥やりの活動も指導者を招いて行っており、田植え当日には 20 人近いボランティアの方に応援に来ていただいている。秋にも同じ方々に稲刈りの応援に来ていただき、稲を束ねる作業や、稲架がけを子どもたちに教えていただいている。このおかげで、多くの子どもたちが集中力を切らさず稲刈りに取り組むことができている。

また、５年生だけではあるが、昔の道具である足踏み脱穀機を使い、稲架で天日干しにした稲を脱穀する活動も行っている。この活動は、地域の方が足踏み脱穀機を寄付し、別の方が修繕してくださったことで実施できている。

こうした活動での多くのボランティアは、地域学校協働活動推進員による地域の老人クラブや農業者への働きかけとともに、地元のＪＡの協力も大きい。

さらに、この田んぼで生産したお米を３年生、５年生共、ＰＴＡ学年親子活動で活用している。３年生は、うるち米を使って五平餅作りに挑戦し、親子で楽しく活動している。５年生は、うるち米と田んぼの一角で育てたもち米を使って親子で楽しくおはぎ作りに挑戦している。この時は、ボランティアの方も招待しており、保護者にも支援活動の一端の理解が図られている。

どちらも多くの米の炊飯が必要なため、地域学校協働活動推進員に炊飯器を調達していただくことで円滑に活動ができている。

【千歯扱きを使っての脱穀　５年生】

【田植えの様子　３年生】

■　実施に当たっての工夫
※多くのボランティアに参加していただくための周知
※ボランティアの方も児童も達成感が持てる活動
※できるだけ途切れない活動
※深い学びをするために、複数学年にまたがる学習
※ＰＴＡの学年活動と連携

■　事業の成果

お米を使用したＰＴＡ親子活動も定着し、その中でボランティアの方による支援活動を紹介することで、地域の方の理解も進み、孫が本校を卒業しても続けてくださる方や、他校区の方も参加していただけるようになった。また、ボランティアの方が何度も学校に来ていただくことで、田んぼの支援だけでなく他の環境支援活動にも協力していただけるようになってきた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
・ボランティアの方の高齢化及び固定化
・学校と地域が協力して、ねらいを明確にしたそれぞれの活動計画を立てるための時間の確保
・地域学校協働活動推進員の交代時の引き継ぎ

■「支援」から「連携・協働」に向けて
（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

子どもたちにとっての安心・安全な居場所づくりをめざして　～人とのかかわりを大切に～

東近江市	活動名：能登川東小学校地域学校協働本部	能登川東小学校　学校運営協議会　：□有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 27 年度　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：50 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

【校外学習引率補助】

◇１年生＜校外学習＞　◇２年生＜生活科町探険、図書館見学、校外学習（電車に乗って）＞

◇３年生＜社会科地区探険、お店見学＞　◇４年生＜森林環境学習、校外学習＞

◇５年生＜幼稚園児との交流学習立ち番補助＞　◇６年生＜施設見学＞　◇５・６年生＜市陸上記録会＞

【学習支援・その他】

◇特別支援学級＜苗植え、抹茶体験＞　◇１年生＜さつまいも苗植え、しゃぼん玉、砂遊び、いも掘り、おいもパーティー＞

◇２年生＜ミニトマトの苗植え＞　◇５年生＜家庭科ソーイング、ミシンで製作、調理実習、図工製作＞

◇６年生＜調理実習、ミシンで製作＞　＊能体験学習　＊キャリア教育（地域の仕事人に学ぶ）

◎全校マラソン大会（試走）の立ち番補助

【環境整備】

◇ミシンメンテナンス　◇楽器カバー作り　◇玄関環境整備　◇家庭科室整備

■　実施に当たっての工夫

・年度当初に、「本事業のお知らせと学校ボランティア登録のお願い」の文書を全戸配布し、保護者、学区民に理解と協力が得られるようにしている。また、職員にも朝の打合せで発信（学習支援予定等）を行い、活動が見えるように心がけている。

・地域学校協働活動推進員のネットワークやボランティアさんのつながりを活用しながら、学校支援の輪を広げると共に、お互いの交流を大事にしている。（支援後のふり返りの場やボランティア会議、交流会の開催）

・学習の始めに、ボランティアさんの紹介を行い、子どもたちに顔と名前を覚えてもらうようにしている。（名札着用）

【１年生　おいもパーティー
ボランティアさんとの交流】

■　事業の成果

・今年度は、15 名の方が新たに登録してくださり、計 50 名のボランティアさんで様々な支援活動をしていただいた。（大学生や夫婦での登録が増えた。）

・校外学習や立ち番補助では、多人数の大人がいることで、より子どもたちの安全確保につながった。

・学習支援では、個別支援がより充実し、子どもたちの安心感が増した。また、わからないことや困ったことがあれば、自分たちからボランティアさんに声かけができるようになり、より満足感や達成感が得られるようになった。

・ボランティアさんからの提案もあり、自主的に活動していただくことが増え、子どもたちの学習環境を多方面で整えていただいた。

【６年生　キャリア教育　地域の仕事人に学ぶ】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・学校がめざす子ども像との関連を明確にし、そのために教育活動の中にどのように位置づけ、活用・運用していくかの熟議が必要。
（職員の共通理解と認識→本事業の有効活用）

・学校をさらにオープンにして、家庭・地域との風通しをよくし、「連携」「つながり」を大事にしたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

「郷土を愛し、ふるさとを大切にする子」をめざして

東近江市	活動名：能登川西小学校地域学校協働本部	能登川西小学校　学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：60 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

能登川西小学校区のコミュニティには、１世紀前からの「共生共育」の歴史があり、11 自治会と同窓会、教育推進会の関わりの元、平成 16 年に能登川西小学校区地域教育協議会が発足した。家庭や地域の教育力を上げるために、活動に賛同するボランティアの定例会から学校支援が始まった。以前から能登川西小学校区にあった「共生共育」の理念を受継ぎ、学校の子どもたちが積極的に地域に関わっていくことで、地域と学校が連携・協働し「ふるさとを大切にする子」、「地域社会に貢献できる人材」、「将来の地域の宝」の育成を目指している。

（1）ふるさと発見

１年生「むかしあそび」、２年生「町たんけん」、３年生「校区たんけん」、４年生「ゴミ調査」、５年生「みずっこ調査隊」、６年生「ふるさと発見」において、地域の自然、人、歴史を発掘し、資料提供をもとに打合せを行い、主体的な学習に向けて連携を図っている。

５・６年生は、自分たちで取材許可を取り、調べた水環境や史跡、歴史のパンフレットを作って自治会館に置かせていただいたり、お礼に持って行ったりして地域に発信した。取材先から感謝され、返事をいただいたことで自信につながり、地域に誇りを持つことができた。

【児童会による毎朝のあいさつ運動】

（2）さわやかロード

平成 17 年にさわやかロード部会が立ち上がってから、朝のあいさつ運動が盛んになり、今では児童会が自主的に毎朝校門前から昇降口に立っている。お互いに顔と名前の分かる活動を合い言葉に協働して続けている。

（3）マラソンボランティア

立ち番ボランティアを募集して、マラソン試走日とマラソン大会でコースの安全立ち番と応援を依頼した。沿道に立って見守り、励ましてくださったことで、朝の交通立ち番やあいさつ運動の日常的な取組が、子どもたちの安心につながり、相互に交流できるよい連携となっている。

（4）ふれあい福祉訪問

長年にわたり、６年生が自分の住む地域の一人暮らし老人宅を訪問している。児童は下校時に、それぞれの集会所などに集まり、地域の日赤奉仕団の方に案内していただいて数件の家を訪問している。１回目は、運動会の案内パンフレットと手紙を持って訪れ、２回目は、園芸委員会が育てラッピングしたパンジーの鉢植えを持ち、３年生と共にプレゼントに訪れる予定である。語らい交流をすることで子どもたちのお年寄りへの思いやりの心が育まれている。

【祭りに使う伝統的なわらじ作り】

■　実施に当たっての工夫

〇１学期に「本部事業のお知らせと学校支援ボランティア登録のお願い」文書を全戸配布し学区の方々に理解と協力が得られるようにした。

〇能登川西小学校区地域教育協議会の定例会と地域教育協議会のネットワークを活用して、さらに支援者を広げる努力をしている。

〇心が通い合う場（手づくり感）を大事にして、子どもたちから地域に発信するようにしている。

■　事業の成果

〇地域学校協働活動推進員による地域への働きかけにより、持続可能で発展が期待できる事業となった。

〇人との関わりを通して、子どもたちの体験が「ほんもの」の体験となり「感動」の共鳴になった。いろいろな人から認められ、ほめられる場面が増えることで、子どもたちの自尊感情が高まり、ふるさとが好きになり、地域や自分に自信と誇りを持つことにつながっている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

これからも持続可能で発展する取組になるように、丁寧に引継ぎを行い、アンテナを高くして支援者を募り、子どもたちの自主的な活動となるようにしていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域に感謝　子ども応援隊

東近江市	活動名：能登川南小学校地域学校協働本部	能登川南小学校　学校運営協議会：□有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 27 年度　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：150 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）芝生応援隊

校庭が芝生化されて４年目になる。子どもたちは、ボール遊びだけでなく様々な遊びを楽しんでおり、休み時間には多くの子どもたちが運動場で遊んでいる。転んでの怪我がほとんどなく、安心して走り回れるようである。管理については、芝生応援隊の皆さんを中心に、定期的に芝生刈りや施肥をしていただいている。地域学校協働活動において、中核的な組織として活躍している。

（２）猪子山活動

本校は、環境学習にも力を入れている。学校のすぐ近くにある猪子山をフィールドとして、年間を通して全学年が活動している。その際のサポートとして、保護者ボランティアや、地域のボランティアの方々に引率していただいたり、猪子山の自然や歴史等について教えていただいたりした。

【猪子山活動】

（３）剪定作業

敷地が広い本校においては、学校職員だけでは不可能である。そこで、昨年度より、庭木の剪定作業を年に２回（夏と冬）、レイカディア大学の受講者を中心にして 10 人ほどの方にお願いしている。学習された知識と技能を生かし、大変きれいに仕上げていただき、学校の環境美化に貢献していただいている。

【３年生　まちたんけん】

■　実施に当たっての工夫

〇昨年度より芝生応援隊の代表の方に、地域学校協働活動推進員を担っていただいている。定期的に学校に集まる組織なので、その場で依頼をすることもできた。また、この事業の良さを教職員に浸透できるように、地域学校協働活動推進員と教職員が話せるように、水曜日の昼休みには、職員室に待機していただいた。さらに、４月に年間計画を立て、どの場面で地域の方に支援を求めるかについて共通理解をした。

〇より多くの方に参加してもらうことを大切にし、校外学習の引率やマラソン大会の立ち番等、気軽に参加できるような場面を工夫した。

■　事業の成果

〇地域の方との連携は、子どもたちのためにもなり、教師の事務負担の軽減にもつながった。教職員の意識が高揚し、事業への理解も高まり、浸透しつつある。担任からボランティアを依頼することが多くなった。

〇マラソン大会の立ち番ボランティアや校外学習の引率等、子どもたちの安全面で大変有効であった。

〇専門的な知識や技能を持っておられる方に支援していただき、学習内容が豊かになった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇地域で活躍をしておられる方の中から、新たなボランティアの方の掘り起こしが大切である。

〇保護者ボランティアとして学校行事等に支援してもらっている伝統がある。スクールガードとして長年活躍されている方もいる。協働活動へ発展していけるよう、それぞれの組織との連携を強化していく必要がある。

〇ボランティアに参加したいと思っている方が多くいることがわかってきた。学校ボランティアの組織を確立していくことが重要である。

■「支援」から「連携・協働」に向けて

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域と共に歩む学校！ボランティアによる安心・安全の学習サポートと環境整備！

東近江市	活動名：能登川北小学校地域学校協働本部	能登川北小学校　学校運営協議会　：□有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：17 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□郷土学習　■その他［　校地内環境整備　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

〇地域学校協働活動

（１）読み語りサークル「大きなかぶ La さん」による読書活動
・毎週月曜日、６人のメンバーが朝自習の時間に読み語りを実施
・学期に１回「ちょっと豪華なお話し会」と題して、大型紙芝居やペープサートで読み語りを実施。

（２）学習サポーターによる学習指導・学習支援
・社会科･･･米作り体験（５年生）　・家庭科･･･ミシン、調理実習（５年生）
・総合的な学習の時間･･･ハウス野菜の栽培（６年生）
・社会科･･･地域学習引率補助（３年生・４年生）
・学校行事（マラソン大会支援）

（３）環境ボランティアによる校地内環境整備
樹木の剪定や校地の除草等、ボランティアを組織して学校の環境整備を実施。

【ちょっと豪華なお話会】

（４）くりみフェスタ（全校）
今年で 14 回目となる学区最大のイベントである。午前中は音楽会、午後は食や遊びのブースを設営し、子どもたちと地域の方々が交流を深めた。（学区地域教育協議会・自治会長・PTA・生涯スポーツ推進委員・老人会・婦人会等）

（５）ほんわかサロン（５年生）
総合的な学習の一環として、約 80 人の地域の高齢者の方を学校にお招きし、音楽発表、高齢者の方とクイズやゲーム、会食等、交流を深めた。（自治会長・民生委員児童委員・デイサービス職員・日赤奉仕団等）

（６）いきいきサロン（全校）
夏休みに、各町のサロンに子どもたちが招待を受け、ゲームや遊びを通して高齢者との交流を楽しんだ。

■　実施に当たっての工夫

（１）昨年度は、学習サポーターに限定してボランティアの募集を進め、無理のない事業実施につながった。今年度は、新たに校地の環境整備のボランティアを募集し、継続的な取組体制を整えることができた。活動を重ねるごとに、賛同者が増えグループで活動できるようになりつつある。

（２）昨年に引き続き、元本校職員に地域学校協働活動推進員を依頼し、スムーズに活動を展開することができた。

（３）担任からのボランティア依頼の内容を全職員が共通理解することで、学校のコーディネーターと地域学校協働活動推進員との連携がスムーズになった。

■　事業の成果

（１）学習サポーターの専門的な指導や個別指導により、子どもたちが楽しく安心して学習に取り組める。

（２）新規のボランティアの発掘とボランティア名簿の整理ができ、学習のサポート体制や環境整備の継続的な体制が整備できた。

（３）ボランティアとの連絡調整など、担任の業務の負担軽減につながった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

（１）運動場の環境整備に使用する大型重機等の使用料や燃料費等の予算をどう確保するのか。

（２）剪定作業で出た枝等の処分場所や運搬方法をどうするのか。

（３）これまでからある組織や連携事業を今後いかに地域と学校の協働事業へと発展させていくのかが課題である。また、地域と学校が連携してどのような子どもを育てるのか、地域学校協働活動の将来のビジョンをどう描くのか等を話し合う組織を設立し、話し合う機会を設定することが必要である。

■「支援」から「連携・協働」に向けて

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域とつながり、地域と共に育つ学校の創造を目指して

東近江市	活動名：玉園中学校地域学校協働本部	玉園中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：５人

■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）文化祭における八風太鼓の演奏

御園地区で演奏されてきた歴史のある八風太鼓を、３年生の文化祭活動の一部に加え、地域の方に指導をしていただいた。先輩の指導を受けることで生徒の目標も定まってきている。取り組み始めて二年目となり、生徒の意欲も増し、地域文化を広め、地域の良さを確認することにつながっている。また、地域で八風太鼓を習っている生徒の自覚も高く、他の生徒に太鼓の演奏を指導することでより地域文化の広がりにつながった。

（２）地域で音楽の専門的な技能をお持ちの方に文化祭の合唱練習や当日の審査等を依頼して活動していただいている。

（３）部活動（ソフトテニス、バレーボール、バスケットボール）の指導において、専門的な技術指導をしていただいている。

（４）専門的な知識を持つ地域の教育機関（大学等）の専門家を招いて、性教育や薬物乱用防止の授業をしていただいた。

（５）平和学習においては、愛東地区の滋賀県平和祈念館のスタッフに依頼して、地域に根ざした平和学習を展開している。

■　実施に当たっての工夫

〇地域のコミュニティセンターとの連携をより深くする。

〇学校行事や学年の取組などにおいて、校区内に在住されている方々（ボランティア）に参加していただける方法を模索する。

〇学校だより、ホームページ、ＰＴＡ広報等を通して、保護者、地域に学校の様子を発信していく。

【太鼓の練習風景　取材】

■　事業の成果

〇昨年に引き続き、地域学校協働活動推進員を中心に、地域の伝統文化である八風太鼓の演奏に取り組むことができた。地域の文化と学校の融合を考えると、今後の中学校と地域との関わりの柱となりつつある。

〇部活動指導においては、専門的な技能指導を受けることによって、生徒の健全育成に大いに役立っている。

〇地域に根ざした平和学習を組み立てることで、生徒の関心が高まり、修学旅行に向けて意欲的に取り組むことができている。また、八日市の飛行場跡などを題材とし、他地域の酷似した状況も知ることができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇今後、ボランティア人材の発掘については、地域のコミュニティセンター等とより連携を深め、継続的に推進していかなければならない。

〇中学生の発達段階を考慮すると、ボランティアの方々に何かをしていただくだけでなく、学校と地域がひとつのものを創り上げていく活動や、継続した学習につながる学びの種を教えていただけるような内容が必要である。

〇学校と地域が共に活動して地域が活性化するように、生徒が考え、工夫して活動ができる事柄を地域連携の中で相談していくことが必要である。

〇学習支援等の内容については、場所や時間、支援体制、報酬等を含めて、組織的な計画で始動できるように検討を加えていく。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域からの支援を受け、歩み続ける聖徳中学校

東近江市	活動名：聖徳中学校地域学校協働本部	聖徳中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：４人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）
〇地域に根ざしている「あいさつ運動」を推進する拠点として学校正門で活動いただいている。
〇部活動の技術指導等ができる教育活動推進員（テニス・サッカー・吹奏楽・バレーボール）の方に部活動を支援していただいている。
〇学区内の運動会や文化祭等、各地域からの出演や出展依頼に対して吹奏楽部や美術部を中心に、できる限り応えるようにしている。
〇キャリア教育として、２年生の職場体験学習（11 月７日～12 日）において、地元の 73 事業所にご協力をいただいた。

【部活動支援（テニス部）】

■　実施に当たっての工夫
〇地域のコミュニティセンター等との連携を密にして風通しをよくする。
〇地域からの依頼については、極力協力するように心がけている。
〇職場体験学習においては、地域学校協働活動推進員が窓口となり、各事業所との連絡を密に取れる体制を整えた。

【美術部と地域の連携】

■　事業の成果
〇毎週月曜日には、ＰＴＡ役員をはじめ、教員が「あいさつ運動」を行っている。地域の方も一緒に「あいさつ運動」をしていただいたことで、子どもたちが日々の学校生活において充実感を持つことができた。
〇部活動（テニス部・サッカー部・吹奏楽部・バレーボール部）の指導において、専門的な技術指導をしていただいたことで、子どもたちの練習意欲の向上とともに地域とのつながりも深めることができた。
〇毎年、学区内の地域から運動会や文化祭への出演、出展依頼をいただいている。吹奏楽部や美術部を中心にその依頼にできる限り応えることにより地域とのつながりと信頼を深めている。
〇学年で職業講話やマナー講座など職場体験学習に向けての事前学習を行ったことにより、各事業所からは、おおむね高評価を得ることができた。また、今回の体験を通じて、生徒たちは自らの進路について改めて考えるきっかけとなった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
〇今後、連携・協働活動を拡大させるためにも学校が必要とする内容や時期に応じて、協力いただける地域ボランティアを確保していく。
〇部活動指導のために４名の教育活動推進員に来ていただいているが、当校に割り当てられている教育活動推進員への謝金に限りがあるため、指導に来ていただいた時間分の支給が保障できないことがある。

■「支援」から「連携・協働」に向けて
（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

船岡中学校　地域とつながろうプロジェクト

東近江市	活動名：船岡中学校地域学校協働本部	船岡中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 24 年度　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：５人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援

□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）地域の方による学校教育支援活動

〇部活動支援の実施

教育活動推進員によるソフトテニス部の支援と地域の方によるバドミントン部の支援において、継続して指導を行っていただいた。

〇中学１～３年生を対象とした「ようこそ先輩授業」の実施

地域の方に、御自身の経験をお話しいただき､キャリア教育を行った。

（2）中学生による地域づくり貢献活動

〇中学生の地域行事への参加

・校区にある２つのコミュニティセンターを通じて、地域行事等にボランティアスタッフや出場者として、延べ人数 130 人を超える生徒が参加をした。

・校区の２つの市民運動会に役員や出場者として多数の生徒が参加した。

【いちのべ万葉フェスタへの参加】

■　実施に当たっての工夫

（1）地域の教育資源を有効に活用するための工夫

〇学校職員と地域学校協働活動推進員とが連携を密にとり、学校の要望に応じて適切な人材を適切な時期に紹介できるように努めた。

・管理職や担当職員と週１回は交流する機会を持った。

〇学校と地域の人材との打合せを丁寧に行い、学校側の「ねらい」を共通理解できるように努めた。

・地域学校協働活動推進員を交えた学校との打合せを重ね、活動内容の検討を行った。

（2）中学生の地域行事・ボランティアへの参加を推進するための工夫

〇年度当初に学校とコミュニティセンターとで地域行事の日程調整を行い、中学生が参加しやすいように努めた。

・テスト日程と地域行事日程との調整や学校施設開放のため部活動の練習計画等との日程調整を行った。

〇地域行事ボランティア参加の呼びかけを、中学校の全校体制で行い、中学生が参加しやすいように努めた。

・担当職員が掲示物を作成して周知を図った。

〇校区にある２地区の市民運動会を同一日の開催としていただき、その日の部活動を全面中止とすることで、生徒が参加しやすい行事となるように努めた。

・部活動の練習計画等の都合もあるので、年度初めの部活顧問会議で確認した。

■　事業の成果

〇地域の方や保護者が学校教育に関わっていただく機会を積極的に設定することで、中学校の教育活動への理解が深まり、地域に根ざし、地域に開かれた学校づくりができた。

〇様々な経験や専門的な知識をお持ちの方からの指導を受けられたことから、授業の内容に広がりと深まりが加わり、生徒の目が輝く授業となった。

〇自分の住んでいる地域の良さを知り、地域の一員として様々な活動や取組に参画することは、地域に誇りを持つことにもつながり、「自尊感情の育成」を支える要素となっている。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇地域学校協働活動推進員が学校の要望を的確に把握し、タイムリーに適切な地域教育資源を紹介するためには、学校職員と十分な情報交換等の時間が必要である。今後、さらに連携を密に取り、効果ある教育活動としていきたい。

〇地域行事や地域ボランティア活動は、どうしても休日の活動となることが多く、教職員の参加が難しくなっている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

自然豊かな環境をいかし、地域全体で子どもを育てる活動

東近江市	活動名：永源寺中学校地域学校協働本部	永源寺中学校	学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］ 開始年度：平成 28 年度 地域学校協働活動推進員数：１人 ボランティア登録数：３人

■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） □地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 □子どもの安全確保、見守り ■部活動支援

■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 □郷土学習 □その他［ ］

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）校地内環境整備

生徒や保護者、教員とともに、校地内の除草作業など環境整備をしていただいた。また、相谷里山会の方には、校舎に覆い被さるように生長した樹木の剪定や伐採など、学校だけでは対応できない部分で協力いただき、光差し込む明るい校舎になった。

（２）地域行事への参加

永源寺地区大運動会での司会、青少年育成大会での司会や意見発表、ふるさとまつりでのバザーなど生徒会を中心に生徒が活躍できる場の設定があり、生徒の達成感や地域の盛り上がりにつながっている。

（３）総合的な学習の時間

各学年の総合的な学習の時間で、地域の人、もの、施設を活かした学習を行った。全学年を通しての椎茸栽培学習では、たけのこ作業所の方の協力を得ながら原木の搬入や植菌作業を行っている。１年生の梅栽培にあたっては、梅農家の方に協力いただきながら梅林の整備を行っている。２年生の職場体験学習で、地域の企業や農家の方々にお世話になった。

（４）部活動

教育活動推進員の方にバドミントン、ソフトテニスの指導において、専門的な技術指導をしていただいている。

（５）学校行事への参加

文化祭では、地域の合唱グループ「永源寺コール・メープル」の方に発表していただき、合唱のすばらしさを感じる機会となった。

【校地内環境整備】

【ふるさとまつりバザー】

■ 実施に当たっての工夫

〇各活動の実施に際して、事前の打合せを丁寧に行った。目的の共有や、配慮を要すること、当日までの準備等について具体的な打合せをすることで、充実した取組となった。

〇企画の段階からできるだけ、学校と地域の両方に有益なものとなるように配慮している。

■ 事業の成果

〇学校の教職員のみでは円滑に行うことができない多様な活動を行うことができた。特に広い校地内に生い茂っている樹木の中には、立ち枯れしていて危険なものや、校舎に接して光を遮ってしまうものがあるため、技術や機械が必要であり学校だけでは処理することができなかった。今回、相谷里山会の協力を得て、光差し込む明るい校舎になった。

〇地域行事への参加により、生徒のボランティアや地域貢献への意識が高まるとともに、達成感や充実感を得ることができた。特にふるさとまつりでは、商品の販売やヨーヨーつりを企画し、地元の方や幼児、小学生と交流することができた。

〇総合的な学習では、２年生の職場体験での体験先を紹介していただいたり、生徒の体験を受け入れていただいたりした。働くことの厳しさや、やりがいを感じる機会となった。

〇部活動の専門的な技術指導が受けられ、生徒の意欲と技術の向上が見られた。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇学校の実情を理解していただき、学校と地域が互いに双方向で、実態に応じた取組となるようにする。

〇専門的な技術を有するボランティアの人材確保が必要である。

■「支援」から「連携・協働」に向けて

（ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域とともにつくる特色ある教育活動

東近江市	活動名：五個荘中学校地域学校協働本部	五個荘中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：16 人
■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

①図書館開放支援

本校は、平成 27 年度の校舎改築により、学校図書館を兼ねた公立図書館（東近江市立五個荘図書館）が併設される全国的にもめずらしい施設である。現在、原則として週３日、昼休みに図書館を開館している。休館日である月曜日・火曜日以外は、一般利用者とともに生徒が図書館で過ごすことから、図書館の利用マナーをはじめ、生徒と一般利用者が自然なかたちでふれあい、多くの本に親しめるようにボランティアの方々に見守りをしていただいている。

【昼休み図書館開放】

②読み聞かせ

本校では、毎朝 10 分間の朝読書を年間通して実施している。その時間帯に、月１回（第３月曜日）のペースでボランティアの方々に読み聞かせを実施していただいている。月ごとに学年を変え、クラス数に応じて１回につき３～４名の方に来校していただいている。

【３年生　読み聞かせの様子】

③書写の授業における学習支援

作品制作時は、作業活動が伴うことから、書写の授業の支援に来ていただいている。支援員は教員経験もあり、専門性を有している。子どもたちの興味、関心を高める声かけや助言をしてくださっている。

■　実施に当たっての工夫

図書館の開放支援に関しては、地域学校協働活動推進員のアレンジにより、市立図書館の職員（館長・司書）、学校図書館司書、中学校管理職、図書館担当教諭、生徒指導担当教諭と図書館ボランティアからなる開放支援のための会議を持ち、日程調整や支援の仕方などについて共通理解を図っている。

■　事業の成果

図書館スタッフに加えて多くのボランティアの方々に温かく見守っていただいているおかげで、マナーよく、節度ある態度で図書館が利用できている。また学校支援地域本部設立以前からお世話になり、この事業で継続して取り組んでいる読み聞かせについては、子どもたちが心を落ち着けて一日をスタートさせる「朝読書」のアクセントとして貢献していただいている。こうした取組にも支えられ、全国学力学習状況調査では、一日あたりの読書時間１時間から２時間または２時間以上の生徒の割合は、全国平均の 1.4 倍近くになっている。また、貸出冊数も増えており、年間 3000 冊近くの貸出冊数のうち、1800 冊余りが月水金の図書館開放日に貸し出されている。

書写の授業においては、準備や後始末もスムーズで子どもたちが生き生きと学習に取り組んでおり、学習の成果につながるものと期待している。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

現時点では、地域学校協働活動推進員の的確な運営により目立った課題もなく、本校生徒にとってたいへん有意義な事業となっている。昨年度協力いただいた部活動指導においても必要に応じてお願いしているところであり、今後とも学校、推進員、ボランティアの三者で、しっかりと情報交換し、コミュニケーションをとりつつ、さらに事業を進めていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて

（ ○ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域の力で、ふるさと愛東が好きな愛東中生を育てよう！

東近江市	活動名：愛東中学校地域学校協働本部	愛東中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：　７人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

地域の素晴らしい自然、歴史、産業、取組、施設等を知り、愛東が好きな子どもたちを地域と学校が協力して育てていく取り組みを進めた。

（１）「総合的な学習の時間」において、地域の人、もの、事業所、施設を活かした地域学習、環境学習、平和学習、職場体験学習、福祉体験学習を全学年で実施した。
（２）生徒会のボランティア活動として、夏祭りの出店、スポーツフェスティバルでの競技役員、地域の環境美化活動、保育園と幼稚園へのボランティア活動を行い、地域活動の支援を行った。

【１年生　総合的な学習の時間】

■　実施に当たっての工夫

（１）「総合的な学習の時間」の実施に関しては、事前に会議を開き、学校の情報と地域の情報を交流し合い、スムーズに学習が進められるようにした。
（２）定期的に地域学校協働活動推進員と校長が話し合いを持ち、学校が困っていること、地域が学校に望んでいること等の情報交換を行った。
（３）１学期に校区の小中学校長と校区の地域学校協働活動推進員が集まり、情報交換を行った。

【スポーツフェスティバル競技役員】

■　事業の成果

○全学年で、ふるさと愛東に関わる「総合的な学習の時間」の授業実施により、生徒に郷土愛が芽生えるとともに、地域の方々に生徒の様子を見ていただいたり、学校の学習内容を理解していただいたりすることができた。
○学校やＰＴＡ活動ではできない環境整備ができた。
○生徒も地域の一員としてボランティア参加し、地域活動の意義を学ぶことができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○学校行事の関係から、日程調整が難しい。
○ボランティア登録していただいた方を上手く連携して活用していきたい。
○学校職員と地域学校協働活動推進員、ボランティアの方々との交流が進むと、地域学校連携・協働活動が充実する。

■　その他

生徒の活動の様子は、学校ホームページで保護者・地域へ発信している。

■「支援」から「連携・協働」に向けて
（　○　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（　○　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（　○　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域と連携した学校づくり

東近江市	活動名：湖東中学校地域学校協働本部	湖東中学校　学校運営協議会：□有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：11 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）
（１）図書ボランティアによる絵本の読み聞かせを行っている。現状では毎月第１月曜日に３年生→２年生→１年生→特別支援学級という順に各学級で絵本の読み聞かせをしていただいた。
（２）毎週木曜日に教育活動推進員に来校いただき、社会と理科の授業（実験）の支援をしていただいた。
（３）地域の方による部活動支援として、バレーボール部・卓球部・吹奏楽部の３つの部活動で技術指導に来ていただいた。
（４）地域から湖東ふるさとまつりを盛り上げる機会を提供していただき、オープニングセレモニーを担当したり、着ぐるみを着たり等、中学生ボランティアとして意欲的に活動した。
（５）地域の夏の催し「コトナリエ」のイルミネーションの飾り付けに生徒が参加した。

【地域行事への参画】

【運営会議の様子】

■　実施に当たっての工夫
地域学校協働活動推進員の方に地域からのボランティアを募っていただき、夏休みに運営会議を開催し、各行事において、どのような体制で取り組んでいくかを検討した。

■　事業の成果
（１）絵本の読み聞かせ活動では、各学年とも落ち着いた雰囲気の中で実施することができた。他の人が話す内容を聴く活動を通して、人の話をしっかり聴く態度等を身につけることにつながっている。
（２）社会と理科の学習支援をしていただくことで、よりきめ細やかな指導ができている。
（３）部活動の支援をしていただくことで、生徒にとっての技術的、精神的成長に結びついた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
（１）地域の要望と学校での活用を上手く連携させていくこと
（２）様々な要望に添った地域人材の掘り出しと確保
（３）開かれた学校を目指し、定期的な運営会議の開催

■「支援」から「連携・協働」に向けて
（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

蒲生の子は蒲生で守り育てよう。

東近江市	活動名：朝桜中学校地域学校協働本部	朝桜中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：８人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　□学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）「駅舎等清掃・地域清掃作業」
①場　　所：桜川駅・京セラ駅・朝日大塚駅・朝日野駅・むらさきの公園・あかね古墳公園・市子殿公園・学校周辺
②活動内容：除草作業、ゴミ・空き缶拾い、清掃、落書き消し等を自主的に参加する生徒と連携先の地域の方（蒲生地区青少年育成市民会議）がともに汗を流すことができた。

（２）１年生校外学習「３つの三方よしに学ぶ」（郷土学習）講話＋現地フィールドワーク
①場　　所：朝桜中学校多目的室、日野商人館
②活動内容：１年生を対象とし、地域や近江商人について地域のゲストティーチャーを講師として招いて学習するとともに、ゆかりの地（旧蒲生町・日野町地域）を探訪して「三方よし」の精神に触れる。また、それらをとおして地域の先人が果たしてきた社会的貢献について主体的に学ぶことができた。

（３）図書室ボランティア
２年前の大規模改修でリフォームされた図書室で、生徒が本（読書）に親しみ、書籍をとおして主体的に学べるような環境整備と雰囲気作りができた。

（４）部活動支援
外部コーチ（教育活動推進員）の方に来ていただき、剣道部やサッカー部の指導をしていただいた。技術面だけでなく、礼儀や精神面についても指導され、生徒の力量を高めている。

（５）花壇づくり
中庭の花壇を地域の方につくっていただき、校舎の環境を整備することができた。

【駅舎清掃・地域清掃作業】

■　実施に当たっての工夫
○地域学校協働活動推進員の方が学校評議員ということもあり、学校と地域を結ぶ重要なポストを担っていただいているので、連携が促進され、上記の活動について等、課題が生じた場合も良きアドバイザーとして、すぐに相談できる体制にある。
○部活動支援では担当教師と外部コーチ（教育活動推進員）の方との打合せを綿密に行うようにした。

【剣道部の部活動支援】

■　事業の成果
○「駅舎等清掃・地域清掃作業」については、活動が学校・地域に浸透していて、今年も生徒、教師、地域の方々の 250 人以上が集まり、熱心に取り組んだ。
○部活動では、外部コーチ（教育活動推進員）の専門的な支援・指導をいただき、生徒の活動の質が豊かになっている。
○１年生の校外学習では、これから大人になり、やがて地域を支えていく中学生が自分の郷土に対して誇りを持てるような学習ができたことは大きな意義がある。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
○新しいボランティアの発掘。
○諸活動を行う上で、打合せのための時間確保。

■「支援」から「連携・協働」に向けて
（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域学校協働活動推進員の活躍で増加した地域人材 地域人材の増加で深まった地域との連携

東近江市	活動名：能登川中学校地域学校協働本部	能登川中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員数：１人　ボランティア登録数：12 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

１　能登川地区まちづくり協議会が主催の駅前に設置されているプランターの花植活動に、例年、本校生徒も参加している。

花植は、春と秋の２回行い、その後の水やりなどの世話は、生徒が当番を決め、学校への登校前に行い、夏休みや冬休み中も欠かさず行っている。本校では、この取組を「フラ輪一・プロジェクト」と称し、今では、生徒会事業の一つに位置づけ、引き継がれている。

今年から、この取組に地域学校協働ボランティアの方々も加わり、一緒に作業を行った。その結果、地域学校協働活動推進員の提案により、この取組を中学生だけではなく、中学校区の小学校や高等学校にも呼びかけ、地域全体の取組に広げていく方向で進行している。

【駅前での花植活動】

２　本校の柔道部は、専門知識を持つ指導員（顧問）が不在であった。そのため、土日などの休日は、地域の柔道少年クラブと合同練習を行い、その中で指導を仰ぎスキルを高めてきた。しかし、柔道は危険を伴う競技であることから、間違った練習方法で怪我をすることも想定される。そこで今年は、週に数回、平日の練習も含め、専門知識を持つ教育活動推進員が、技術や練習時の注意点など分かりやすく指導することで、技術向上及び安全対策に努めている。

【柔道部への指導】

■　実施に当たっての工夫

１　まちづくり協議会のメンバーが、地域学校協働ボランティアを兼ねることで、連携を密にして取組を行う。
２　小学校と中学校の地域学校協働活動推進員が連携し、地域全体へ広げた取組を行う。
３　月間活動予定を作成し、ボランティアの方々が指導可能な日に参加できるようにする。

■　事業の成果

１　まちづくり協議会と学校との間に、地域学校協働活動推進員が入ったことで、きめ細かな打合せが効率的に行えた。
　また、中学校だけの協力体制から小学校や高校を巻き込む事業へと広がりを見せた。
２　部活動において専門的な指導を受けることで、生徒の意欲向上につながった。また、正しい練習方法を学ぶことで、危険行為の抑制にもつながった。

■　その他（上記以外の活動）

・校地内の除草や剪定　・ＰＴＡ資源回収　・廃棄物の処理　・日本語指導学習補助　・家具等の修繕

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

１　どの事業の、どの場面に、どのようなボランティアが必要なのか。学校行事等を見直すこと。
２　専門的な知識を有するボランティアの場合、人材発掘に時間がかかったり、発掘が困難であったりすること。
３　ボランティア活動ではあるが、消耗品に関わる費用が少ないこと。

■「支援」から「連携・協働」に向けて

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

米原市における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部　□地域未来塾　□放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿

本市では、学校・園と家庭・地域が、地域の子どもを中心に置き、願う子ども像を共有しながら、それぞれが子ども支援の当事者として､縦横かつ双方向につながるための仕組みづくりを進めている。

縦のつながりとは、保幼小中連携である。各中学校区において､「連続性・一貫性」のある保幼小中連携を進めることにより、各学区内における特色ある教育活動を展開していく。

横のつながりとは、学校・園と地域の連携である。地域の人的・物的資源の活用や社会教育との連携により、豊かな体験活動の実現やコミュニケーション能力の向上を目指していく。地域協働学校活動（学校支援地域本部）も、その仕組みの一つとして、保護者や地域の人々の様々な力を学校の教育活動の中に積極的に取り入れていきたいと考えている。

■本年度の具体的活動

（１）研修会の開催　※①４月 18 日、②11 月２日

① 学校運営協議会委員任命式・研修会・・・学校運営協議会委員を対象に、協議会の趣旨および役割についての理解を深める。

② コミュニティ・スクール導入に係る研修会・・・県ＣＳアドバイザー・宮治一幸 氏を講師に迎え、運営協議会未設置校の管理職等を対象に、新規導入に向けた諸準備等に関する理解を深める。

（２）教育フォーラムの開催　※10 月～翌１月

中学校区	日時	内容
柏原中学校区	11 月 21 日	○各校園からの教育活動の報告　○グループ討議
大東中学校区	11 月 14 日	○各校園から「地域とつながる学校・園づくり」にかかる実践事例発表 ○グループ討議「子どもの成長をともに支援する学校と地域の連携のあり方」
伊吹山中学校区	10 月 29 日	○講演「コミュニティ・スクールの進め方～実情、課題も含めて～」 講師：北辺　禎雄 氏（県ＣＳアドバイザー） ○グループ討議「子どもの成長をともに支援する学校と地域の連携のあり方」
米原中学校区	1 月 18 日	○中学校の取組発表「東日本大震災被災地の中学校との交流」 ○学校運営協議会の取組発表
河南中学校区	11 月 7 日	○学校支援地域本部事業の活動報告、学校運営協議会の紹介 ○各校園からの教育活動の報告
双葉中学校区	11 月 10 日	○各校園からのスライド発表 ○ようこそ先輩インタビュー、演劇鑑賞（劇団プラネットカンパニー）

（３）運営委員会（全体会）　※２月開催予定

■本年度の成果

○市内すべての小中学校（９小学校、６中学校）および市内の各園も参画し、各校区の実情に応じた協働活動を推進することができた。

○学校運営協議会の設置を開始し、地域学校協働本部と連携した活動を進めている。

○教育フォーラムの開催は５年目となり､「地域と学校で共に子どもを育てていこう」という機運の向上に資するものとなっている。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

○学校運営協議会制度の拡充を進め、学校と地域が互いにパートナーとして双方向に連携・協働する関係づくりの更なる構築を目指す。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況　・・・　平成 31 年度より委嘱を進める予定

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

・平成 30 年度　中学校３校をモデル校として新規に導入（伊吹山中学校、米原中学校、河南中学校）

・平成 31 年度　小学校７校、中学校１校を追加予定
小学校（山東、大原、伊吹、春照、米原、河南、息長）中学校（柏原）

・平成 32 年度　小学校２校、中学校２校を追加予定
小学校（柏原、坂田）、中学校（大東、双葉）…市内の全小中学校に設置完了予定

ふるさとは笑顔いっぱい！　元気いっぱい！　「はびろの里コミュニティ」

米原市	活動名：柏原学区学校・園地域協働本部 （地域学校協働本部）	柏原中学校、柏原小学校、柏原保育園 学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 27 年度　地域学校協働活動推進員等数：４人　ボランティア登録数：30 人
■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）「井戸端会議」の開催

毎月１回第１火曜日の 19：00 に柏原保育園、柏原小学校、柏原中学校を会場に「井戸端会議」を開催している。この会議には、地域コーディネーターの４名と各校園の管理職や教職員、地域のボランティア等が参加し、柏原学区における教育のあり方や、学校、園との協働や支援活動について協議している。定期的な開催を継続することで、各校園の状況や情報が共有でき、地域全体で先を見通した活動を展開することができた。

（２）小中連携・児童生徒の交流の促進

・柏原中学校の体育大会に小学生を招待

中学生との交流や中学校のよいところを知ってもらうことを目的に、柏原小学校の児童４年生から６年生を対象に希望をとり、100m競走や生徒会種目を中学生に混じって参加。（今年度は 10 名の参加予定であったが、雨天のため平日開催になり中止）地域コーディネーターの方には、会場周辺のパトロールや写真撮影を担当してもらった。

・柏原中学校文化祭に保育園児、地域住民が参加

学校と地域が一体となった「みんなの文化祭」を目指し柏原保育園にステージ発表をしてもらった。地域の方には作品の展示をお願いしたり、ポスターセッションへの参加を呼びかけたりした。

（３）地域との交流の推進

・柏原小学校では「字じまん」の学習で、地域のお年寄りの方たちと一緒に、ちまき作りに挑戦し交流を深めた。この交流の世話役を地域コーディネーターが担当した。また全校児童が地域探訪「はびろウォーク」に参加し縦割りの班で地域を探訪し、地域にまつわるお話を聞くだけでなく、歩いている途中で出会った地域の方と握手をして交流する取り組みを実施した。地域コーディネーターは、ポイントごとに立ち番を担当した。

・柏原中学校１年生が毎年実施している「里山体験学習」では、地域コーディネーターと「大野木グラウンドワーク協会の人たちにお世話になり、木や竹の切り出し、クラフトづくりや薪割りなどの体験学習を実施した。

【字じまん　ちまき作り】

■　実施に当たっての工夫

○「井戸端会議」での熟議

本部事業の推進・実施にあたっては井戸端会議で様々な議論を重ね合意形成を行うことでより中身の濃い取り組みができた。

○広報「ぶうめらん」の全戸配布

広報担当の地域コーディネーターが中心となり、毎月１回広報紙「ぶうめらん」（Ａ４裏表刷）を発行し、各校園の様子や井戸端会議で協議した内容等を柏原学区全戸に発信し活動の情報提供を行っている。

■　事業の成果

○「井戸端会議」の継続的な実施と熟議により、「柏原学区の子どもたちを各校園と保護者、地域が一体となって育み、柏原の学校園を柏原学区の住民がひとつのコミュニティとして支援していく」という雰囲気が高まっている。

○保育園、小学校、中学校の連携および地域との連携の要として、この事業を展開することで地域全体の風通しがよくなり、課題や成果が把握しやすく、同一歩調で取り組みを進めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○将来を見据えて、地域コーディネーターの組織をどのように再編成していくのか、また事業がマンネリ化しないようにするための方策を検討する必要がある。

○今後のコミュニティ・スクール導入に伴い、地域学校協働本部の位置づけをどうしていくとよいのか、柏原学区の実情に応じた体制を検討していく必要がある。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（ ○ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

「子どもは地域の宝」～地域みんなでふるさとを愛する子どもを育てる学校支援地域本部事業～

米原市	活動名：河南学区学校支援地域本部 （地域学校協働本部）	河南中学校（学校運営協議会　：　■有） 河南小学校、かなん認定こども園（■無）

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 27 年度　地域学校協働活動推進員等数：４人　ボランティア登録数：80 人

■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

本学区は、中山道の醒井宿と番場宿を含む宿場町であった地域のため、歴史と文化の史跡が多く、小中学校ともに積極的に地域学習に取り組んでいる。その学習を、地域活性化を目的に活動している「番場の歴史を知り明日を考える会」や「松尾寺山登山道保存会」等の方々に支援をいただき活動していることや、小学校のふれあい広場では、地域のサロンの方々に協力をいただきながら実施していることが特徴的である。

■　実施に当たっての工夫

〇講師やボランティアの方は、できるだけ河南学区にお住まいの方にお願いするように、地域コーディネーターが人材発掘に努めた。

〇「まいばら教育フォーラム in 河南 2018」において、本事業の進捗状況を報告するとともに、実際にボランティアに参加された方々にインタビューをして、ボランティアスタッフの拡大につなげた。

■　事業の成果

【河南小学校　ふれあい広場】

〇かなん認定こども園の「農園の野菜栽培」において、ボランティアの方から季節に応じた野菜作りの助言をいただくことができた。

〇河南小学校の「ふれあい広場」では、地域のサロンの方々に協力いただき、子どもたちも折り紙や竹とんぼ、将棋、カロム等で楽しいひとときを過ごしている。ボランティアの方々からも、子どもたちと触れあうことで元気がもらえるなどの感想をいただいた。

〇河南中学校では月２回程度、生徒に学習する機会を提供するために「土曜学習会」を計画した。地域コーディネーターに講師ができる人材を発掘してもらい、地域の大学生２人を講師として個別の学力補充を実施することができた。

〇11 月７日（水）に開催した「まいばら教育フォーラム in 河南 2018」では、地域コーディネーターが取組内容について報告し、学校支援地域本部事業の理解を深めてもらえた。また、ボランティアに参加した方々にインタビューをして「子どもたちと触れあうことで生きがいを感じることができた」等の感想をいただき、教育フォーラムに参加されている地域の方々へのよいアピールとなった。さらに、地域コーディネーターからは、台風等の自然災害に対する備えについて、自分たちが学んだことを地域の方々に問題提起することができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇各校園とも地域コーディネーターとの窓口が校園長に偏りがちである。校園の校務分掌等で「学校と地域を結ぶコーディネート担当」にその職務を任せるようにしなければならない。

〇地域からの支援だけではなく、中学校では「地域を愛し、地域から愛される生徒の育成」のため、できるだけ地域行事等へのボランティア活動に重点を置いている。今後は、すべての生徒が１回はボランティア活動に参加できるように呼びかけていきたい。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

本年度から河南中学校に学校運営協議会を立ち上げた。初年度は、中学校に「学校運営協議会」が立ち上がったことを広く地域の方々に周知することに専念した。中学校が行っている「花いっぱい」の活動を地域に広げるため「河南中学校学校運営協議会」のラベルの貼ったプランターへの定植を地域の方々に来校してもらい実施して地域に持ち帰ってもらった。秋には来春の花を準備し、植え替えも行った。次年度は、小学校と中学校が協力して河南学区の「学校運営協議会」として取り組みたいと考えている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（〇）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

ふるさと「伊吹山」とともに歩み創り出す地域活動

米原市	活動名：伊吹山学区学校支援地域本部 （地域学校協働本部）	伊吹山中学校（学校運営協議会　：　■有） 伊吹小学校、春照小学校、いぶき認定こども園

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：４人　ボランティア登録数：60 人

■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　□郷土学習　□その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）「北国脇往還ふるさとウォーク」

中学校の学校運営協議会と連携・協働して新規事業「北国脇往還ふるさとウォーク」を企画・実施した。これは、生徒たちが名勝や史跡が並ぶ魅力的な道「北国脇往還」について外部講師や地域の方から自然や歴史の話を聞きながら、ふるさと伊吹のよさを体感する目的で行うものである。学校運営協議会委員の意見をもとに計画し、下見から同行し、危険箇所の確認や下草刈りなど作業も協働した。当日も委員の皆さんが生徒に随行してもらい、安全確認、生徒への励ましの声かけ、動画撮影をしていただいた。事後は、動画を編集、地元ケーブルテレビと調整し、放映してもらった。

【北国脇往還ふるさとウォーク】

（２）学習支援

中学校での夏休み補充学習に、講師として地域の大学生に来てもらい、子どもたちの学習支援をしてもらった。小学校では、総合的な学習の時間におけるゲストティーチャーに来ていただき、体験学習の支援をしてもらった。

（３）環境整備・栽培ボランティア

自然豊かな各校園の敷地は草木がよく茂り、除草作業が大変である。このことから、地域コーディネーターが中心となって、地域の有志に声をかけていただき、複数回にわたり、各校園すべての校地の除草作業をしていただいた。また、春・秋に花壇・プランターに地域の人と生徒がともに花の植えつけを行い、花が咲く時期には、学校中が美しい環境となった。

（４）伊吹地区教育フォーラム

「地域と学校でともに子どもを育てていこう」という趣旨の元、中学校での全クラス授業参観、「コミュニティ・スクールの進め方」講演、「地域の子どもを育てるために私のできること」をテーマに分科会での意見交流を行い連携・協働について啓発を行った。

（５）読書、安全ボランティア

小学校では毎週水曜に読書ボランティアに来ていただき、「本とのすてきな出会い」になるような読み聞かせや図書館整理をしていただいた。また、子どもたちの登下校の安全を見守っていただいた。

■　実施に当たっての工夫

〇各活動の企画段階からできるだけ、学校と地域双方にメリットが生まれるよう配慮しながら行っている。

■　事業の成果

〇これらの活動から、中学校ではふるさと「伊吹山」とともに歩む気持ちが年々生徒に浸透してきており、地域行事等へのボランティア参加人数は、次のとおり大幅に増えてきた。伊吹お田植え祭 10 人、Ｂ＆Ｇプール掃除 54 人、息吹の奏 37 人、福祉施設「愛らんど夏祭り」8 人、山岳マラソン「かっとび伊吹」21 人、地域体育行事「伊吹ふれあい体育祭」23 人、伊吹小運動会 12 人、春照小運動会 18 人、敬老の日訪問 16 人、避難所開設訓練 19 人、のべ合計 218 人。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇地域コーディネーター、学校と地域を結ぶコーディネート担当の資質向上をはかり、学校･地域双方にとってよりよい活動になるよう仕組んでいく。

〇中学校区の実情に応じた取組の円滑な推進とともに、今後に向けて、学校と地域が互いにパートナーとして双方向に連携・協働する関係づくりの構築をめざす方向性を学校として明確に示していく。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

〇既存の行事においても、学校運営協議会で協議しながら進めていく予定である。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域人材を生かした特色ある活動によって、米原を愛する園児・児童・生徒を育てよう

米原市	活動名：米原学区学校支援地域本部 （地域学校協働本部）	米原中学校（学校運営協議会　：　■有） 米原小学校、まいばら認定こども園

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］　開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：２人　ボランティア登録数：90 人
■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援
■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■郷土学習　■その他［　　］

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）「防災かまどベンチづくり事業」

10 月～11 月にかけて、中学校の中庭に６基の防災かまどベンチを設置した。設置にあたっては、学校運営協議会が計画し、支援本部のボランティアを中心として、設置作業を行った。基礎工事・レンガ積みには、学校支援ボランティア延べ約 15 名、保護者５名、生徒 30 名、職員 11 名が参加した。この作業を通して、学校支援ボランティアどうしはもとより保護者、生徒、職員との交流が深まったことは大きな成果である。また、設置した防災かまどベンチを使って、お米・肉・うどんなどの試食会を行った。今後は地域の防災訓練として避難所の炊き出し等に活用していく計画である。

【防災かまどベンチレンガ積み】

（2）総合的な学習の時間での指導

１年生、２年生は総合的な学習の時間に、地域学習として「さつまいも」「ネギ」「ゴーヤ」の栽培を行った。農業指導員をしておられる方や地域で農業をしておられる方に来ていただき、トラクターで畑を耕してもらったり、植え付けや収穫の指導もお願いしたりした。収穫祭では、調理・試食等を通して、生徒との相互交流ができた。

■　実施に当たっての工夫

〇２名のコーディネーターをそれぞれ、中学校担当、こども園・小学校担当として分担し、学校のニーズの吸い上げに尽力した。
〇学校の敷居を低くし、教員との交流を容易にできるようにするために、また、将来的に地域との交流の活性化を想定し、中学校内に地域支援コーディネーターの活動の拠点としての学校支援地域本部室を設置し、積極的に活用した。

■　事業の成果

〇かまどベンチづくりを通して、学校・家庭・地域が協働して学校運営を行うという機運が高まった。
〇生徒や職員が地域の方と接する機会が増え、お互いのふれあい、交流が自然に行える雰囲気が醸成されるとともに、地域に根ざした教育の促進につながった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇本事業の成否は地域コーディネーターの資質によるところが非常に大きく、その人選・育成が最大の課題である。
〇地域コーディネーターとのつながりでのボランティアが多く、ボランティアの固定化・高齢化が課題である。
新規開拓が必要であるが、文書のみで募集をかけてもなかなか集まらないのが現状である。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

米原中学校区は、地域住民の学校教育に対する理解もあり、学校（園）における体験活動等への協力や支援にも積極的な地域である。本事業２年目の昨年度は、組織の一部改編、地域コーディネーターの分担の明確化、活動の拠点となる『学校支援地域本部室』の設置等を行い、学校支援地域本部事業が軌道に乗り始めた。そして３年目の今年度は、米原中学校がコミュニティ・スクールとなり、地域住民とのさらなる密接なつながりを模索しながら、地域本部事業の充実を図った。防災かまどベンチづくりに当たっては、学校運営協議会が計画し、地域本部のボランティアを中心として、設置作業を行った。設置に当たっては、米原中学校体育文化後援会が事業主体となり、米原市防災危機管理課および米原市教育委員会の特色ある学校づくり事業からの補助金を設置資金とした。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（〇）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（〇）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

大東中学校区、子ども・学校支援、地域参加生き生き活動

米原市	活動名：大東学区学校支援地域本部 （地域学校協働本部）	大東中学校、山東小学校、大原小学校、 山東幼稚園、大原保育園 学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］ 開始年度：平成 29 年度 地域学校協働活動推進員等数：４人 ボランティア登録数：20 人
■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） □地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援
■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他［ ］

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）学力補充学習「いつやるの？今でしょ！教室」（「いつ今教室」）の開催

中学校において学力補充教室「いつやるの？今でしょ！教室」（「いつ今教室」）を、平成 25 年度より開催している。本年度もテスト前や長期休業中に実施し、地域の方々に講師として来ていただいたり、個別の学習支援に当たっていただいたりした。

【学力補充学習「いつ今教室」】

（２）図書の読み聞かせ、お話会の開催、図書館の環境整備

小学校では、図書ボランティアの方々が、毎週の読み聞かせを各教室においてしてくださっている。また、６年生に向けては、修学旅行や卒業式といった大きな行事の事前には、活動の一環として、お話会を開いてもらっている。こうした活動は、児童の豊かな情操を育むものであり、地域の方に読み聞かせてもらうことで、学校教員とはまた違った効果をもたらしていると思われる。

また、図書館の環境整備も、小中学校ともに図書ボランティアの方々が、日々工夫しながら進めてくださっている。

（３）草刈りや花の世話など環境整備

小学校では、年に一度、長期休業中に、学校施設および周辺の環境整備を大々的に行っている。校区のすべての字が参加し、字ごとに役割や整備箇所を分担して、５・６年生児童といっしょに、大人も子どもも汗を流しながら、学校をきれいにするという活動を行っている。

（４）運動会の練習や当日の運営・安全支援

小中連携の取組の一環として、小学校の運動会において、中学生がボランティアスタッフとして参画し、運営に一役買っている。

■ 実施に当たっての工夫

○学校と地域の連携活動の幅広い周知に向けて
- 学校支援地域本部事業を紹介したチラシを作成し、学区全戸に配布した。
- 学校のホームページに、チラシや参加申込用紙を掲載し、より多くの方の目に触れるよう工夫した。
- 学校だよりで、活動状況を積極的に紹介し、より多くの参加を呼びかけた。

○地域コーディネーターの資質向上に向けて
- 毎年開催している中学校区教育フォーラムに、すべてのコーディネーターが参画し、学校と地域の連携推進について研鑽を深める機会とした。

■ 事業の成果

○地域の方々に、学習の様子を見ていただいたり、教えていただいたりすることにより、子どもたちには緊張感が生まれるとともに、安心感にもつながっている。
○地域の方々に人的な支援をいただくことで、確実に安心・安全につながった。
○本部が立ち上がり２年目であるが、地域の方々がボランティアとして、学校で活動していただく場面が少しずつ増えてきた。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○現状では、学校の担当者や管理職が主として対応しているが、将来的にはコーディネーターが中心に対応していけるような体制にしていきたい。そのためには、もう少し時間が必要であり、また、管理面での課題をクリアする必要もある。

■「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに○印

（ ○ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域の子どもたちの健やかな育成をめざす「おうみネット支援ボランティア」の取組

米原市	活動名：おうみネット学校支援地域本部 （地域学校協働本部）	双葉中学校、坂田小学校、息長小学校 おうみ認定こども園 学校運営協議会 ： □有 ■無

地域学校協働活動概要
［地域学校協働本部］ 開始年度：平成 29 年度 地域学校協働活動推進員等数：３人 ボランティア登録数：30 人
□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾） ■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）
■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備） ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援
■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり □地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）
□地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他［ ］

■ 地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）読み聞かせボランティア（わくわくさん）
月２回、全クラスに、児童への読み聞かせに来ていただいている。自分の子どもがいる学校だけでなく､他の学校への読み聞かせにも参加されている。

（２）読み聞かせボランティアの方による音読発表会
６年生を送る会に読み聞かせグループ「わくわくさん」による音読発表会がある。事前練習を何度も重ね、ペープサートを用いながら見事な音読発表をしていただいた。

（３）学校花壇の環境整備
「花いっぱいの学校運動」の一環として、春と秋の花づくりに支援をいただいている。昨年度は、地域ボランティアの方と学校職員が一緒に花の仮植作業や学校花壇への植え付けを行っていたが、今年度より委員会の時間に来ていただき、環境委員会の子どもたちと一緒に作業をしていただいた。

【環境委員会の子どもたちとの仮植作業】

■ 実施に当たっての工夫
〇学校花壇の整備や花の仮植作業は、事前の準備を学校側でしっかりとしておき、当日の作業がスムーズにいくよう配慮した。
〇読み聞かせ日の設定や活動内容の打ち合わせ等については、図書館司書教諭の免許をもっている者が連絡係となり、連絡調整を行った。
〇人材確保については、学校支援地域本部のリーダーの方が中心となり、学校の様々な活動の中で自分が興味関心のある活動に参加していただけるような募集の呼びかけをしていただいた。そのおかげで、参加者が大変参加しやすく積極的に活動してくださった。

■事業の成果
〇学校花壇の花の仮植作業は、これまでは学校職員で行っていた。今回、学校支援ボランティアの方に協力いただいたことで、作業は早く終えることができ、大変ありがたかった。また、環境委員会の子どもたちと一緒に作業をしていただき、子どもたちとのふれあいを大変喜んでくださり、子どもたちも学校支援ボランティアの方々の花づくりのお話に熱心に聞き入っていた。
〇図書の読み聞かせや図書室の整備に定期的に来ていただき、新書の本の紹介や季節に合わせたおすすめの本コーナーを作ってくださったことで、子どもたちの本に対する関心や興味が高まった。
〇学校に来てくださる機会が増え、学校職員とも顔なじみになり気づかれたことや思っておられることなどを気楽に話し合えるようになった。

■ 事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
〇特に中心となってくださる方々の活動が多くなり、負担がかかっている。
〇ボランティアのメンバーが限られ、なかなか新たな方の募集が図りにくい。
〇今年度活動していただいたことをもとに、他の学校・園に広がりを見せ地域全体の取組となっていけるとよい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて ※該当する項目全てに〇印
（ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

日野町における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部 ■地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

学校、家庭および地域住民みんなが役割と責任を自覚し、日野町の宝である子どもたちを健やかに育む体制づくりを確立する。子どもたちの成長を支える「日野町地域学校協働活動推進本部」を設置し、「ふるさとを愛し　ふるさとを支える子どもたちの育成」をテーマに、地域を誇りに持ち、地域が大好きな日野っ子の育成をめざして地域と学校が連携・協働して学校教育を支援する。

■本年度の具体的活動

本年度は、町内の小学校５校に中学校が加わり、町内全ての小・中学校で地域学校協働活動を実施した。各校のふるさと絆支援員（地域学校協働活動推進員）が学校と地域をつなぎ、コーディネートし、学習支援を推進している。

特に、日野町は自然に恵まれ歴史・伝統文化が豊かであることや地域の人材を活かした「ふるさと教育」の推進をしている。特に、家庭科、生活科や総合的な学習などにおける体験や児童生徒の情操を養う読書活動や音楽や校舎周辺の環境整備など多岐にわたって保護者や地域の方に学校に関わっていただくなど、積極的な学習支援・学校支援活動を進められた。

また、夏季休業中には、町立図書館において、町内の３年生以上の児童を対象に、町内退職教員の有志を中心に、学習支援員や学生ボランティアが 60 名を超える児童の学習の指導にあたり、「夏休みチャレンジ教室」を６回開催した。今年度の「夏休みチャレンジ教室」の特徴は、自分で学習したい内容を決めて学習の準備をするようにすすめたところ、多くの児童に集中して学習に取り組む姿がみられた。自学の習慣が徐々に習慣化できる機会となったと保護者から好評であった。

■本年度の成果

小学校５校では、以前から町独自で実施している「特色ある学校育成事業」に加えて、ふるさと絆支援員（地域学校協働活動推進員）のコーディネートによる地域学校協働本部事業を昨年度から実施しており、本年度も順調に進められている。今年度スタートした中学校では、学校支援ボランティアの募集において「中学校のためなら協力する」といった方々が、回を重ねるごとに家庭科・理科実習支援・生徒の見守り・地域未来塾への学習支援にご尽力いただき、生徒が達成感を味わう機会が増えた。

必佐小学校では、子どもにかかわる地域の団体（教育後援会、民生委員、日赤奉仕団）に加え、保護者の皆さんが子どもたちの生活全般を見守り、支援する活動として「見守りあいさつ運動」に取り組まれた。多くの方が参加できるように朝の登校時間帯に実施され、子どもたちへあいさつと共に温かな言葉が飛び交い、安心・安全な学校の環境づくりに大きく貢献することができた。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

・今年度からスタートさせた中学校では、団体のボランティアの皆さんにご支援いただくことが多かった。また、急な時間割の変更や生徒指導上の課題もあり、十分な協働活動には課題が見られたが、反省しながら、今後も展開していきたい。さらに、個人的なボランティアの方にも大いに活躍いただけるよう募集方法や内容を検討していきたい。

・スタッフへアンケート等をとり、ご支援いただいた皆さんへの感想や意見等を参考にしながら、次年度の協働活動を計画実施していきたい。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

・日野町地域学校協働活動推進協議会には、各学校区のふるさと絆支援員（地域学校協働活動推進員）６名、青少年育成町民会議会長・町少年センター所長・学識経験者・小中学校長会代表・町 PTA 連絡協議会代表・町公民館長代表・各小中学校教頭６名の合計 18 名で構成され、教育委員会より委嘱されている。

・各小学校区に地域学校協働本部を設置し、PTA・学校評議員メンバー等に地域学校行動活動推進員を委嘱し、各校の教頭と連携を図りながら、ふるさと絆支援員が家庭や地域との連携を図っている。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

保護者や地域から熱い期待と多方面で支援を受けている本町としての地域学校協働活動は２年目の段階である。学校運営協議会の導入や計画については、学校運営協議会と地域学校協働活動の連携を考慮し、十分に検討していきたい。

地域との連携・協働を深め、学習活動のさらなる充実を目指して

日野町	活動名：日野・鎌掛地域学校協働本部	日野小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：50 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

［放課後子ども教室］　主な活動場所：日野小学校教室　年間開催日数：80 日（80 時間）　地域学校協働活動推進員等数：１人

平均スタッフ数：４人　平均参加人数：８人　開始年度：平成 30 年度

・活動日　：　■月　■火　□水　■木　■金　□土　□日　□長期休業中

・活動内容　：　■学習指導員を配置した学習支援　□その他の学習支援　□スポーツ　□芸術・文化　□体験活動　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）日赤奉仕団さんによる「ソーイングボランティア」のべ 61 名（30 時間）、「ミシンボランティア」のべ 35 名（30 時間）

５年生家庭科で、玉結び、玉どめ、返し縫い等、手縫いの学習をする際、日赤奉仕団の方にお世話になった。子どもたちの中に入り、実演やアドバイス、寄り添い、見守りをしていただいた。手縫いの基礎的な技能の習得に大変効果があった。また、５、６年生のミシン実習（エプロン・ナップザック製作）の際にも支援していただき、学習が効果的に進められた。

【ソーイングボランティア】

（２）日赤奉仕団の男性会員さんによる「焼きいも大会」

日赤奉仕団には、男性会員さんもおられる。今回初めて、男性の方に協力いただき、１年生が育てたさつまいもを使い、焼きいも大会を行った。籾殻を使った焼きいもは、大変甘くておいしかった。これまで、女性の方にボランティアをお願いすることがほとんどであったが、男性の方にも来ていただくことができ、地域の方との関わりを広げられたのがよかった。

（３）図書ボランティアさんとの共同企画での「サックスミニコンサート」・「保護者向け英会話教室」

保護者の中でサックスの演奏が得意な方がおられることから、図書ボランティアさんと相談しながら、サックスミニコンサート（昼休み）の開催を企画した。児童だけでなく、チラシやHP、メール等で保護者にも参観を呼びかけた。平日ではあったが、保護者の参加もあり大盛況で、次回の開催を希望する声があった。

また、外国語活動指導教員の協力を得て、保護者向けの英会話教室を開催した。お家の中で気軽に英語を使ってみようということで、ゲームを取り入れながら楽しい雰囲気で英会話を体験していただいた。大変好評を得た。

【サックスミニコンサート】

（４）公民館の「ゆかいな寺子屋」の将棋愛好家さんとの交流～「将棋大会」

将棋クラブの児童と地域の将棋愛好家さんとの交流として、将棋大会を企画した。子どもたちは、強い大人の方との対局ということで大変喜んでいた。アドバイスをいただけたのもよかった。また、地域の方にも楽しんでいただけた。

■　実施に当たっての工夫

○計画を早目に知らせ依頼すること。

○子どもの実態や目指す姿を共有化することで、適切な助言や支援がいただけるようにすること。

○参画いただく方々の自由な発想や願いを実現化すること。

■　事業の成果

○参加者の広がりが出てきた。「ソーイング」については、昨年度 19 名→今年度 61 名と大幅に増えた。２年目となり、複数回参加いただく方から支援の工夫などの声を聞かせていただけるようになった。

○参加された方が他の方へ参加を呼びかけてくださる「人が人をよぶ広がり」が出てきた。

○「またやりたい、また来たい」という声が増えてきて、気軽に学校へ足を運んでくださる雰囲気、参加の広がりが出てきた。また、参加者の中から、「こんなこともしてみたい」「こうしたらどうか」と願いや思いを伝えてくださる方が出てきた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

○現在、団体（日赤さん）を通じての呼びかけを行っているが、より多くの方へ呼びかける方法はないか、検討していきたい。また、団体に属しておられない方へ呼びかけていく方法についても検討していきたい。

○学習活動の充実のための活動、取組には、どういうものがあるか、検討していきたい。

○事業の効率よい推進のためには、今後どのような工夫をしていくとよいか、検討していきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

～学校・家庭・地域の　きずな・つなぐ・むすぶ～

日野町	活動名：西大路地域学校協働本部	西大路小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員等数：９人（兼務０人）　ボランティア登録数：30 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　□子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

［放課後子ども教室］　主な活動場所：西大路小学校コンピューター室　年間開催日数：105 日　地域学校協働活動推進員等数：１人

平均スタッフ数：１人　平均参加人数：３人　開始年度：平成 29 年度

・活動日　：　■月　■火　■水　■木　■金　□土　□日　□長期休業中

・活動内容　：　■学習指導員を配置した学習支援　□その他の学習支援　□スポーツ　□芸術・文化　□体験活動　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）「校外学習」の支援

地域学習で地域の方から歴史や風土について教えてもらったり、交番や郵便局などの見学で仕事の内容を教えてもらったりすることができた。

（２）「環境整備」の支援

地域の方と児童で古くなった和室の障子の貼り替えを行った。

児童の休み時間に地域の方にきていただき、一緒に草むしりをしていただいた。

■　実施に当たっての工夫

〇校外学習については、昨年のスケジュールをふまえて、早めに計画を立てて交通手段等の確保に努めた。

〇環境整備について、障子の張り替えは学校活動時間内では難しかったので、夏休みを利用して行った。

【和室の障子貼り】

■　事業の成果

〇校外学習などの学習支援は、地域の方や官公庁の方の協力や指導により貴重な体験ができた。また、昨年からのつながりで、指導してくれる方々もきちんと準備をしてくださっていた。

〇環境整備については、小学校に関心を持ってくださる方が増えてきており、ボランティアの呼びかけに協力していただける人が増えた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇ボランティアなど小学校に足を運んでくださる人の顔ぶれは決まってきているので、より多くの方に小学校に関心を持ってもられるようにしていきたいと思う。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

「なんぴが大好き」～地域の良さを学校に取り入れ郷土を愛する心を育てる～

日野町	活動名：南比都佐地域学校協働本部	南比都佐小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）　ボランティア登録数：20 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

［放課後子ども教室］　主な活動場所：呼応民間　小学校会議室　年間開催日数：53 日　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）

平均スタッフ数：１人　平均参加人数：10 人　開始年度：平成 30 年度

・活動日　：　□月　□火　□水　□木　■金　■土　□日　■長期休業中

・活動内容　：　□学習指導員を配置した学習支援　□その他の学習支援　□スポーツ　□芸術・文化　□体験活動　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

「日野菜」の原種の保存

本校では、全学年が「日野菜」の栽培に取り組んでいる。南比都佐地区「日野菜原種保存会」の方の指導のもと、原種の特徴をはっきりと持つ日野菜を選び、来年の種取り用に植え替えをする。植え替えておいた日野菜から、「日野菜保存会」の方の指導のもと「種取り」をしている。本校では、このように継続した取組をしてきている。加えて、とれた種を地域にも広めたいと栽培方法を書いた説明を付けて販売活動も行った。また、今年は種が豊作で、大量にあったので、日野町教育委員会をとおして、地域のイベントに無償で提供した。秋口に、この種をまき、間引きを行うなど栽培活動をしている。そして、収穫した日野菜を日野菜漬けにし、地域の郷土料理を知る機会を設けている。

また、地域の日野菜工場を見学して、専門家の話を聞いたり、日野菜を使った新しい料理を工夫して、レシピをつくったりするなど、「日野菜」を通した課題解決学習に取り組んでいる。

■　実施に当たっての工夫

〇昨年度の経験を活かし、精選された体験活動、現地学習を行うように心がけた。

〇隣りにある公民館や地域をよく知る方との連携を密にすることにより地域の人材の掘り起こしに努めた。

【日野菜の刈り取り作業】

■　事業の成果

〇地域学校協働活動推進員（なんぴっこ支援員）が、地域との連携や、新しい地域の指導者の開拓を行っている。このことにより、担任の負担が減るとともに、教師の人員に関係なく、継続的に活動が続けていけるような体制が整えられていくことになる。

〇地区の公民館と連携を密にしたことにより、より多くの地域の方や団体と面識が持てるようになり、より本格的で、詳しい講習や、実技指導を受けることができるようになった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇今年度は、地域学校協働活動推進員（なんぴっこ支援員）の方も初年度であり、年度初めに年間の見通しがもてなかったところもあり、単発的な取組になっていたが、今後は継続性があったり、他学年とのつながりがあったりするなど学校全体とした見通しと計画をもっていきたい。

〇今年度は、学校側から地域で協力をお願いできる方へのアプローチをしているが、地域にはまだまだたくさんの人材がおられると感じるので、地域に広く広報したり、ボランティアを募ったり、地域への発信にも努めていきたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

地域ぐるみで子どもを見守り、学校を支援する協働活動のために

日野町	活動名：必佐地域学校協働本部	必佐小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：32 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

□学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　■地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

［放課後子ども教室］　主な活動場所：必佐小学校教室　年間開催日数：70 日　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）

平均スタッフ数：2.5 人　平均参加人数：10 人　開始年度：平成 30 年度

・活動日　：　□月　■火　□水　■木　■金　□土　□日　□長期休業中

・活動内容　：　■学習指導員を配置した学習支援　□その他の学習支援　□スポーツ　□芸術・文化　□体験活動　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）見守りあいさつ運動

教育後援会の他、民生委員会、日赤奉仕団等、子どもの生活にかかわる団体が連携し、子どもの学校生活全般を見守り、支援する活動の一つとして見守りあいさつ運動に取り組んだ。ほとんどの方が参加できるよう朝の登校時間帯に行った。

（２）体験的な学習への支援

焼き芋などの指導を経験豊かな方にお願いし、裁縫やミシン縫いなど、適切な個別支援を必要とする学習では、アドバイスや手助けなどの支援をお願いした。３学期は伝統的なくらしや遊び、そろばん等の学習で支援をする予定である。

（３）ふるさと学習支援

特産品や伝統行事など、ふるさとをテーマにした総合的な学習で、地域の方に指導をお願いした。

【見守りあいさつ運動】

■　実施に当たっての工夫

〇本事業の広報とボランティア募集のためにチラシを全戸配布し、事業に対する理解と協力を得られるようにした。

〇見守り活動の全体会議で、各団体の代表の方々に年間の見通しを説明し、協力を依頼した。

〇公民館との連携を密にし、ボランティア募集や学校支援活動の窓口になってもらったりした。

【家庭科実習支援】

■　事業の成果

〇見守りあいさつ運動が定着してきた。地域の方々と子どもたちのつながりが少しずつできてきて、あいさつ以外の様々な声かけ（会話）も効果的に働いた。その成果が子どもたちの表情とあいさつの声にはっきりと表れるようになってきた。

〇ボランティアの方々の適切な支援のおかげで、子どもたちは技能を習得できただけでなく、「苦労しながらもできた」という達成感を味わうことができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇見守りあいさつ運動に参加いただいている方々を中心に、ボランティアや指導者をお願いしているが、地域にたくさんおられる適任の方がまだ把握できていない。今後も人材の開拓に努めていく必要がある。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

桜谷の子どもでよかった～地域の温かい支援で学校教育活動をより豊かに

日野町	活動名：桜谷地域学校協働本部 愛称：桜谷学区ふるさと絆事業（さくらっ子事業）	桜谷小学校　学校運営協議会 ： ■有　□無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成29年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：100人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　□地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

□図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動　■郷土学習　□その他［　　］

［放課後子ども教室］　主な活動場所：桜谷小学校和室　年間開催日数：34日　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）

平均スタッフ数：５人　平均参加人数：35人　開始年度：平成29年度

・活動日　：　□月　□火　□水　■木　□金　□土　□日　■長期休業中

・活動内容　：　■学習指導員を配置した学習支援　□その他の学習支援　□スポーツ　□芸術・文化　□体験活動　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

〇森のレストラン

さつまいも植えや田植え・稲刈りなど栽培活動の支援をしていただいたり、中庭や裏山を整備いただいたりした方々を招待して、昼食を共にする。

招待状を出すのは、中学年、調理するさつまいもを洗うのは低学年、収穫物を使って調理するのが高学年で、全校体制で、感謝の気持ちを届ける活動である。

【森のレストラン:
お世話になった方々と】

■　実施に当たっての工夫

ボランティアとして参加されるのは、「HOT けん桜谷隊」、老人会を中心とする地域の方々である。活動の種類や日程によって参加いただける方を地域学校協働活動推進員が中心となり、呼びかけや調整を行った。

昨年の活動を振り返ると共に年度初めに各学年の活動を見直し、連携・協働が必要と思われることの年間計画を立て、総会の中で確認し合った。

■　事業の成果

本校では、１，２，６年生でいも植え、３，４，５年生で田植えを行っている。また、２年生は生活科で夏や冬に収穫する野菜を、３年生は、郷土野菜の「日野菜」を栽培している。これらの活動で、地域の方々に教えていただいたり、支援していただいたりすることで、子どもたちには、それらを上手に育てる方法に加えて、食材としての作物の大切さや、自然の偉大さ、地域のあたたかさを体感できる機会となっている。学習や作業・事業後、子どもがお礼の手紙を書いている。それによる心のつながりが学校と地域の距離を縮めている。

地域の方からは、「子どもと対話ができ、楽しく作業が進められた」「子どもが学校に在籍していなくても参加できることはうれしい」など、地域と学校の連携を進んで行ってくださることのわかる感想をいただいた。

【昔遊び体験学習】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

年間計画を立てる段階での見直しと、実施後のふり返りは必要である。例年行っている活動が多いが、改善を加えることも大切であり、学校も支援に来てくださる方も双方の考えを聞くことがこの事業では大事である。地域学校協働活動推進員が昨年度末に、学校、地域に向けてアンケート調査を行ったので、振り返ることができた。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

「森のレストラン」という活動では、日頃いろいろな場面で支援をいただいている地域の方々に感謝の気持ちを伝えている。３，４年生が招待状を書き、１，２年生は収穫した芋を洗い、５，６年生がその芋を使ってみそ汁を作り、収穫した米を給食室で炊き込みご飯に調理していただき、食事を共にする活動である。地域の支えに対して、感謝の気持ちを忘れないようにしたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

自分を創造し、仲間や地域との絆を結べる日野中生徒の確立を目指して。

日野町	活動名：日野中学校地域学校協働本部	日野中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 30 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人　ボランティア登録数：48 人

□学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■ 学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□郷土学習　□その他［　　］

［地域未来塾］　年間開催日数：24 日　地域学校協働活動推進員：１人　平均参加人数　10 人

・学習形態　：　■個別の学力補充　□教材を使って一斉学習　□その他（　　）

・教室の持ち方　：　■放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）

・学習支援員等人数　：　学習支援員１人　協働活動支援員０人　協働活動サポーター０人

・学習支援員等の属性　：　□企業人　□行政職員　□元教員　□大学生　□地域住民　□NPO 等関係者　■その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）家庭科実技支援

１年生・被服学習における「ブックカバー」の制作で、「手縫い」「ミシン縫い」等、個別対応が非常に重要な場面で、多くの方々の支援を受け、個々の生徒に技能を定着する事ができた。また、生徒たちも遠慮なく質問ができた。

２年生・調理実習では、包丁を使う際の安全確保ができ、包丁で怪我をした生徒はいなかった。

（２）敷地内環境整備作業

広い校地であり、庭木の整備が追い付かない中、約 100m 近く植わっている「さつき」の剪定をしていただいた。

（３）外国語による絵本の読み聞かせとスライドショーの実施

全国読書週間にちなみ、４回にわたり、韓国語・英語・ポルトガル語・タガログ語で絵本の読み聞かせとスライドショーを図書室にて実施した。

（４）家庭科・保育実習での校舎外移動に関しての交通立番・見守り

３年生・家庭科の保育実習で「あおぞら園」まで自転車での往復路の安全を支援していただいた。

（５）学校行事における合唱指導の助言や、体育祭での救護の支援

合唱コンクールにおける合唱指導や、体育祭の救護支援をしていただき、多くの生徒に丁寧な対応ができた。

【家庭科・実習支援】

【外国語による絵本の読み聞かせとスライドショー】

■　実施に当たっての工夫

（１）家庭科・理科実習支援については、個人ボランティアさん・日赤奉仕団さんからの支援を受け、特に家庭科については継続してボランティアさんに来ていただけるように、日程等を調整した。

（２）「スライドショー」については、地域の方々に翻訳・読み聞かせをお願いした。中学校では、授業時間に当事業を実施する事は困難であり、昼休みに実施した。

（３）地域未来塾では、放課後の図書館を利用し学習する雰囲気を作り出した。

■　事業の成果

地域の方々が非常に協力的であり、難しい面も多々あったが、「中学生のためなら」とがんばってくださった。

地域未来塾では、友だちに誘われるなどして回を重ねるごとに参加者が増えてきた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

様々な助言・苦言も頂戴した。急な時間割の変更や、生徒指導上の難しい面もあったが、支援の回数が重なる毎に、生徒たちと地域のボランティアさんとの間に、温かな空気が流れるのを感じた。今年からの事業であり、不慣れな中での試行錯誤である。

今年は団体のボランティアさんに頼る面が多かったが、地域の方々に「個人ボランティア」をもっとお願いしたい。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

定例会議は持てていないが、学期毎に実施報告や今後についての報告書を出している。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ 〇 ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ 〇 ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

竜王町における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部　□地域未来塾　□放課後子ども教室　■土曜日の教育支援

■目指す姿

本町では、地域学校協働本部の事務局を公民館に置き、公民館講座の受講生や情報等を活用しつつ、学校（園）支援のために学校（園）と地域人材とを結びつけながら、地域総ぐるみで学校（園）支援体制を整えることを通して地域や家庭の教育力向上を目指している。

さらに、一人ひとりの人生をより豊かにする公民館での生涯学習活動が、学校支援に関わる中で子どもたちを中心に生まれる仲間づくりへと発展し、これを窓口に地域へとその対象を広げ、互いに支えあうことを通して、一層のまちづくり活動の推進へとつなげる。

そして、地域、学校、公民館等社会教育施設が共にパートナーとして、共に子どもたちを育て、そのことを通じて共にこれからの地域を創るという理念に立ち、いままで構築してきた学校支援地域本部の「支援活動」を超えて、さらに目的を共有し長期的な双方向性のある展望を持った「連携・協働活動」となることを目指す。

■本年度の具体的活動

・４月中旬　学校園情報交換会の開催。活動方針や課題の検討、問題の共有を図る。
・毎　月　統括マネージャー・コーディネーター会議（学校園応援団定例会）の開催。
・年 ２ 回　学校園応援団だよりの発行。（上半期、下半期）
・通　年　学校園応援団（ボランティア）の募集。
・公民館ホームページや各種広報等を活用した情報の発信。

■本年度の成果

・小中学校の学習では、児童生徒のきめ細かい個別対応が可能になり教育効果が上がった。
・託児や校外学習の引率などでは、学校行事およびＰＴＡ行事を安全に円滑に進めるための支援ができた。
・地域のボランティアと幼児・児童・生徒とが顔見知りになり、人間関係が密になった。
・中学校では、部活動に地域の競技指導者を積極的に外部コーチとして招き、教員と連携を図りながら部活動の運営に取り組んでいる。また、「土曜龍王塾」と称して、教員ＯＢや地元の大学生ボランティアで講師団を形成し、土曜日に高等学校入試対策を実施する試みをはじめている。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

依頼されたらボランティアとして関わる段階にとどまっており、チームを作って支援できる体制まで高まっていない。リーダーとなってまとめていく人材が育っていないので、協働活動の推進にはその確保と育成を強化していく必要がある。

【交通安全教室】

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

現在、地域学校協働活動推進員の委嘱は行っていない。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

本年度からコミュニティ・スクールとして、これまでの１小学校に、さらに１小学校・１中学校が加わり取組を開始した。
共に学校支援地域本部が機能していたので、引き続きその活動を発展させながら、コーディネート機能を強化し、より多くの、より幅広い層の活動する地域住民の参画を得て、活動の幅を広げ、継続的な地域学校協働活動を実施していくことで、地域学校協働本部体制へと発展させていきたい。

ひとりひとりの学びを支える学校・地域・家庭の融合による学校支援活動

竜王町	活動名：竜王町地域学校協働本部	竜王小学校・竜王西小学校・竜王中学校 学校運営協議会　：　■有　□無 竜王幼稚園、竜王西幼稚園 学校運営協議会　：　□有　■無

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 22 年度（学校支援地域本部）　地域学校協働本部としては平成 30 年度から

地域学校協働活動推進員等数：６人（兼務１人）　ボランティア登録数：477 人（平成 22 年度～）

■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）

■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■郷土学習

［土曜日の教育支援］　竜王キッズクラブ　開始年度・年間開催日数・平均スタッフ数・平均参加人数

サイエンスクラブ　平成 18 年度・12 日・４人・15 人　書道クラブ　平成 23 年度・22 日・２人・21 人

チャレンジクラブ　平成 22 年度・12 日・４人・22 人　和太鼓クラブ　平成 15 年度・23 日・１人・13 人

竜王ユースブラス　昭和 62 年度・50 日・３人・17 人　主な活動場所：竜王町公民館　地域学校協働活動推進員等数：３人（兼務３人）

・活動内容　：　□学習指導員を配置した学習支援　■その他の学習支援　■スポーツ　■芸術・文化　■体験活動

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（１）学習支援

〇小・中学校の家庭科のミシンや裁縫等の学習で常時５名程度のボランティアが授業に参加し、担任だけでは個別に行き届かない指導をボランティアが補った。

〇竜王西小学校のアートクラブ（クラブ活動）で、年間を通じてクラブ活動の支援を行った。（お花、お茶、水鉄砲　他）

〇竜王小学校の大根作りの支援を行い、「大根炊き」に招待された。

【大根の種まき】

（２）託児支援

〇幼稚園や小学校で授業参観やＰＴＡ行事等に子育て中の保護者も参加できるように託児所を開設して託児支援を行った。

（３）学校行事支援

〇両小学校のスキー教室では、例年 10 名程度のボランティアによりスキー教室が充実している。

〇竜王幼稚園で、夏の流しそうめんや冬の餅つき大会を行った。また、竜王西小学校で、焼き芋大会の支援を行った。

（４）竜王キッズクラブ

〇サイエンスクラブ　大手企業等との連携による科学工作やものづくり体験教室、天体観望（夏・冬）、親子野鳥観察など、サイエンスに関わるいろいろな活動に取り組むことにより、何事にも興味を持ち、挑戦していく力を養う。

〇チャレンジクラブ　町内の農園で採ったいちごを使ったスイーツ作り、琵琶湖でのカヌー体験、町公民館での防災キャンプ、町内歴史ハイキング、スキー教室等を通して、自然とふれあい、厳しさを学び、何事にも挑戦していく力を養う。

■　実施に当たっての工夫

〇統括マネージャーとコーディネーターが月１回程度、定期的に会議を持つことにより、円滑な支援推進ができた。

〇支援時には、統括マネージャーやコーディネーターが積極的に学校（園）へ出向き、先生はもちろん、支援ボランティアと話し合いをし、よかった点、改善すべき点等、今後につながる情報交換を行った。

■　事業の成果

〇小学生の児童からは、たくさんの感謝の手紙などをいただいた。また、ボランティアからは、「子どもたちから元気をもらった、参加してとても満足している」などの声を聞き、生きがいの場を提供することができた。学校（園）、ボランティアの双方が満足できる支援につなげることができた。地域での子どもとの顔見知りも増え、コミュニケーション面でも進歩があった。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇支援ボランティアの高齢化、固定化が進んでおり、今後、学校（園）からの依頼内容によっては満足な支援ができないものが生じる可能性が懸念される。

〇いままで構築してきた学校園支援地域本部の「支援活動」を超えて、さらに目的を共有し長期的な双方向性のある展望を持った「連携・協働活動」となることを目指す。そのためには、学校施設のさらなる開放が必要と思われる。例えば学校農園を地域に開放し作物を自由に栽培していただきながら学校の教育課程とリンクさせて子どもたちを支援することや学校プールを地域に開放しつつ子どもたちの水泳能力向上に授業支援等で関わってもらう取り組みなどが考えられる。また、防災拠点となっている学校で子どもたちが地域の方と一緒になって模擬避難訓練（防災キャンプ等）を行うことができる。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

〇学校運営協議会で熟議した内容（どんな子どもに育ってほしいか、子どもの健やかな成長に地域はどう関わるか等）を地域学校協働本部でいかに具現化していくか検討を加えたい。

■「支援」から「連携・協働」に向けて

（ ○ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

豊郷町における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ □地域学校協働本部 ■地域未来塾 ■放課後子ども教室 □土曜日の教育支援

■目指す姿

［地域未来塾］

・地域の力を活かし、町内の中学校に通う子どもたちの基礎学力を高め、全体の学力向上を目指す。

［放課後子ども教室］

・地域の力を活かし、町内の小学校に通う子どもたちの基礎学力を高め、全体の学力向上を目指す。

・町内の小学生を対象に、学校・学年が違う子たちや地域の方と関わり、様々な体験活動をすることで、生きる力や協同する大切さを学ぶ。

■本年度の具体的活動

［地域未来塾］

(1) 夏季休業中の学習補充教室

３～４名のグループに１名学習支援員を配置し、生徒どうしの教え合いの補助や学習指導を行う。

(2) 放課後質問教室

受験に向けた家庭学習でのつまずきを解消するため、放課後に質問教室を行った。

［放課後子ども教室］

(1) 小学校夏季休暇中の学力補充教室

復習プリント等で、子どもたちがわからないところを教員やボランティアが個別に指導し、課題の採点などを行った。また、教室の最終日に「科学実験教室」を実施し、理科分野に関する興味や関心を高め、理解を深めた。

(2) さとっこふれあい教室・とよっ子探検隊（全５回）

さとっこ（１～３年生）・とよっ子（４～６年生）に分けて募集し、事業を行った。さとっこは30 人の定員を設けて募集し、地域の方を講師として迎え、料理や生け花、絵手紙などの活動を行った。とよっ子は各回 20 名の定員を設けて募集し、博物館や水族館などで体験活動を行った。

■本年度の成果

［地域未来塾］

・放課後に地域の方や学生に来ていただくことで教員の負担軽減につながった。

・既習内容の復習を中心に学習することで、２学期の学習がスムーズに進められた。

・回を重ねるごとに放課後に学習をして帰るというスタイルが徐々に定着してきた。

［放課後子ども教室］

・夏季休業中の学力補充教室では、長期期間中に実施することで、休業中の児童の様子を把握したり、生活リズムの改善につなげたりすることができた。

・とよっ子探検隊・さとっこふれあい教室では、学校や学年の違う子どもで班活動を行うことで、普段関わらない児童と交流を図ることができた。また、体験活動を行うことで、「知ること」「学ぶこと」の楽しさを実感している子が多くみられた。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

・地域の方に事業の協力をお願いしているが、年々確保が難しくなっている。

・地域の教育力の低下および家庭の教育を支える環境不足が課題で、家庭や地域が担うべき教育が学校に持ち込まれすぎている。

・参加希望者が固定されつつあるため、参加したことのない子へのアプローチが必要。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

委嘱していない。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

学校評議員を委嘱しているが、学校運営協議会は導入していない。

【さとっこふれあい教室の様子】

小グループを利用したサポート学習への取組

豊郷町	活動名：豊日中学校地域未来塾 （夏休み学習補充教室・質問教室、放課後質問教室）	豊日中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要

［地域未来塾］　年間開催日数：20 日　地域学校協働活動推進員：１人（兼務１人）　平均参加人数：10 人

・学習形態　：　■個別の学力補充　□教材を使って一斉学習　□その他（　　）

・教室の持ち方　：　■放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）

・学習支援員等人数　：　学習支援員８人　協働活動支援員０人　協働活動サポーター０人

・学習支援員等の属性　：　□企業人　□行政職員　□元教員　■大学生　■地域住民　□NPO 等関係者　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

〇全学年を対象に、以下の点に重点を置き取り組んでいる。

３年・進路実現に向けて、基礎・基本的な内容を重点的に学習することによって、基礎学力の定着を図る。

・質問教室を実施することによって、受験に向けた家庭学習でのつまずきを解消する。

２年・夏休みの宿題を仕上げることと、確認テスト対策を行い、達成感を味わえるように心がけた。

・質問教室では、学習習慣の定着を図るため、場所と時間の確保を行い、宿題を仕上げるように指導した。

・定期テスト前の放課後に、授業の内容の定着と学力向上を目的として、自主学習の教室と、質問教室の教室を設定した。

１年・夏休みに、指名制の補習、希望制の質問教室を実施した。補習は、学習習慣の確立と基礎学力の定着を目的に、数学と英語を中心に学習した。

・定期テスト前の放課後に、授業の内容の定着と学力強化を目的とした希望制の質問教室を行った。

（１）３～４名を１グループとし､学習支援員が補助する形で学習指導を行っている。また、グループ内でも生徒どうしが教え合い活動を行っている。

（２）学生、退職教員等、幅広い年齢層の支援員それぞれに進路についてのアドバイスを求めることができ、前向きに考える契機となっている。また、生徒が気軽に質問するなど積極的に学習できた。

（３）１対１の個別指導を取り入れ、学習支援員がサポートする形で教員と分担して指導した。

【放課後質問教室の様子】

■　実施に当たっての工夫

〇バッチリスタディ教室(町主催の年間を通した学力補充教室)を開催している隣保館とも連携を図りながら、地域の方や学生を募り、教員と共同で学習支援を行っている。この活動を通じて地域のつながり・きずなをさらに強化していきたい。

■　事業の成果

〇３年生の２学期に入ってから、生徒たちより放課後学習会へのニーズが高まってはいたが、放課後は部活動の指導があり、教員の確保に苦慮していた中で、退職教員や学生に来ていただくことができ、教員の負担軽減となった。

〇回を重ねるごとに、放課後に学習をして帰ろうというスタイルが徐々に３年生の生徒の中に定着してきた。

〇長期休業期間での取り組みは設定しやすく、学力向上につながり成果が見られた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇補充学習を充実させ継続していくためには、毎年、安定的に学習支援員を確保できるかどうかが課題である。町に人材バンクのようなものがあれば、もっと人材が集まるのではないかと思う。

〇学校・家庭・地域が手をとり合って、地域の宝である子どもを育てる一つのきっかけとしたい。

〇学校・家庭・地域が連携して、地域社会全体で教育支援活動していくことが大切だと考える。

〇地域の教育力の低下および家庭の教育力を支える環境不足が課題で､家庭や地域が担うべき教育が学校に持ち込まれすぎている。

〇地域の活力を教育支援活動に生かしていくことは素晴らしい取り組みである。

〇できれば、もう少しサポーターの数を確保したい。安定的に地域の方々や、学生ボランティアを確保できるかどうかが課題のように思う。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（ 〇 ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（　　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

夏季休業中学力補充教室「夏休みわくわく学習会」

豊郷町	活動名：夏休みわくわく学習会	豊郷小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［放課後子ども教室］　主な活動場所：各教室　年間開催日数：４日　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）
平均スタッフ数：15 人　平均参加人数：180 人
・活動日　：　□月　□火　□水　□木　□金　□土　□日　■長期休業中
・活動内容　：　■学習指導員を配置した学習支援　■その他の学習支援　□スポーツ　□芸術・文化　□体験活動　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

〇将来を担う子どもたちの学習意欲向上をねらいとして、町と小学校が協働して、各学年における１学期の既習内容などの復習に取り組む。１・２時間目は国語と算数のプリント学習を中心に学習する。３時間目は、自ら教科やテーマを決めて進める自主学習、あるいは百人一首や辞書を用いた学習など、各学年の状況に応じて子どもたちが楽しみながら学習できるよう工夫している。

〇１・２時間目は子どもたちが１学期学んだことの復習に取り組む。その際、わからないところを大学生などの地域のボランティアが個別に教えたり、教育委員会などからも参加していただき活動に取り組んだりしている。

〇３時間目については、各学年それぞれで読み聞かせやカルタ、百人一首など学年に応じた活動を行う。

〇最終日は長浜バイオ大学のＣＥＬＬ部を招いて「科学実験教室」を開催し、子どもたちの理科分野に対する興味や関心を高め、理解を深めている。

■　実施に当たっての工夫

〇保護者に募集案内を配るだけでなく、懇談会で担任から保護者に直接参加を呼びかけたり、事前に学習を周知したりして、児童が積極的に学習会に参加できるよう努めている。

〇国語や算数のプリント学習では、担任が事前に子どもたちが苦手な所や丁寧に確認した方がよいところの問題を選び、用意しておく。子どもたちが自分のペースで進めたり、習熟の程度に応じて一斉に授業形式で実施したりするなど工夫している。

〇子どもたちが復習プリント等に取り組むそばについて、わからないところを教員やボランティアが個別に教えたり、子どもたちが取り組んだ課題の丸つけをしたりする。

〇ボランティアのスタッフについては、当日来られてそのまま各学級に入っていただくので、事前に各担任との打ち合わせの時間をとり、スムーズに進められるようにしている。また学習会終了後もふりかえりを行っている。

■　事業の成果

〇長期休業中に実施をすることで、休業中の児童の様子を把握したり、生活リズムの改善につなげたりすることができた。

〇既習内容の復習を中心に学習することで、休業中の児童の様子を把握したり、保護者に連絡したりする機会ができた。

〇参加児童同士や担任・ボランティアとのコミュニケーションの場にもなっていて、夏季休業中でも横のつながりや学級のつながりを深められる機会となっている。

〇中学校の卒業生や地元の教員ＯＢなど、地域の方に来ていただくことで児童の学習意欲を高め、交流を深めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

〇呼びかけた児童が必ずしも全員参加するとは限らず、担任の意図と合致しないことがある。

〇希望する全ての児童が対象であるため、少人数や個別での指導が難しい。

〇この事業を継続していく中で、学習の習熟度を見て、個別指導につなげていく仕組みを検討したい。

〇地域の方を中心にボランティアの募集を行っているが、事業実施期間が大学の試験期間と重なるなど、特に学生ボランティアの確保が毎年課題となっている。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（　〇　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（　〇　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

【科学実験教室】

【百人一首】

個のつまずきに寄り添った補充教室

豊郷町	活動名：夏休みわくわく学習会	日栄小学校　学校運営協議会 ： □有　■無

地域学校協働活動概要
［放課後子ども教室］　主な活動場所：日栄小学校　年間開催日数：３日　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務１人）
平均スタッフ 30 人　平均参加人数：149 人　開始年度：平成 20 年度
・活動日　：　□月　□火　□水　□木　□金　□土　□日　■長期休業中
・活動内容　：　■学習指導員を配置した学習支援　■その他の学習支援　□スポーツ　□芸術・文化　□体験活動　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）
〇各学年における１学期の学習内容などの復習に取り組む。１・２時間目は国語と算数のプリント学習を中心に取り組む。３時間目は、自ら教科やテーマを決めて進める自主学習、あるいはカルタや辞書を用いた学習など、各学年の状況に応じて子どもたちが楽しみながら学習できるよう工夫している。
〇町内中学校の卒業生や地域の教員ＯＢを中心に役場職員、県内外の大学生、近隣の保育園・幼稚園の職員等に声をかけ、ボランティアスタッフとして児童の学習支援をお願いしている。
〇３時間目の学習では、学生ボランティアが本の読み聞かせを担当したり、日頃の生活を紹介したりして、子どもたちにとって大学生を身近に感じる活動を取り入れている。
〇３回目の最終日には長浜バイオ大学のＣＥＬＬ部の方に来ていただき、「おもしろ科学実験教室」を実施し、子どもたちの理科分野に対する興味や関心を高める活動をしている。（今年度は台風接近のため中止）

【学習会の様子】

■　実施に当たっての工夫
〇チラシの配布の他に電話や懇談会でも保護者に参加を呼びかけ、多くの子どもが学習会に参加できるように努めている。
〇国語や算数のプリント学習では、自分のペースで学習を進められるようにしている。また、習熟度に応じて授業形式を工夫している。それに、３時間目を自らテーマを決めて進める自主学習の時間にするなど、学年に応じて楽しみながら学習できるような内容で実施している。

■　事業の成果
〇１学期の既習内容の復習を中心に学習することで、各学年で２学期の学習をスムーズに始められることが多い。（あまり１学期の学習の復習に時間をかける必要なく、２学期の学習が始められる。）
〇長期休業中に定期的に学習会を実施することで、休業中の児童の様子を把握したり、保護者に連絡を取って話したりする機会となった。
〇参加児童同士や担任・ボランティアとのコミュニケーションの場にもなっていて、休業中でも横のつながりや学級のつながりを深められる機会となった。
〇中学校の卒業生や地元の教員ＯＢなど、地域の方に来ていただくことで児童の学習意欲を高め、交流を深めることができた。

【学習会の様子】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて
〇参加人数に制限のない学習会であるため、少人数や個別の指導が難しい。
〇学習面や生活面において特に指導・支援の必要な子どもが参加していないケースが見られた。
〇地域の方を中心にボランティアの募集を行っているが、事業実施期間が大学の試験期間と重なるなど、特に学生ボランティアの確保が毎年課題となっている。

■　その他（学校運営協議会との連携等）
〇ボランティアスタッフの募集は、隣保館職員が事務局となり、実施に向けての協力を得ている。
〇毎年、教育委員会や隣保館職員、そして学校職員が連携して、実施内容や今後に向けての展望を協議している。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに〇印
（　〇　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。
（　〇　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。
（　〇　）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

甲良町における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ □地域学校協働本部　■地域未来塾　□放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿

・進学に向けて、自主的に学ぼうとする意欲をもつ。
・学習課題に粘り強く取り組み、課題を解決しようとする。
・学生講師とのふれあいを通して、自身の進路に対する希望や積極的な気持ちをもつ。

■本年度の具体的活動

中学３年生の希望する生徒を対象に、放課後、学生等を講師とした学習会を行った。期間は 10 月～翌年２月で、週に１回程度、１回につき２時間程度実施した。参加する生徒の人数は日によって様々であったが、教師の呼びかけに応じて、概ね半数（約 30 名）の生徒が参加した。

■本年度の成果

・家庭での学習に落ち着いて取り組むことができない生徒が多く、学力の定着が課題となっていたところであるが、この取組により、落ち着いて学習することの良さを知った生徒が多くいた。
・学生とのふれあいを通して、先輩にあこがれ、将来への希望や展望をもつ生徒が増えた。
・学生の支援により、自分が苦手とする学習課題にも粘り強く取り組む生徒が増えた。
・学生にとって、中学生とのふれあいを通して、地域の実情や課題、本町が目指す人権教育や生徒指導、学力向上の方針等について知る機会となった。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

・学生を講師としているが、日程が合わないなどの理由で協力を依頼するのが困難であった。
・マンツーマンでの指導が必要な場合も多く、今後、さらに大学等との連携を深め、情報を共有しながら講師を依頼していく必要がある。

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

現在は委嘱していない。地域人材に学習活動やスクールガード等の依頼をする場合は、管理職が中心となって進めている。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

本町では、現在のところ、学校運営協議会を導入している学校園はない。

今年度、ＣＳアドバイザーからのアドバイスをいただく機会を２回設け、そのうち１回は、学校園長対象の研修会として行った。研修会では、コミュニティ・スクールの制度を生かすことのよさや、各学校園で運営協議会を導入するにあたっての方法等について、具体的で身近な事例に基づいてご指導いただいた。特に、本町で取り組んでいる人権尊重の立場に立って丁寧にお話しいただき、本町の学校園の抱える課題に応じた学校園づくりのイメージを膨らませることができた。

校園長が自校園の子どもを地域の中でどう育てようとするか、そのビジョンと実行力が鍵になるため、町教育委員会としては、管理職研修会を開催し、話し合いや交流を重ねながら、学校運営協議会の導入を進めていきたい。また、地域に向けても、区長会等の場で地域連携のよさを説明し、さらに協力を呼びかけていきたいと考えている。

学力向上を目指す放課後学習会　学生チューター招聘事業

甲良町	活動名：甲良中学校地域未来塾	甲良中学校　学校運営協議会 ： □有　■無

［地域未来塾］　年間開催日数：50 日　地域学校協働活動推進員：１人（兼務０人）　平均参加人数：15 人
・学習形態　：　■個別の学力補充　□教材を使って一斉学習　□その他（　　）
・教室の持ち方　：　■放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等人数　：　学習支援員９人　協働活動支援員０人　協働活動サポーター０人
・学習支援員等の属性　：　□企業人　□行政職員　□元教員　■大学生　□地域住民　□NPO 等関係者　□その他

■　地域と学校が連携・協働した活動

２・３学期（10 月～翌年２月）に、中学３年生を対象として、平均週２日程度の放課後の時間（１～２時間）を活用した学習会を実施し、進学・受験に向けた学力の定着を図った。学習支援員として、本町や近隣市町に在住の学生を中心に招聘し、生徒からの質問に応じて、個に寄り添った学習支援活動を行った。

■　実施に当たっての工夫

・３年生には、学年集会や学級活動の場で、放課後学習の良さや方法を丁寧に説明し、参加を呼びかけた。また、学年通信等で保護者にも知らせ、生徒と一緒に考えてもらうようにした。今年度は、個々の希望により、３年生 70 名中 30 名が参加した。

・６月頃に校長が、滋賀県立大学と滋賀大学に学習支援員募集ポスターの掲示の依頼に行き、協力を求めた。ポスターを見た学生からの連絡を受け、面談を行って採用を決定した。

・学習支援員の数に合わせて、１つの教室で学習する生徒をできるだけ少人数にし、集中して学習できる環境を整えた。

■　事業の成果

・放課後学習の時間を設定したことにより、家庭学習になかなか取り組めない生徒も、集中して学習に取り組むことができた。

・年齢が近い学習支援員との気楽な会話の中で、普段は聞きにくいと感じていることも質問し、積極的に学ぶことができた。

・大学生とふれあうことで、卒業後の高校生活や大学生活、就職に希望や展望をもつ生徒がいた。先輩のようになりたいという憧れも抱き、学習への意欲につながった。

・学習支援員にとって、中学生に求められている力や効果的な指導のあり方等について考える貴重な機会となった。また、自身の中学生時代との違いに気づき、よりよい中学校生活について学生どうしで考え、語り合う姿も見られた。

【個に応じた教材を準備】

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

・今年度は、９名の学生の協力を得られたが、本校の課題である低学力の克服を目指すためには、さらに多くの支援員を招聘し、マンツーマンでの支援を行うことが必要である。

・地域総合センターとの連携をさらに密にすることが重要である。

・大学に協力を依頼し進めているが、何人の学生が応募するかがわからないため、計画が立てにくい。

【個別に丁寧に関わる】

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（　　）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（　　）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

多賀町における地域学校協働活動の取組

［取組状況］ ■地域学校協働本部　■地域未来塾　□放課後子ども教室　□土曜日の教育支援

■目指す姿

多賀町は、「まちづくり」は「ひとづくり」であるとの基本認識に立ち、「子育て教育熱心なまち」の具現化を進めている。少子高齢化・人口減少という本町の課題に対して、「住み続けたい町」「移り住みたい町」とするため、安心して子育てのできる施策を充実させ、町の活性化を図っている。

そして、地域の大人とふれあうことにより、子どもと顔見知りとなって町全体が安全で安心な空間になるよう努めている。大人と子どもが共に活動することで、大人は自分の持っている知識や経験を子どもたちに伝えることができる。子どもは大人と接することにより、地域の歴史や伝統を学び、次世代に受け継ぐことができる。そうした、互いの信頼を軸とした地域学校協働活動を目指している。

■本年度の具体的活動

（１）登録者に対するボランティア研修会の開催

①「応急手当講習」の受講、②演題「聴いていますか子どもの声を、今わたしたちにできること」の講演及び意見交換の開催で、活動のスキルアップを図った。

（２）広がりつつある活動の輪

ボランティアに参加していくうちに、「こんなこともできるから何かあったら連絡して」など言っていただき、学校や園へ紹介するなど活動が広がっている。また、口コミで紹介を受け、読み聞かせや放課後の見守り活動など少しずつ人数が増えている。

（３）「多賀町中学生土曜講座（サタスタ）」の実施

多賀町の中学生対象に希望を募り、民間の塾から派遣された講師による学習講座を実施している。町内施設を会場とした講座への参加希望は多く、できる限り受け入れられる体制整備を図っている。

■本年度の成果

（１）研修会を重ねることで、参加者のスキルアップを図るとともに、ボランティア同士の交流や意見交換が活発におこなわれるようになった。

（２）学校や園の花の手入れや学習に必要な野菜作りの下準備など、先生方の意向を聞きながら、熱心に子どもたちに関わることができた。ほぼ毎日学校に出向いて活動される方もあり、学校と地域の距離が近くなってきたと感じる。

（３）土曜講座は、中学生の学力向上を図るとともに、「地域活性化・人口増加と定着化」という本町の課題に応じた施策として評価され、町行政全体の共通認識の上に立った取組となっている。

■課題と今後の連携・協働活動の推進に向けて

（１）平日は、ボランティア登録者の活動できる人数が限られている。ＦＡＸや有線放送、紹介等を活用して、幅広く周知するなど工夫をしている。今後も学生の取り込み、保護者等への募集を行う。

（２）土曜講座へのボランティア参加者の拡充を図る。ボランティア参加者を増やすことは、学習への理解に遅れがちな受講生に対する個別支援を充実させるとともに、地域の方から期待され支えられているとの意識を持ち、町への愛着にも繋がる。

【校外学習引率に大勢の支援】

■地域学校協働活動推進員の委嘱状況

現在のところ、ありません。

■域内の公立学校園の学校運営協議会の導入状況および計画

本町では、「学校や園の子どもにとって、地域の力をどのように活用するべきか」「ボランティアなどの地域人材を活用し、開かれた学校づくりをどのように進めていくべきか」等について、ＣＳアドバイザーの指導を受け、今後の方向性を探っている。

【土曜講座での中学校長の激励挨拶】

「地域とともに多賀の子を育てよう」多賀町地域学校協働本部事業の取組

多賀町	活動名：多賀町地域学校協働本部	関係する学校　学校運営協議会 ： □有　■無 多賀小学校・大滝小学校・多賀中学校・多賀幼稚園 多賀ささゆり保育園・大滝たきのみやこども園

地域学校協働活動概要

［地域学校協働本部］　開始年度：平成 20 年度　地域学校協働活動推進員等数：１人（兼務０人）　ボランティア登録数：128 人

■学習支援員を配置した学習支援（本部内地域未来塾）　■地域未来塾以外の学習支援（授業補助、学力補充等）

■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援　■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援

■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり　□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）

□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動　□郷土学習　□その他［工作・竹馬などの遊び　ほか］

［地域未来塾］　年間開催日数：19 日（土曜講座 19 日）

・子どもの平均参加人数：36 人（土曜講座 36 人）

・学習形態　：　□個別の学力補充　■教材を使って一斉学習　□その他（　　）

・教室の持ち方　：　□放課後実施（毎週木曜日・金曜日）■土曜日実施　□長期休業日実施

・学習支援員等人数　：　学習支援員　４人（土曜講座４人）　協働活動サポーター：０人

・学習支援員等の属性　：　□企業人　□行政職員　■元教員　□大学生　□地域住民　□NPO 等関係者　■その他

■　地域と学校が連携・協働した活動（特徴的な活動）

（1）道徳学習時・環境学習の学習支援

中学校全校集会で道徳に関する絵本の読み聞かせを実施。読み聞かせ後は生徒が感想を記入し、クラスでまとめるなどの授業となった。さらに、環境委員会や、特別支援学級での生活単元学習で野菜を育てる際の指導、イチゴ苗植えの指導など、先生と連携して実施。ボランティアの方が、日々の土作りなども率先して行っている。

（2）民間の学習塾に委託して行う土曜講座での学習支援

国語・数学・英語の３教科の学習を、塾講師の指導により学年別に 50 分間ずつ行う。多賀中学校の年間指導計画に基づき、講座を行い、定期テスト前には学習の振り返りを行っている。

■　実施に当たっての工夫

（1）大滝小学校「学びっこタイム」により、さまざまな体験

宿題の後、工作やカロムなど地域の力を借りて実施。地域で活動するサークルや個人により、玉すだれ・バランスボール・よさこい・科学の実験などの体験も実施。月１回ずつパソコンでのプログラミングや英語あそびなどの学習も取り入れている。

（2）効果的な土曜講座

学習支援員以外にボランティアの方の協力を募り、個に応じた指導の充実を図った。中学校や塾との事前調整のもと開講日を決め、受講しやすい講座にした。ＦＡＸで宿題を連絡するなど、家庭学習とタイアップした効果的な学びの機会としている。

【学びっこタイム(バランスボール体験)】

■　事業の成果

（1）「学びっこタイム」では日頃体験できないことを取り入れ、児童は毎回楽しみにしている。休会中のサークルが児童のために再始動するなど、地域の活動も活発になってきた。

（2）土曜講座は、経済的に塾に行けない子どもへの学習機会となり、保護者から大変喜ばれている。また、学校と連携した指導であるため、生徒に受け入れられやすく、効果的な個別支援により自信を付けた子も多い。

■　事業実施上の課題と今後の連携・協働活動実施に向けて

（1）活動が平日に多いため、実働ボランティアが限定されてきている。幅広く募集するための工夫が必要である。

（2）土曜講座へのボランティアの関わりを増やすため、給付型奨学金の受給者や大学生に募集するなど、募集活動を活性化する。

■　その他（学校運営協議会との連携等）

年々、学校でのボランティア活動が質量ともに充実してきている。こうした地域の教育力を、現在検討中の学校運営協議会に効果的につなげていく必要がある。

■「支援」から「連携・協働」に向けて　※該当する項目全てに○印

（ ○ ）地域と学校でどのような子どもを育てていくのかという将来構想（ビジョン）や目標を共有し、双方向の連携・協働による活動ができた。

（ ○ ）地域人材を確保し、地域住民による学校を支援する活動が充実している。

（ ○ ）地域と学校が子どもの実態や課題を共有し、活動に生かすことができた。

平成30年度 家庭教育支援活動一覧

○事業実施市町および取組教育支援活動　　８市町16活動

	市町名	地域人材の養成	家庭教育支援チームの設置・活動	家庭教育を支援する取組の展開	連絡会議・ケース会議	保護者への情報提供
1	近江八幡市	○	○	○		
2	草津市			○		
3	栗東市			○		
4	甲賀市	○	○	○		
5	湖南市		○	○		
6	高島市	○	○	○		
7	日野町	○		○		
8	竜王町			○	○	○

○教育支援活動の内容

【地域人材の養成】

	市町名	講座数	習得を期待する能力	養成後の活動の場
1	近江八幡市	3	・より客観性を持った視点で現状を見る ・関係機関との連携、人材の紹介、発掘 ・研修などの企画、提案	・学校や地域施設において保護者交流や研修会等の企画 ・関係機関の情報をアドバイス
2	甲賀市	5	・手遊びや絵本読み聞かせ等のスキル ・ボランティアとしての意識向上・心構え ・子育てサポーターとしての基礎知識	・ブックスタート、園での読み聞かせ ・子育て広場等の後方支援
3	高島市	1	・家庭環境の多様化や地域社会の変化への対応	・子育て支援者や地域の民生委員・児童委員として活動
4	日野町	5	・子どもの発達や遊びについての知識 ・親子に寄り添い、子育てや家庭教育について相談に応じるための力	・親子ぷれすて、つどいの広場、子育てサロン等、親子が集う場所での支援

【支援チームの設置・活動】

	市町名	人数	年間活動日数	主な活動内容		
				学習機会の提供・コーディネート	サロン・相談対応	家庭訪問による支援
1	近江八幡市	9	221(延べ)	○	○	○
2	甲賀市	10	20(延べ)	○		
3	湖南市	5	235(延べ)	○	○	○
4	高島市	15	105(延べ)	○	○	

【支援する取組の展開】

	市町名	実施小学校区数	開催回数	活用する行事等の機会 ※1	講座の概要 ※2
1	近江八幡市	9	10	④⑤⑥	②③⑦⑪
2	草津市	4	41	④⑤	①②③⑤⑥⑦
3	栗東市	1	4	②③④⑤	①②⑥
4	甲賀市	8	39	④⑥	①③④⑥⑫⑬
5	湖南市	4	13	④⑤⑥	①②③⑤⑥⑦⑪⑬
6	高島市	13	35	④⑤⑥	①⑫⑬
7	日野町	5	36	②⑤⑥	③⑦⑬
8	竜王町	2	6	⑤⑥	②③⑤⑪⑬

※1　①乳幼児健診　②就学時健診、③入学説明会　④保護者会、参観日　⑤PTA研修会等　⑥単独開催

※2　①発達段階の特徴や親の心得　②保護者同士の交流や子育てに関する意見交換会　③生活習慣、食育　④遊び、運動
⑤仕事と家庭の両立や親子のコミュニケーション　⑥道徳心・思いやり、命の大切さなど心の育成　⑦インターネットや携帯電話等　⑧お小遣い・消費生活
⑨いじめ、不登校、非行、問題行動の対応　⑩虐待　⑪子育て・家庭教育への男女共同参画　⑫乳幼児とふれあい　⑬その他

平成30年度事業計画書等より

近江八幡市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

本市にも、三世代以上が同居している家庭、核家族家庭、単親家庭など様々な家庭がある。その中で地域に根ざした生活をしている家庭もあれば、周りとの関係性が少なかったり、孤立傾向にあったりする家庭も少なくない。そして、経済的に厳しい家庭や、就労形態が子育てのしにくさにつながる家庭、子どもとの関わり方に困難を感じている家庭、子どもの特性を親だけで抱え込み、しんどい思いをしている家庭も存在する。また、「～してはいけない。」と感じる環境の中で、子育てのしにくさを感じている親もいるようである。そのような中、不安や悩みを抱えたまま子どもと向き合う保護者もみられる。保護者自身が抱える課題も多岐にわたり、関係機関との連携が不可欠となる深刻な場合も少なくないが、誰かが少し寄り添い話を聞くことで不安や悩みを軽減できる場合がある。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

小学校、地域での子どもや保護者の様子を共有した家庭支援チームが、気軽に相談や話を聞く場をつくり、保護者の支援の一助となるようにする。それにより、家族や地域で生きにくさを感じている保護者の不安や課題を軽減できるようにする。そのことをとおして、安定した子育てにつながるようにする。

【１学期市子育てサロン】

■本年度の活動

（１）市内９小学校における家庭支援チームによる活動の展開

・定期的な支援チームでの情報共有会議

・保護者対象の子育てに関する講座の実施

・各学期の参観行事や懇談会時におしゃべりサロンの実施

（２）市子育てサロンの実施と家庭支援員の交流

・各学期１回ずつ、市内小学校および５歳児の保護者対象の子育てサロンの実施（１・２学期は小学校対象、３学期は５歳児の保護者と小学校一部学年対象）、終了後のふり返りと、小学校等への概要報告

【終了後のふり返り】

■本年度の成果

・９小学校で実施し、共に活動する機会ができ支援員同士の交流が各校での活動に生かされている。

・市子育てサロンを実施していく中で、回を重ねるごとにサロンの運営もスムーズになり、様々な悩みを聞くことができた。また小学校区を越えて同じ悩みを抱える親同士をつなぐこともできた。

・各小学校における家庭支援チームの取組も少ない時間の中で少しずつ工夫が見られる。

■今後の課題

・市子育てサロンの周知方法と表面化した保護者の悩みの解決に向けた取組の展開の仕方。

・家庭支援員の未配置校への働きかけと家庭支援員のサポートや学校との関係性のつくり方。

・家庭支援員との関係を持ってほしい家庭へのアプローチの方法。

・本事業と市の他課事業との連携や位置づけをどのようにしていくか。

小学校は家庭教育支援のプラットホーム

近江八幡市	
活動内容 ■ 地域人材の養成 ■ 家庭教育支援チームの設置・活動 ■ 学習講座・行事の実施 ■ 連絡会議・ケース会議の設置、運営 ■ 保護者に対する情報提供	
講座数（年間活動日数）	51 講座（51 日）

家庭教育支援チーム数 家庭教育支援員数 子育てサポーター等	（ 9 ）チーム （ 9 ）人 （ 12 ）人
実施開始年度 (H21 年度)	実施学校区数 （9小学校区）

■ 活動の具体的内容

〇地域人材の養成

家庭教育支援員の資質向上や情報交換のため、県主催研修会の案内や、市子育てサロンの場を研修の一つとして考えている。

〇家庭教育支援チームの設置・活動

各小学校に、校長、教頭、教育相談担当、生活指導担当、主任児童委員、家庭教育支援員等を構成員とする家庭教育支援チームを設置し、学校からの指示や助言を得ながら情報を共有し、家庭教育支援活動を行えるよう努めている。また各学校の状況に応じた活動を行っている。

〇学習講座・行事の実施

家庭教育支援員が、家庭教育支援チームの一員として学校と密に連携しながら、各小学校で保護者の交流の場や教育講演会、各種行事などを行っている。市教委は、支援員対象の研修会や会議等を開催している。

〇連絡会議・ケース会議の設置、運営

月１回程度、家庭教育支援チーム連絡会をもち、チーム内あるいは地域と情報を共有し保護者への対応や日々の児童理解や支援・指導に生かしている。より深刻なケースは、各機関と連携し、訪問教育相談員やSCの教育相談、福祉のケース検討会等へつなげることもある。コミュニティセンターや民生委員等とも連携し、児童の家庭状況等の把握と見守りネットワークづくりに努めているチームもある。

〇保護者に対する情報提供

講演会の案内や開催する講座に沿ったテーマの情報提供や、家庭教育支援員が受けた講演内容の提供をしている。子育てサロンなどの案内も随時行っている。

【親子活動「親子おにぎりづくり」】

■ 特徴的な活動内容

〇保護者と家庭教育支援員等が子育てについて気軽に話せる座談会（ほっこりカフェ）
〇子育てコーディネーターや家庭教育相談員を招いた子育てサロン
〇保護者対象のテーマを設けた講演会や学習会
〇親子活動としての料理教室や、ものづくり教室、映画鑑賞会、学習会
〇親子、地域、学校が連携した行事
〇各校の家庭教育支援員と、市職員の企画による「市子育てサロン」の実施。

【子育て講演会】

■ 実施に当たっての工夫

〇保護者が多く参加する行事で、本事業のPRをするようにした。
〇家庭教育支援員と学校の窓口を１本化することで、学校内での連携をスムーズにした。
〇事業のネーミング、堅苦しくならない環境、実施曜日や時間帯の設定を工夫した。
〇親子で一緒にできる活動を取り入れるようにした。
〇家庭教育支援員、SSW、学校の職員、相談員など、それぞれの内容で相談がしやすい環境を設定した。
〇出向きやすいように、地域のコミュニティセンターや子どもセンターを利用した。
〇子どもの小学校区では参加しにくかったり、家庭教育支援員の配置が無い小学校の保護者も対象にしたりするため市全体の保護者対象に「市子育てサロン」の開催をした。（年３回）

■ 事業の成果

〇地域をよく知る家庭教育支援員や、子育てサポーターのかかわりで、保護者の状況に合わせた支援ができた。
〇コミュニティセンターをはじめ地域の方の参加もできる講座ができたところもある。
〇保護者のサロンへの参加人数は少ないものの、相談や話し合いなどは充実してきている。

■ 事業実施上の課題

〇家庭教育支援員チームが効果的に機能するためには、連絡調整がかなり必要である。
〇サロンや子育て相談から次の段階への連携方法を考えていかなければいけない。
〇このような事業に参加しにくい保護者への働きかけの方法を考えていく必要がある。

草津市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

本市は、市制施行（昭和 29 年）より一貫して人口が増加し、子育て世帯や核家族、転入される子育て世帯も多数みられる。こうした中、家庭環境の変化や地域における人間関係の希薄化などから、子育てに悩む保護者も多く、家庭での子どものよりよい生活習慣を身につけるため、社会的ニーズにあった家庭教育支援を推進していく必要がある。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に家庭教育の重要性を改めて認識してもらうため、広く情報提供を行うとともに、身近な地域において、すべての保護者が安心して家庭教育を行えるよう、学校や関係部局等と連携し、保護者への学習機会の提供を実施することにより家庭教育の推進を図る。

■本年度の活動

（１）家庭教育学習事業費補助金

家庭の教育力の向上のため、家庭教育に直接関わりのある市立幼稚園・こども園、小学校、中学校の各単位ＰＴＡに対して、子どもたちを取り巻く現状や課題・解決方法、子育ての手法、保護者同士のつながりの中から生まれる学習等の家庭教育学習事業に対して、補助金を交付することで各単位ＰＴＡにおける特色のある家庭教育学習事業を支援。

（２）家庭教育出前講座

家庭で子どもが心豊かに成長し、よりよい生活習慣を確立するため、各単位ＰＴＡや地域住民と一緒に考える場として、市職員が出向いて実施する「家庭教育出前講座」を関係部局と連携して実施。

（３）家庭教育サポート事業

家庭教育に関する保護者向けの学習機会を提供することにより、家庭における教育力の向上を目指す取り組みを実施。学校と連携した保護者のニーズにあったテーマでの学習会の実施や、１歳６ヵ月の乳幼児健診の場を活用し、乳幼児期からの家庭読書の大切さについての啓発を図書館と連携して実施。

（４）家庭教育に関する情報発信

市広報誌において、家庭教育に関することをテーマに掲載し、家庭教育の大切さを啓発。また、家庭教育サポート事業実施時は、テーマにあったチラシや資料を配布することで情報発信を行う。

■本年度の成果

家庭教育サポート事業について、各小学校と連携し、保護者の集まる機会を利用して、家庭教育に関する講座を実施することにより、ＳＮＳの危険性や家読の大切さなどを啓発することができた。

また、福祉部局および図書館と連携した乳幼児健診の場を活用した家庭教育支援を実施したことにより、家庭教育に関心が薄い保護者への啓発に取り組むことができた。

■今後の課題

・家庭教育学習出前講座のメニューの見直しや活用促進
・家庭教育サポート事業のカリキュラムの充実
・家庭教育講座等に参加することが難しい保護者に対する学習機会の創出

草津市家庭教育サポート事業　～コミュニケーションで育む家庭の力～

草津市	
活動内容 □ 地域人材の養成 □ 家庭教育支援チームの設置・活動 ■ 学習講座・行事の実施 □ 連絡会議・ケース会議の設置、運営 □ 保護者に対する情報提供	
講座数（年間活動日数）	６講座（41 日）

家庭教育支援チーム数 家庭教育支援員数 子育てサポーター等	（　１　）チーム （　０　）人 （　０　）人
実施開始年度 （H26 年度）	実施学校区数 （７小学校区）

■　活動の具体的内容

〇学習講座・行事の実施

家庭で子どもたちが基本的な生活習慣や善悪の判断をはじめとした生きる力の基本となる能力を身に付けるため、保護者向けの学習機会の提供や情報発信することにより、家庭の教育力の向上を図るとともに子どもとのコミュニケーションの大切さを啓発。

・各小学校と連携して、授業参観や学校行事等の保護者が集まる機会の前後に保護者のニーズにあった学習会を実施

・月に３回ある１歳６カ月の乳幼児健診の場を活用し、乳幼児期からの家庭読書の大切さを啓発する「絵本 de うちどくサポート広場」を実施

■　特徴的な活動内容

〇学校と連携した家庭教育サポート事業

＜今年度実施したテーマ＞

・図書館司書による講話「絵本の見かた楽しみかた」

・少年センター職員や滋賀県警によるインターネットトラブル防止に関する講演

・外部講師を招いた子どもの自尊感情に関する講座

「子どもの意欲を引き出すコツ－怒るのに疲れたアナタへ－」他

【インターネットトラブル防止講演】

〇１歳６ヵ月の乳幼児健診の場を活用した家庭教育サポート事業

＜絵本 de うちどくサポート広場＞

・健診の待ち時間に読み聞かせの啓発ＤＶＤを上映

・たくさんの絵本を展示し、親子で絵本に触れてもらう

・月の最後の健診時には、図書館司書による読書相談を併せて実施

・乳幼児期からの家庭読書に関する啓発チラシを受診者全員に配布

【絵本 de うちどくサポート広場】

■　実施に当たっての工夫

〇学校と連携した家庭教育サポート事業においては、小学校との連携を強化し、保護者のニーズにあったテーマで学習会を実施できるよう調整。

〇乳幼児健診の場を活用した家庭教育サポート事業においては、たくさんの絵本を展示することで子どもの関心を惹き、また、読書に関心の低い保護者に対しては、家読の案内チラシを配布し、口頭で説明を行った。

■　事業の成果

〇参加者アンケートでは、「もう一度、家にある絵本を子どもと一緒に開いてみようと思いました。（家庭読書）」や「親子のコミュニケーション、信頼関係が大切だと思いました。便利なこともあるけど、危険なこともいっぱいあるということを、スマホなどを持たせる前にしっかり伝えたいと思います。（情報モラル教室）」、「話を聞き、子どもの話をよく聞いてあげようと思いました。（自尊感情）」などの感想をいただき、どのテーマでも家庭でのコミュニケーションの大切さを啓発することができた。

■　事業実施上の課題

〇学校と連携した家庭教育サポート事業では、開始から５年が経過するため、同一の内容ばかりとならないように、講演のテーマや内容を更に充実させる必要がある。また、小学校の負担を軽減することにより、より多くの学習機会を提供できるよう、実施方法の見直しについて検討する必要がある。

栗東市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

地域のつながりの希薄化に伴い、子どもとのコミュニケーションやしつけに戸惑いや行き詰まりを感じながら、一人で悩んでいる保護者は少なくない。当然校園に相談されることはあるものの、支援が必要な家庭があまりにも多く、十分には対応しきれないというのが現状である。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

家庭と地域・学校をつなぎ、地域の身近な幼児園、小中学校等に情報提供や相談対応を専任で行う家庭教育支援員を配置することで、家庭での教育力を支え、基本的な生活習慣の定着を促進し、感謝の心や規範意識・道徳性の芽生えを育み、生涯にわたる「生きる力」の基礎を培うことを目指す。

■本年度の活動

（１）ＰＴＡ教育講演会（人権研修会）での講演会

日時：平成 30 年 11 月 20 日（火）　会場：治田東小学校

「子どもとのコミュニケーションについて考えよう」をテーマに講演。30 名の保護者が熱心に受講した。具体的な事例をもとに、子どもと接する時に家庭で大切にしたいことについて交流。終了後には、個別での相談も受けた。

（２）就学時健診での「子育て相談窓口」の開設

就学時健康診断では、子育てに悩んだ時には相談できる人や体制があるということを呼びかけ、「子育て相談窓口」を開設した。

（３）校内適応指導教室における支援・保護者相談

対象児童５名を中心に支援。送迎時に保護者に声をかけ、相談や助言を行った。その日の児童の様子や気になる言動を記入した日誌をもとに家庭教育について振り返ったり、学校とのつながりをつくったりした。

■本年度の成果

どんなところを家庭で育てていくのか、学校との連携はどのように図っていけばよいのか。家庭教育支援員が、じっくりと話を聞き、助言を行うことで、保護者は安心し、適切に子どもに関わることができた。また、学校と情報を共有することで子どもへの支援を効果的に行うことができた。

■今後の課題

家庭教育についての講演や相談会の回数をさらに増やし、たくさんの保護者に学んだり交流したりする機会を提供していく必要がある。参加につながる周知方法についても、検討していきたいところである。

家庭の教育力アップをめざして　～栗東市の家庭教育支援～

栗東市	
活動内容 □ 地域人材の養成 □ 家庭教育支援チームの設置・活動 ■ 学習講座・行事の実施 □ 連絡会議・ケース会議の設置、運営 ■ 保護者に対する情報提供	
講座数（年間活動日数）	４講座（現在 29 日）

家庭教育支援チーム数 家庭教育支援員数 子育てサポーター等	（　０　）チーム （　１　）人 （　０　）人
実施開始年度 （H30 年度）	実施学校区数 （１小学校区）

■　活動の具体的内容

〇学習講座・行事の実施
　家庭教育支援員が、学校と密に連携しながら、小学校での研修会や保護者の交流の場、教育講演会などにおいて、子どもたちを取り巻く課題・解決法、子育て等について啓発した。

〇保護者に対する情報提供
　主に学校便りにおいて、家庭教育支援員の紹介をしたり、講演会の日程や内容について知らせたりした。また、子育てについて悩んだときは、いつでも相談することができるということをお便りや掲示により常時発信した。

【ＰＴＡ教育講演会（人権研修会）】

■　特徴的な活動内容

〇就学時健診での「子育て相談窓口」の開設
　就学時健康診断では、子育てに悩んだときには相談できる人や体制があるということを呼びかけ、「子育て相談窓口」を開設した。

〇校内適応指導教室における支援・保護者相談
　保護者による送迎時に、児童の様子をもとに、家庭教育について振り返ったり、学校とのつながりが円滑にできるための手立てについて助言したりした。

■　実施に当たっての工夫

〇ＰＴＡ教育講演会（人権研修会）では、テーマを「子どものコミュニケーションについて考えましょう」というテーマで話され、保護者は具体的な子どもの姿から家庭で大切にしたいことについて学ぶことができた。講演や研修での様子については学校便りで広く知らせ、次回への参加を促した。

〇就学時健康診断では、来年度就学を予定している保護者に向けて、学校生活をよりよく送るために、子育てに悩んだときには相談できる人や体制があるということを呼びかけ、「子育て相談窓口」を開設した。基本的な生活習慣を整えるなど、就学までの数ヶ月に家庭でできることについて助言するなど、就学前からの支援を行った。

■　事業の成果
〇相談会では家庭教育支援員が、じっくりと話を聞き、助言を行うことで、保護者は安心し、適切に子どもに関わることができた。

〇研修会や相談会を通じて、学校と情報を共有することで子どもへの支援を効果的に行うことができた。

■　事業実施上の課題
〇福祉部局との連携をどう深めていくかということが課題である。

〇家庭教育についての講演や相談会の回数をさらに増やし、たくさんの保護者に学んだり交流したりする機会を提供していく必要がある。参加につながる周知方法についても、検討していきたいところである。

甲賀市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

園や小学校に出向く子育て親育ち講座では毎回参加者から好評をいただいている。しかし講座と聞くと敬遠するのか、参加されない保護者も多い。そのため講座を参観と参観の間に組み込んだり、親子向けの内容にしたり各自で工夫している。

子どもとの向き合い方や自身の育児に悩む人は多いが、日々の忙しさから見つめなおす時間がなかなかないのではと感じる。

学童期以上の保護者が、身近で気軽に悩みや話を聞いてくれる場所が少ない。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

家庭教育サポーター、ブックスタートサポーターの育成・登録・活動により、地域の家庭教育支援の意識を高め、市と地域が協力して子育て世代のサポートができるようにする。

子どもにとって家庭が一番安心できる場所でいられるように家庭の軸である父親や母親（時には祖父母）に働きかけ、子どもが親から愛されていると感じ自尊感情を高めていける家庭教育支援を目指す。

■本年度の活動

（１）ブックスタート事業（年間 30 回）
（２）園での読み聞かせ活動（月１回 18 園実施）
（３）ブックスタートサポーター養成講座（２講座１見学）
（４）いきいき孫育て講座（３講座）
（５）子育て親育ち講座（園・小学校）（保幼 14 園実施予定）
（小学校５校実施予定）

【ブックスタートサポーター養成講座】

■本年度の成果

ブックスタート事業は最初の対象児が今年９歳となる。保幼園でのアンケートでも「読み聞かせを始めるきっかけになった」「どのような絵本を選んだら良いかわからなかったのでちょうど良かった」との意見が多く、今後もこの事業を続けてほしいかとの質問では「ぜひ続けてほしい」が 96%を超えていた。

「いきいき孫育て講座」の開催を毎年心待ちにしているという参加者もおられた。

■今後の課題

同じテーマでの開催が多く、保護者のさまざまな悩み解決や子育てサポートにつながるような新規テーマや講師の開拓が必要である。

講座開催の日時設定において、共働き家庭や働く祖父母世代が増加していることから、土日の開催を検討する必要がある。

【子育て親育ち講座（食育）】

“親力”アップをめざして　～甲賀市の家庭教育支援～

甲賀市	
活動内容 ■　地域人材の養成 ■　家庭教育支援チームの設置・活動 ■　学習講座・行事の実施 □　連絡会議・ケース会議の設置、運営 □　保護者に対する情報提供	
講座数（年間活動日数）	５講座（24 日） ※ブックスタート関連事業は除く

家庭教育支援チーム数 家庭教育支援員数 子育てサポーター等	（　１　）チーム （　１　）人 （ブックスタートサポーター40 家庭教育サポーター10、計 50）人
実施開始年度 （H23 年度）	実施学校区数 （16 小学校区）

■　活動の具体的内容

〇地域人材の養成
　ブックスタートサポーター養成講座(全３回うち１回実地見学)
　園での読み聞かせ活動サポーター研修(年１回)
　家庭教育サポーター研修(年１回)
〇家庭教育支援チームの設置・活動
　子育て支援センターでのサポート
〇学習講座・行事の実施
　いきいき孫育て講座(全３回連続講座)
　子育て親育ち講座小学校(８校枠うち５校程実施予定)
　子育て親育ち講座保幼園(27 園枠うち 14 園実施済みまたは予定)
〇連絡会議・ケース会議の設置、運営
　ブックスタートサポーター会議(年１回)
　園での読み聞かせ活動サポーター会議(年３回)
　家庭教育サポーター会議(年３回)
〇保護者に対する情報提供
　「らっこだっこぎゅっと」チラシ発行(年間版)
　ブックスタートでの配布物

【いきいき孫育て講座】

【ブックスタート事業】

■　特徴的な活動内容

〇いきいき孫育て講座(全３回)
　それぞれの発達段階に応じた孫との接し方・親世代の援助の仕方について
　資料やふれあい遊び・紙芝居や絵本を通して学ぶ。
〇子育て親育ち講座
　園の参観や学校での参観・授業で、親もしくは親子で一緒に家庭教育について学ぶ。
　テーマは食育・命の大切・運動・ふれあい・絵本の読み聞かせの大切さなど。

■　実施に当たっての工夫

〇「いきいき孫育て講座」に毎年参加される方がおられるので、講師にその旨を伝え基本は押さえながらも新しい内容を入れてもらえるようにしたり、あるいは講師をかえ、異なる視点から講話をしていただいている。
〇「子育て親育ち講座」では園や小学校の要望に応じて講師を紹介しているが、昨年度の実績だけではなく新しい講師にも来ていただけるように情報収集している。

■　事業の成果

〇アンケートでは「子どもの(孫の)見方が変わった。失敗してもいいと伝えたい。」「自尊感情を育てるかかわり方がどんなに大切かわかった。」「今と昔の子育ての違いがわかって良かった。」「このような講座をもっとしてほしい。」などの感想だった。
　講座終了後も講師に個別に質問や相談をされる方がおられた。(いきいき孫育て講座)
〇どの講座も参加した保護者からはとても好評である。毎日の子育てを見つめなおす良いきっかけとなり、保護者自身も気持ちが軽くなっておられる方が多い。(子育て親育ち講座)

■　事業実施上の課題

〇開催場所や日の決定において、働いている祖父母世代からは土日にして欲しいとの要望があった。(いきいき孫育て講座)
〇参加しにくい保護者への働きかけ。(子育て親育ち講座)

湖南市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

核家族化や地域社会のつながりの希薄化等を背景として、子育ての悩みや不安を抱えたまま保護者が多忙で孤立してしまうなど、家庭教育が困難な現状がある。ひとり親家庭の増加や貧困など、家庭教育を行うことが困難な社会で、家庭環境が多様化し、子どもが学校生活に容易に適応できないといった状況を抱える家庭が増えている。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

保護者自らが家庭教育の主体であるという意識を持ちつつ、地域をはじめとしたさまざまな人とのつながりの中で、一緒になって家庭教育を行っていく。連携・協働の関係により家庭教育支援に取り組むことで、家庭教育支援に関わる者の学びの深まりと成長を促す。孤立した子育てではなく、他の子育てを知り協働することで子育てに幅と広がりが生まれ、子どもの育ちを豊かにする。

■本年度の活動

（１）家庭教育支援チームの設置・活動

①菩提寺小学校…チーム名「ほっとルーム」…チームによる支援

コーディネーター（支援員）１名　　子育てサポーター２名

・不登校傾向や教室に入れない児童の保護者支援（平成 12 年～児童支援から実施）

・保護者等を対象に毎週水曜日 13：00～15：00『菩っこはうす』で「ほっとサロン」を開設

②三雲小学校…「みくもっ子支援委員会」への位置付け　広義のチームによる支援

コーディネーター（支援員）２名…保護者の信頼を受け、家庭へ「訪問型支援」を実施

・不登校傾向児童や支援の必要な保護者とのつながりをつくる個別対応と、訪問型による保護者支援

③石部小学校…チーム名「さんぽ」…チームによる支援

コーディネーター（支援員）１名

・保護者の日頃の悩みを少しでも取り除けるような交流の場での支援

・保護者対象に毎月２～３日『石部小コミュニティ・ルーム』で子育てサロン「さんぽ」を開設

④菩提寺北小学校…チーム名「あすなろカフェ」…チームによる支援

コーディネーター（支援員）１名

・子育ての不安や日頃の悩みなどを気軽に話せる場での支援

・保護者対象に月３回 10:00－12:00 または午後 13:00－15:00　『あすなろハウス』で「あすなろカフェ」を開設

・開設曜日、時間を固定しない

・学習参観日での開設

（２）学習講座・行事等の実施　【子育て講演会の開催】

平成 30 年 11 月 21 日(水)　石部小学校　会場：石部小学校会議室

講演：「片付け講座」　講師：坂根 陽子 氏

平成 30 年 11 月 29 日(木)　菩提寺北小学校　会場：菩提寺北小学校会議室

講演：「親と子のかかわり方講座」　講師：福田 純子 氏、松下 裕子氏

■本年度の成果

・保護者等の子育ての不安や日頃の悩みを気軽に話せる場、保護者同士が趣味を広げ交流を深める場、市職員を招いて専門的に対応いただく場などを開設し、より有効な相談態勢を工夫できた。

■今後の課題

・今後も専門的な知識や技能、豊富な実践経験のある講師を招いて子育て支援につながる魅力ある講座等を企画し、多くの人に提供していきたい。また、新たな支援員の育成に努めていきたい。

【菩提寺北小：親と子のかかわり方講座】

【石部小：片付け講座】

保護者と子どもに寄り添い見守り続ける湖南市の家庭教育支援

湖南市	
活動内容 □ 地域人材の養成 ■ 家庭教育支援チームの設置・活動 ■ 学習講座・行事の実施 □ 連絡会議・ケース会議の設置、運営 □ 保護者に対する情報提供	
講座数（年間活動日数）	４講座(16 ～50 日)

家庭教育支援チーム数 家庭教育支援員数 子育てサポーター等	（ ４ ）チーム （ ５ ）人 （ ２ ）人
実施開始年度 (H24,26,27,28)年度	実施学校区数 （４小学校区）

○家庭教育支援チームの設置・活動

＜菩提寺小学校＞　毎週水曜日午後「ほっとサロン」の開設

■　活動の具体的な内容

「ほっとルーム」のメンバーを中心に、子育てや親子間の悩みや心配事を一緒に考える居場所づくり、仲間作りの手助け、子どもの寄り添い支援の活動を行っている。

■　特徴的な活動内容

活動拠点の『菩っこはうす』において、学校課業日の毎週水曜日の午後、主に保護者を対象に「ほっとサロン」を開設。

支援員が学校と家庭をつなぐ役割も担っている。

市保健師を招いて専門的に支援いただく日を設定した。

【市保健師を囲んで
シニア世代孫育てについて】

■　実施に当たっての工夫

毎週水曜日の午後に「ほっとサロン」を開設しているため、保護者等が行きたい時にいつでも行ける場所になっている。支援員だけでなく以前から「寄り添い支援」で関わりのあった方に子育てサポーターとしてサロンの運営を手伝ってもらい、寄り添う児童の様子を担任に伝え、家庭へと情報が行くようにしている。

■　事業の成果

子どもが小学校を卒業しても、支援員に今の子どもの状況を話したり相談したりと、「ほっとサロン」を訪ねてくれることがあり、つながりが続いている。開催日に、下校途中の児童が『菩っこはうす』に立ち寄る束の間のふれあいは支援員と児童との交流も生まれている。

■　事業実施上の課題

子育ての悩みを相談できる場としての「ほっとサロン」の認知度をさらに上げていきたい。また、新しい支援員の育成が必要である。

＜三雲小学校＞　「訪問型家庭教育支援」の地道な継続

■　活動の具体的な内容

「みくもっ子支援委員会」の中に位置づけた家庭教育支援。

支援員が登下校の見守り、校内外での児童や保護者とのかかわりを長期にわたり継続。不登校傾向児童や支援の必要な保護者とのつながりをつくる個別対応と、訪問型による保護者支援を２名の支援員が活動を行っている。

■　特徴的な活動内容

「子育て応援学習講座」を参観日に設定し、乳幼児が一緒でも参加できる態勢をつくり、この講座の開催により多くの保護者とかかわる活動ができるようにしている。

■　実施に当たっての工夫

児童の支援にあたっては、学校、学童保育所、市子ども政策課、地域総合センターとの連携を図り、情報を共有することで支援体制を充実させている。

■　事業の成果

地道な活動を継続してきた中で、保護者からの相談を受け、地域での放課後の居場所づくりを始めるなど、活動場所が校内から地域へと広がりつつある。

■　事業実施上の課題

訪問型支援では信頼される支援者の確保と継続などが必要。

＜石部小学校＞月２～３回子育てサロン「さんぽ」の開設

■　活動の概要

地域の協力を得て、保護者の悩みを少しでも取り除けるような交流の場、子育てサロン「さんぽ」を開設（石部小学校コミュニティルーム）。保護者へ子育て学習の機会を提供している。

■　特徴的な活動内容

子育てサロン「さんぽ」の設置(毎月２～３回)

子育てサロンの案内を毎月作成し、発信。

『すきすき週間』子どもとの会話、スキンシップの奨励

家庭教育支援アンケートで保護者の思いやニーズの把握。

■　実施に当たっての工夫

子育てサロン「さんぽ」は、保護者同士が趣味を広げ交流を深められる、誰もができる作業や活動を進めながら行う中で、温かい雰囲気づくりを心がけている。

＜菩提寺北小学校＞月３回「あすなろカフェ」の開設

■　活動の具体的な内容

子育てに対する不安や日頃の悩みなど、お茶を飲みながら気軽に話せる場「あすなろカフェ」を開設。毎月曜日、時間を変動させたり、参観日に開設したりするなど誰でも訪問しやすいように工夫している。(会場：菩提寺北小『あすなろハウス』)

■　特徴的な活動内容

年１回は家庭教育講座で講師を招いて参加型で開催。

■　事業の成果

「あすなろカフェ」の認知度が少しずつ上がり、開設日以外にも、声をかけてくださり相談を伺う機会が増えた。入学前の保護者が訪ねてこられ悩みを相談されるケースも出てきた。

○学習講座・行事等の実施

■　活動の概要

保護者等が子育て等について学ぶ機会を提供している。

■　特徴的な活動内容(代表的な事例)

平成 30 年 11 月 29 日(木) 9：45～11:00

・場所：菩提寺北小学校会議室

・講師：親と子かかわり方教室インストラクター２名

子育て講演会「親と子のかかわり方教室」

高島市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

核家族化により親が身近な人から子育てを学ぶ機会の減少や、地域での人とのつながりの希薄化、少子化など、家庭教育を支える環境が大きく変化している。核家族化や地域の人間関係の希薄化に伴って、子育て世代が気軽に相談できる相手が不足し、家庭教育力の低下が進行している。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

子育てを終えた世代が子育て世代を支援する体制の構築と、地域全体で子育てをする基盤の構築により、保護者が安心し、ゆとりをもって家庭での子育てを行えるよう支援する。

また各種講座の開催により、日々変化する情報社会と子育ての関わりについて啓発し、現代の家庭教育で何が問題となり、どのような支援が求められているのか知る機会を提供する。

これにより、保護者と地域が子育てに対して、より高い問題意識を持ち続け、教育の原点として家庭が子どもの「生きる力」を育む場として機能することを目指す。

■本年度の活動

（１）高島市家庭教育支援チーム「パラソル」

子どもの育ちを地域で見守り、保護者の相談相手となるべく、組織化された家庭教育支援チームの支援活動を推進している。月３回、子育てひろばを開催しており、子育てや家庭教育に関する相談対応、学習機会の提供など、定期的な活動を実施している。

（２）共育学習会

親子を対象に、親と子の関わり合いの大切さや、子どもに何が必要なのかを考える等、親と子が共に育つための学習の機会を提供する。

（３）子どもにどうかかわりあうか講座

市内の園・学校と連携し、公民館の出前講座として保護者を対象に実施している。その時期に大切にしたいことなど子どもの発達段階に応じたテーマについて、子育て学習の機会を提供している。

（４）地域教育力向上講座

地域住民が子育て世代の直面する問題について知り、地域の中により多くの子育て支援者を養成すべく実施する。

■本年度の成果

家庭教育支援チーム「パラソル」では、外遊びや親子ヨガなどのイベントを開催し、家庭教育支援チームについて参加者に知ってもらうことができた。また、研修会などに参加することによりチーム員の能力向上に努めた。

子どもにどうかかわりあうか講座では地域の公民館と学校とが連携を図り、各学校が課題としている内容を講座とし、広く保護者に子どもとの関わり方について学ぶ機会とした。

■今後の課題

・家庭教育支援チームの体制強化

・共存する関係団体との協働体制

家庭と地域が一体となって、子どもの「生きる力」を育む場に

高島市	
活動内容 ■ 地域人材の養成 ■ 家庭教育支援チームの設置・活動 ■ 学習講座・行事の実施 □ 連絡会議・ケース会議の設置、運営 □ 保護者に対する情報提供	
講座数（年間活動日数）	20 講座（34 日）

家庭教育支援チーム数 家庭教育支援員数	（ 1 ）チーム （ 15 ）人
実施開始年度 （H26 年度）	実施学校区数 （13 小学校区）

■ 活動の具体的内容

〇地域人材の養成
・地域教育力向上講座
地域住民が子育て世代の直面する問題について知り、地域の中により多くの子育て支援者を養成するべく実施する。
〇家庭教育支援チームの設置・活動
・高島市家庭教育支援チーム「パラソル」
家庭教育に関する相談対応や、親子で参加する取組・講座等の学習機会の提供を行っている。また、相談会・座談会など開催し、家庭教育支援の拠点活動を行っている。
〇学習講座・行事の実施
・子どもにどうかかわりあうか講座
市内小中学校及び幼稚園、保育園、こども園の保護者を対象に、発達段階に応じた子育てや家庭教育について学ぶ機会を提供する。
・共育学習会
親子を対象に親と子の関わり合いの大切さや、子どもに何が必要なのかを考えるなど親と子が共に育つための学習の機会を提供する。

【パラソルの活動様子】

■ 特徴的な活動内容

〇家庭教育支援チームでは、毎月第１金曜日、第２水曜日、第４土曜日に「ひろばパラソル」と称する拠点活動を開催している。保護者の気軽な相談相手として、家庭教育支援チーム員が自身の経験から対応し、困難なケースは、福祉部局や専門機関につなぐこととしている。

〇子どもにどうかかわりあうか講座では、地域の公民館と園・学校が連携して企画し、実施している。

【子どもにどうかかわりあうか講座】

■ 実施に当たっての工夫

〇家庭教育支援チーム「パラソル」では、定期的にイベントを開催し、地域に「パラソル」の事を知ってもらえるよう努めた。

■ 事業の成果

〇家庭教育支援チーム「パラソル」では、外遊びや親子ヨガなどのイベントを開催し、家庭教育支援チームについて参加者に知ってもらうことができた。また、研修会などの参加によってチーム員の資質向上に努めた。

〇子どもにどうかかわり合うか講座では、PTA 事業や授業参観に引き続いて開催するなど、普段は講演会等に参加されない方も参加ができ、その年代の子どもにどう関わっていくかの大切さを再確認する機会となった。

■ 事業実施上の課題

〇家庭教育支援チームは、今後、子育て支援センターとの違いを出していく必要がある。

〇福祉部局等の関係団体との連携を深めていくことが課題である。

日野町における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

少子化や核家族化、地域のつながりの希薄化などにより、子育てを助けてくれる人や子育ての悩みを気軽に相談できる人がいないため、育児不安を持つ親が増えている。また、生活習慣の乱れや経済的な困窮など家庭教育の支援を必要としている家庭もある。これから親になる世代や子育て中の親に対して、親としての力を高めてもらうため、家庭教育の情報や学習機会の提供、相談体制の充実などきめ細やかな家庭教育支援を行うことにより、地域全体で親子の学びや育ちを支えていく必要がある。

■家庭教育支援で目指す姿

子どもは地域の宝であり、地域で優しく見守られながら育っていくことが望まれている。「地域で子育て」という誰にでも分かりやすいメッセージを発信し、次代を担う子どもたちに地域全体で関わり育てるという意識を浸透させるとともに、学校・家庭・地域・行政の連携のもと多くの方が関わるなかで、子どもたちが地域の愛情を感じながら心豊かに成長することを目指している。

【親子ぷれすての様子】

■本年度の活動

（１）家庭教育支援事業「親子ぷれすて」

毎月第４金曜日を基本に、子ども同士が遊びを通してふれあうと同時に、親が子育てについて話し合い、悩みを相談できる場所として開催。子育てサポーターの育成も図っている。

（２）学習講座・行事の実施

・就学前学習講座･･･全小学校（５校）で年１回

・ＰＴＡ等子育て学習会･･･保育園・幼稚園・小学校・中学校で開催（11 講座）

・マイナス１歳からの子育て講座･･･２講座

（３）地域人材の育成

・子育てサポーター養成講座･･･３講座

【親子ぷれすて：クリスマス会】

■本年度の成果

・親子ぷれすてには、毎回 10～20 組の親子が参加し、親同士の交流・情報交換の場となっており、子育てサポーターが相談に乗ることで問題の深刻化の抑止、予防につながっている。

・小学校やＰＴＡなどと連携して子育て学習会を行うことで、多くの保護者に参加してもらうことができた。

■今後の課題

・子育てサポーターなど子育て支援者の確保と育成が必要である。

・各種事業等への参加者が固定化され、参加者同志の交流は図れているが、初めて参加する親子が交流しにくい雰囲気もある。地域で親子が孤立することのないよう、見守り声かけが必要である。

“日野町のたから”を未来につなぐ　心豊かでたくましい人づくり

日野町	
活動内容 ■　地域人材の養成 □　家庭教育支援チームの設置・活動 ■　学習講座・行事の実施 □　連絡会議・ケース会議の設置、運営 □　保護者に対する情報提供	
講座数（年間活動日数）	21 講座（21 日）

家庭教育支援チーム数 家庭教育支援員数 子育てサポーター等	（　０　）チーム （　０　）人 （　13　）人
実施開始年度 （H22 年度）	実施学校区数 （５小学校区）

■活動の具体的内容

就学前学習講座（５講座）、ＰＴＡ等子育て学習会（11 講座）、マイナス１歳からの子育て講座（２講座）を実施している。また地域人材の養成として、子育て支援チーム会議（６回）、子育てサポーター会議（５回）を実施し、庁内の関係者と地域の子育て支援関係者が連携して人材発掘の情報交流の機会をもっている。さらに子育て支援の輪を広げるために子育てサポーター養成講座（３回）を平成 31 年２～３月に予定している。

【就学前学習講座】

■特徴的な活動内容

家庭での教育力の向上を目的に、幼稚園や小学校など保護者が集まる機会（授業参観、１日入学など）に、家庭での子どもとの関わり方、子育てで大切にしたいことなど、子育てや家庭教育について学ぶ場を提供している。また、命の宿ったマイナス１歳（胎内）からの子どもの成長、発達について学び「子育ては楽しくかけがえのないもの！」と思えるパパ・ママを目指し子育て講座を開催した。

■実施に当たっての工夫

子育て応援通信「ゆっくりおおきくなあれ」（毎月１日発行）を庁内の子育て関係課（日野町子育て支援チーム）が連携して発行している。町内の子育てサロン事業や親子でつどえる行事などの情報のほか、保健師や図書館司書、臨床心理士から子育てに役立つ豆知識、時期や季節に合わせた内容になるように工夫したり、行事予定をカレンダー化したりすることによって各種のイベントや学習会に参加しやすい情報提供となるように心がけている。

また、「マイナス１歳からの子育て講座」では、父親にもたくさん参加してもらえるように、開催日を土・日曜日に設定している。

■事業の成果

〇就学前学習講座

小学校入学という節目を迎える時期にあたり、１日入学などの機会を捉え、この時期に大切にしたい子育てのことやこれからの子どもとの関わり方について学ぶ機会としている。保護者からは「この時期に聞いて良かった」「子どもの気持ちを理解することや子どもへの寄り添い方が勉強になった」など概ね高評価を得ている。

〇ＰＴＡ等子育て学習会

実施単位をＰＴＡにすることで、校園によって違う子育ての課題について理解を深める機会となっている。また、保育所の保護者会も対象とし、より多くの方に学習機会を提供することができた。

〇マイナス１歳からの子育て講座

父親の子育て参加が母親の負担を和らげ、子どもに関心をもてる気持ちの余裕やそれが子どもにとっても健やかな育ちにつながるなど、父親の育児参加促進には大きな効果が望める。

■事業実施上の課題

〇各種学習会

地域によって参加率に差があり、今後も参加者が増えるよう呼びかけを工夫していきたい。また、保育所や幼稚園に就園せず、在宅で子育てをしている親子へ、どのように学習機会を提供するかが課題となっている。

〇子育てサポーターの育成

ここ数年子育てサポーターの増員が進まず、固定化されたメンバーとなっている。養成講座は受講されるもののサポーターとして登録・活動されるに至らない場合もあり、より多くの方に受講してもらうことはもちろん、受講後のサポーター育成にも力を注いでいく必要がある。

竜王町における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

近年の様々な社会情勢の変化は、子どもや子育て世代の家庭を取り巻く環境に大きな影響をもたらしている。特に、いじめや不登校に対する対策や急速な情報化社会への対応、家庭や地域の教育力低下に対する対応は喫緊の課題となっている。ＰＴＡ会員を中心とした住民が地域の絆を深め、子どもや子育て世代の家庭を取り巻く様々な課題の解決につながる活動および啓発を推進する。

■家庭教育支援で目指す姿

未来を担う子どもたちを健やかに育むためには、学校・家庭・地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で子どもたちを育む体制づくりを目指す必要がある。

そのため、学校・家庭・地域が連携協力し、学習や相談機会を提供することを通じて、子育てについての悩みを共感するだけでなく、同じ子育てをする仲間として互いに支えあえるような保護者同士の関係づくりを支援する。

併せて、子どもたちの夢と希望を育むため、幼小中の子どもを持つ保護者同士の連携を深め、家庭と地域の教育力を高めるとともに、子どもたちの「生きる力」の向上に努める。

■本年度の活動

・随時　　運営委員会の開催
・随時　　講師等との事前打合せ会議（意見交換会）の開催
・随時　　案内チラシの作成と広報啓発活動の実施
・10 月 28 日（日）　竜王町教育フォーラム 2018
・３月中旬　　次年度事業内容の検討会の開催

■本年度の成果

〇本事業での地域と学校の連携・協働について

・「竜王の未来を拓く心豊かでたくましい人づくり～高めよう家庭や地域の教育力～」をテーマに開催した町全域を対象とした教育フォーラムでは、インターネットや電子機器の便利さに潜む危険やＳＮＳを起因とした事件について学び、適正な利用の大切さについて知る機会となった。
・学校園単位で講座・行事等を開催することにより、同じ悩みを抱えている保護者同士の関係づくりやこれからの子育てに生かしていただくための支援をすることができた。

〇地域・民間企業・団体等の外部人材の協力・参画や、地域の豊かな資源を活用することについて

・民間企業の代表に事例や操作方法を交えわかり易く御講演をいただき、保護者からは改めて親子で考えないといけない等の感想をいただいた。
・お弁当作り講習会では、おかず作りだけでなく、子育てについてのアドバイスや愛情ある接し方等、講師の方々の経験を踏まえて話をしていただき、和やかな雰囲気の中で講習会を開催することができた。

■今後の課題

・講座・行事等の参加者がまだまだ少ないので、事前に前年度の様子を知らせる等、関心を持ち参加につながる周知方法を工夫していくことが必要である。
・ニーズの把握、ニーズに対応した地域人材や外部団体等への依頼の仕方、関わり方が難しい。

各家庭における教育・規則正しい生活習慣を

竜王町	
活動内容 □ 地域人材の養成 □ 家庭教育支援チームの設置・活動 ■ 学習講座・行事の実施 □ 連絡会議・ケース会議の設置、運営 □ 保護者に対する情報提供	
講座数（年間活動日数）	６ 講座（ ６日 ）

家庭教育支援チーム数 家庭教育支援員数 子育てサポーター等	（ ０ ）チーム （ ０ ）人 （ ０ ）人
実施開始年度 （平成 22 年度）	実施学校区数（２小学校区）

■ 活動の具体的内容

〇学習講座・行事の実施

〇家庭教育支援研修会　各学校園において子どもたちの夢や希望を育て、親子が共に育つための研修会を開催する。

〇教育フォーラム　町内ＰＴＡを中心とした住民が一緒に研修会を開催することで互いの情報交換を行い、地域・関係団体との連携を深め、地域の教育力を醸成させる。

■ 特徴的な活動内容

【竜王幼稚園】

〇お弁当作り講習会

９月６日（木）の午前に開催。対象者は３歳児の保護者。３歳児のお弁当開始に伴い、子どもたちへの「食」に対する関心を持ってもらうための「子どもの喜ぶお弁当」、「簡単に作れておいしいおかず」、「野菜を使ったメニュー」などを習得し、親のお弁当作りへの関心、無理なくお弁当作りに取り組める機会を提供するとともに、食をとおしての子育て支援を実施した。

【お弁当作り講習会】

【竜王町ＰＴＡ連絡協議会・竜王町社会教育委員会議・竜王町教育委員会】

〇竜王町教育フォーラム 2018

10 月 28 日（日）午後に開催。対象者はＰＴＡ関係者、社会教育関係者、地域住民等。「竜王の未来を拓く心豊かでたくましい人づくり～高めよう家庭や地域の教育力～」のテーマに基づき、「今のままでいいの？ネット社会の中の私たち」と題して、ＮＩＴ情報技術推進ネットワーク株式会社、代表取締役の篠原嘉一氏にインターネットや電子機器の便利さに潜む危険やＳＮＳを起因とした事件について御講演をいただき、参加者がスマートフォン等の適切な利用の大切さについて学ぶ機会となった。また、教育委員会事務局学校教育課から全国学力・学習状況調査の結果から見えてくる竜王町の子どもたちの課題についての報告と学力向上のためには学校教育だけでなく、各家庭における教育、規則正しい生活習慣の大切さについて話を行った。

【教育フォーラム 2018】

■ 事業の成果

〇メニューのアイデアや料理のコツ、栄養の話、調味料・肉類・野菜の特徴・調理の仕方、子育てについてのアドバイス、お母さんだからこそできる愛情ある接し方等、講師の方々の経験を踏まえて話をしていただき、おかず作りだけでなく、和やかな雰囲気の中で楽しみながら進めることができた。また、実際にお弁当に詰めたり、みんなで楽しく試食したりすることができた。

〇お弁当作りを負担に感じたり、子どもの好き嫌い等で困ったりする保護者が増えているように感じるが、講習会に参加した保護者からは、お弁当作りに前向きな気持ちがもてるようになった様子が見受けられた。

〇最新のインターネット、スマートフォン等の電子機器に関して学ぶ有意義な機会となり、保護者からは、「我が家の子どもたちが使うアプリの話もあり改めて使い方を一緒に考えていきたい。」「ＳＮＳは便利だが使用方法を適正に考えないと大変怖いものだと思った。」「親だけでなく高齢者も基本的な使い方・アプリ・危険について学ばなければならない。」というような感想をたくさんいただいた。各家庭や学校の問題と捉えるのではなく、学校・ＰＴＡ・家庭・地域が一緒になって子どもたちを育てるまちづくりを今後も推進していきたい。

■ 事業実施上の課題

〇講習会後に参加者の感想や実施したメニューを伝えている。有意義で楽しめる講習会であり、いろいろと学んだことを子育てに生かせる場であることをよりわかり易く伝えていくことで、参加しなかった保護者にも関心を持ってもらえるのではないか。事前に前年度の様子を知らせる等、関心を持ち参加につながる周知方法を工夫していくことが必要である。

滋賀県コミュニティ・スクール推進事業について

1 目的

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）に関する研修機会の拡充等を図り、制度や事例についての理解を深めることを通じて、県内の学校運営協議会設置校の一層の拡大や取組の充実を図る。

2 事業内容

コミュニティ・スクールの全校設置と推進体制の構築をめざす教育委員会を対象とした「コミュニティ・スクール推進体制構築事業」（国庫補助事業）として実施。

（1）CSアドバイザー派遣

①趣旨

・コミュニティ・スクールの立ち上げや推進体制の構築に向けて助言を行う実践者（ＣＳアドバイザー）を県教育委員会に配置し、市町教育委員会や県立学校からの要請に応じて派遣する。

・県内全域において市町と県立学校との関係の構築や情報の共有を推進するなど、コミュニティ・スクールの設置や取組の充実に資することを目的とする。

②CSアドバイザー

平成 30 年度　滋賀県教育委員会作成　コミュニティ・スクール　リーフレットより

③派遣実績

	派遣日 出役時間	派遣先 研修名	派遣 アドバイザー	概要　①参加者　②テーマ・内容
1	5月15日（火） 9:30 ～ 11:30	高島市 （今津東小学校会議室） 市教委関係者研修会	宮治　一幸	① 市教委関係者、今津東小教職員、学校運営協議会委員等　13名 ② 制度、目的、推進体制構築、取組の充実への助言、質疑応答
2	5月18日（金） 9:30 ～ 12:00	「学校を核とした地域力強化プラン」に係る第１回推進協議会 （県庁東館7階大会議室）	5名	① 推進協議会委員、県生涯学習課員 ② 県事業説明　方向性等の協議
	16:00 ～ 16:45	第１回コミュニティ・スクール連絡協議会 （県庁東館7階大会議室）	5名	① 市町教委担当者 ② ＣＳアドバイザー派遣説明　市町設置状況等情報交換
3	6月19日（火） 14:30 ～ 16:45	草津市 （市役所8階大会議室） コミュニティ・スクール研修会	髙木　和久	① 行政関係者、教育委員、市内学校教職員、学校運営協議会委員、地域コーディネーター等　96名 ② 実効性ある学校運営協議会の持ち方や工夫
4	7月4日（水） 19:15 ～ 20:15	多賀町 （多賀小学校大会議室） 町教委関係者、PTA連絡協議会研修会	北辺　禎雄	① 町教委関係者、幼稚園・小中学校PTA役員、保護者等　28名 ② 地域全体で子どもの育ちを支える環境づくり
5	7月18日（水） 10:00 ～ 11:30	甲良町 （公民館小会議室） 町教委研修会	宮治　一幸	① 教育次長、学校教育課長　2名 ② 学校と地域が協働して子どもを見守り育てるための体制・仕組みづくり
6	8月9日（木） 打合せ 12:30 ～ 13:00 連絡協議会 15:55 ～ 16:40	コミュニティ・スクール推進フォーラム兼第２回コミュニティ・スクール連絡協議会 （南部会場：県庁東館7階大会議室）	5名	① 行政関係者、学校関係者、学校運営協議会委員、学校評議員、地域学校協働活動関係者、PTA関係者等　94名 ② グループディスカッション「導入・推進にあたっての課題」でのファシリテーター
7	8月17日（金） 15:55 ～ 16:40	コミュニティ・スクール推進フォーラム兼第２回コミュニティ・スクール連絡協議会 （北部会場：米原公民館2AB研修室）	4名	① 行政関係者、学校関係者、学校運営協議会委員、学校評議員、地域学校協働活動関係者、PTA関係者等　107名 ② グループディスカッション「導入・推進にあたっての課題」でのファシリテーター
8	8月20日（月） 13:30 ～ 16:10	長浜市 （湖北文化ホール） 学校運営協議会関係者・教職員研修会	松田　幸夫	① 市教委関係者、小中学校教職員、事務職員、学校運営協議会委員等　101名 ② 熟議「地域とともにある学校づくりをめざして」のコーディネーター

9	8月22日	（水）	彦根市 （市民会館第3会議室） 社会教育委員の会議　研修会	松田　幸夫	①	市教委関係者、市社会教育委員等　24名
	15:00 ～ 16:00				②	コミュニティ・スクールの現状に学ぶ
10	8月27日	（月）	野洲市 （コミュニティセンターきたの） 市教委、学校評議員等研修会	武井　哲郎	①	市教委関係者、小中学校管理職、学校評議員、学校応援団関係者等　50名
	16:00 ～ 18:00				②	・地域と学校の協働に意味はあるのか？ ～コミュニティ・スクールの導入に向けて～ ・グループディスカッション助言
11	9月21日	（金）	湖南市 （水戸小学校会議室1） コミュニティ・スクール推進協議会　研修会	武井　哲郎	①	市教委関係者、水戸小学校教職員、コミュニティ・スクール推進委員等25名
	16:00 ～ 17:00				②	・地域と学校の協働に意味はあるのか？ ～コミュニティ・スクールの導入に向けて～ ・グループワーク助言
12	10月3日	（水）	栗東市 （市役所2階第4会議室） 市教委・校長学習会	武井　哲郎	①	学校教育課員、市内小中学校長、前校長　10名
	14:30 ～ 16:30				②	・地域と学校の協働に意味はあるのか？ ～コミュニティ・スクールの導入に向けて～ ・質疑応答
13	10月25日	（木）	守山市 （市役所大会議室） 市教委研修	高木　和久	①	市教委関係者(学校教育、社会教育課両課長、両担当者）　4名
	10:00 ～ 12:00				②	導入の意義、本部事業との関連等助言、質疑応答
14	10月25日	（木）	草津養護学校 （校長室） 管理職への相談・助言	高木　和久	①	校長、副校長、教頭、主幹教諭等　5名
	15:30 ～ 17:30				②	・コミュニティ・スクールをスムーズに導入するには　（学校後援会との関係をふまえて） ・質疑応答
15	10月29日	（月）	米原市 （伊吹山中学校ランチルーム） 伊吹山地区教育フォーラム	北辺　禎雄	①	市教委関係者、学校運営協議会関係者、学校園教職員等　83名
	15:30 ～ 17:30				②	コミュニティ・スクールの進め方　～実情、課題も含めて～
16	10月31日	（水）	甲良町 （市役所第4会議室） 町教委・校園長研修	高木　和久	①	町教委関係者、学校園長等　7名
	9:30 ～ 11:00				②	学校と地域が協働して子どもを見守り育てるための体制・仕組みづくり
17	11月2日	（金）	米原市 （市役所山東庁舎2AB会議室） 市教委　校長研修	宮治　一幸	①	市教委関係者、学校運営協議会設置予定校管理職等　15名
	15:00 ～ 16:30				②	地域と学校の連携・協働に向けた効果的な体制づくり～コミュニティ・スクール導入にあたって～（参加校の事前質問に回答）
18	11月16日	（金）	多賀町 （町役場1階会議室） 町教委研修会	武井　哲郎	①	町教委関係者　4名
	10:00 ～ 11:00				②	コミュニティ・スクール運用の概要について
19	11月27日	（火）	近江八幡市 （市役所南別館2階 教育委員会会議室） コミュニティ・スクール推進委員会研修	高木　和久	①	市教委関係者(教育総務、学校教育、生涯学習、幼児課）　8名
	9:30 ～ 11:00				②	コミュニティ・スクールの設置や取組の充実のために
20	11月28日	（水）	竜王町 （総合庁舎2階204会議室） 町教委・公民館職員研修	北辺　禎雄	①	町教委、公民館関係者等　11名
	9:00 ～ 11:00				②	・地域全体で育てる環境づくり ・質疑応答
21	12月14日	（金）	甲賀市 （市役所4階402会議室） 教育支援プロジェクト会議	高木　和久	①	市教委関係者(教育長、次長、学校教育課・社会教育課長他）　教育支援プロジェクト委員　15名
	9:00 ～ 11:00				②	学校サポートチーム体制の構築について ～コミュニティ・スクールを活用した協働の推進～
22	12月17日	（月）	守山北高等学校 （大会議室） 職員研修	高木　和久	①	学校教職員　40名
	14:45 ～ 16:15				②	・なぜ学校と地域の連携・協働が必要なのか(講話） ・質疑応答
23	12月20日	（木）	大津清陵高等学校 （校長室） 管理職への相談・助言	高木　和久	①	校長、教頭（昼間・通信）　3名
	14:00 ～ 15:30				②	コミュニティ・スクール立ち上げ、学校評議員の会との関係整理等についての助言、質疑応答
24	12月21日	（金）	甲西高等学校 （大会議室） 職員研修	宮治　一幸	①	学校教職員 40名
	14:45 ～ 15:45				②	・学校運営協議会制度について(講話） ・質疑応答
25	1月7日	（月）	彦根工業高等学校 （建設科2階設備計画室） 職員研修	高木　和久	①	学校教職員　60名
	13:00 ～ 13:30				②	・県立学校におけるコミュニティ・スクール(講話） ・質疑応答
26	1月19日	（土）	長浜市 （高月支所3階3-B会議室） 学校運営協議会関係者・教職員研修会	松田　幸夫	①	市教委関係者、小中学校教職員、事務職員、学校運営協議会委員等150名
	14:00 ～ 16:30				②	熟議「地域とともにある学校づくりをめざして」のコーディネーター
27	1月22日	（火）	「学校を核とした地域力強化プラン」に係る 第2回推進協議会 （県庁新館7階大会議室）	5名	①	推進協議会委員、県生涯学習課員
	9:00 ～ 11:30				②	推進状況等の報告、方向性等の協議
	14:25 ～ 14:45		第3回コミュニティ・スクール連絡協議会 （県庁新館7階大会議室）	5名	①	市町教委担当者等
					②	県事業説明および情報提供
	16:35 ～ 17:15		CSアドバイザー派遣総括会議 （県庁新館7階大会議室）	5名	①	CSアドバイザー　生涯学習課員
					②	派遣事業の総括　成果と課題の共有
28	2月14日	（木）	草津市 （市役所8階大会議室） コミュニティ・スクール研修会	高木　和久	①	市教委関係者、市内小中学校管理職、地域連携担当教員等　40名
	15:00 ～ 16:30				②	本年度取組の振り返りと次年度の有効な取組のために、各校事前アンケートをもとに、アドバイザーを交えた意見交流を中心とした研修
29	2月19日	（火）	東近江市 （市役所東庁舎東A会議室） 市教委、地域学校協働活動関係者研修会	宮治　一幸	①	市教委関係者（学校教育、生涯学習）、地域学校協働本部運営委員、地域学校協働活動推進員　45名
	15:30 ～ 17:00				②	・東近江市における有効な仕組みづくり、推進員等の役割について（講話） ・質疑応答

（2）コミュニティ・スクールの研修の充実

①コミュニティ・スクール推進フォーラム （詳細は「Ⅰ　推進協議会の取組」 の項に掲載）

②管理職研修

■日時　　平成 30 年６月 26 日（火）　11：15～12：30

■会場　　滋賀県総合教育センター　新館４階研修室

■内容等

・総合教育センター主催新任校長研修において、「地域とともにある学校づくり」をテーマにした研修を設定。文部科学省初等中等教育局参事官　木村　直人　氏を講師に招聘し、地域と学校の連携・協働の重要性等、校長のマネジメント力向上の視点から御教示いただいた。

・小・中・県立学校新任校長　72 名が参加。

（3）推進協議会・連絡協議会の開催

①学校を核とした地域力強化プラン推進協議会

・ＣＳアドバイザーはオブザーバーとして参加（２回目の協議会では、意見を求めるため、協議会委員と同様の立場で参加）し、自身の経験やアドバイザー派遣を通じて得た市町および県立学校等のコミュニティ・スクール導入・取組充実に関する実情や課題等の情報提供を行う。

②コミュニティ・スクール連絡協議会

・県内全域において市町の連絡体制の構築や情報の共有を推進するとともに、設置の拡大や運営の充実に向けた方策について研究する目的で設置。

・各市町コミュニティ・スクール担当課、県立学校の代表者、ＣＳアドバイザー等が参加し、推進方策や効果的な運営方法等の情報共有・情報交換を行う。

開催実績

		市町教育委員会		県立学校
		参加者：コミュニティ・スクール担当課代表等		参加者：校長等
第1回	日時 会議名 場所	5月18日（金） 「学校を核とした地域力強化プラン」研修会 東館7階大会議室	日時 会議名 場所	4月12日（木） 県立学校経営等協議会 東館7階大会議室
	内容	市町推進状況等交流　CSアドバイザー紹介 県改正規則・要綱説明	内容	県改正規則・要綱説明 県推進事業等情報提供
	参加者数	25名	参加者数	60名
第2回	日時 会議名 場所	8月9日（木） コミュニティ・スクール推進フォーラム（南部会場） 県庁東館7階大会議室	日時 会議名 場所	8月9日（木） コミュニティ・スクール推進フォーラム（南部会場） 県庁東館7階大会議室
	内容	導入・取組の充実に関する課題等グループディスカッション	内容	導入・取組の充実に関する課題等グループディスカッション
	参加者数	市町教育委員会関係者　14名	参加者数	県立学校関係者　10名
	日時 会議名 場所	8月17日（金） コミュニティ・スクール推進フォーラム（北部会場） 米原公民館2AB研修室	日時 会議名 場所	8月17日（金） コミュニティ・スクール推進フォーラム（北部会場） 米原公民館2AB研修室
	内容	導入・取組の充実に関する課題等 グループディスカッション	内容	導入・取組の充実に関する課題等 グループディスカッション
	参加者数	市町教育委員会関係者　17名	参加者数	県立学校関係者　15名
第3回	日時 会議名 場所	1月22日（火） 「学校を核とした地域力強化プラン」研修会 県庁新館7階大会議室	日時 会議名 場所	10月4日（木） 県立学校経営等協議会 県庁東館7階大会議室
	内容	地域学校協働活動およびコミュニティ・スクールの取組事例発表、行政説明・情報提供	内容	設置アンケート調査結果の概要説明、 先進事例等の紹介
	参加者数	市町教育委員会関係者　27名	参加者数	60名

（4）県立学校の学校運営協議会設置推進

①県設置方針を策定

・法改正による努力義務化を受け、県立学校への学校運営協議会の設置を推進する。

・すべての県立学校を対象学校とし、各校の実情や意向に応じて希望する学校から順次設置する。

②「滋賀県学校運営協議会規則」の改正（平成 30 年3月 30 日付け）

・設置努力義務化により「学校の指定」がなくなることから、「指定学校」を「対象学校」に修正。

・「学校運営への必要な支援に関する協議」を学校運営協議会の役割に追加。

・中高一貫の場合には、「２以上の学校について１の協議会を設置することができる」文言の追加。

・職員の採用その他任用に関して学校運営協議会が意見を述べることができる事項を教育委員会規則で定めることについて、「特定の個人に関する事項を除く」とする。

平成 30 年度学校運営協議会設置校について

①学校の特色等
②設置後のビジョン等
③学校運営協議会の設置目的等

県立伊香高等学校

①・地元長浜から通学する生徒が約９割。地元で就職をする生徒が多数である。
・近隣に認定こども園、小・中学校があり、連携できる環境が整っている。

②・地域に根ざしたキャリア教育や街づくりへの生徒の参画を図り、より地域との結びつきを深める。

③・地元企業、商工会関係者等を委員とし、子どもの成長を地域ぐるみで考え、教育活動に反映させるとともに、学校運営協議会の活動をとおして、地域で子育てをし、地域を支える人づくりに貢献する。

県立長浜北高等学校

①・平成 28 年度から学校運営協議会を設置し、３年目を迎える。
・学校運営協議会が担う「地域や社会に学ぶ実践活動」が、一定の成果を収めている。

②・まちづくり、地域づくりを意識した取組への高校生の主体的な参画や社会貢献活動をより推進する。

③・地元小・中学校長と企業、まちづくり関係者等を委員とし、地域と協働した教育活動の円滑な実施や、効果的な推進方策等に関する意見を取り入れる。

県立瀬田工業高等学校

①・社会に貢献できる職業人の育成をめざす。
・郷土を愛する心を持ち、地域の人々に信頼され地域の一員としての役割を果たす人材の育成に努める。

②・ものづくり教室、校外清掃活動、交通安全教室等の事業を、地域の保・幼・小・中学校と連携して取り組む。
・地域との連携を進め、生徒の地域貢献・社会貢献への意欲を高める。

③・近隣の学校・園長、地元企業・大学関係者等を委員とし、就学から就労までの縦のつながりを意識した意見を教育活動に取り入れ、地域のニーズを踏まえた職業教育の一層の振興をめざす。

県立河瀬中・高等学校

①・地域に根ざし、国際社会に生きる生徒の育成をめざす。
・魅力と活力ある中・高一貫教育校を築く。

②・地元小・中学校の学習支援、大学・公民館での子ども向けイベントへの参画、地元企業等と連携したキャリア教育の推進等により、生徒のリーダーとしての資質を高める。

③・学識経験者、行政関係者等を委員とし、中・高一貫を生かした教育課程の編成の基本的な方針が、家庭や地域と共有されるよう、必要な意見を取り入れる。
・また、地域と協働した教育活動の円滑かつ効果的な推進に関する意見を取り入れる。

放課後児童クラブの現状

平成30年5月1日現在

1　放課後児童クラブ数実施状況

（1）　小学校の状況

小学校区数	221 か所	児童数	81,492 人
小学校１～３年生の総数	40,402 人	＊４～６年	41,090 人

（2）　放課後児童クラブの概況

設置・運営主体別クラブ数	公立公営	公立民営	民立民営	合　計
	99	147	81	327

（3）　放課後児童クラブの状況

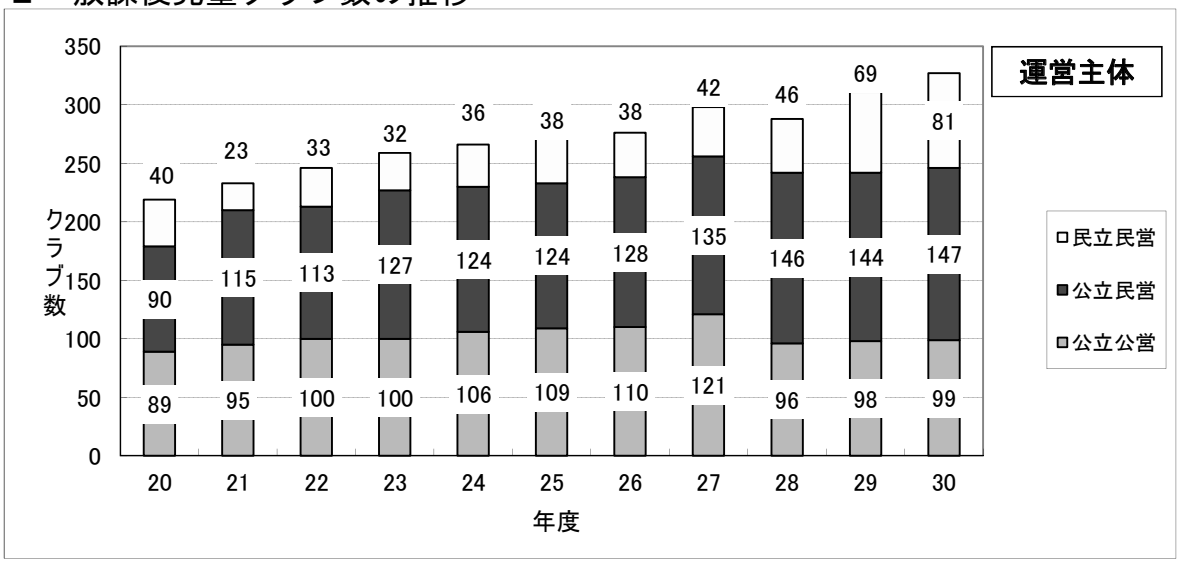
調査項目		公立公営	公立民営	民立民営	合　計
実施場所別放課後児童クラブ数	児童館・児童センター	1	2	5	8
	学校の余裕教室	49	15	3	67
	学校敷地内専用施設	29	57	1	87
	公有地専用施設	16	54	1	71
	民有地専用施設	0	1	22	23
	民家・アパート	0	0	4	4
	公的施設利用	1	11	12	24
	団地集会室	0	0	0	0
	保育所	0	0	6	6
	幼稚園	0	1	2	3
	認定こども園	0	0	0	0
	空き店舗	0	3	23	26
	その他	3	3	2	8
	合計	99	147	81	327
登録児童数別放課後児童クラブ数	９人以下	0	0	6	6
	１０人～１９人	1	9	13	23
	２０人～３５人	34	36	25	95
	３６人～７０人	36	71	31	138
	７１人以上	28	31	6	65
	合計	99	147	81	327
障害児受入数別放課後児童クラブ数	受入なし	7	21	40	68
	１人	19	28	15	62
	２人	31	20	9	60
	３人	15	22	9	46
	４人以上	27	56	8	91
	合計	99	147	81	327
平日の終了時刻別放課後児童クラブ数	１７：０１～１７：３０	0	0	0	0
	１７：３１～１８：００	16	0	3	19
	１８：０１～１８：３０	43	44	14	101
	１８：３１～１９：００	40	98	43	181
	１９：０１～２０：００	0	5	18	23
	２０：０１～２１：００	0	0	3	3
	２１：０１～２２：００	0	0	0	0
	合計	99	147	81	327
休日の開館状況別放課後児童クラブ数	土曜日（毎週実施以外）	80 (5)	38 (72)	61 (15)	179 (92)
	日曜・祝日	0	35	15	50
	長期休暇	99	140	81	320
学年別児童数	小学校１年生（障害児）	1,718 (112)	2,183 (96)	864 (26)	4,765 (234)
	小学校２年生（障害児）	1,659 (65)	1,966 (99)	796 (29)	4,421 (193)
	小学校３年生（障害児）	1,291 (65)	1,593 (108)	607 (15)	3,491 (188)
	小学校４年生（障害児）	825 (41)	1,130 (76)	434 (12)	2,389 (129)
	小学校５年生（障害児）	436 (16)	641 (58)	176 (10)	1,253 (84)
	小学校６年生（障害児）	222 (15)	358 (37)	142 (9)	722 (61)
	その他（障害児）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合計（障害児）	6,151 (314)	7,871 (474)	3,019 (101)	17,041 (889)
学年別利用（登録）できなかった児童数	小学校１年生（障害児）				8 (2)
	小学校２年生（障害児）				5 (1)
	小学校３年生（障害児）				4 (0)
	小学校４年生（障害児）				1 (0)
	小学校５年生（障害児）				1 (0)
	小学校６年生（障害児）				0 (0)
	その他（障害児）				0 (0)
	合計（障害児）				19 (3)

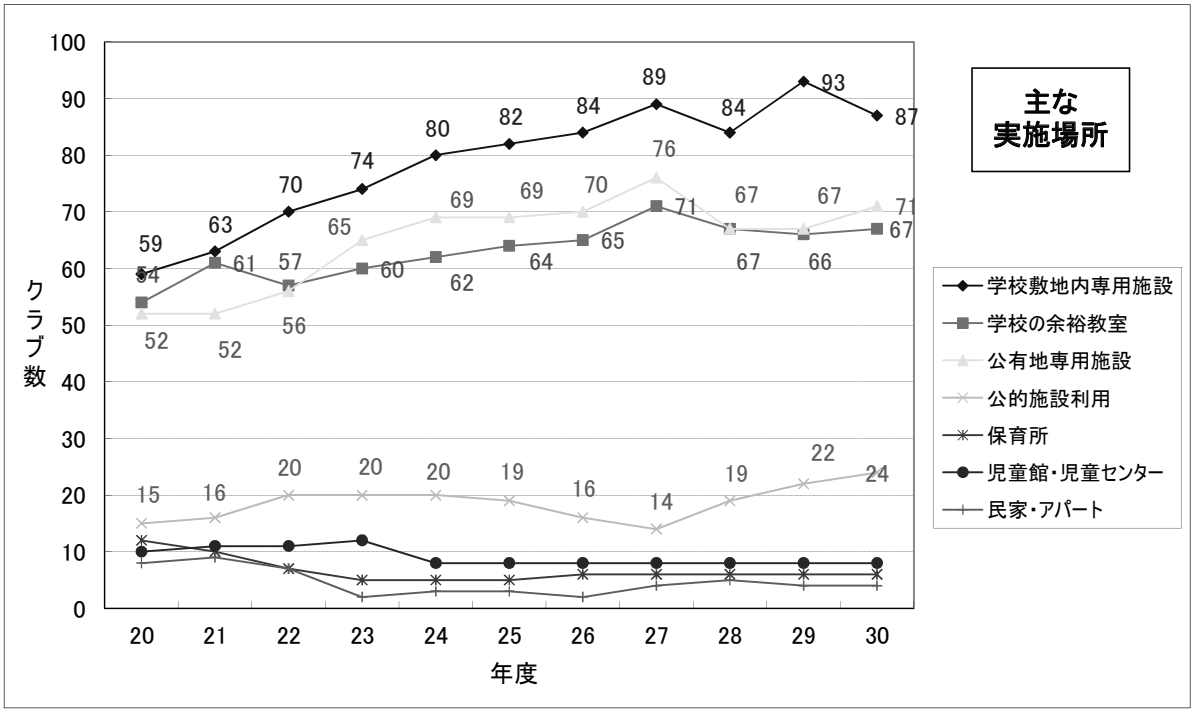
注：（　）内の数は、再掲である。

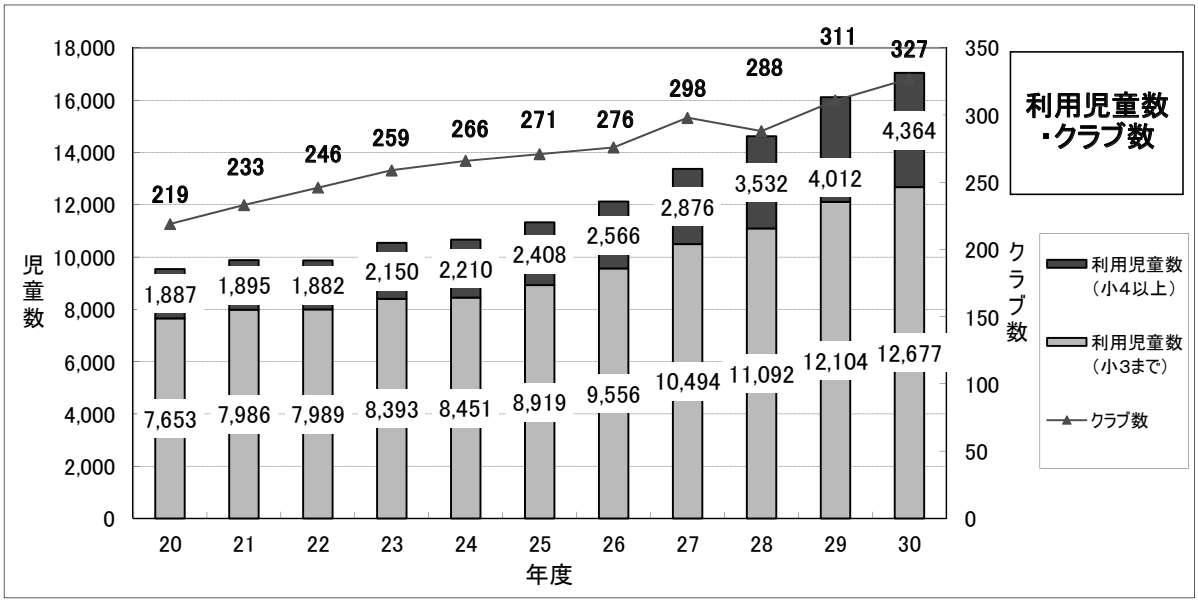
（4）　市区町村の実施状況

全市区町村数 A	実施率 （B／A）	実施市区町村 市（特別区）	町	村	合　計 B
19	100 %	13	6	0	19

２　放課後児童クラブ数の推移







平成 30 年度
学校を核とした地域力強化プラン事業実践事例集

平成 31 年（2019 年）３月

発行：滋賀県教育委員会事務局生涯学習課
〒５２０－８５７７　滋賀県大津市京町４丁目１－１
ＴＥＬ：０７７－５２８－４６５４
ＦＡＸ：０７７－５２８－４９６２
ＭＡＩＬ：ma06@pref.shiga.lg.jp
ホームページ：「におねっと」http://www.nionet.jp/